平成２８年度全国学力・学習状況調査

岩見沢市における調査結果報告書

平成２８年１１月

岩 見 沢 市 教 育 委 員 会
岩 見 沢 市 立 教 育 研 究 所

目　　次

Ⅰ　調　査　の　概　要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1ｐ
　１　調査の目的
　２　調査の対象及び教科
　３　調査取組の経過
　４　調査学校数・児童生徒数
　５　調査実施に係る岩見沢市教育委員会の基本的な考え

Ⅱ　教　科　調　査　結　果　の　概　要　・・・・・・・・・・・・・・・・・2ｐ
　１　岩見沢市の各教科の平均正答率
　２　全国平均を１００とした場合の全道・岩見沢市平均正答率の推移
　３　岩見沢市の各教科別調査結果・指導改善のポイント
　　《小　学　校》
　　（１）国　　語　　［6ｐ］
　　①　国語　Ａ：主として「知識」に関する問題
　　②　国語　Ｂ：主として「活用」に関する問題
　　③　「国語に対する関心・意欲・態度」質問紙調査結果
　　④　指導改善のポイント
　　（２）算　　数　　［１５ｐ］
　　①　算数　Ａ：主として「知識」に関する問題
　　②　算数　Ｂ：主として「活用」に関する問題
　　③　「算数に対する関心・意欲・態度」質問紙調査結果
　　④　指導改善のポイント
　　《中　学　校》
　　（１）　国　　語　　小項目　《小学校》国語と同様　　［２５ｐ］
　　（２）　数　　学　　小項目　《小学校》算数と同様　　［３５ｐ］

Ⅲ　質　問　紙　調　査　結　果　の　概　要・・・・・・・・・・・・・・・・45ｐ
　《児童生徒質問紙》　　［４５ｐ］
　１　総合的な学習の時間　　２　学習状況（言語活動・指導状況）
　３　学習時間・学習生活等　　４　基本的な生活習慣・家庭等
　５　地域・社会に対する興味・関心等　　６　将来に関する意識
　７　自尊意識・規範意識等　　８　主体的な学び
　《学校質問紙》　　［８１ｐ］
　１　学習態度　２　主体的な学び　３　教職員の取組　４　指導方法・学習規律
　５　国語科の指導方法　６　算数・数学科の指導方法　７　学力向上に向けた取組
　８　家庭学習　９　教員研修　10　特別支援教育　11　地域の人材・施設の利用
　12　学校種間の連携　13　就学援助　14　全国学力・学習状況調査等の活用
　15　日本語指導　16 学校の概要

Ⅳ　調査結果の分析より　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４３ｐ

Ⅰ　調　査　の　概　要

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の評価の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

２　調査の対象及び教科

小学校第６学年、中学校第３学年。　原則として全児童生徒対象。

□　教科に関する調査（国語、算数・数学）

○　主として「知識」に関する問題（国語Ａ、算数・数学Ａ）

○　主として「活用」に関する問題（国語Ｂ、算数・数学Ｂ）

□　生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○　児童生徒に関する調査　　○　学校に対する調査

《１調査の目的、２調査の対象及び教科の内容は、「平成２８年度全国学力･学習状況調査に関する実施要領」より》

３　調査取組の経過

□　平成２８年　４月１９日（火）　○全国学力・学習状況調査の実施。

９月２１日（水）　○調査結果発表（文部科学省より）

９月２９日（木）　○調査結果発表（北海道教育委員会より）

平成２８年　１１月　　○報告書の完成・配布。教育委員会ＨＰへの掲載

４　調査学校数・児童生徒数

全国	学校総数(校)	参加学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	19,752	19,335	1,021,910
中学校	9,685	9,464	996,578
合計	29,437	28,799	2,018,488

北海道	学校総数(校)	参加学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	1,048	1,046	40,277
中学校	608	607	41,236
合計	1,656	1,653	81,513

岩見沢市	学校総数(校)	参加学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	15	15	600
中学校	10	10	658
合計	25	25	1,258

５　調査実施に係る岩見沢市教育委員会の基本的な考え

本調査は、調査の目的達成のため、市内全小学校（第６学年）及び中学校（第３学年）の児童生徒を対象として実施するものです。

ア　各学校が、児童生徒の学力・学習状況を把握し、適切な教育活動を行うとともに、「子どもが輝く岩見沢の教育づくり」のために積極的に活用するものです。

イ　調査結果は、学校間の序列化や比較を行うものではなく、また、教育委員会が全小中学校の結果を一括公表するものではありません。

ウ　調査結果やその結果から検討された改善策の公表については、有効な活用方法として、あくまでも各学校の判断によるものです。

エ　本調査は、これまで各学校がそれぞれの計画に基づいて実施している標準学力検査等と同様、通常の教育活動の一環として実施するものです。

Ⅱ　教科調査結果の概要

《小学校》
※　平均正答率は、国語Ａ・算数Ａ・Ｂでは全道平均を上回り、また算数Ａは全国平均を上回る。
○　経年変化では、昨年度は国語Ａだけであったが、今年度は算数Ａも全道平均を上回り、算数Ａは全国平均を上回る。また、全国平均正答率との差が２ポイント以内である。

《中学校》
※　平均正答率は、国語Ａ・Ｂ、数学Ａ・Ｂとも全道平均を上回り、国語Ｂ、数学Ａ・Ｂは全国平均を上回る。国語Ａは全国平均と同等である。
○　経年変化では、昨年度より大幅に伸び、国語Ａ・Ｂ、数学Ａ・Ｂでは全国平均正答率を上回り、特に数学Ａは３ポイント以上全国の正答率を上回る。

1　岩見沢市の各教科の平均正答率　　全国を上回る

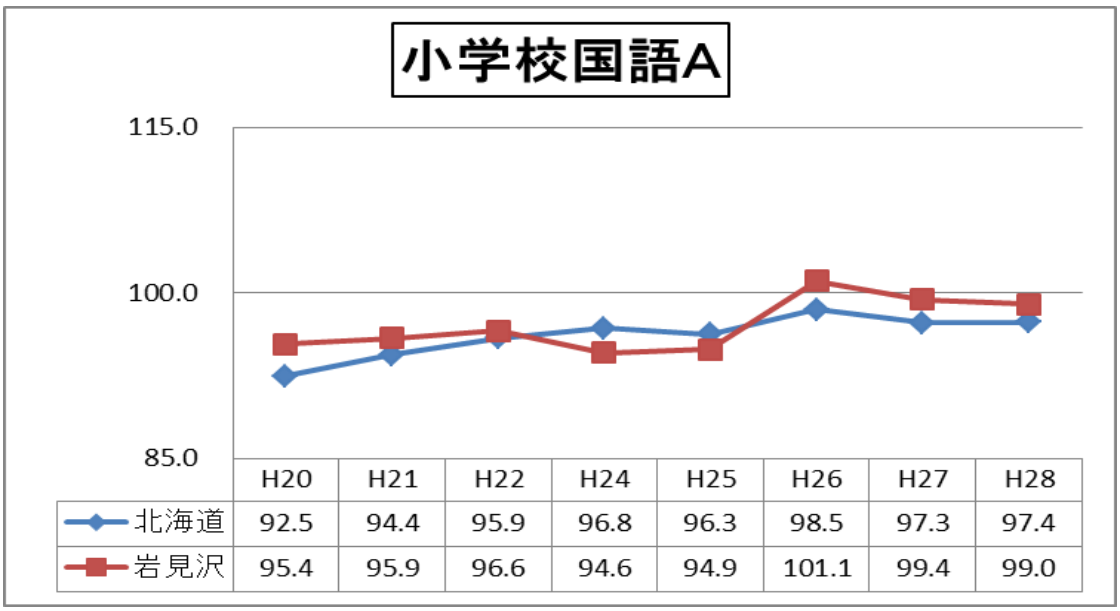
《小　学　校》　（%）

年度	岩・道・国別	国語A	国語B	算数A	算数B
28	**岩見沢市**	72.2	55.9	78.4	46.1
	北海道（公立）	71.0	56.0	75.3	44.5
	全国（公立）	72.9	57.8	77.6	47.2

《中　学　校》　（%）

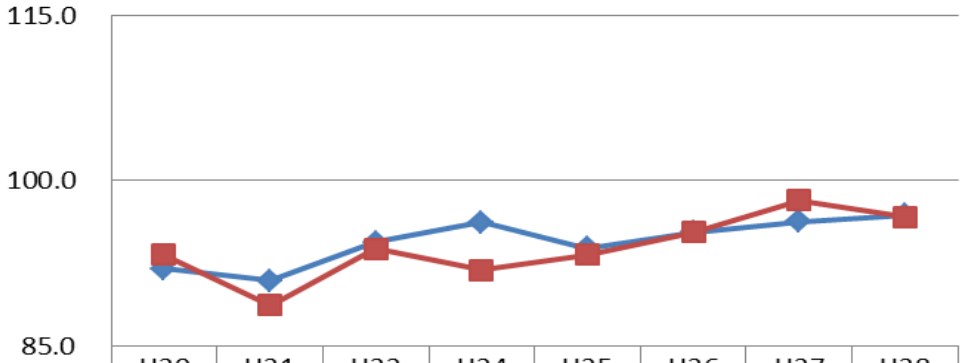
年度	岩・道・国別	国語A	国語B	数学A	数学B
28	**岩見沢市**	75.6	67.1	65.5	45.7
	北海道（公立）	75.1	65.0	61.8	43.3
	全国（公立）	75.6	66.5	62.2	44.1

2　全国平均を100とした場合の全道・岩見沢平均正答率の推移（H23は全国統計未実施



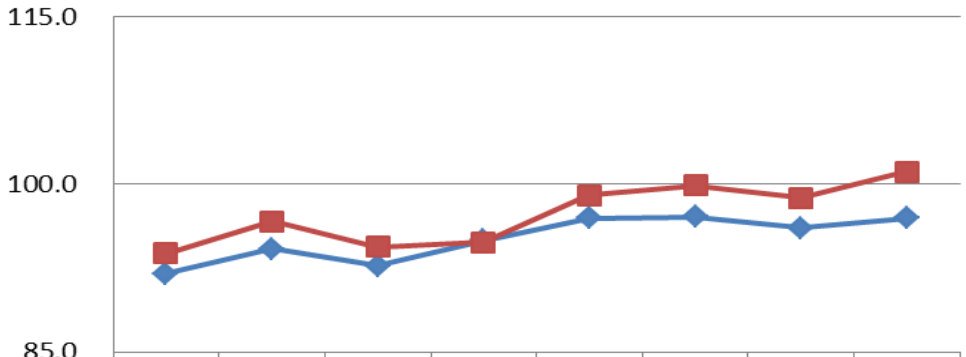
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	92.5	94.4	95.9	96.8	96.3	98.5	97.3	97.4
岩見沢	95.4	95.9	96.6	94.6	94.9	101.1	99.4	99.0

小学校国語B



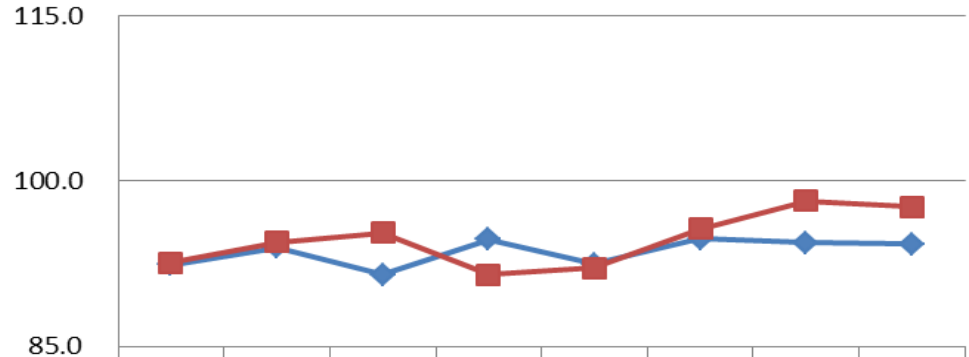
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	92.0	90.9	94.4	96.2	93.9	95.3	96.3	96.9
岩見沢	93.3	88.7	93.8	91.9	93.3	95.3	98.2	96.7

小学校算数A



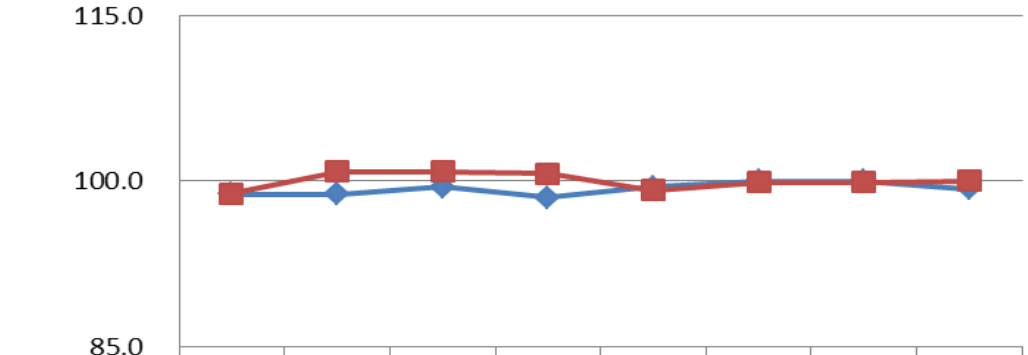
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	92.0	94.2	92.7	95.0	97.0	97.1	96.1	97.0
岩見沢	93.8	96.7	94.4	94.8	99.0	99.9	98.8	101.1

小学校算数B



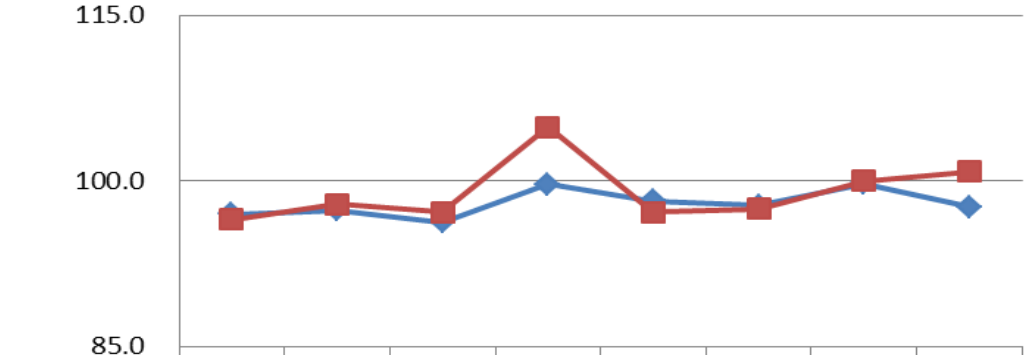
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	92.4	94.0	91.5	94.7	92.5	94.8	94.4	94.3
岩見沢	92.6	94.5	95.3	91.5	92.1	95.7	98.2	97.7

中学校国語A



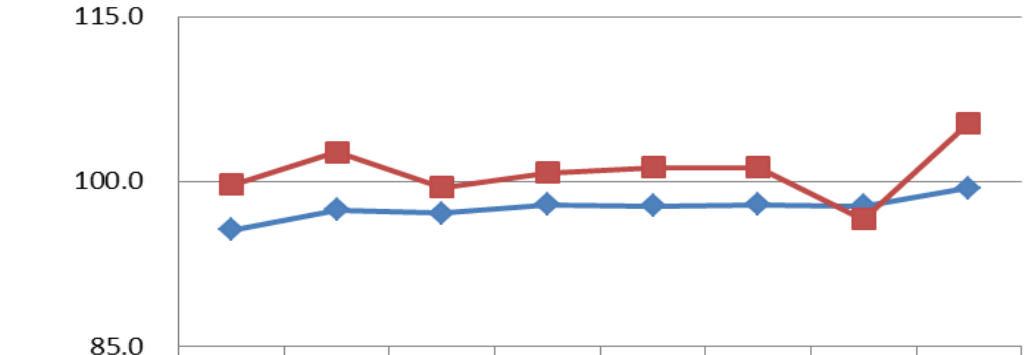
	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	98.8	98.8	99.5	98.5	99.5	100.0	100.0	99.3
岩見沢	98.9	100.9	100.9	100.7	99.2	99.9	99.9	100.0

中学校国語B

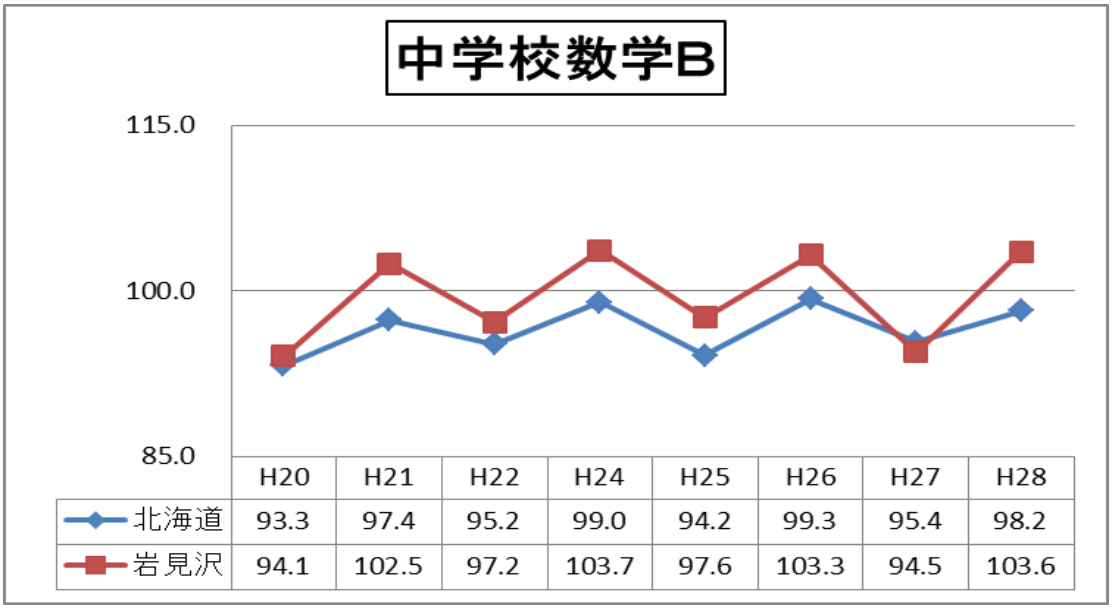


	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	97.0	97.4	96.3	99.7	98.2	97.8	99.8	97.7
岩見沢	96.5	97.9	97.2	104.9	97.2	97.5	100.0	100.9

中学校数学A



	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	95.6	97.4	97.1	97.9	97.8	97.9	97.8	99.4
岩見沢	99.7	102.7	99.5	100.8	101.3	101.3	96.6	105.3



	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28
北海道	93.3	97.4	95.2	99.0	94.2	99.3	95.4	98.2
岩見沢	94.1	102.5	97.2	103.7	97.6	103.3	94.5	103.6

３　岩見沢市の各教科別調査結果・指導改善のポイント

《小学校》

（１）国　語

①　国　語Ａ：主として《知識》に関する問題

＊ 岩見沢市の平均正答率 72.2 は、全国平均を 0.7 ポイント上回り、全道平均を 1.2 ポイント上回る。

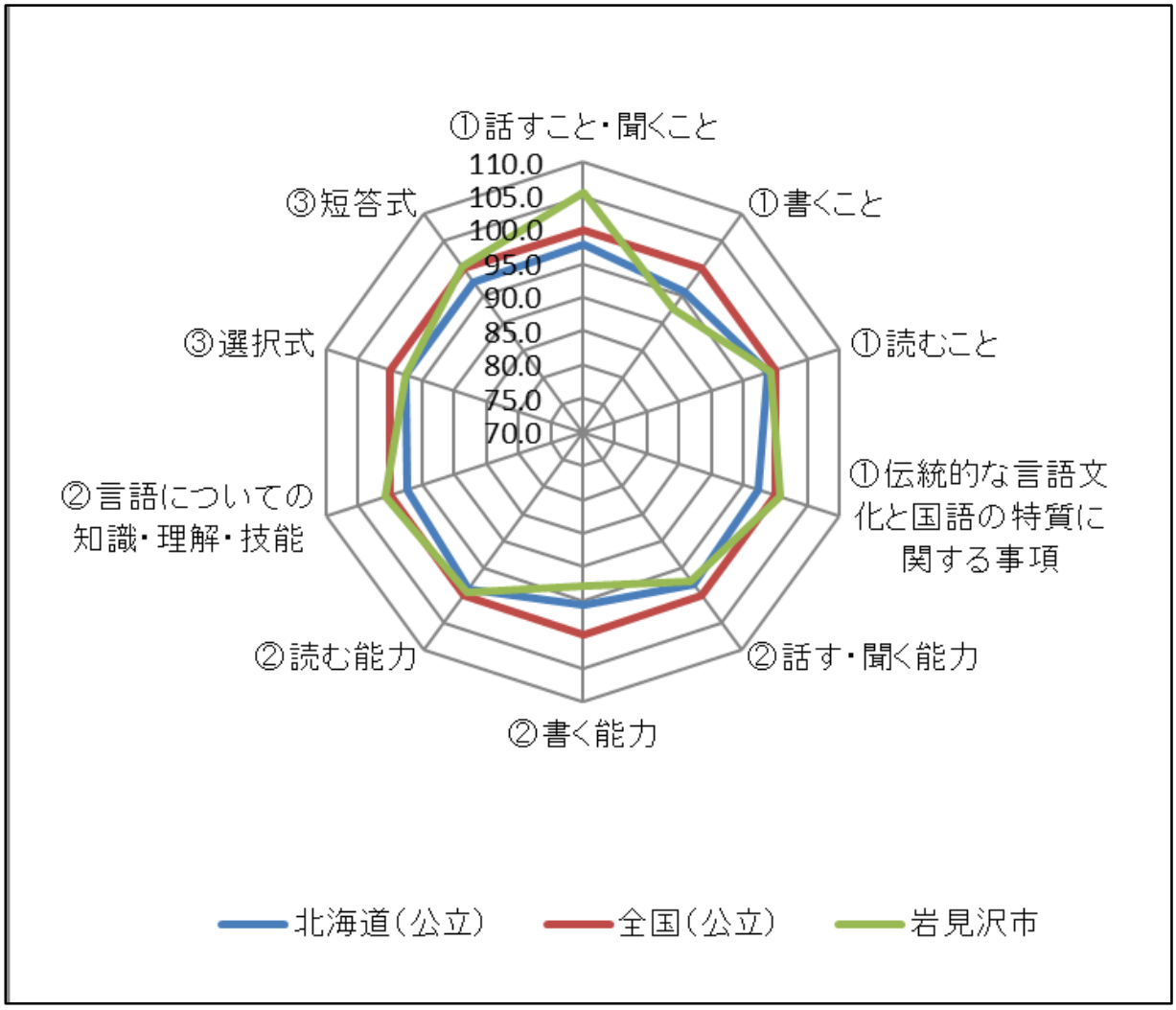
◎　「①話すこと・聞くこと」「①伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「②言語についての知識・理解・技能」「③短答式」については、全国・全道平均を上回る。

●　「①書くこと」「②話す。聞く能力」「②書く能力」については、全国・全道平均を下回る。

＊ 設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を１４問中７問上回り、全道平均を１１問上回り特に「１ニ２漢字を書く」「５ニコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」では、全国・全道平均を５ポイント以上上回るが、「３聞き方の説明として適切なものを選択する」では５ポイント以上下回る。

ア　分類・区分別チャート図

＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



＊「②国語への関心・意欲・態度」「③記述式」については、対象設問がないため、表示していない。

イ　設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１－１	漢字を読む（友人を家に招く）	97.7	97.3	97.5	0.5	0.6	0.7
１－２	漢字を読む（自分の信念をつらぬく）	96.1	96.3	96.0	0.6	0.8	0.9
１－３	漢字を読む（全員がすぐに承知した）	93.1	91.2	92.5	1.5	3.0	2.5
１二１	漢字を書く（シャワーをあびる）	61.3	57.2	58.4	11.6	19.0	17.2
１二２	漢字を書く（鳥のすを観察する）	82.9	73.8	76.5	3.4	8.0	5.7
１二３	漢字を書く（びょういんに行く）	73.2	69.3	74.9	4.3	7.1	4.7
２一	文の主語として適切なものを選択する	48.1	47.8	53.1	0.9	0.6	0.6
２二	文の型として適切なものを選択する	68.6	68.5	71.7	0.5	0.5	0.5
３	聞き方の説明として適切なものを選択する	41.6	47.4	53.0	0.6	0.5	0.5
４	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する	83.4	84.0	86.0	0.5	0.3	0.3
５一	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する	58.7	57.9	59.5	0.8	1.6	1.6
５二	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く	28.8	22.2	19.8	5.7	7.9	7.7
６	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する	68.0	66.1	67.5	2.0	2.5	2.6
７	応募のきまりを守っていないものを選択する	72.9	74.0	73.9	3.7	4.2	4.3

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

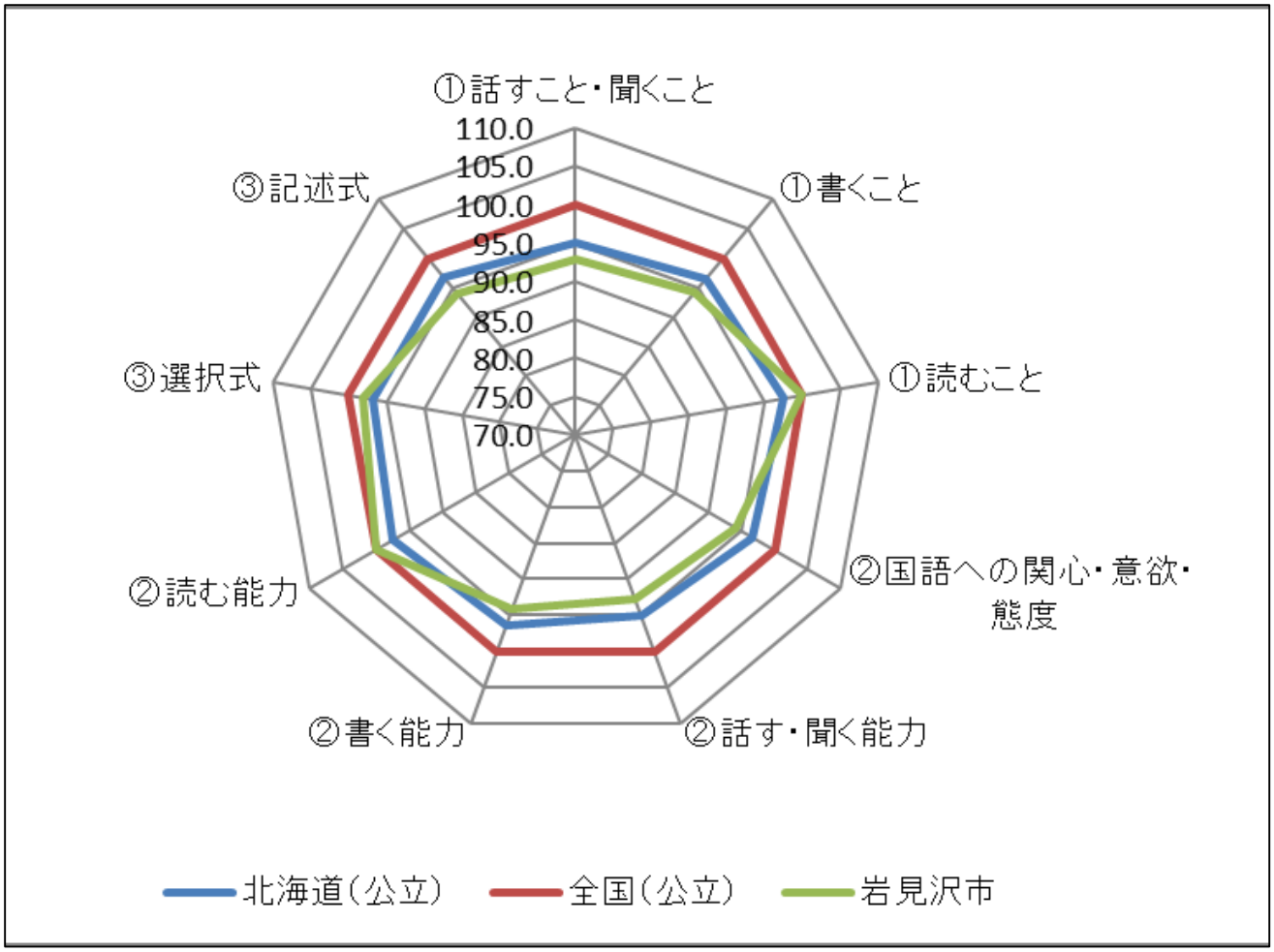
＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

② 国　語Ｂ：主として「活用」に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 55.9 は、全国平均を 1.9 ポイント、全道平均を 0.1 ポイント下回る。
●　領域、評価の観点、問題形式にわたって、全項目全国平均を下回る。
△　「③選択式」では全道平均を上回る。また、「①読むこと」「②読む能力」では、全道平均と同等である。しかし、それ以外の項目では全道平均を下回る。

＊ 設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回るのは９問中４問、全道平均を上回るのは６問となっている。

ア　分類・区分別チャート図
＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

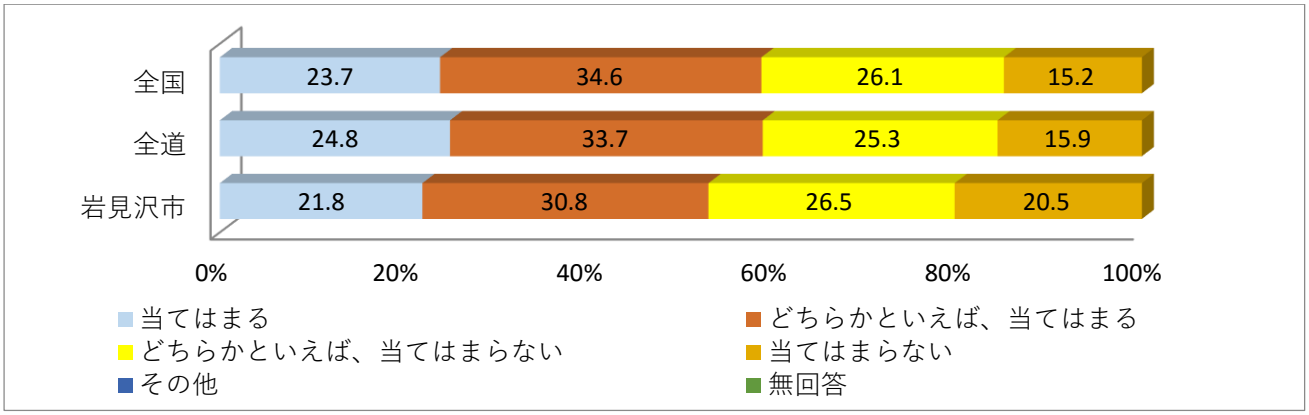
設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１一	新聞の割り付けとして適切なものを選択する	73.1	72.8	74.6	0.5	0.6	0.5
１二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する	68.8	69.0	70.8	0.5	0.7	0.6
１三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く	34.9	33.1	34.7	3.1	5.0	4.0
２一ア	［ア］に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く	76.0	74.3	75.5	3.7	4.3	3.6
２一イ	［イ］に入る言葉として適切な内容を書き抜く	84.2	84.3	86.0	5.5	6.6	5.6
２二	【文章】の要旨をまとめて書く	79.4	77.0	78.4	6.6	8.3	7.0
２三	楽器の分担の決め方について，【楽器の分担図】を基にして書く	39.5	37.7	41.6	9.4	12.0	8.7
３一	〈絵３〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する	61.8	58.2	60.4	8.3	10.5	9.7
３二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く	60.2	60.6	66.6	16.6	19.3	15.1

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

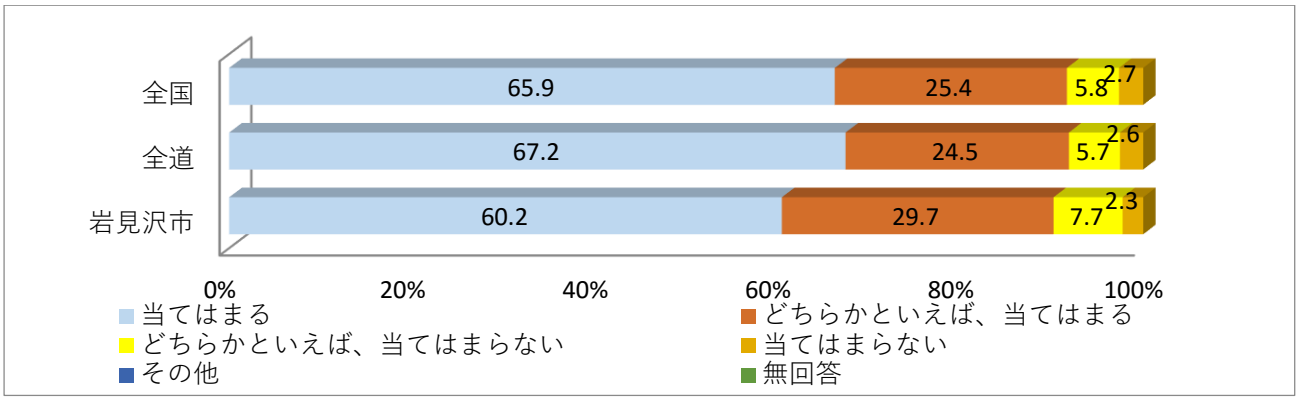
③「国語に関する」質問紙調査結果

61.国語の勉強は好きですか



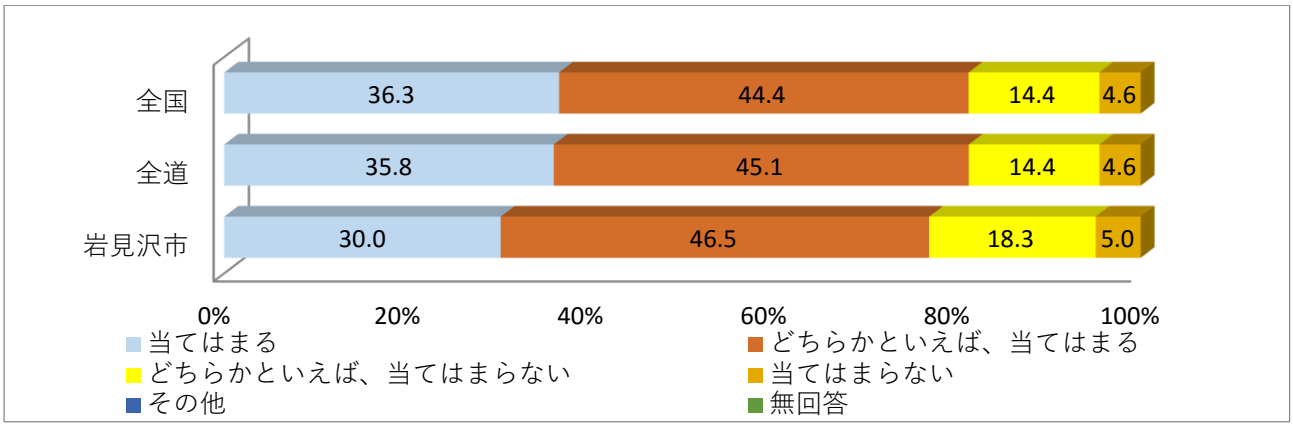
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、52.6%で全国を 5.7 ポイント、全道を 5.9 ポイント下回る。

62.国語の勉強は大切だと思いますか



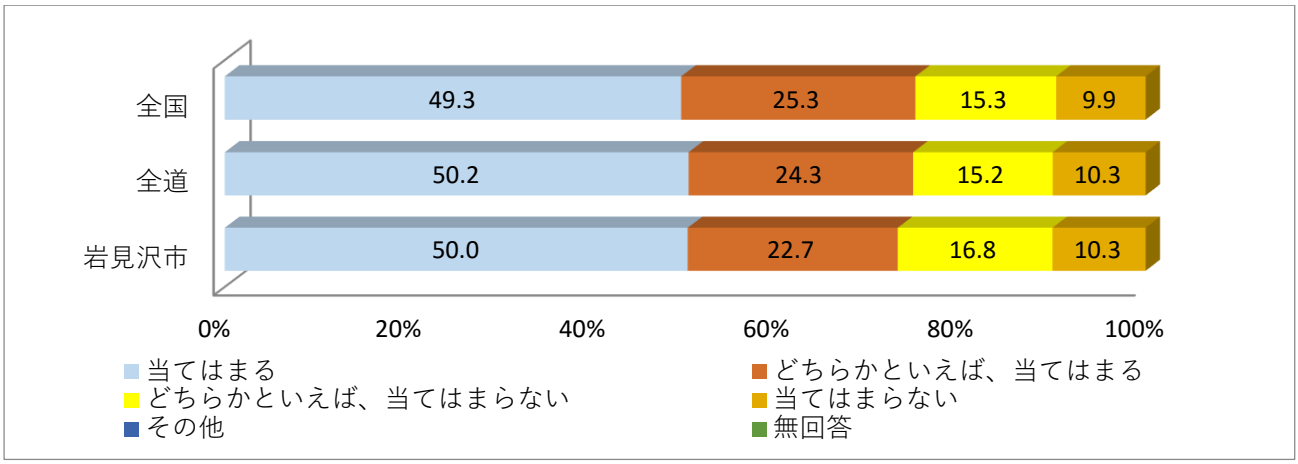
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、89.9%で全国を 1.4 ポイント、全道を 1.8 ポイント下回る。

63.国語の授業の内容はよく分かりますか



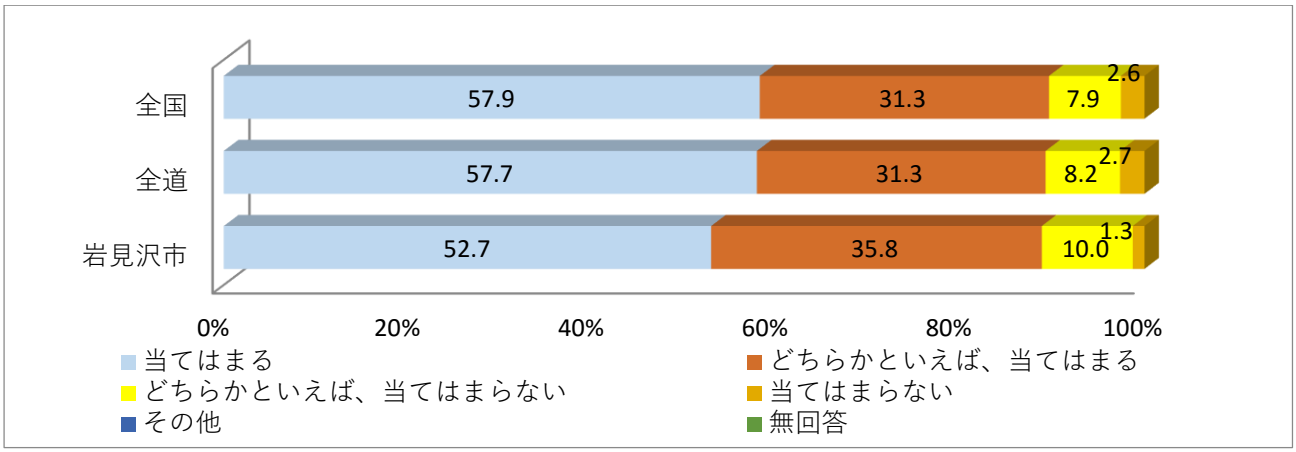
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、76.5%で全国を 4.2 ポイント、全道を 4.4 ポイント下回る。

64.読書は好きですか



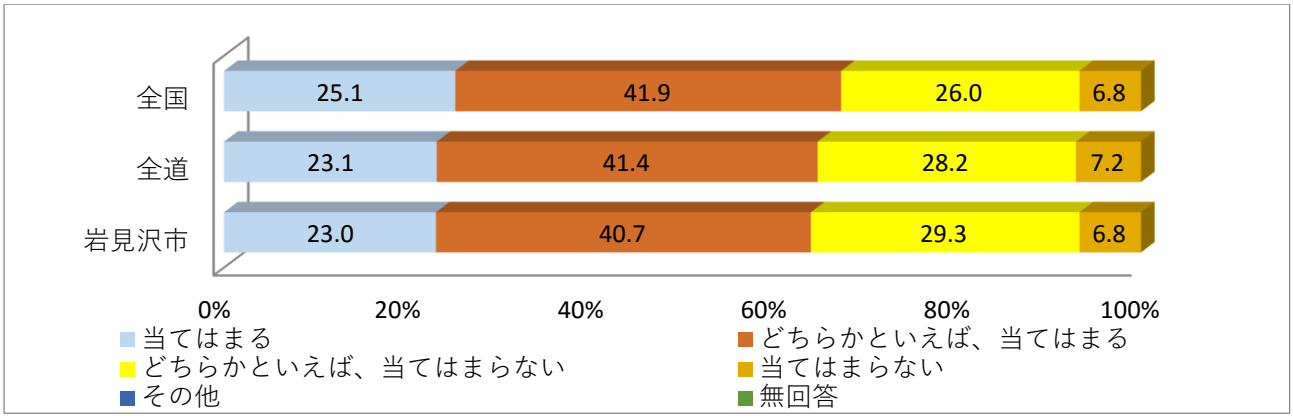
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、72.7%で全国を 1.9 ポイント、全道を 1.8 ポイント下回る。

65.国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



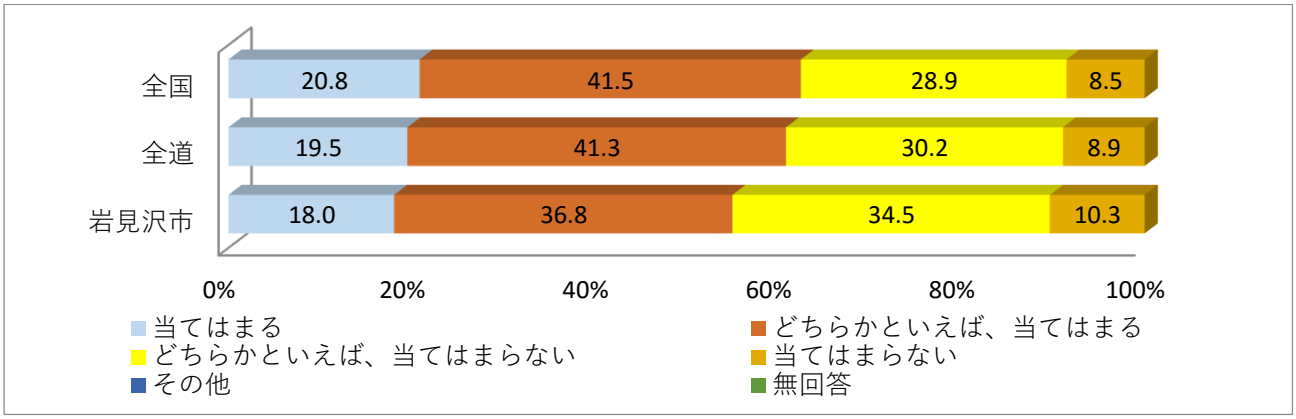
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、88.5%で全国を 0.7 ポイント、全道を 0.5 ポイント下回る。

66.国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか



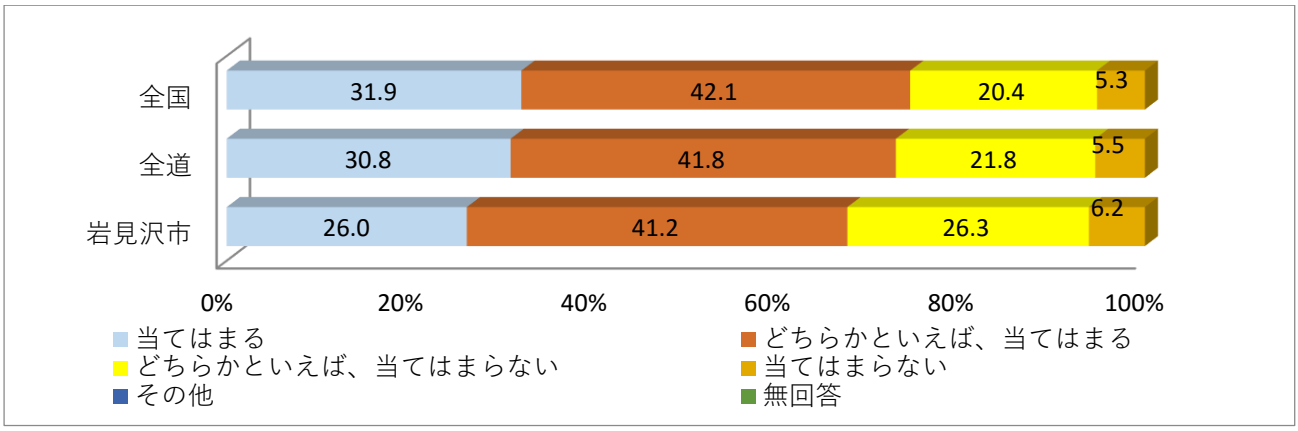
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、63.7%で全国を 3.3 ポイント、全道を 0.8 ポイント下回る。

67.国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか



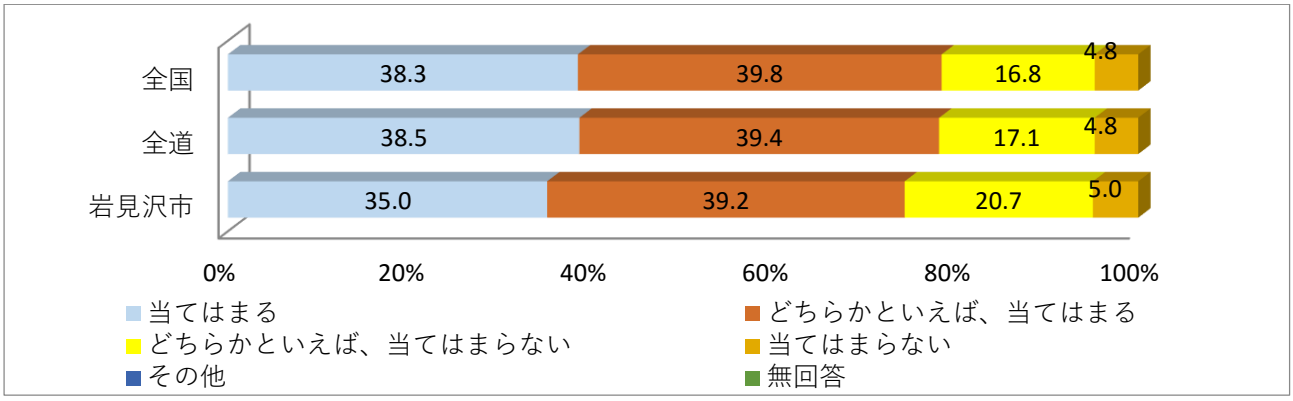
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、54.8%で全国を 7.5 ポイント、全道を 6.0 ポイント下回る。

68.国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



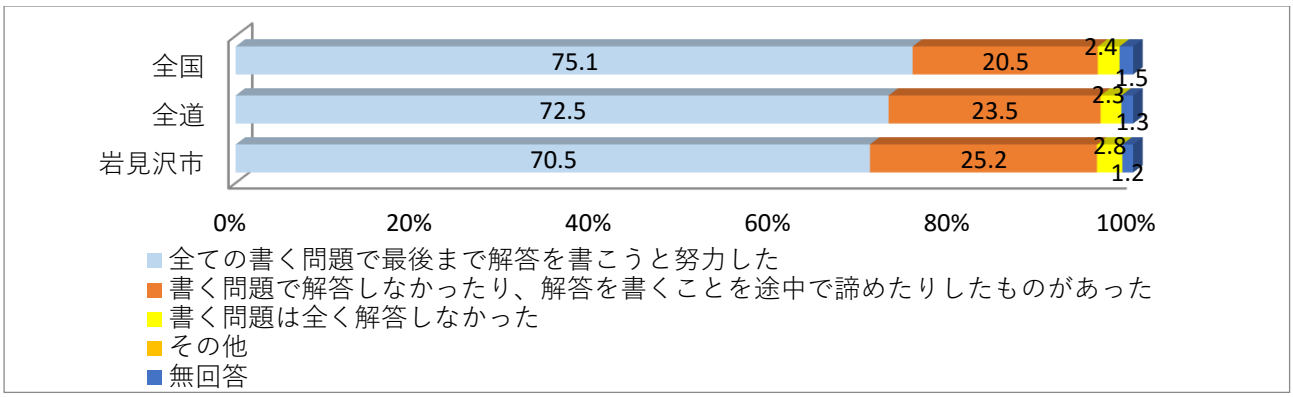
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、67.2%で全国を 6.8 ポイント、全道を 5.4 ポイント下回る。

69.国語の授業で文章を読むとき，段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか



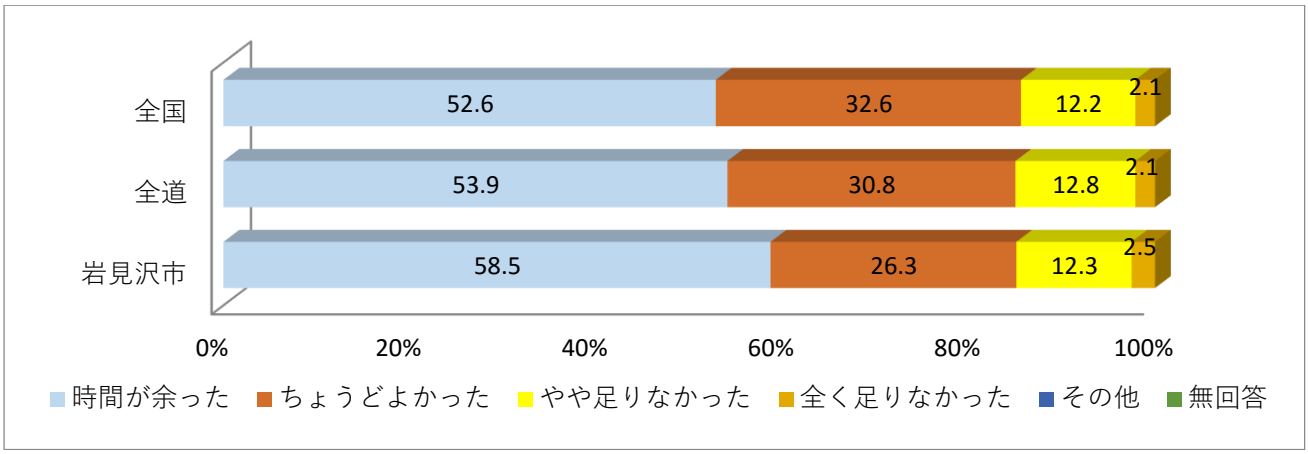
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と「段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」と回答している児童の割合は、74.2%で全国を 3.9 ポイント、全道を 3.7 ポイント下回る。

70.今回の国語の問題について，解答を文章で書く問題がありましたが，どのように解答しましたか

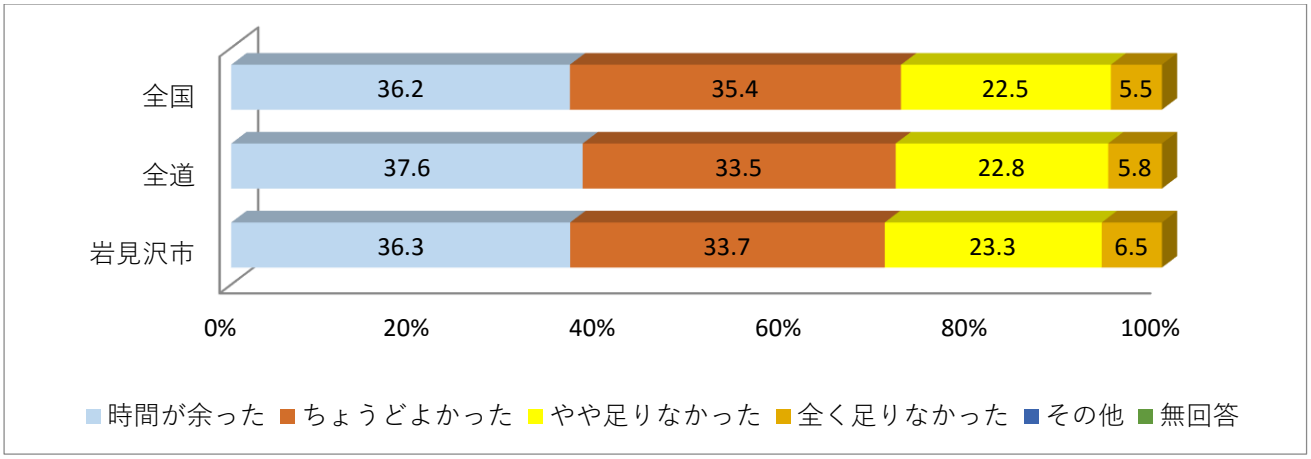


「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童の割合は、70.5%で全国を 4.6 ポイント、全道を 2.0 ポイント下回る。

82.調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



83.調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



④　指導改善のポイント(文部科学省、国立教育政策研究所の報告書より)

話すこと・聞くこと

○　相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する指導の充実

・　インタビューなどで、自分が聞きたいことを明確にし、相手の話の内容を十分に聞き取る際は、主に次の２点が大切である。第一に、事前にインタビューメモを作成するなど、調査等の目的に応じて質問する内容を整理しておくことである。第二に、目的に応じて、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点はなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことである。その際、相手の話の内容を確認した上で質問したり、相手の話を言い換えて、確認するために質問したり、相手の話の内容と関係付けて質問したりするなど、話の展開に沿って質問の仕方を工夫し、主体的に聞くことが大切である。

書くこと

○　目的や意図に応じて、表現をよりよくするために助言し合う指導の充実

・　表現をよりよくするためには、書いたものを読み合い、助言し合うことが必要である。児童が、互いの文章の種類や特徴を捉えた上で、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかどうかについて具体的に助言できるようにすることが大切である。

○　目的や意図に応じ、図表やグラフを用いて、自分の考えを書く指導の充実

・　活動報告文に自分の考えとして、活動に取り組んだ成果や課題などを書く際は、活動内容を図表やグラフなどにまとめ、それらを根拠として示しながら自分の考えを書くことで、読み手への説得力が高まると考えられる。児童が、「自分の伝えたいことと合う図表やグラフを活用することで説得力が生まれること」を自覚できるように指導することが大切である。

読むこと

○　登場人物の人物像を複数の叙述を基に捉える指導の充実

・　登場人物の人物像を捉える際は、各場面に描かれた登場人物の行動や会話などに即しながらそれぞれの登場人物の特徴や性格を押さえて読むことが重要である。登場人物の性格がよく表れている行動や会話などは複数描かれているため、それらを関連付けながら読むことが必要である。また、場面の移り変わりに注意しながら読むことによって、登場人物の性格をより明確に把握することができるようになる。

○　目的に応じて、複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながら読む指導の充実

・　目的に応じて、複数の本や文章などについて、様々な読み方で読むことができるようにすることが必要であり、このことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要である。そのため、「課題を解決するために読む」というように、課題解決の過程に適切に位置付けられた言語活動を行うことが大切である。

　また、適切な本や文章を選ぶために、学校図書館やインターネットの利用に関する知識、情報モラルなどを身に付けさせることが求められる。その上で、目的に照らして必要な本や資料を児童自ら選ぶことができるように、目次や索引を利用して検索するなどの情報収集の仕方について指導することが必要である。

　さらに、児童が自ら得た複数の情報を関係付けて、自分の考えを明確にしながら読むことが重要である。その際、読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため引用したり要約したりする部分も変化するということを実感できるように継続的に指導することが考えられる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○　ローマ字を、生活の中で、選んで読んだり書いたりする指導の充実

・　ローマ字については、当該学年での学習にとどまらず、繰り返し読んだり書いたりすることができるようにする必要がある。その際、児童が必要性を感じられるように、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、ローマ字が使われている日常の場面と結び付けながら指導することが大切である。

（2）算　数

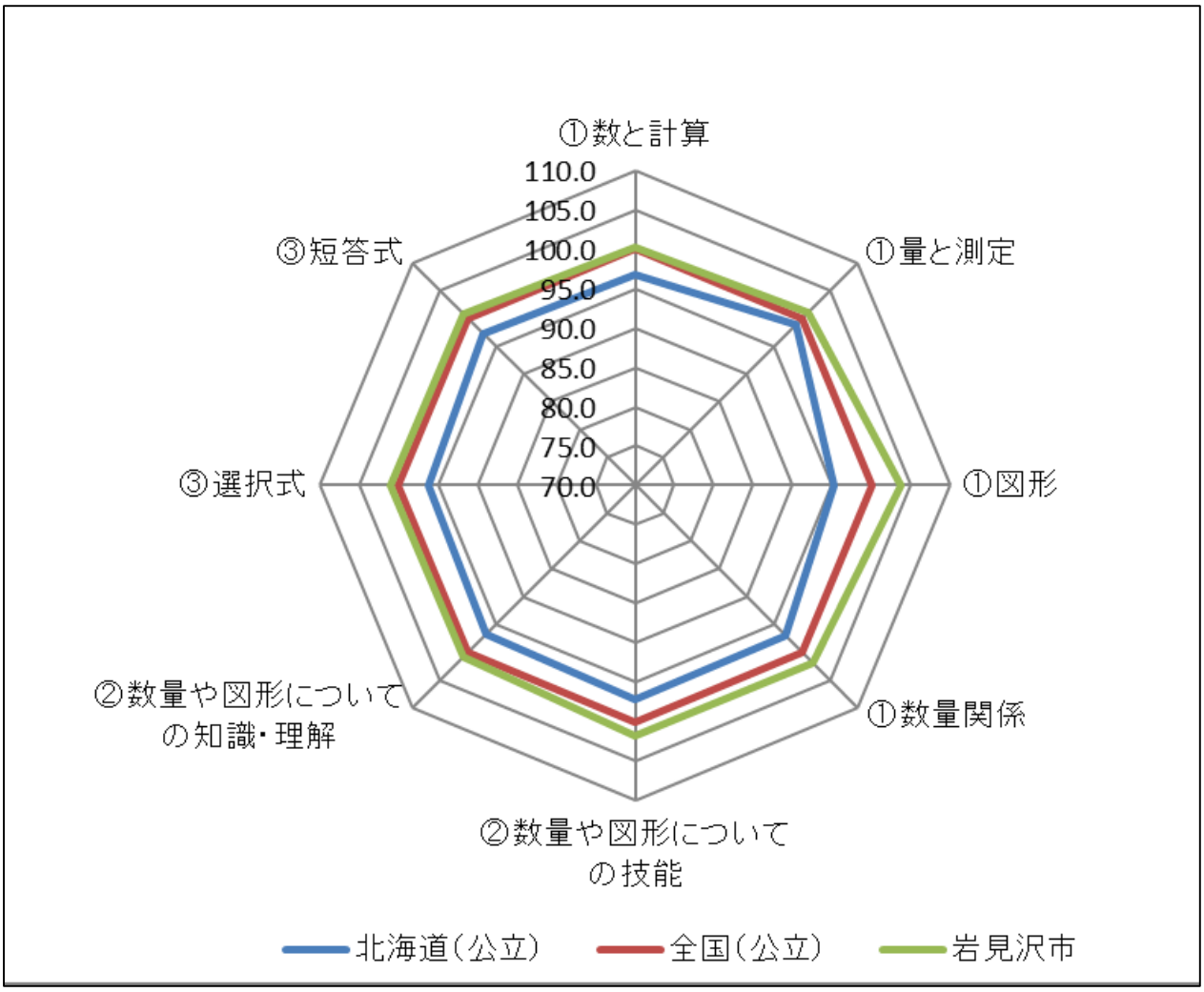
①　算　数　A：主として「知識」に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 78.4 は、全国平均を 0.8、全道平均を 3.1 ポイント上回る。
◎　平均正答率は、全ての点で全国・全道平均を上回る。

＊　設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回るのは１６問中７問、全道平均を上回るのは１１問となっている。また、設問２（２）「小数の減法の計算」においては全国平均を上回る。

ア　分類・区分別チャート図

＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１（１）	８．９－０．７８の差の概算の結果として，ふさわしい数値を選ぶ	75.2	69.4	71.0	0.5	0.6	0.6
１（２）	５．２１＋０．７は０．０１が何個集まった数かを表すための式として，ふさわしい数値の組み合わせを書く	67.0	70.5	74.3	1.5	1.4	1.1
１（３）	小数の加法の結果を，減法を用いて確かめるとき，当てはまる数値の組み合わせを書く	82.7	82.1	82.0	1.4	2.1	2.0
２（１）	２８＋７２を計算する	97.8	98.2	98.2	0.3	0.2	0.2
２（２）	６．７９－０．８を計算する	75.3	68.5	69.5	0.3	0.8	0.7
２（３）	５／９－１／４を計算する	81.7	77.6	81.4	1.4	2.5	1.8
２（４）	５／６÷７を計算する	83.8	72.7	84.2	3.5	9.6	4.1
３	午後３時１０分までに図書館に着くために，所要時間の５分と２０分を基に，家を出発する時刻を求める	68.1	71.7	74.8	1.4	1.5	1.0
４（１）	９０°，１８０°，２７０°，３６０°を基準として角の大きさを見当付けたものから，正しいものを選ぶ	74.9	76.5	81.3	0.6	0.4	0.3
４（２）	分度器の目盛りを読み，１８０°より大きい角の大きさを求める	53.6	51.4	58.0	0.6	0.6	0.5
５（１）	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として，最もふさわしい円の特徴を選ぶ	51.2	48.9	50.6	1.7	2.0	1.6
５（２）	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の，角の大きさを求める	66.7	62.2	64.5	2.6	3.2	2.4
６（１）	作成途中の直方体の展開図について，残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く	75.8	73.6	75.4	2.3	2.7	2.1
６（２）	作成途中の直方体の展開図について，残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ	65.9	65.6	67.6	2.8	3.8	3.4
７	ハンカチを５日間持ってきた人数が，学年全体の人数の半分より少ない学年は，４年生だけであることを示しているグラフを選ぶ	80.9	80.9	81.8	2.8	2.8	2.3
８	○を並べた図を基に式を読み，数に対応する○を黒く塗る	88.1	86.2	88.1	3.7	5.5	4.6

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

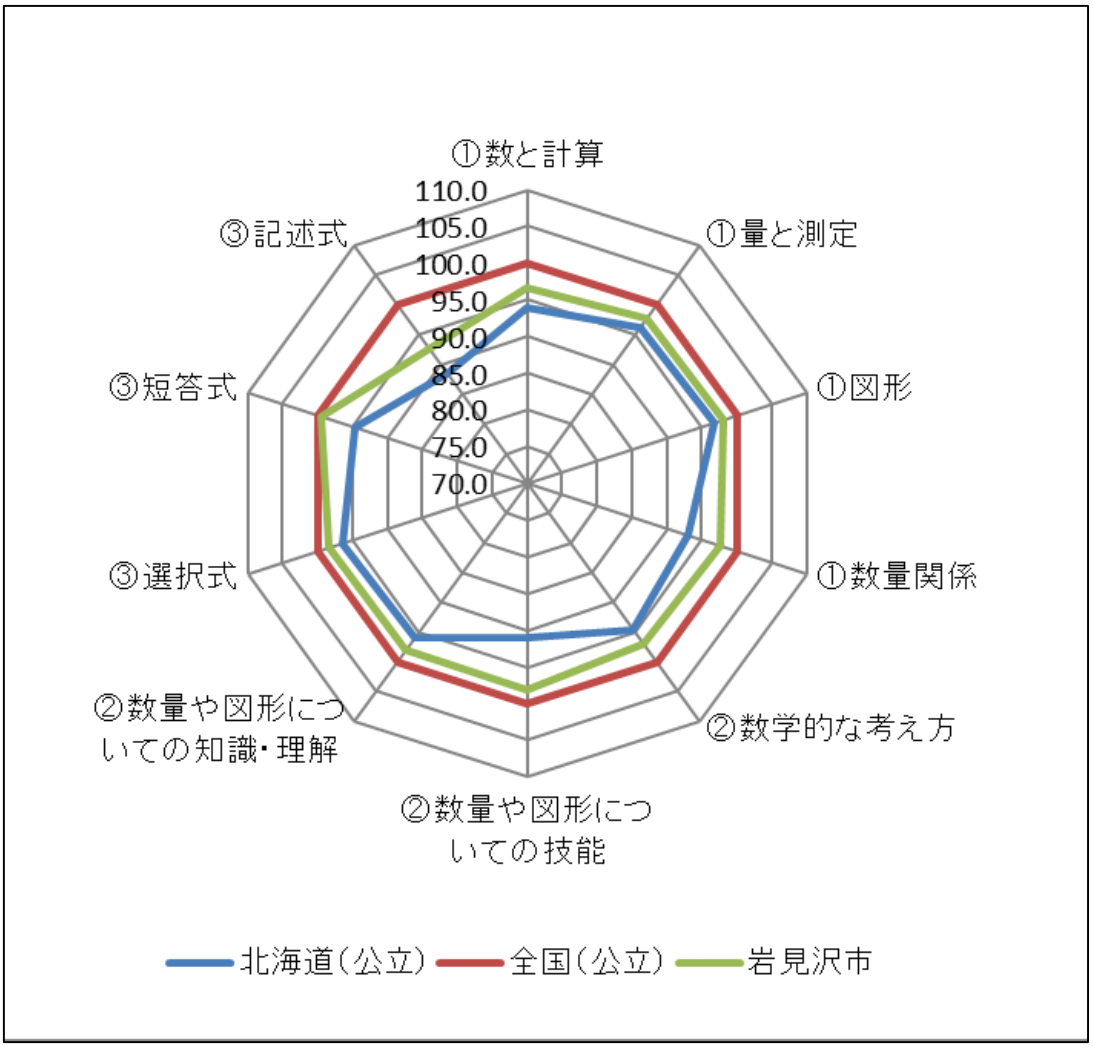
＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

② 算　数　B：主として「活用」に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 46.1 は、全国平均を 1.1 ポイント下回るが、全道平均を 1.6 ポイント上回る。
△　平均正答率は、領域、評価の観点、問題形式の全項目で全国平均を下回るが、全道平均を上回る。
●　問題形式「③記述式」では、全国平均を 7.3 下回る。

＊ 設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回っているのは１３問中４問、全道平均を上回っているのは8問となっている。設問１（２）「作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ」設問３(１)「正三角形の性質をもとに位置を求める問題」においては全国・全道平均を５ポイント以上上回る。しかし、設問２(２)「比較量と割合から基準量を求める」においては全国を 6.8 ポイント下回る。

ア　分類・区分別チャート図
＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

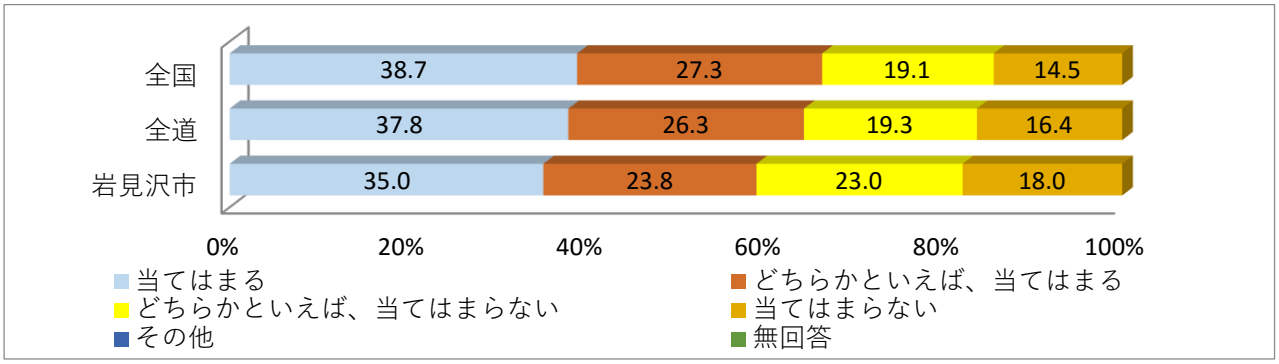
設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１（１）	平行四辺形を構成することができる，四つの辺の組み合わせを選ぶ	92.9	94.6	95.2	0.2	0.1	0.1
１（２）	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	63.7	55.4	54.6	1.1	1.3	1.0
１（３）	二組の道のりが，それぞれ等しくなることを書く	24.5	24.7	27.7	16.6	18.4	14.3
２（１）	トマトを７個買うとき，最も安くなる買い方を選び，そのときの代金を書く	62.0	61.0	64.8	0.5	0.4	0.3
２（２）	２０％増量した商品の内容量が４８０ｍＬであるとき，増量前の内容量を求める式と答えを書く	6.3	8.9	13.1	3.1	5.8	4.5
２（３）	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見いだし，正しい求め方と答えを書く	47.7	44.7	51.0	14.0	16.2	12.8
３（１）	周の長さが２４ｍの正三角形を巻き尺でつくるために，それぞれどこの目盛りのところを持てばよいかを書く	37.8	32.7	32.5	6.8	8.8	6.7
３（２）	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに，㋐の角が３０°になるわけを書く	48.8	43.7	49.1	20.2	25.2	18.9
４（１）	四つの数を四捨五入して，千の位までのおよその数に表し，それらの数の和を求める式と答えを書く	54.9	49.9	52.6	1.8	3.0	2.4
４（２）	切り上げて計算した結果が１００００であることから分かることを選ぶ	59.7	60.5	62.0	3.4	4.5	3.9
４（３）	目標に達するには，１２月に３０００個のキャップを集めればよいわけを書く	17.7	19.8	22.3	16.5	19.1	15.3
５（１）	示された図において，分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く	13.2	12.2	12.5	23.1	26.7	21.0
５（２）	示された図形の色がついた部分の面積を求める	45.1	43.8	47.8	20.5	21.4	17.3

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

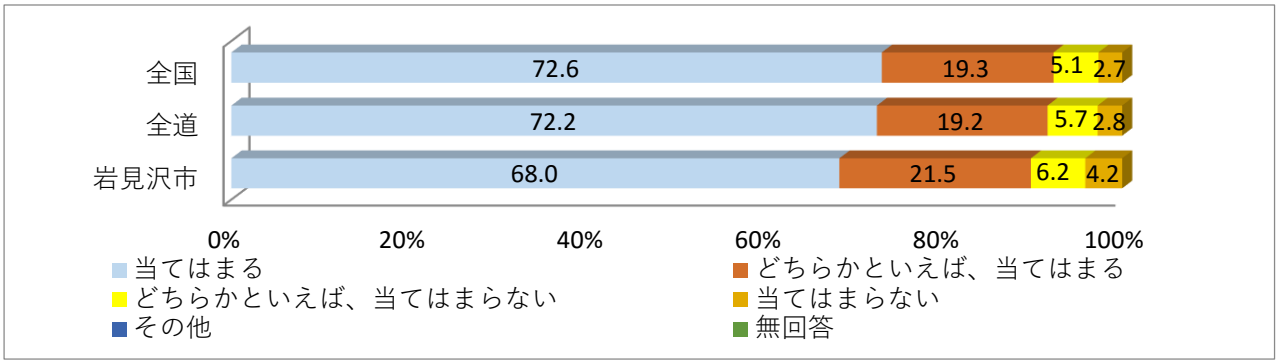
③　「算数に関する」質問紙調査結果

71.算数の勉強は好きですか



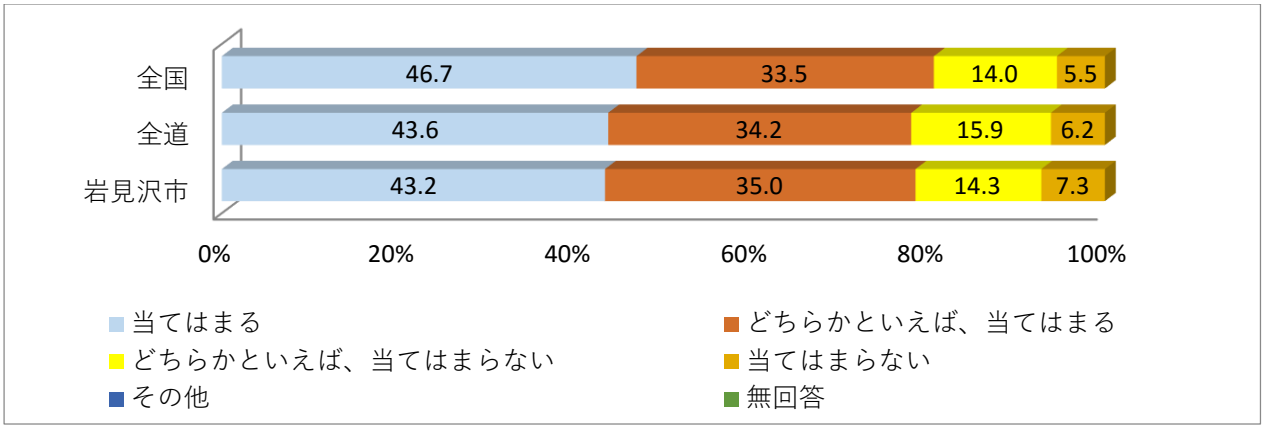
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、58.8%で全国を 7.2 ポイント、全道を 5.3 ポイント下回る。

72.算数の勉強は大切だと思いますか



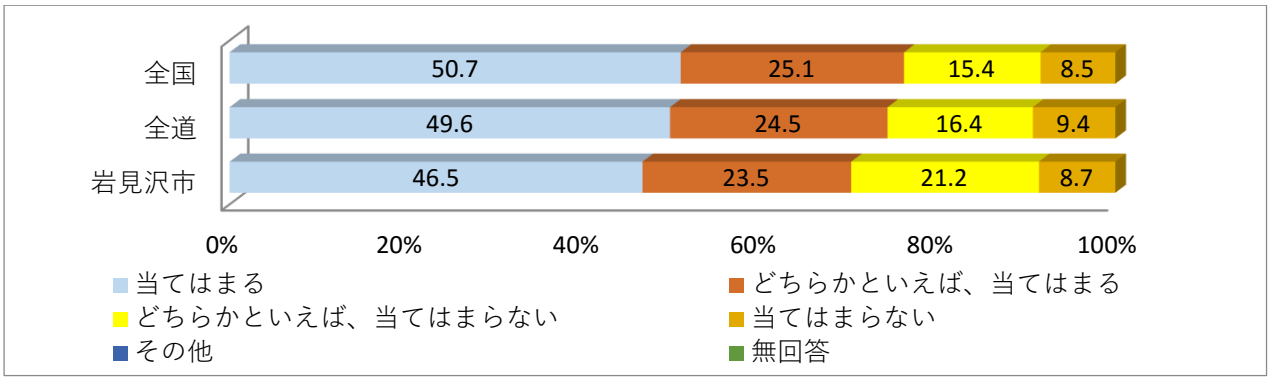
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、89.5%で全国を 2.4 ポイント、全道を 1.9 ポイント下回る。

73.算数の授業の内容はよく分かりますか



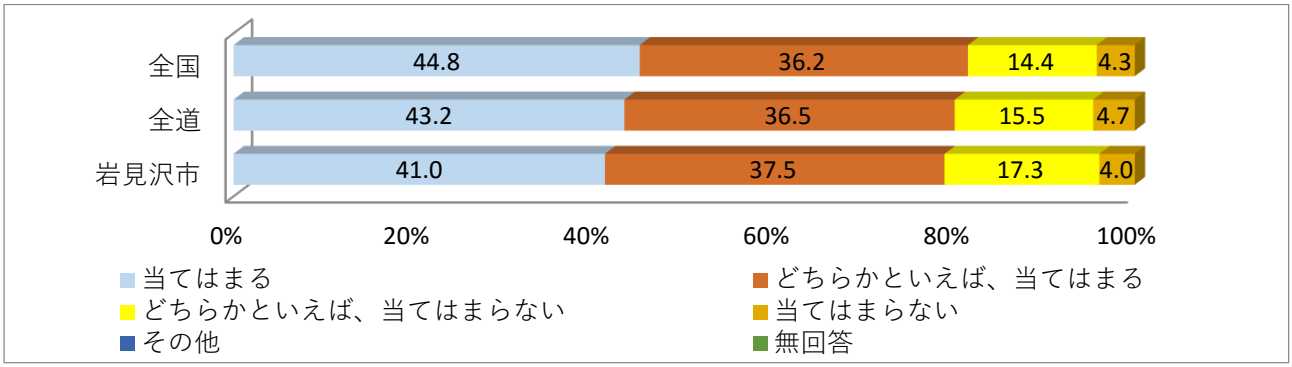
まる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は 78.2%で全国を 2.0 ポイント下回り、全道を 0.4 ポイント上回る。

74 算数の授業で新しい問題に出合ったとき，それを解いてみたいと思いますか



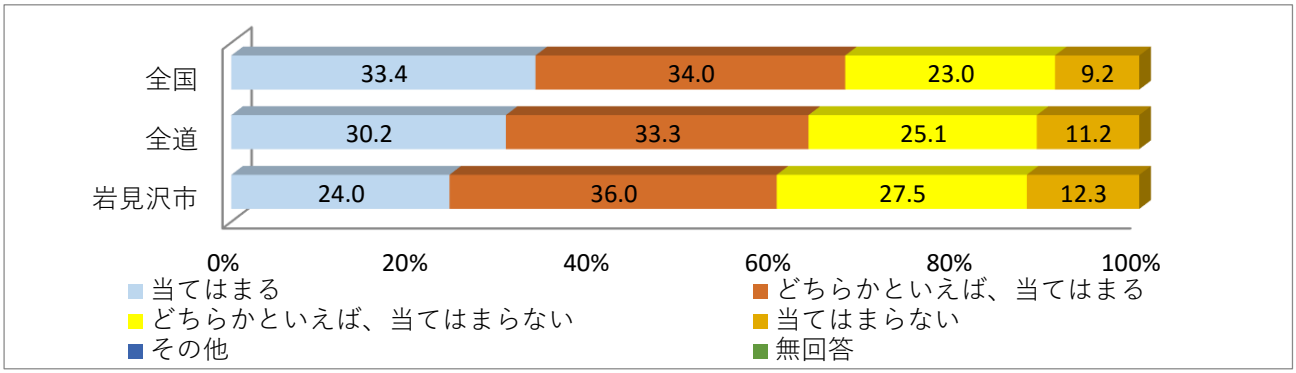
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、70.0%で全国を 5.8 ポイント、全道を 4.1 ポイント下回る。

75.算数の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか



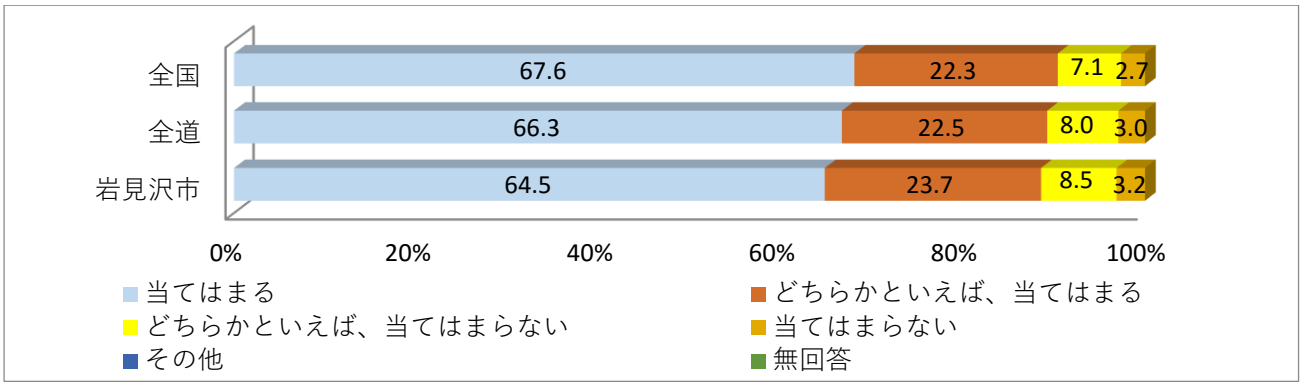
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、78.5%で全国を 2.5 ポイント、全道を 1.2 ポイント下回る。

76.算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



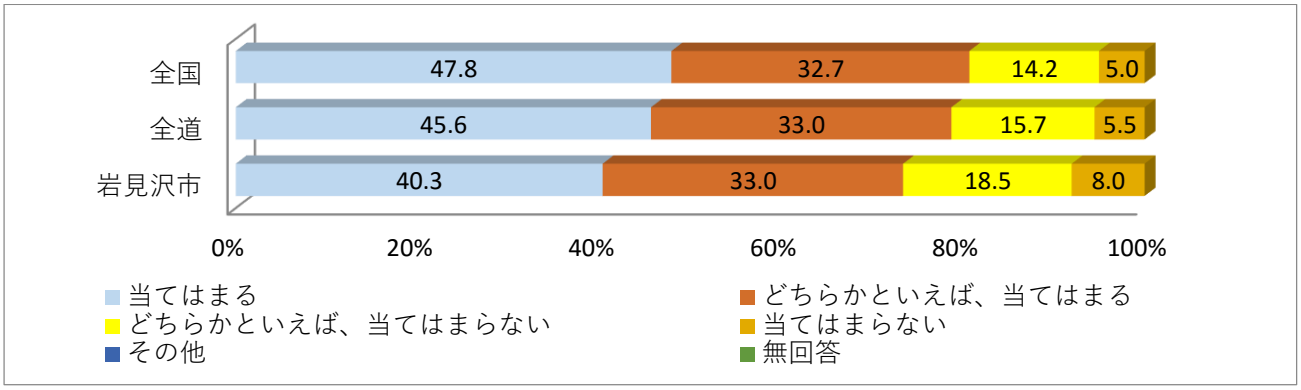
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまると回答している児童の割合は、60.0%で全国を 7.4 ポイント、全道を 3.5 ポイント下回る。

77.算数の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



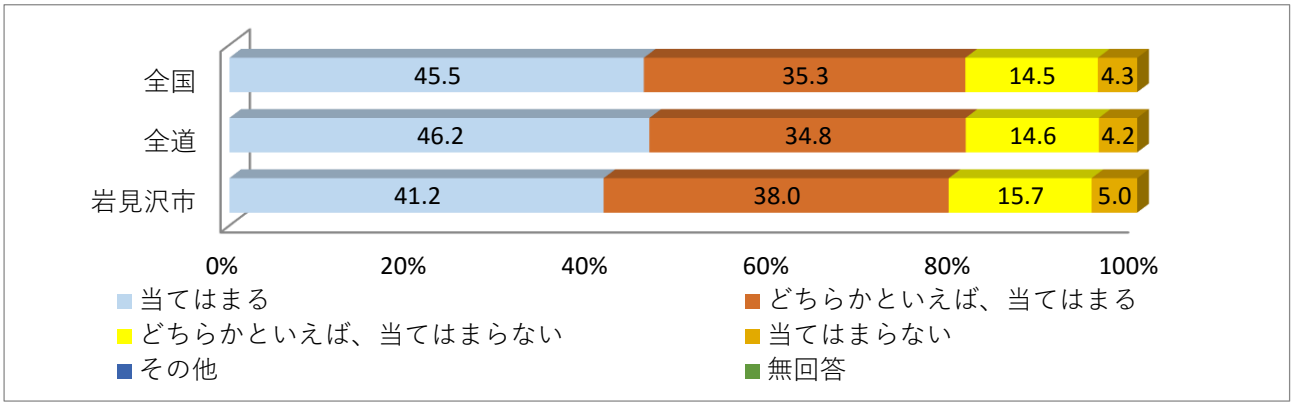
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、88.2%で全国を 1.7 ポイント、全道を 0.6 ポイント下回る。

78.算数の授業で問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考えますか



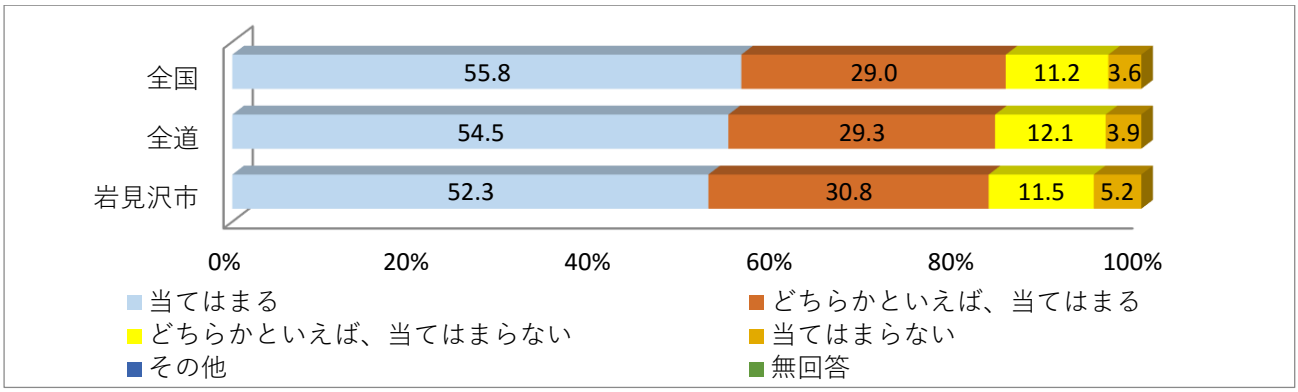
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、73.3%で全国を 7.2 ポイント、全道を 5.3 ポイント下回る。

79.算数の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか



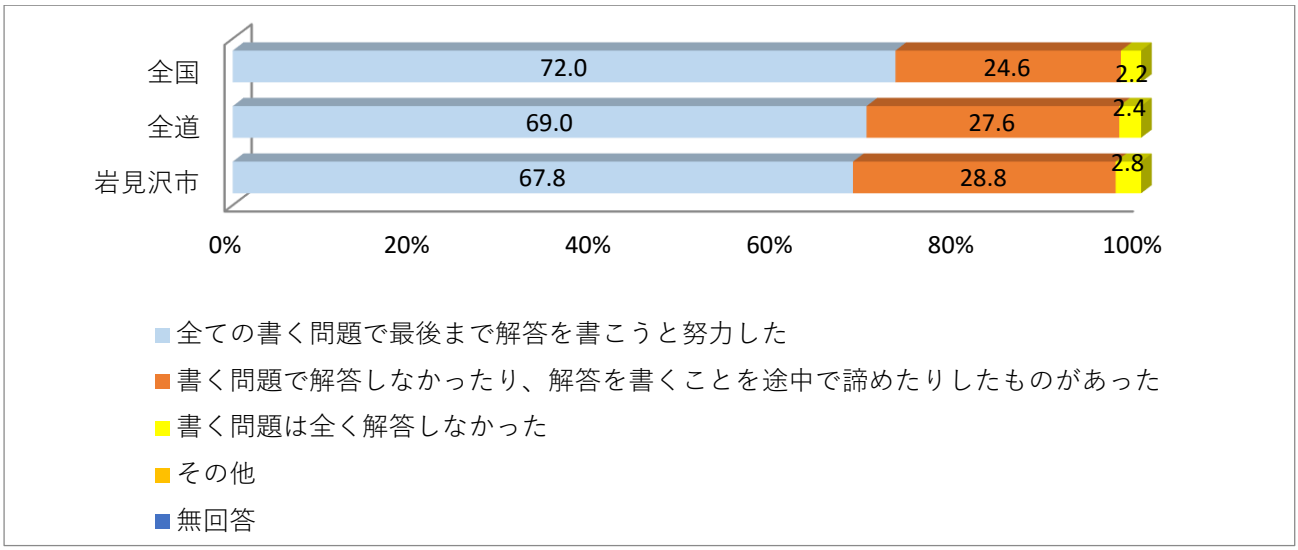
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、79.2%で全国を 1.6 ポイント、全道を 1.8 ポイント下回る。

80.算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



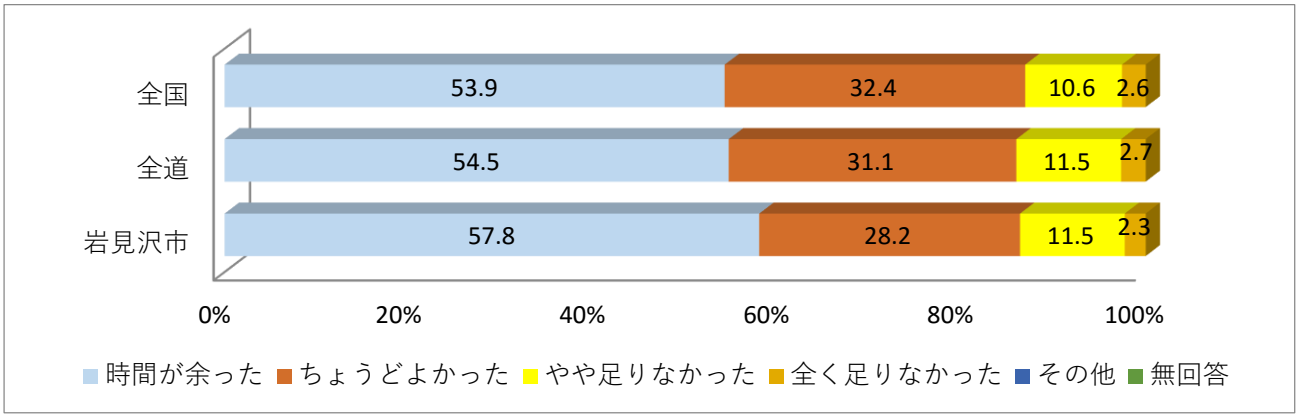
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合は、83.1%で全国を 1.7 ポイント、全道を 0.7 ポイント下回る。

81.今回の算数の問題について，言葉や数，式を使って，わけや求め方などを書く問題がありましたが，どのように解答しましたか

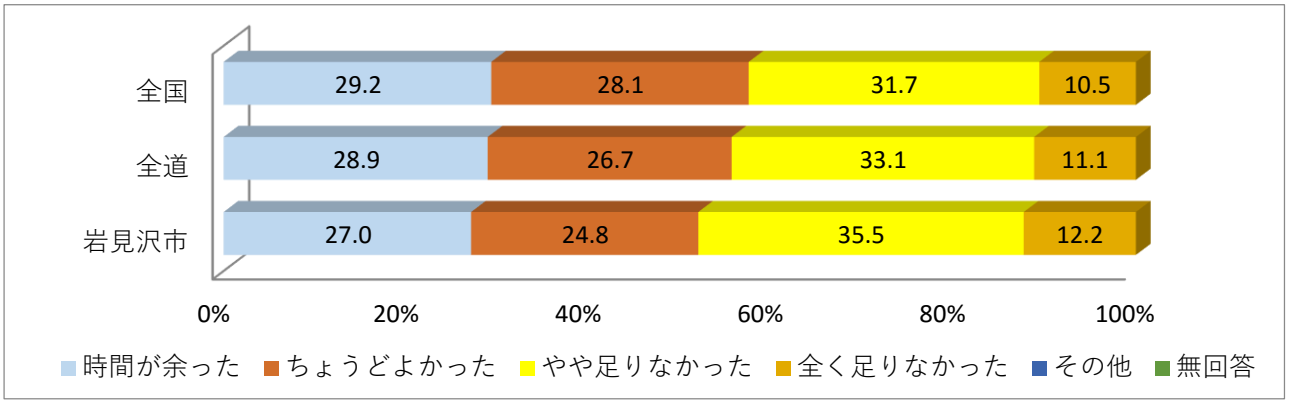


「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している児童の割合は、67.8%で全国を 4.2 ポイント、全道を 1.2 ポイント下回る。

84.調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）



85.調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）



④　指導改善のポイント(文部科学省、国立教育政策研究所の報告書より)

数と計算

○　計算の結果を見積もり、計算の仕方を考え、結果を振り返って確かめる活動の充実

- 正しい計算の結果を得るために、計算の結果を見積もったり、計算の性質の理解の上に立って、計算の仕方を考えたり、結果を振り返って確かめたりするなどの各活動を、児童自らが関連付けることができるようにすることが大切である。

○　乗法や除法を問題の解決に用いたり、それらの式の意味を適切に解釈したりできるようにするために指導の充実

- 日常生活の問題の解決において、乗法や除法を用いることができるようにするためには、指導において具体的な場面と関連付けながら乗法や除法の式の意味を解釈したり、その式を用いて問題を解決したりする場面を設けることが大切である。また、実際に日常生活の問題を解決し、用いた式やその答えが表す内容を日常の場面に戻って考察する経験を豊かにすることも大切である。

量と測定

○　日常生活の問題の解決に向けて、単位量あたりの大きさを活用して、適切に判断する活動の充実

- 日常生活の問題の解決においては、単位量あたりの大きさを活用することで、合理的に判断したり、能率的に処理したりする場合がある。収集した情報について単位量あたりの大きさを用いた新たな視点で解釈する活動などを通して、そのよさを実感できるようにすることが大切である。

○　算数の問題場面で見いだした考えを活用して、条件を変更した場合について発展的に考察する指導の充実

- 問題を解決した後、児童自らが数値や形などの条件を変えて、発展的に考察する活動を設けることが大切である。その際、数値や形などの条件の異同を確認し、見いだした考えをどのように活用していくかを話し合う場を設けることで、基本的な問題で用いた考えを適用して、新たな問題が解決できることを実感できるように指導することが大切である。

図形

○　図形の構成要素に着目して見通しを持って図形を構成したり、構成できた根拠を説明したりする活動の充実

- 図形の構成に関する指導においては、図形の構成要素に着目して、構成できる図形を予想したり、構成できた根拠を考え説明したりすることが大切である。また、図形の性質を理解する際には、学習の系統性を意識するとともに、具体物を用いた活動を取り入れることで、その理解を実感的なものとすることが大切である。

○　図形と式を関連付けて、論理的に考察する指導の充実

- 図形と式を関連付けて考察することは、図形の特徴や式の意味についての理解を深めることにつながる大切な活動である。式の意味を図形の構成要素に着目して説明する活動を設け、図形の用語を適切に用いて、説明を式の意味が明確になるように洗練していく指導が大切である。

数量関係

○　数直線などを用いて、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉える活動の充実

- 割合を活用して問題を解決するためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える必要がある。その際、問題場面のイメージを数直線などを用いて表現することで、何が基準量に当たるかを意識することは大切である。

○　筋道を立てて考えたことや判断の根拠を過不足なく示して説明する指導の充実

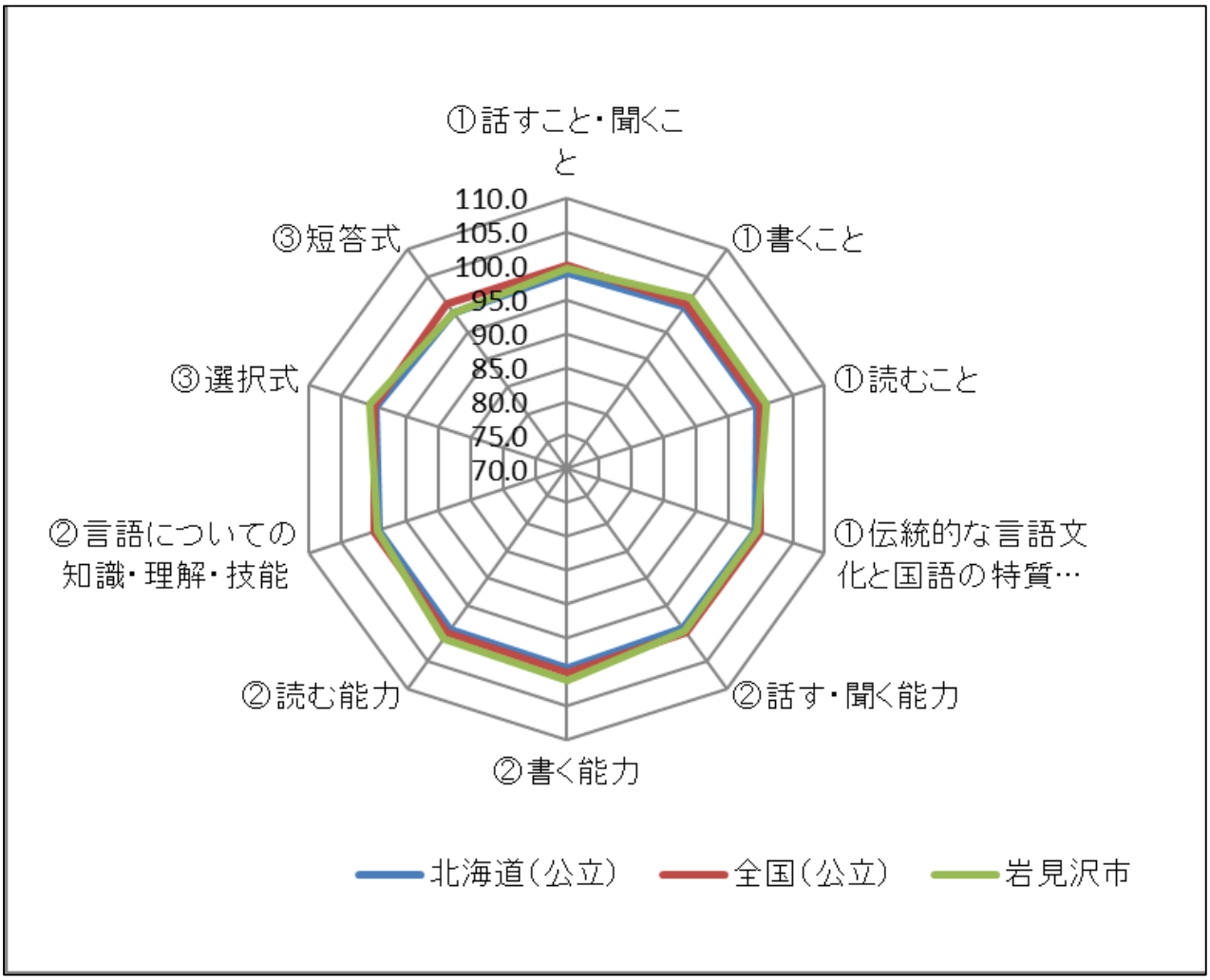
- 問題を解決するために必要な情報は何かを適切に判断し、資料などからその情報を取り出すことができるように指導することが大切である。また、資料から解釈したり、判断したりしたことを伝える際には、考えた筋道や根拠となる事柄を過不足なく示して説明することができるように指導することが大切である。

《中学校》
（1）国　語
①　国　語Ａ：主として《知識》に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 75.6 は、全国平均と同等、全道平均を 0.5 上回る。
◎　平均正答率では、「①書くこと」「①読むこと」「②書く能力」「②読む能力」「③選択式」では全国・全道平均を上回る。「①伝統的な言語文化と国語の特質」「②話す・聞く能力」「②言語についての知識・理解・技能」では全道平均を下回るが、「③短答式」では同等である。

＊　設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回るのは３３問中１８問、全道平均を上回るものは 24 問である。特に、設問９⑵の「漢字を書く」、設問９六「題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する」においては、全国平均を５ポイント以上下回る。

ア　分類・区分別チャート図
＊　全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。（①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式）



イ　設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１－	聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	78.4	78.5	80.7	0.0	0.1	0.1
１二	絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する	78.4	77.6	78.1	0.0	0.2	0.2
２－	パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書く	77.7	77.3	78.1	4.1	3.5	3.5
２二	文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する	76.6	73.8	73.2	0.0	0.2	0.3
３－	「ライスカレーの名に値する」の意味として適切なものを選択する	86.9	83.7	84.7	0.2	0.2	0.2
３二	「私」にとってのライスカレーを説明したものとして適切なものを選択する	91.9	89.1	90.0	0.2	0.2	0.2
４－	答えの文章を直した意図として適切なものを選択する	66.9	65.0	64.7	0.5	0.4	0.6
４二	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く	77.4	77.2	78.7	8.7	9.5	8.7
５－	電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く	93.8	92.8	93.1	4.1	4.2	3.7
５二	伝えたいことを明確にするために付け加える言葉として適切なものを選択する	88.3	87.5	88.7	0.3	0.2	0.3
６－	「不思議な機能」の説明として適切なものを選択する	82.8	80.5	81.3	0.2	0.3	0.4
６二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	62.8	65.7	67.3	0.5	0.4	0.6
７－	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する	70.5	71.5	70.6	0.3	0.4	0.5
７二	話合いを踏まえた発言として適切なものを選択する	62.0	60.9	62.0	0.3	0.5	0.6
８－	奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する	87.2	86.0	86.1	1.1	1.1	1.3
８二	資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する	63.8	63.5	62.4	1.4	1.4	1.6
９－１	漢字を書く（大学で歴史のケンキュウをする）	84.2	82.8	83.5	5.9	6.4	5.8
９－２	漢字を書く（今までにないドクソウ的な考えだ）	19.3	25.2	26.1	8.7	10.8	11.4
９－３	漢字を書く（家の庭に花をウえる）	88.1	87.9	89.9	5.9	6.4	5.2
９二１	漢字を読む（封筒を開ける）	98.3	97.9	97.6	0.8	1.1	1.3
９二２	漢字を読む（長年の努力が報われた）	94.5	94.7	94.8	2.3	1.9	2.0
９二３	漢字を読む（目上の人を敬う）	80.9	79.6	82.6	4.7	5.5	4.8
９三ア	適切な語句を選択する（彼は，忙しい仕事の合間を縫って，私に会いに来てくれた）	92.9	91.2	91.0	0.0	0.5	0.6
９三イ	適切な語句を選択する（厳しい挑戦だということは，もちろん分かっています）	98.8	97.9	97.9	0.0	0.5	0.5
９三ウ	適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育てる）	60.5	58.3	59.3	0.6	1.0	1.1
９三エ	適切な敬語を選択する（私がプリントを集めて，先生にお届けします）	95.4	93.6	94.3	0.3	0.6	0.6
９三オ	適切な語句を選択する（会長候補として，白羽の矢が立つ）	54.4	53.9	54.0	0.0	0.7	0.8
９四ア	漢和辞典の「意味」の中から，「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する	60.3	62.7	60.3	0.9	1.0	1.0
９四イ	漢和辞典の「意味」の中から，「優美」の「美」の意味として適切なものを選択する	66.9	64.2	62.8	1.1	1.1	1.0
９五	文章を書き直した意図として適切なものを選択する	50.8	49.8	50.8	1.2	1.3	1.3
９六	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する	30.2	34.8	36.4	1.2	1.3	1.2
９七１	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（追ひし）	78.7	77.5	80.2	3.5	5.0	4.4
９七２	「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する	95.4	94.3	94.9	1.2	1.9	1.7

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

② 国　語Ｂ：主として《活用》に関する問題

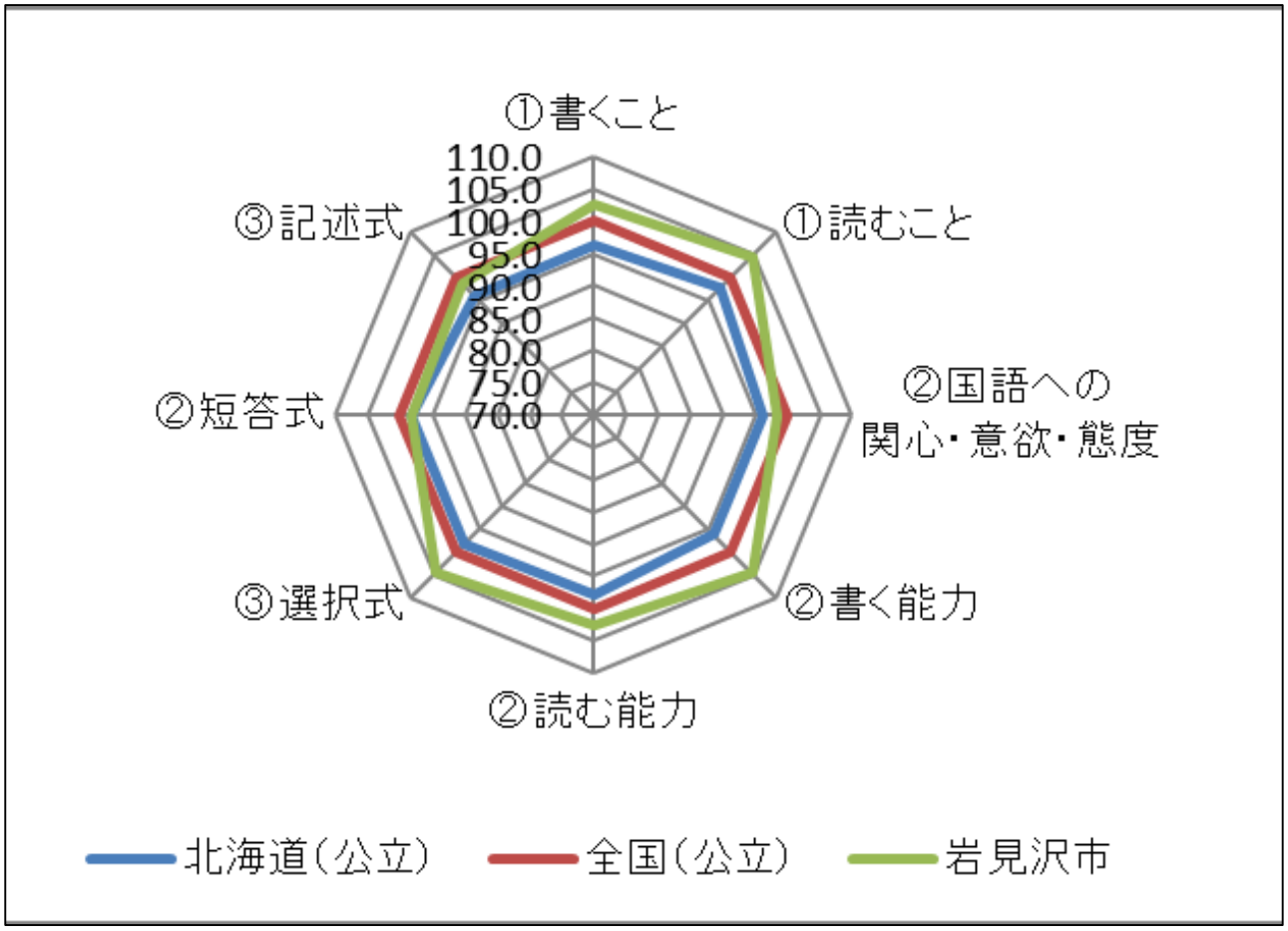
＊　岩見沢市の平均正答率 67.1 は、全国平均を 0.6 ポイント、全道平均を 2.1 ポイント上回る。

◎　平均正答率では、「①書くこと」「①読むこと」「②書く能力」「②読む能力」「③選択式」では全国・全道平均を上回る。また、「②国語への関心・意欲・態度」」「③短答式」「③記述式」では全道平均を上回る。

＊　設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回っているのは９問中５問で、全道平均を上回るものは８問となっている。ただ、設問３三「図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く」において、無回答率が 26.3 ポイントである。

ア　分類・区分別チャート図

＊　全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

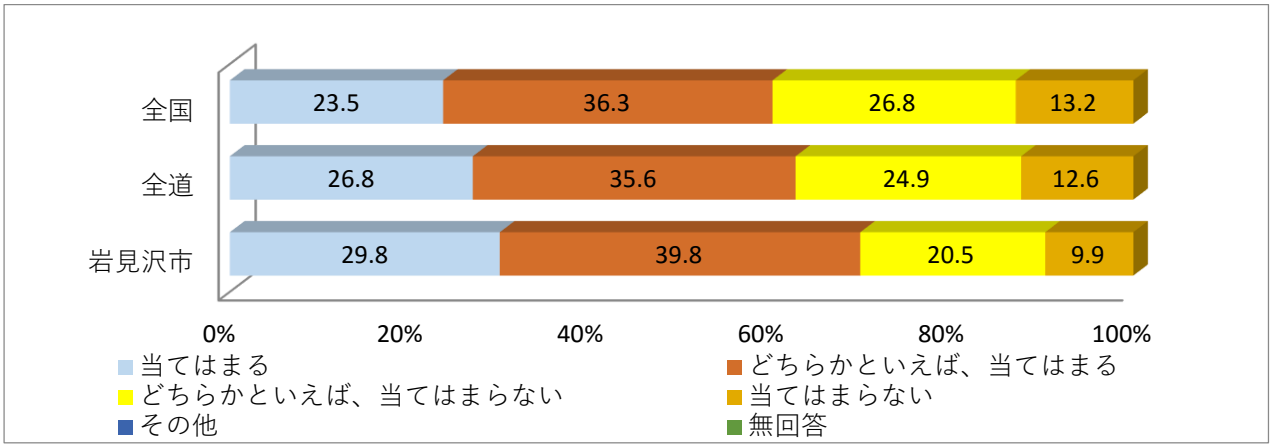
設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１一	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	76.6	75.4	76.2	0.0	0.1	0.2
１二	関連イベントの「～職人の技を見てみよう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する	86.8	82.3	83.3	0.2	0.1	0.2
１三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	67.9	65.7	68.0	8.4	10.4	7.8
２一	雑誌の記事の説明として適切なものを選択する	65.2	64.3	64.9	0.0	0.2	0.2
２二	情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する	62.9	62.4	64.0	0.2	0.2	0.3
２三	宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと，それを調べるために必要な本の探し方を書く	52.7	50.1	49.2	7.3	7.3	6.0
３一	物語の展開に沿って巳之助の様子を並べ替える	69.5	69.8	71.1	0.9	1.2	1.2
３二	物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する	68.2	62.1	64.7	0.5	0.6	0.8
３三	図鑑の説明を読むことで，よく分かるようになった物語の部分と，その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	54.4	52.5	57.7	26.3	28.5	22.8

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

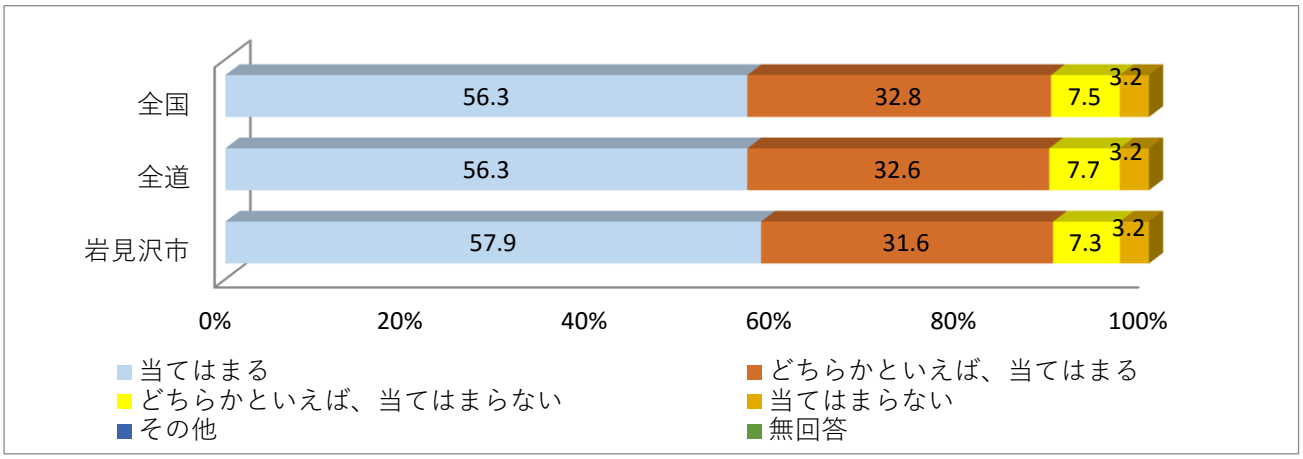
③　「国語に関する」質問紙調査結果

61.国語の勉強は好きですか



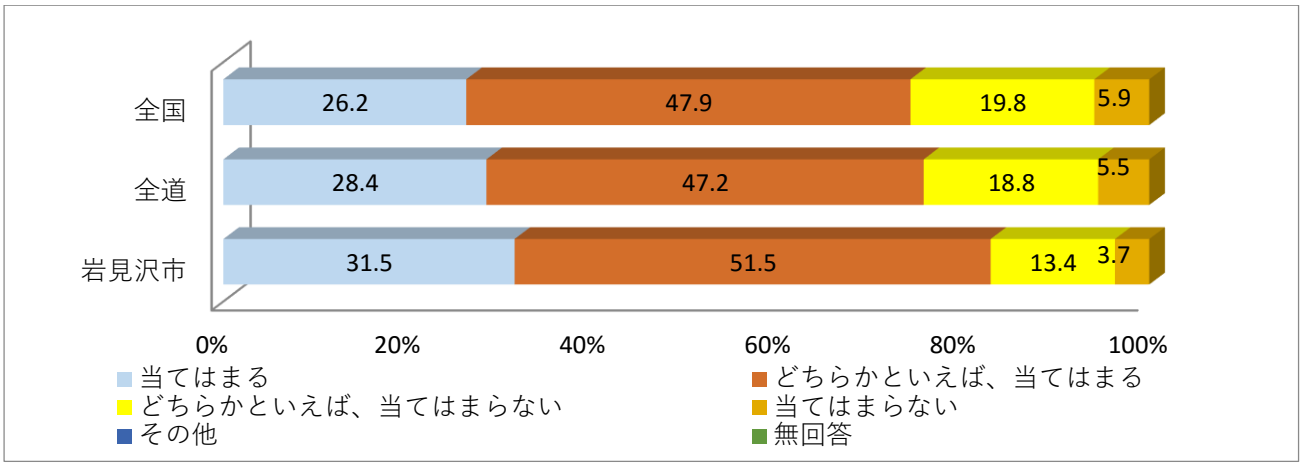
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、69.6%で全国を 9.8 ポイント、全道を 7.2 ポイント上回る。

62.国語の勉強は大切だと思いますか



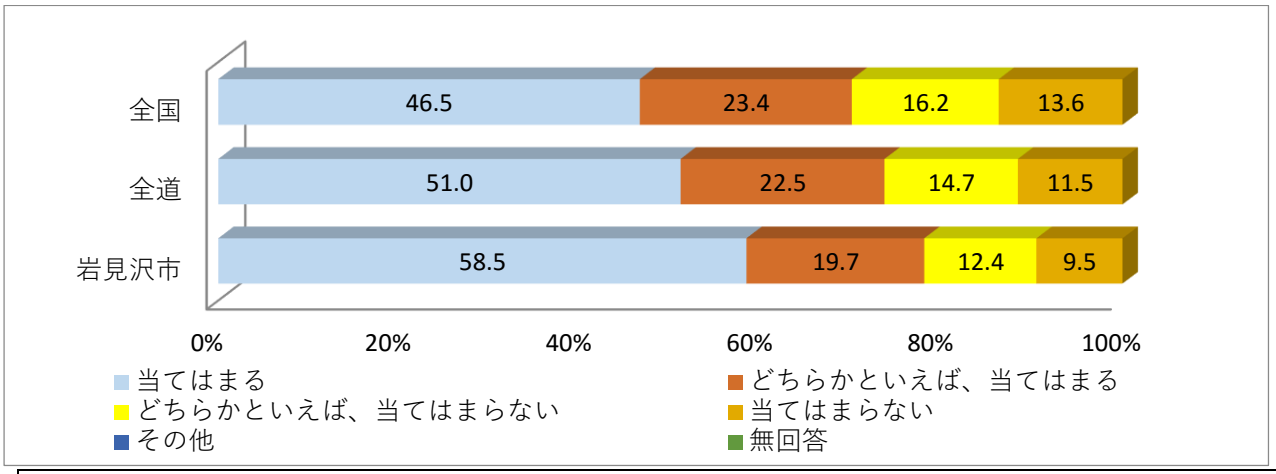
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、89.5%で全国を 0.4 ポイント、全道を 0.6 ポイント上回る。

63.国語の授業の内容はよく分かりますか



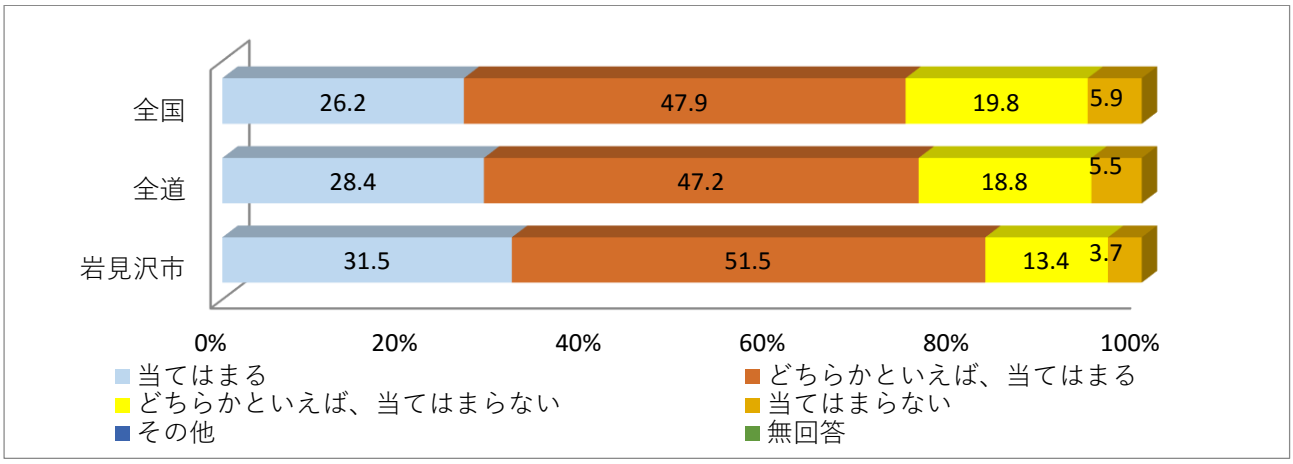
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、83.0%で全国を 8.9 ポイント、全道を 7.4 ポイント上回る。

64.読書は好きですか



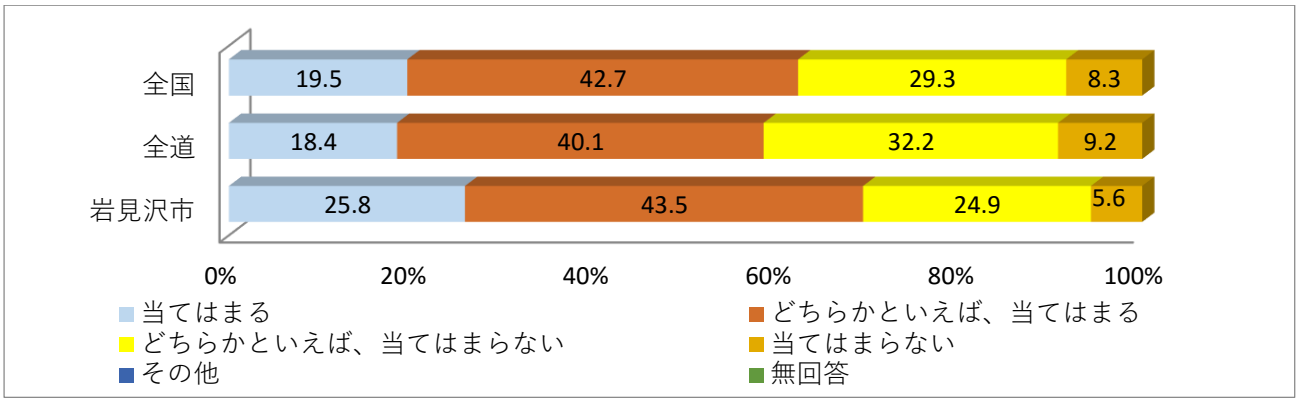
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、78.2%で全国を 8.3 ポイント、全道を 4.7 ポイント上回る。

65.国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



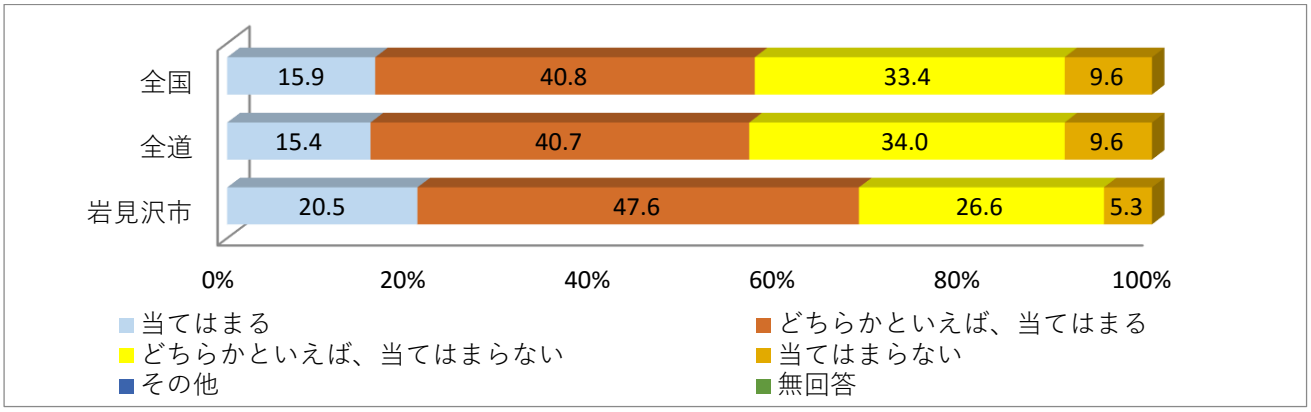
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、87.7%で全国・全道を 3.1 ポイント上回る。

66.国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか



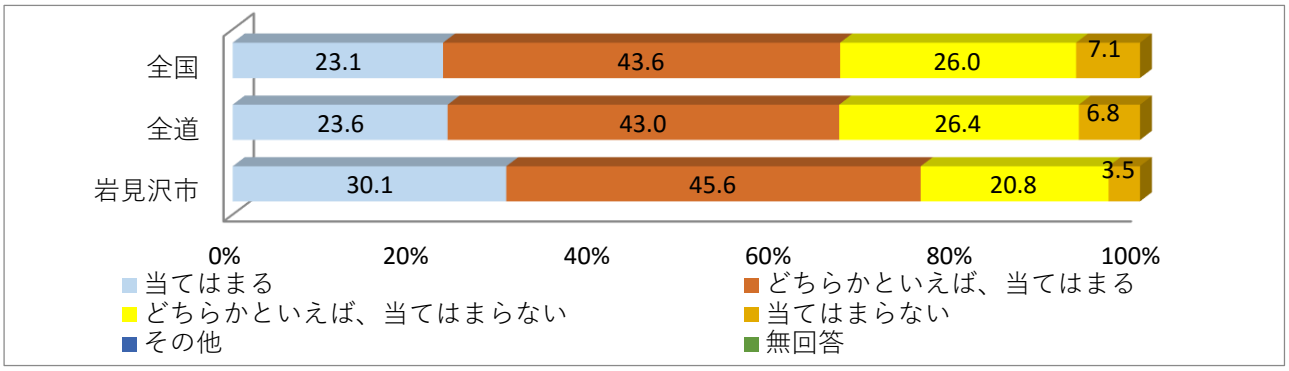
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、69.3%で全国を 7.1 ポイント、全道を 10.8 ポイント上回る。

67.国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか



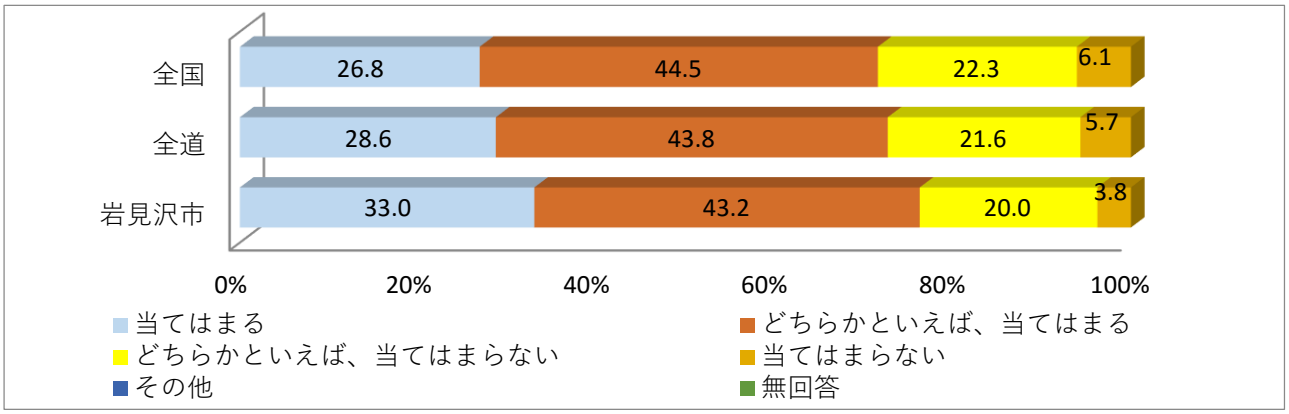
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、68.1%で全国を 11.4 ポイント、全道を 12.0 ポイント上回る。

68.国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



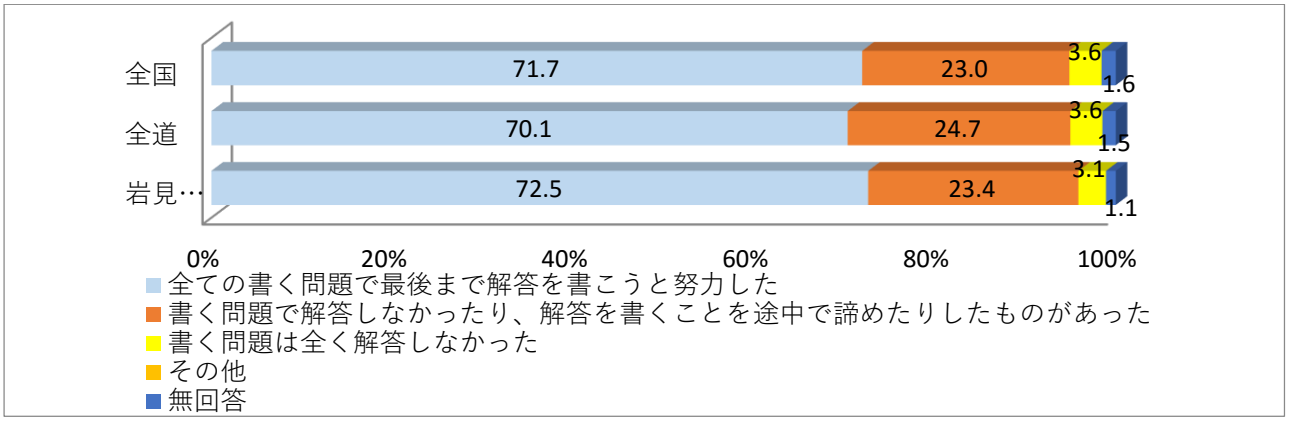
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、75.7%で全国を 9.0 ポイント、全道を 9.1 ポイント上回る。

69.国語の授業で文章を読むとき，段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか



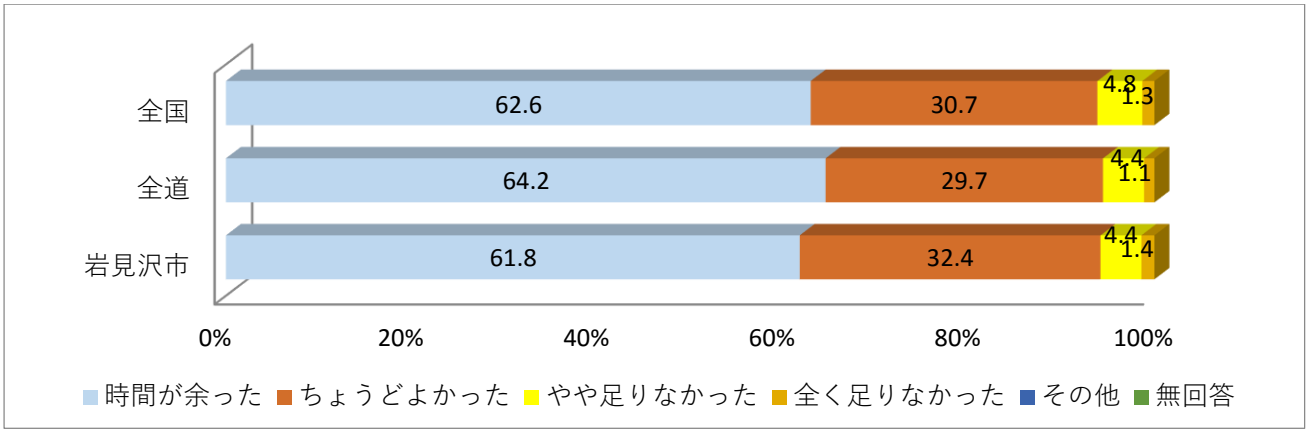
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、76.2%で全国を 4.9 ポイント、全道を 3.8 ポイント上回る。

70.今回の国語の問題について，解答を文章で書く問題がありましたが，どのように解答しましたか

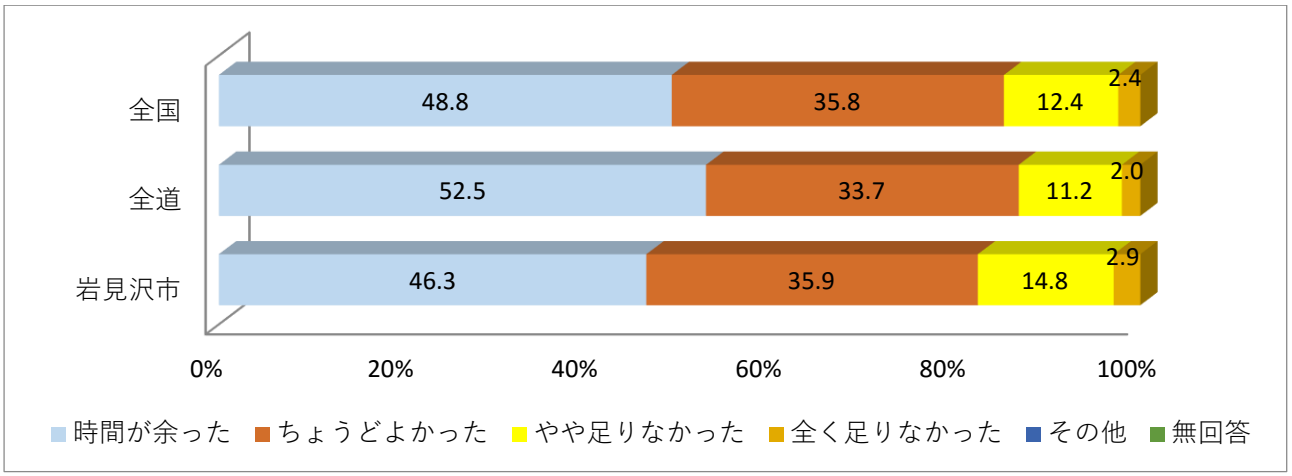


「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答している生徒の割合は、72.5%で全国を 0.8 ポイント、全道を 2.4 ポイント上回る。

82.調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



83.調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



④　指導改善のポイント(文部科学省、国立教育政策研究所の報告書より)

話すこと・聞くこと

○　話し合いを通じて自他の考えを豊かなものにする指導の工夫

- 話し合いを通じて自分の考えを広げたり、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合ったりする力を身に付けるために、互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分けたり、話題になっている物事について別の立場や視点から考えたりするように指導する必要がある。また、話合いの過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの話合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりするように指導することも重要である。

書くこと

○　伝えたいことを相手に分かりやすく書く指導の工夫

- 文章の中の自分の考えや気持ちについて根拠を明確にして書く力を身に付けるために、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、複数の実例や専門的な立場からの知見などを示すように指導する必要がある。また、表現しようとする内容にふさわしい語句を選んで書くように指導することも大切である。その際、読み手がその文章を読む意図や目的を意識しながら、考えの根拠となる内容が適切に取り上げられているか、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるように示されているか、伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているか、文の成分の順序や照応は適切かなど、文章を複数の観点から見直すように指導することが重要である。

読むこと

○　文書の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる指導の工夫

- 文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる力を身に付けるために、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるように指導する必要がある。その際、書き手の意図との関連を考えさせることが重要である。文章の構成や展開、表現の仕方についての印象をもつことにとどまらず、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするように指導することが大切である。

○　課題の解決に向けて情報を収集し整理する指導の工夫

- 課題の解決に必要な情報を集めるための方法を身に付けるとともに、資料から読み取った情報を適切に活用する力を身に付けるために、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決するように指導する必要がある。その際、他領域や他教科等の学習との関連を図るなどして課題を設定し、課題の解決に向けて学校図書館や地域の図書館、公共施設、あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなどを利用して情報を収集し整理する学習活動を取り入れることが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○　多様な語句について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにする指導の工夫

- 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるために、それぞれの語句が話や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が表現するときにどのように活用すればよいかについて辞書等を用いながら考える機会を意図的に設ける必要がある。また、各教科等の学習の中で適切に使用するように指導することも重要である。

（2）数　学

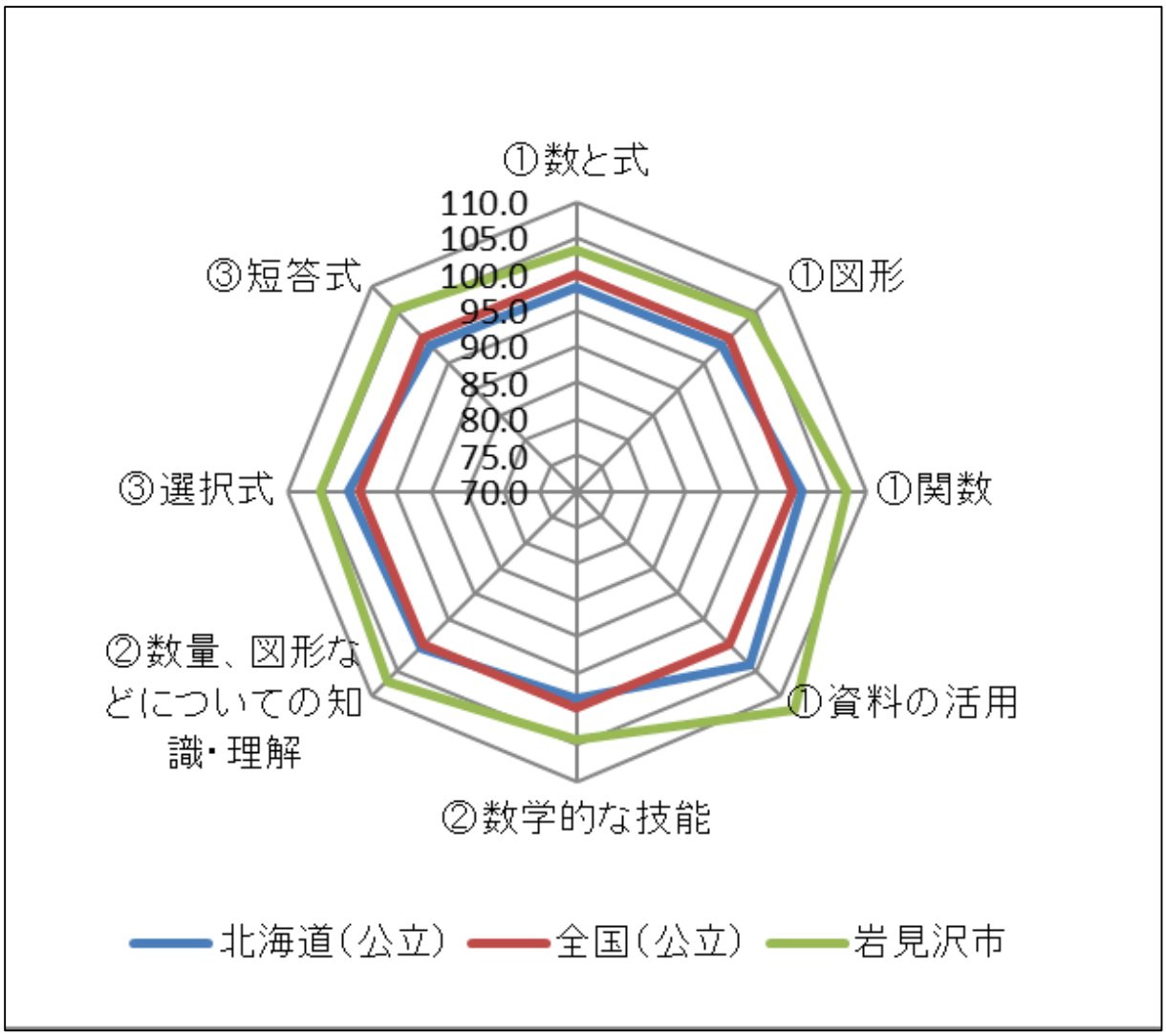
①　数　学　A：主として《知識》に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 65.5 は、全国平均を 3.3 ポイント、全道平均を 3.7 ポイント上回る。
◎　平均正答率は、①学習指導要領の領域等、②評価の観点、③問題形式　の全てで全国・全道を上回る。

＊ 設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回るのは３６問中２６問で、全道平均を上回るものは３３問である。
また、設問３（２）設問３（３）設問６（１）設問７（２）設問９（２）設問１２（１）においては５ポイント以上の差で全国・全道の平均を上回る。

ア　分類・区分別チャート図

＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１（１）	$\frac{2}{5}\times 0.6$ を計算する	66.3	62.8	66.9	4.1	5.6	5.0
１（２）	－５，０，１，２．５，４の中から自然数を全て選ぶ	45.0	40.1	40.6	0.3	0.2	0.2
１（３）	－３＋（－７）を計算する	90.4	90.3	91.6	0.5	0.8	0.7
１（４）	今日の水位が１週間前の水位からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	68.8	68.9	69.0	0.2	0.3	0.3
２（１）	ある数を３でわると，商が a で余りが２になるとき，ある数を a を用いた式で表す	31.8	30.0	32.2	9.9	14.2	12.5
２（２）	$(2x+5y)+3(x-2y)$ を計算する	85.9	83.5	84.0	1.4	2.6	2.5
２（３）	ある数 a について，不等式 $a>5$ と表せる事柄を選ぶ	79.8	76.8	78.2	0.3	0.3	0.3
２（４）	等式 $S=ah$ を h について解く	66.1	64.3	67.9	8.4	10.2	8.2
３（１）	一元一次方程式 $x+12=-2x$ を解く	74.8	70.9	71.3	2.4	6.1	5.1
３（２）	一元一次方程式 $2x=x+3$ の解について，正しい記述を選ぶ	53.2	46.2	47.2	0.5	0.6	0.5
３（３）	縦と横の長さの比が ５：８ の長方形の看板について，縦の長さが４５cmのときの横の長さ x cmを決めるための比例式をつくる	64.6	54.1	52.3	12.5	17.9	15.4
３（４）	方程式 $2x+y=x-y=3$ から，x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる	90.1	88.3	89.7	5.0	6.2	5.4
４（１）	与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ	35.9	34.7	30.9	0.3	0.8	0.8
４（２）	△ＡＢＣを，直線ℓを軸として対称移動した図形をかく	74.3	72.6	71.8	1.4	2.1	2.0
５（１）	三角柱において，与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	73.6	68.5	75.5	2.3	3.3	2.6
５（２）	四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く	79.3	71.8	74.0	4.4	6.5	5.6
５（３）	立方体の見取図を読み取り，２つの角の大きさの関係について，正しい記述を選ぶ	80.2	77.0	78.8	0.8	0.6	0.6
５（４）	円柱の体積が６００cm^3 のとき，その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	54.1	45.3	49.9	12.5	16.3	14.2
６（１）	平行線や角の性質を用いて∠ＡＰＢの大きさを求める	80.5	74.9	74.8	2.9	4.8	4.5
６（２）	多角形の外角の和について，正しい記述を選ぶ	68.5	70.6	69.3	0.6	0.7	0.8
７（１）	△ＡＢＣと△ＤＥＦが合同であるための条件として，正しいものを選ぶ	74.0	69.9	70.8	0.8	0.7	0.8
７（２）	ひし形の対角線が垂直に交わることを，記号を用いて表す	80.9	73.7	74.7	7.4	12.5	11.4
７（３）	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	75.1	72.0	72.3	5.9	8.5	7.7
８	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて，正しい記述を選ぶ	63.1	60.8	61.9	1.5	1.2	1.2
９（１）	比例の表を完成させる	89.5	87.3	87.9	1.7	3.5	3.2
９（２）	比例 $y=2x$ について，x の値が１から４まで増加したときの y の増加量を求める	52.3	45.2	39.4	10.6	12.9	12.1
９（３）	反比例を表した事象を選ぶ	38.1	39.9	42.0	1.5	1.4	1.3
９（４）	反比例のグラフから式を求める	37.4	33.2	34.5	12.5	17.0	14.8
１０（１）	一次関数の表からグラフを選ぶ	65.2	61.9	61.9	1.8	1.6	1.6
１０（２）	一次関数の式から変化の割合を求める	64.0	60.3	54.6	18.8	19.2	22.3
１０（３）	一次関数のグラフから，x の変域に対応する y の変域を求める	47.4	43.9	43.0	18.4	20.8	18.9
１１	一次関数の事象を式で表す	52.7	50.2	53.0	14.4	16.8	14.1
１２（１）	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から，読んだ本の冊数の最頻値を求める	54.4	44.3	45.5	12.9	19.2	17.4
１２（２）	ある郵便物の重さについて，デジタルはかりで表示された値を基に，真の値の範囲を選ぶ	50.3	48.0	34.7	2.4	2.6	2.5
１３（１）	１枚の硬貨を投げたときの確率について，正しい記述を選ぶ	70.5	66.8	66.0	1.7	2.0	1.9
１３（２）	１から１３までの数字が書かれた１３枚のカードから５または１１のカードをひく確率を求める	79.2	75.6	79.6	8.2	10.1	8.5

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

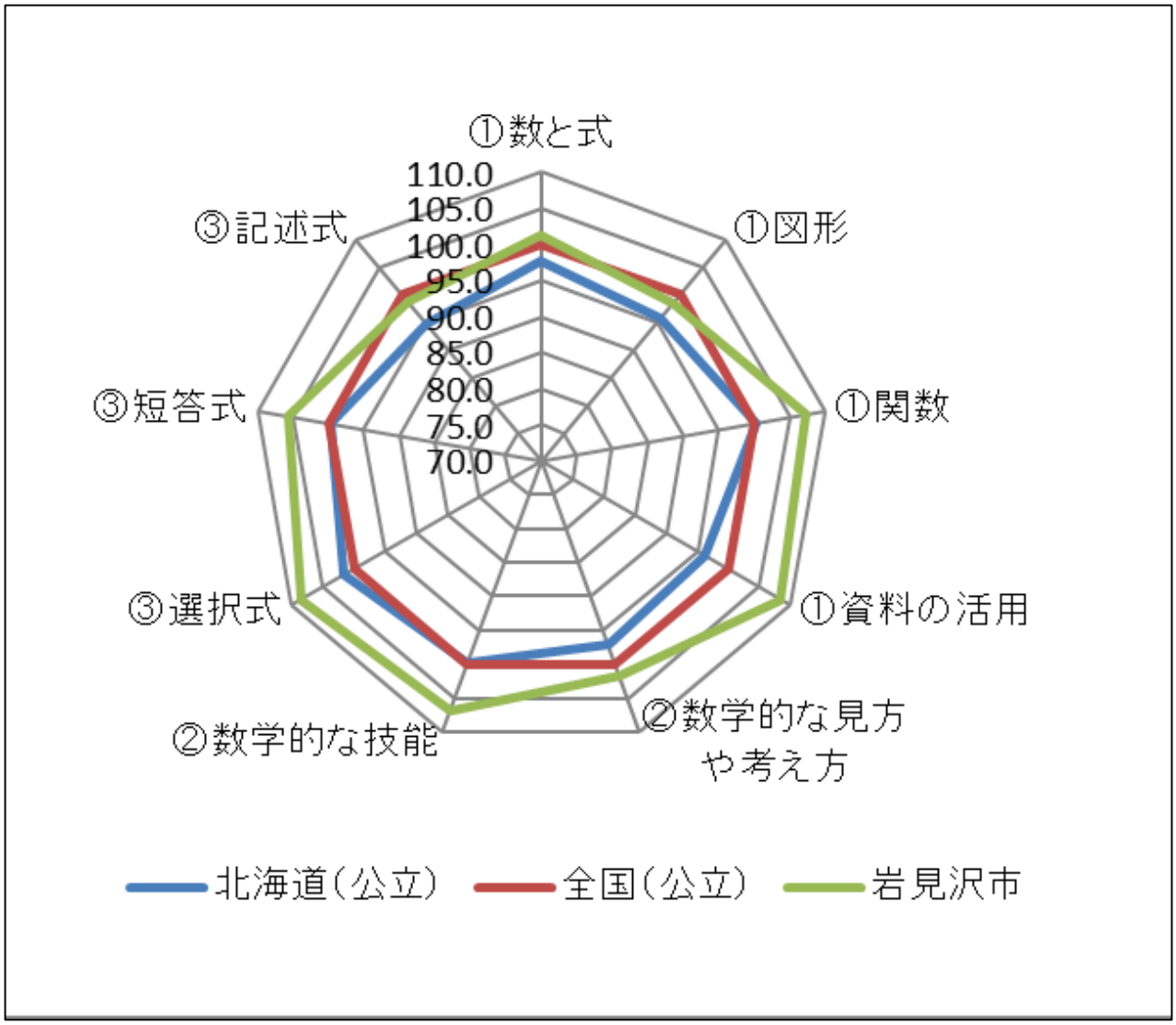
＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

② 数　学　B：主として《活用》に関する問題

＊　岩見沢市の平均正答率 45.7 は、全国平均を 1.6 ポイント、全道平均 2.4 ポイント上回る。
◎　平均正答率は、「①数と式」「①関数」「①資料の活用」「②数学的な見方や考え方」「②数学的な技能」「③選択式」「③短答式」で全国を上回り、全ての点で全道を上回る。

＊ 設問別集計結果では、平均正答率で全国平均を上回るのは１５問中９問、全道平均を上回るのは１３問である。設問５（２）「２５．５㎝の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く」においては全国・全道平均を５ポイント以上上回る。

ア　分類・区分別チャート図
＊ 全国平均正答率を１００とした時の北海道並びに岩見沢市の平均正答率の割合を図にしている。(①は学習指導要領の領域等、②は評価の観点、③は問題形式)



イ　設問別集計結果

設問番号	設問の概要	正答率（%）			無解答率（%）		
		岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）	岩見沢市	北海道（公立）	全国（公立）
１（１）	１試合の時間を１６分とするとき，１回の休憩の時間を求める	83.0	79.4	79.3	0.8	1.3	1.2
１（２）	葉月さんの提案を取り入れたとき，１試合の時間を求めるための方程式をつくる	33.6	32.3	33.4	19.8	22.2	19.3
１（３）	１試合の時間を１０分とることができるかについて正しい記述を選び，その理由を式を基に説明する	50.2	48.2	51.4	2.6	3.7	2.3
２（１）	一次関数の表からx＝４のときの y の値を求める	68.1	64.0	59.1	6.8	9.0	8.7
２（２）	x＝４のとき y＝９になるように，xとyの間の関係を書き加えることについて，正しい記述を選び，その理由を説明する	20.5	19.1	20.6	9.6	10.7	8.2
３（１）	Ａ車を購入して１０年間使用するときの総費用を求める	67.8	65.3	67.4	3.2	3.7	3.4
３（２）	Ｂ車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて，グラフの傾きが表すものを選ぶ	35.9	31.6	29.8	0.0	0.6	0.7
３（３）	Ａ車とＢ車について，式やグラフを用いて，２つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	29.8	27.4	30.3	13.1	15.9	12.1
４（１）	２つの辺の長さが等しい事を，三角形の合同を利用して証明する	29.0	29.4	29.4	22.5	25.7	22.3
４（２）	ＤＡ：ＤＣ＝１：２のときの△ＤＥＣがどのような三角形になるかを説明する	36.6	34.5	37.3	33.6	34.9	30.5
５（１）	２４．５cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を，グラフの特徴を基に説明する	48.2	46.5	47.6	18.7	22.3	19.3
５（２）	２５．５cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く	37.1	29.2	31.1	26.3	36.2	33.5
６（１）	最初に決めた数が５のとき，手順通りに求めた数を書く	77.2	75.1	76.4	11.6	13.7	12.8
６（２）	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	14.6	14.8	15.4	43.0	44.7	41.5
６（３）	当てる方法を変えるとき，新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ	53.8	52.2	52.9	3.2	4.0	4.5

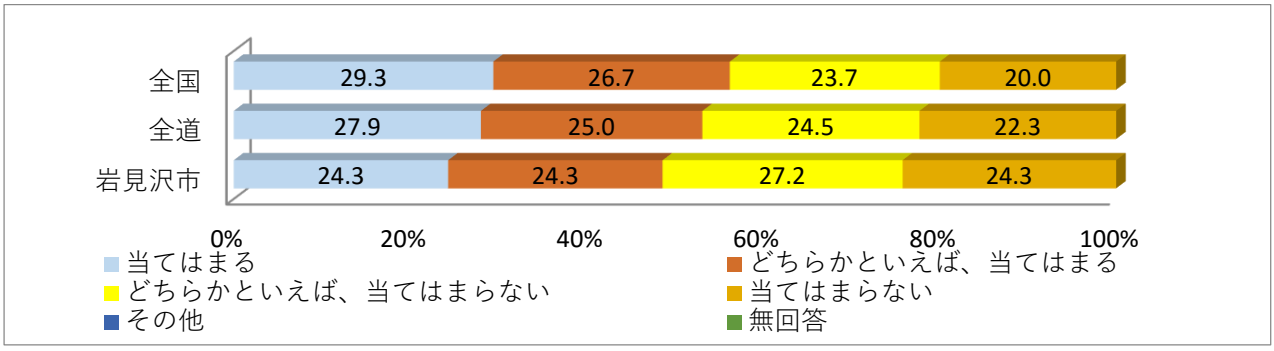
＊　評価の観点は，数量や図形に関する技能（小学校）に対応させている。

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無回答率が「下回る」場合

＊岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無回答率が「上回る」場合

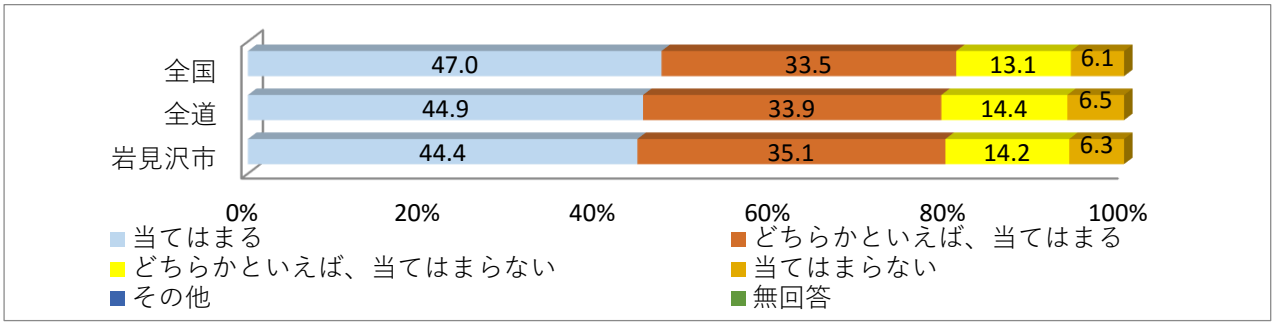
③　「数学に関する」質問紙調査結果

71.数学の勉強は好きですか



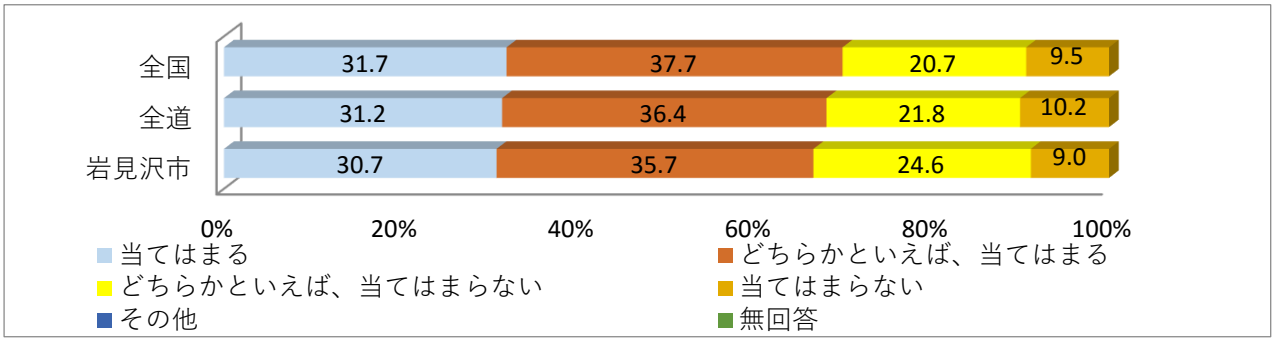
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、48.6%で全国を 67.4 ポイント、全道を 4.3 ポイント下回る。

72.数学の勉強は大切だと思いますか



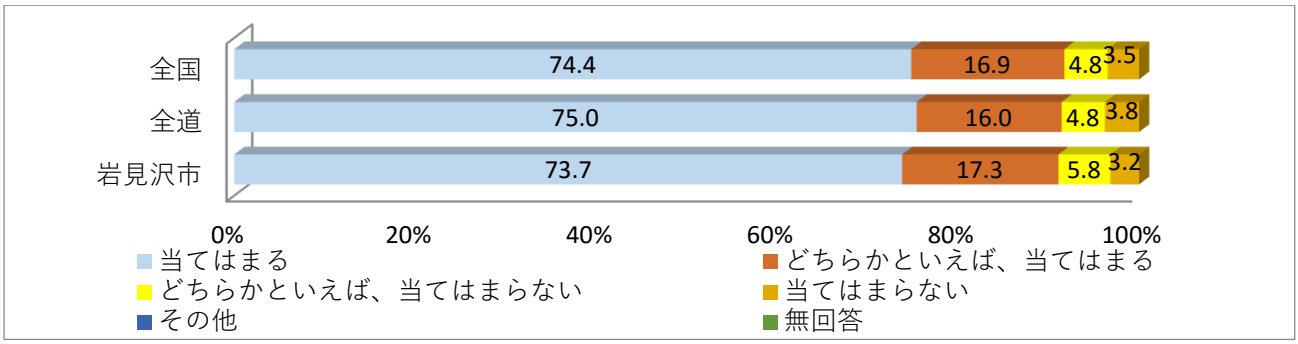
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、79.5%で全国を 1.0 ポイント下回り、全道を 0.7 ポイント上回る。

73.数学の授業の内容はよく分かりますか



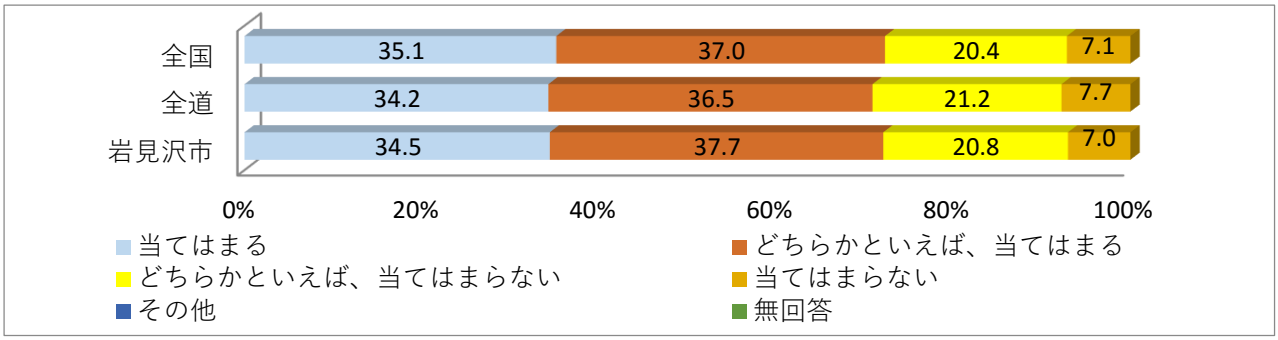
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、66.4%で全国を 3.0 ポイント、全道を 1.2 ポイント下回る。

74 数学ができるようになりたいと思いますか



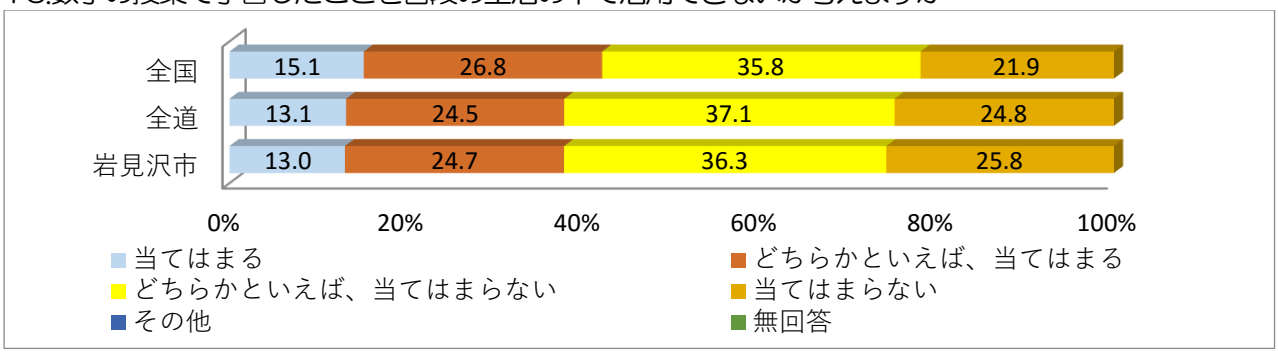
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、91.0%で全国を 0.3 ポイント下回り、全道と同等である。

75.数学の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか



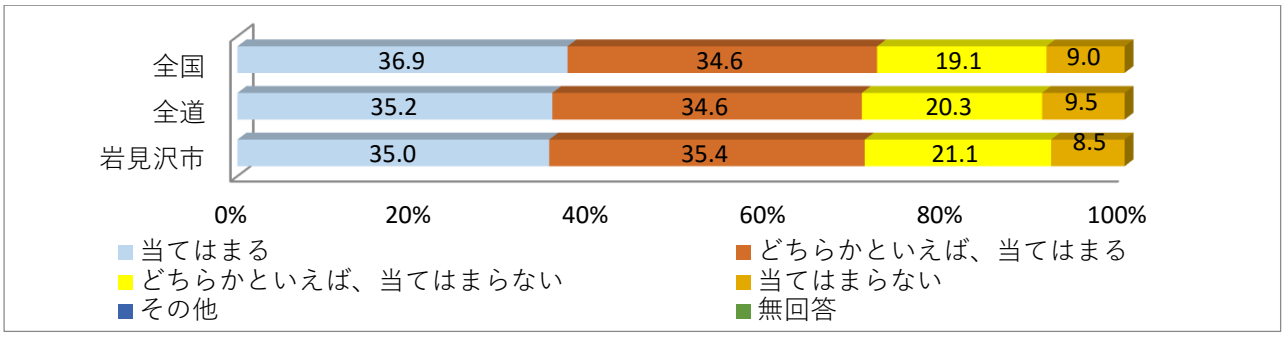
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、72.2%で全国を 0.1 ポイント、全道を 1.5 ポイント上回る。

76.数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



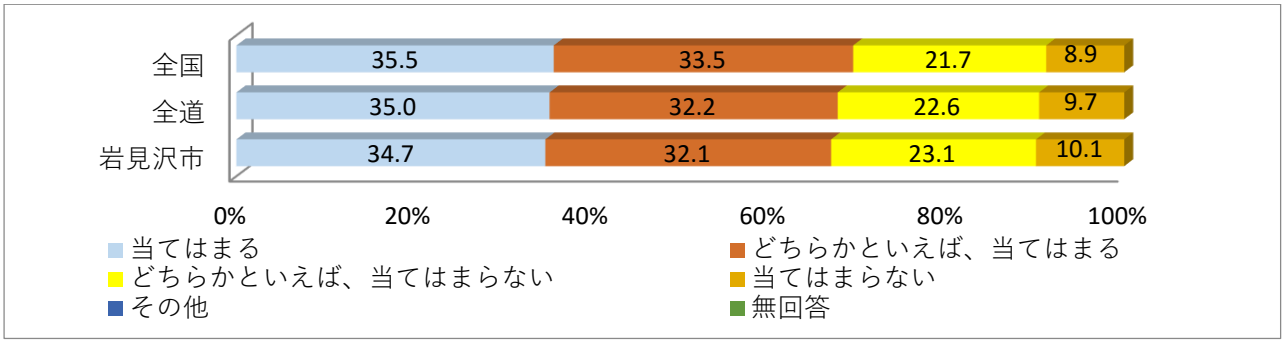
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、37.7%で全国を 4.2 ポイント下回り、全道を 0.1 ポイント上回る。

77.数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか



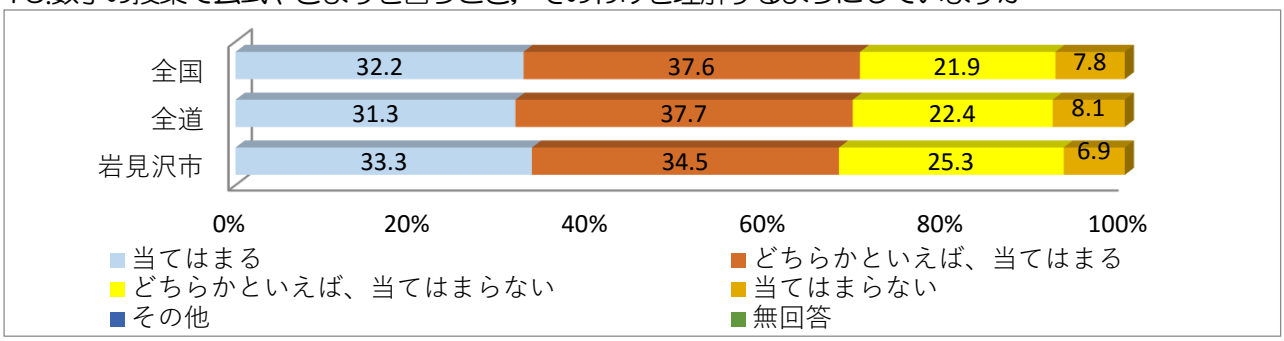
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、70.4%で全国を 1.1 ポイント下回り、全道を 0.6 ポイント上回る。

78.数学の授業で問題を解くとき，もっと簡単に解く方法がないか考えますか



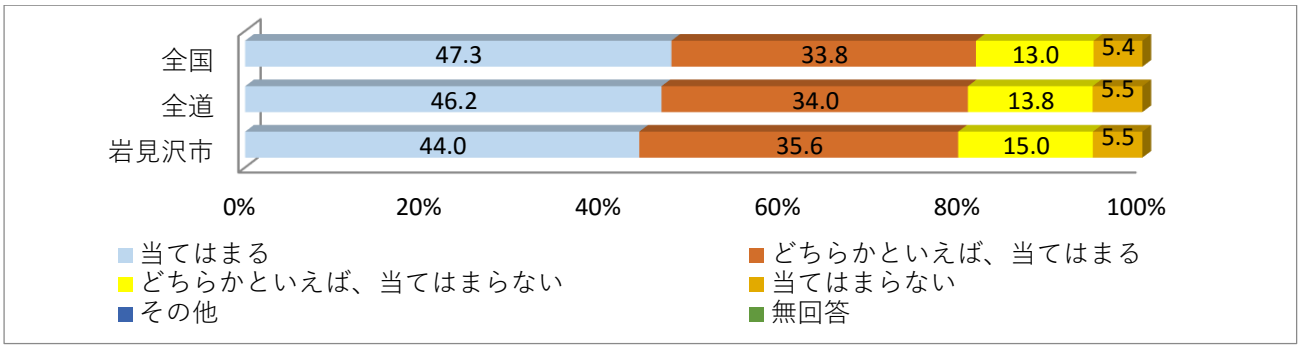
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、66.8%で全国を 2.2 ポイント、全道を 0.4 ポイント下回る。

79.数学の授業で公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしていますか



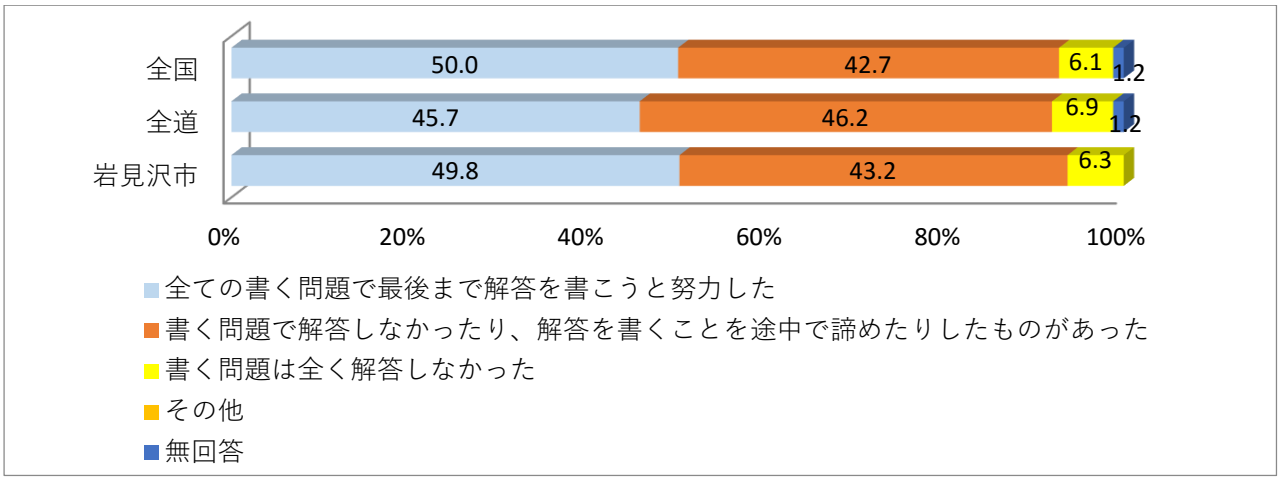
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している数学の割合は、67.8%で全国を 2.0 ポイント、全道を 1.2 ポイント下回る。

80.数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



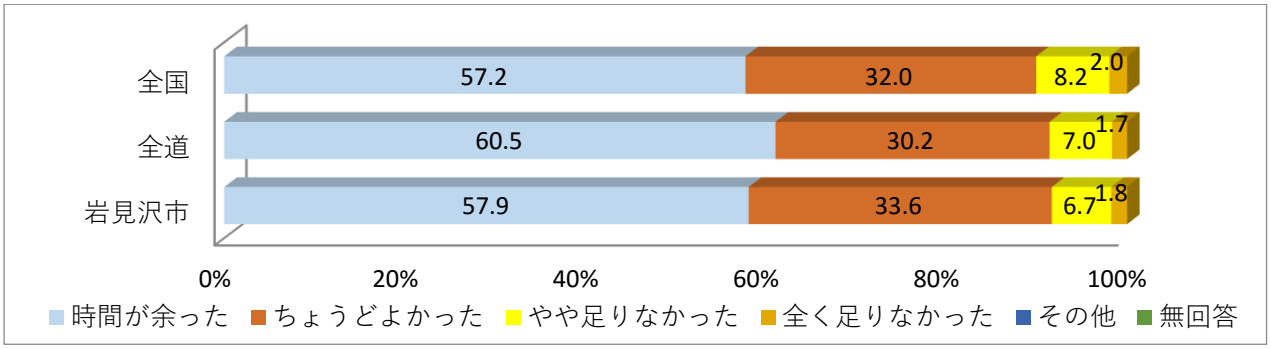
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している生徒の割合は、79.6%で全国を 1.5 ポイント、全道を 0.6 ポイント下回る。

81.今回の数学の問題について，言葉や数，式を使って，わけや求め方などを書く問題がありましたが，どのように解答しましたか

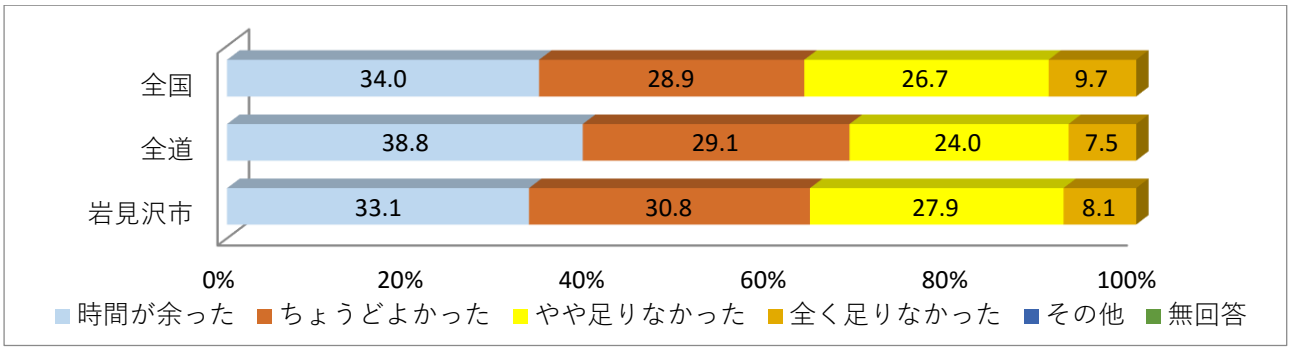


「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」は、49.8%で全国を 0.2 ポイント下回り、全道を 4.1 ポイント上回る。

84.調査問題の解答時間は十分でしたか（数学A）



85.調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）



④　指導改善のポイント(文部科学省、国立教育政策研究所の報告書より)

数と式

○　方程式の解の意味を、具体的な値を代入して得られた結果に着目して捉える活動の重視
- 　方程式の解の意味についての理解を深められるようにするために、様々な数を方程式の変数（未知数）に代入し、代入した値がその方程式を満たす値となるかどうかについて検討し、方程式の解について確認する活動を重視することが大切である。

○　数学的に処理された結果に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実
- 　文字を用いて処理した式に基づいて、問題を解決する方法を説明することができるようにするために、問題を解決するための対象を捉え、その上で、文字を用いた式を読み取り、解釈について検討し、それを数学的に説明する活動を充実させることが大切である。

図形

○　証明の必要性と意味を、証明された命題に着目して捉える活動の重視
- 　証明の必要性と意味についての理解を深められるようにするために、証明された命題がその仮定を満たすすべての図形に例外なくなり立つことを確認する活動を重視することが大切である。その際、仮定を満たすいくつかの具体的な図形について取り上げ、改めて証明する必要があるかどうかを検討する場面を設定するなどして、同じ証明が成り立つことを確認する活動を充実させることが大切である。

○　筋道を立てて証明したり、見いだしたことを数学的な表現を用いて説明したりする活動の充実
- 　命題における結論を導くために何がわかればよいかを明らかにし、与えられた条件を整理することを通してその命題が成り立つことを筋道を立てて証明したり、それを検討したりする活動を充実させることが大切である。
- 　新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動を充実させることが大切である。

関数

○　２つの数量の関係を表・式・グラフを用いて捉え、関数関係を見いだし表現する活動の重視
- 　２つの数量の関係から関数関係を見いだすことができるようにするために、具体的な事象における２つの数量の変化や対応の特徴を表・式・グラフを用いて捉え、それらを相互に関連付けて考察することを通して、どのような関数になりそうか検討し、関数を判断する活動を重視することが大切である。

○　事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実
- 　数学的な結果を事象に即して解釈することができるようにするために、問題解決のために用いたグラフを事象に即して捉え直したり、振り返ったりする活動を充実させることが大切である。
- 　様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

資料の活用

○　資料の傾向を読み取るために、資料を整理した表などから代表値を求める活動の重視
- 　資料の傾向を適切に判断するために、目的に応じてデータを収集し整理した表などから、代表値を求める活動を重視することが大切である。

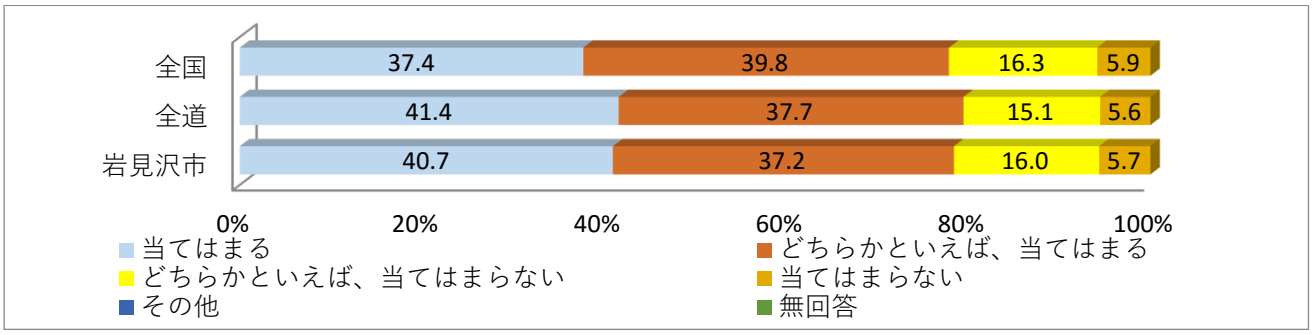
○　資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実
- 　日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を的確に捉え問題を解決できるようにするために、収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実することが大切である。

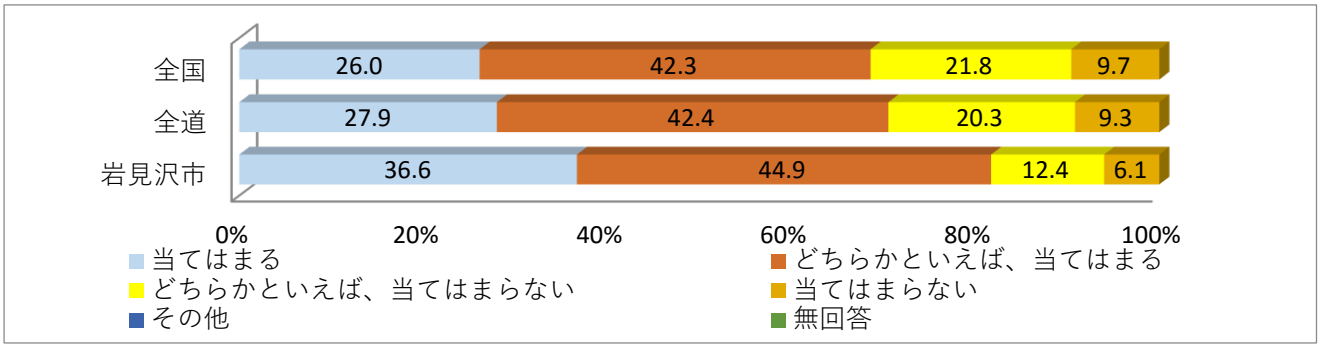
Ⅲ　質問紙調査結果の概要
《児童生徒質問紙》
1　総合的な学習の時間(関心・意欲・態度)

「『総合的な学習の時間』は、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校で 1.0 ポイント下回り、中学校で 5.5 ポイント上回る。
「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校で同等、中学校で 14.7 ポイント上回る。

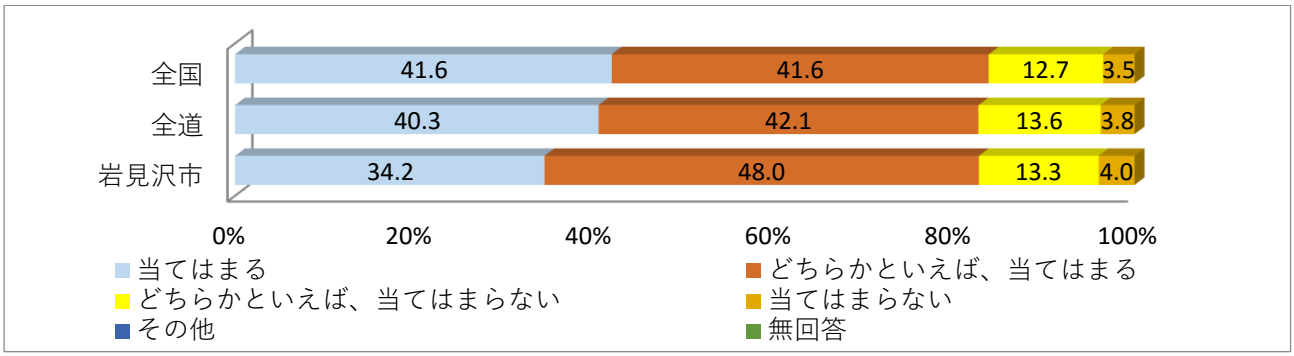
＊上段は「小学校」、下段は「中学校」グラフ

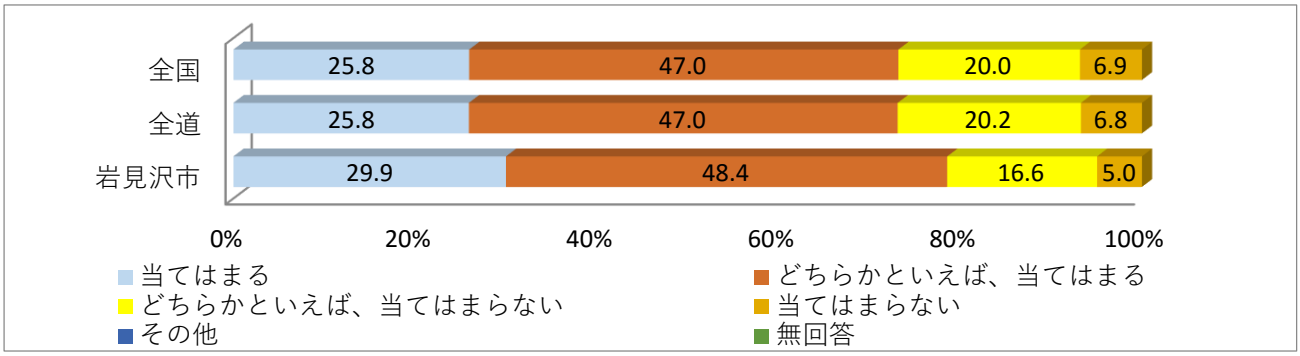
44.「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか



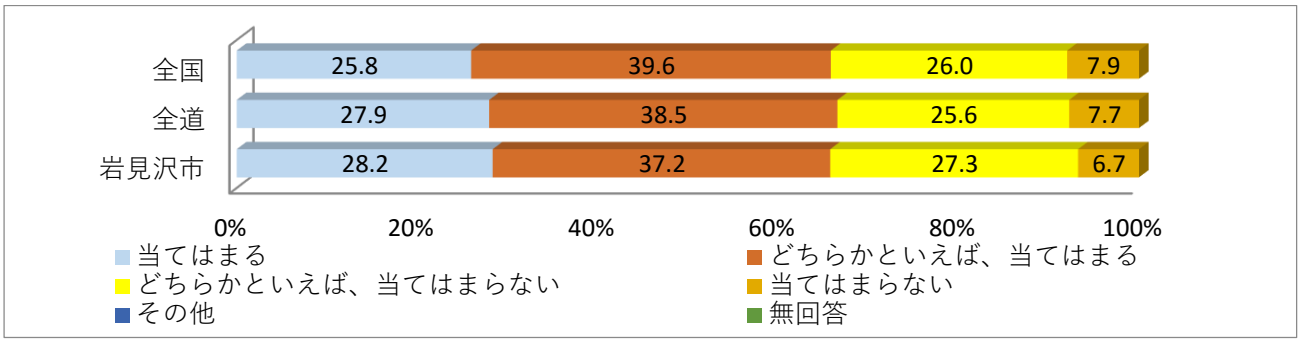


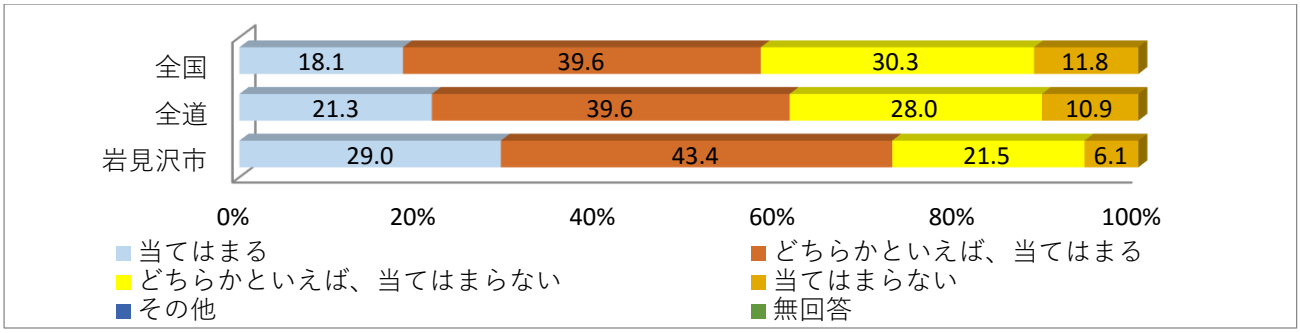
45.「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは，普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか





46.「総合的な学習の時間」では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

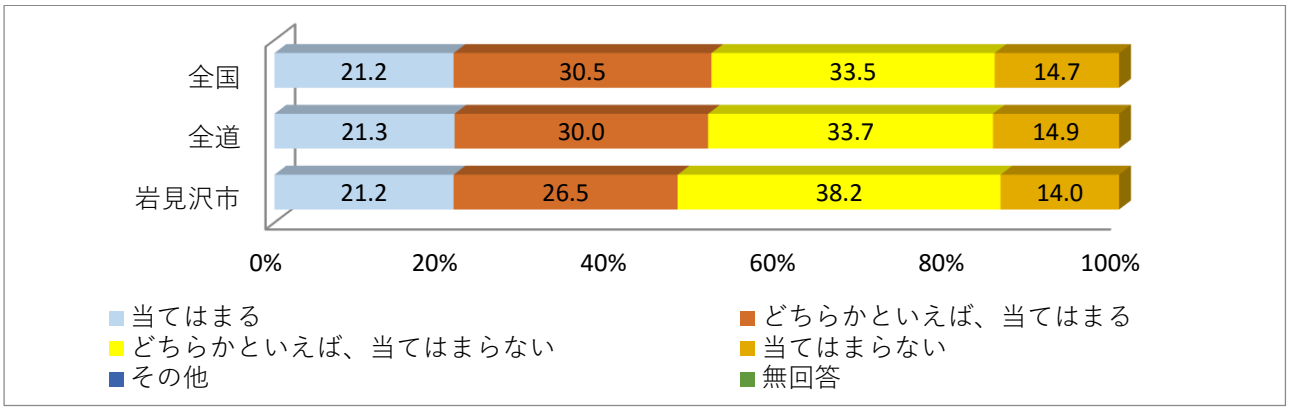


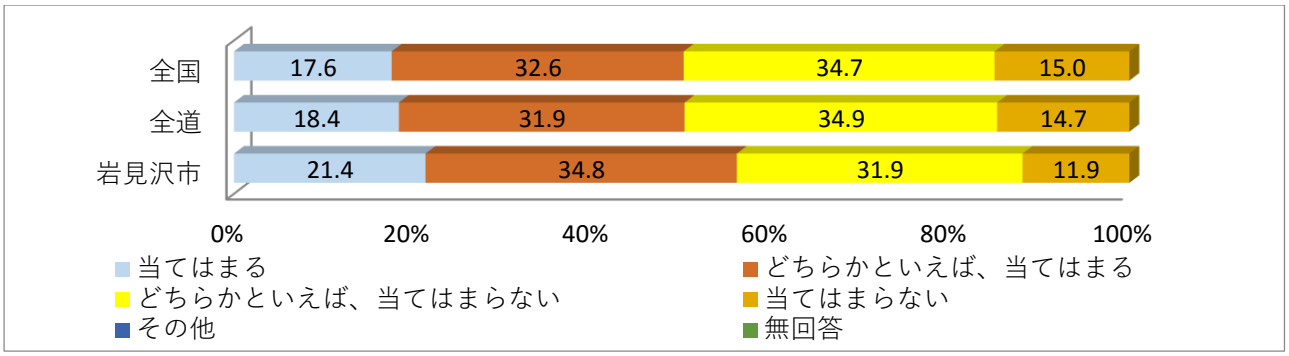


２　学習状況(言語活動・指導状況)

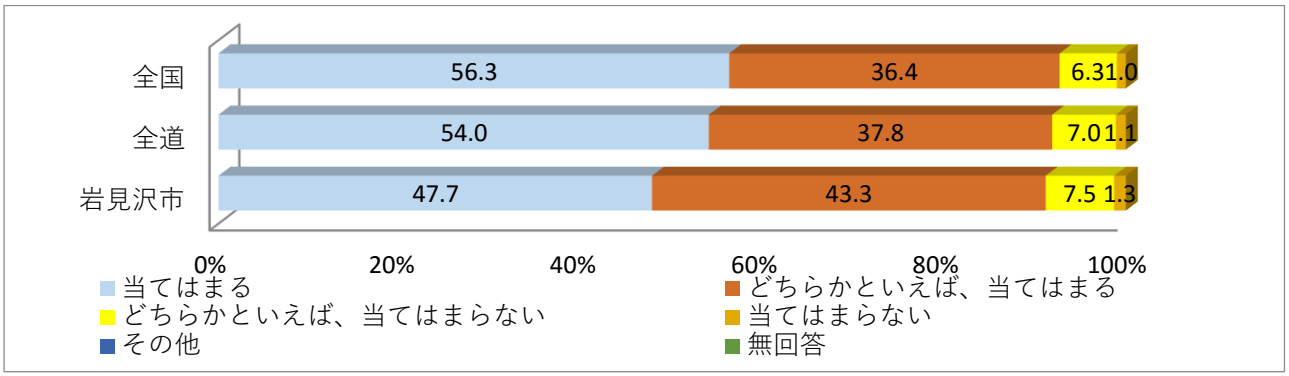
「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校で 4.0 ポイント下回り、中学校で 6.0 ポイント上回る。

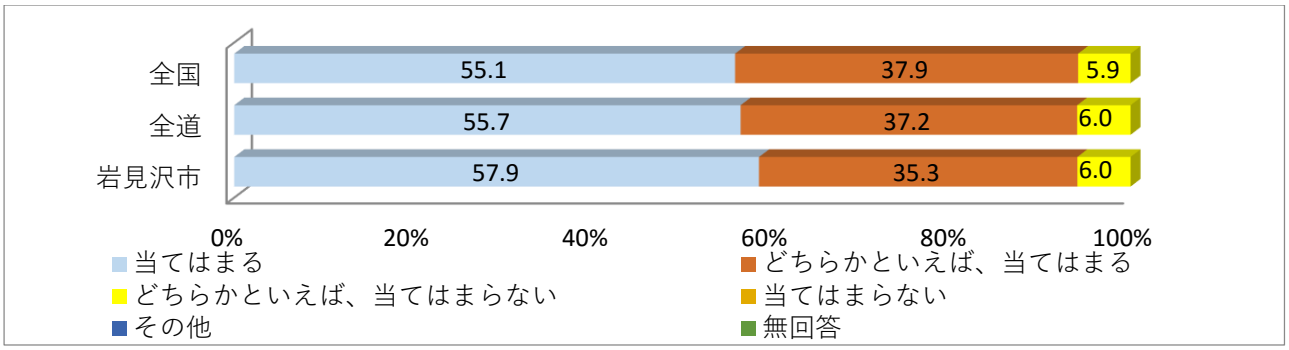
7．友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか



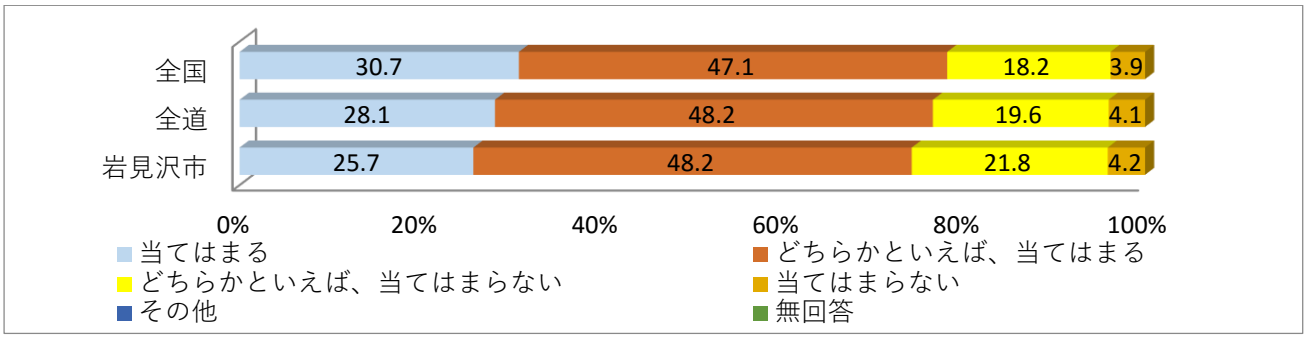


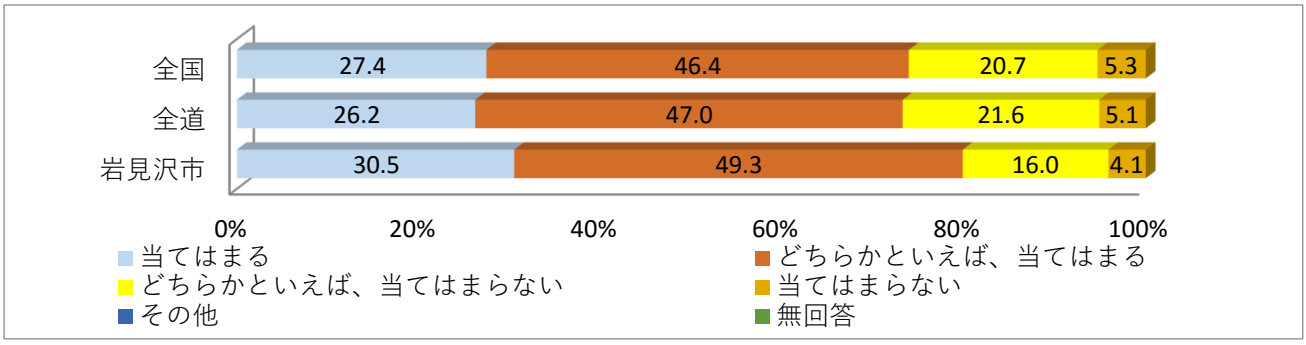
8．友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができますか



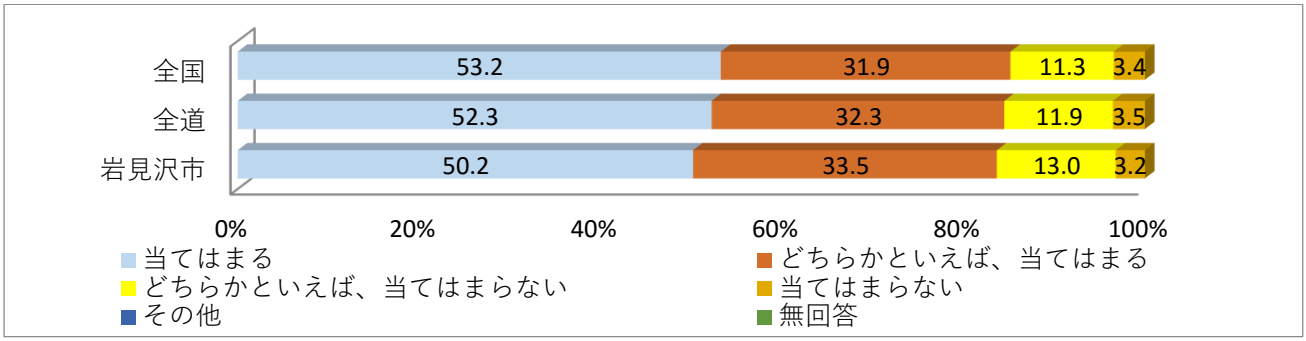


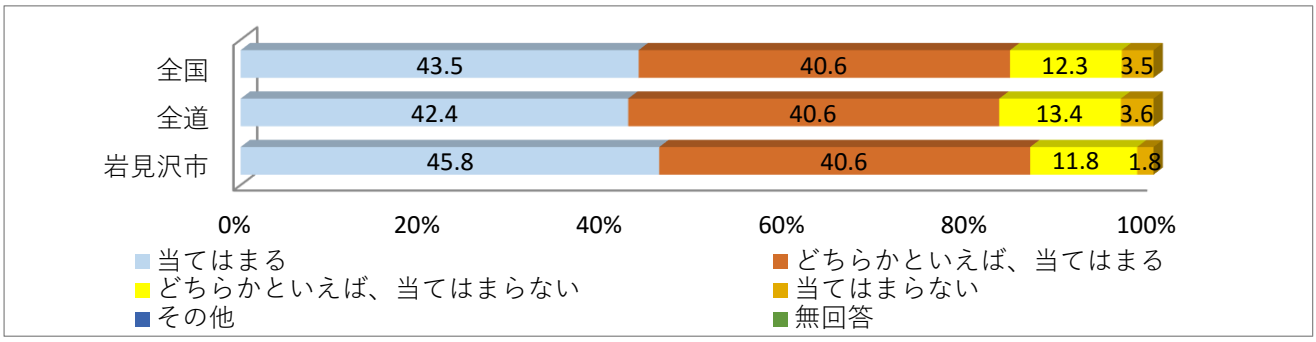
47.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では，先生から示される課題や，学級やグループの中で，自分たちで立てた課題に対して，自ら考え，自分から取り組んでいたと思いますか



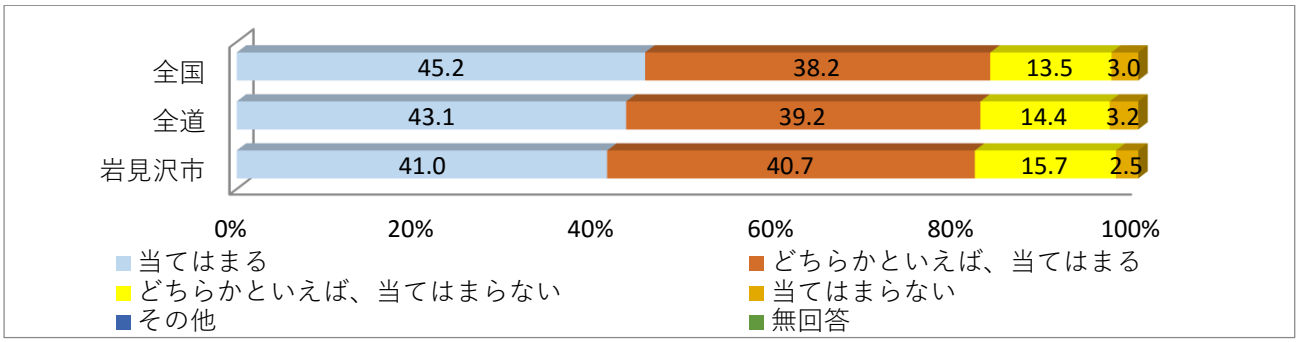


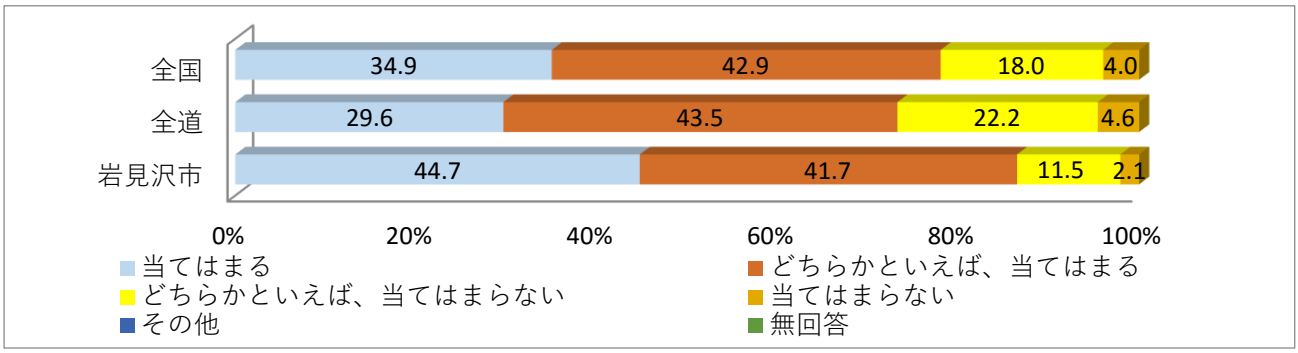
48.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



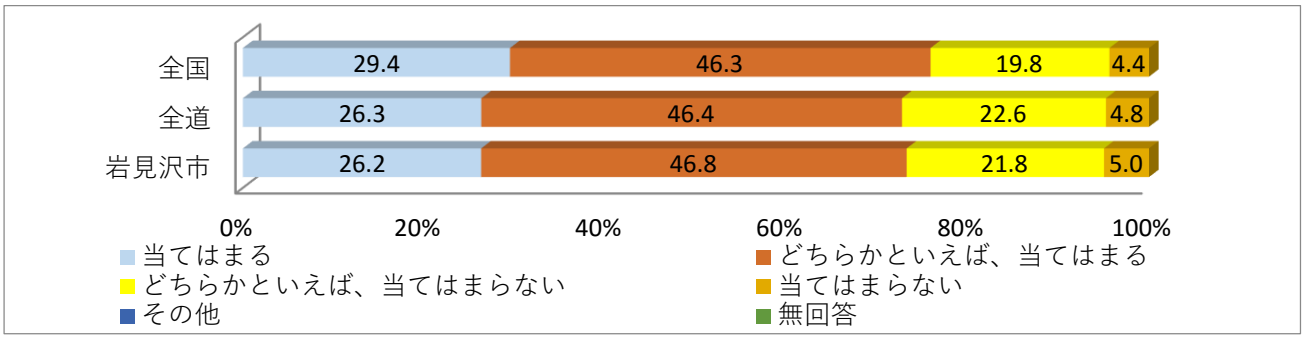


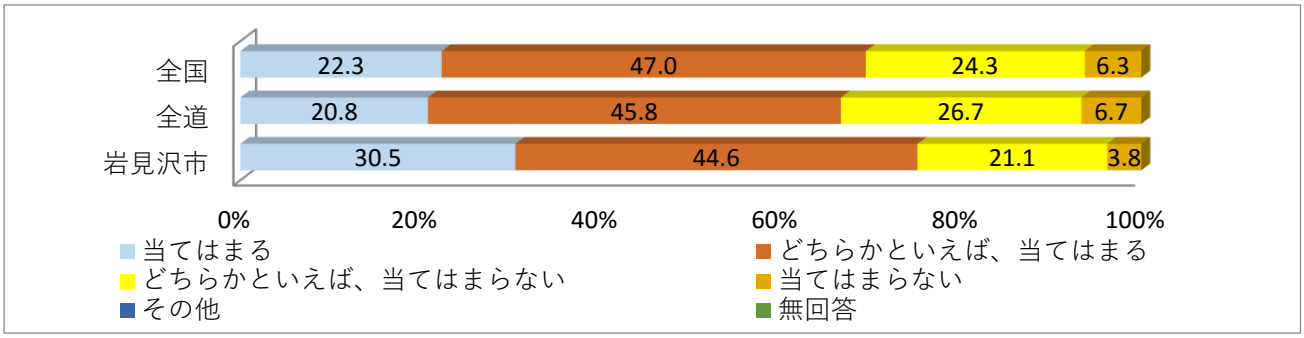
49.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では，学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



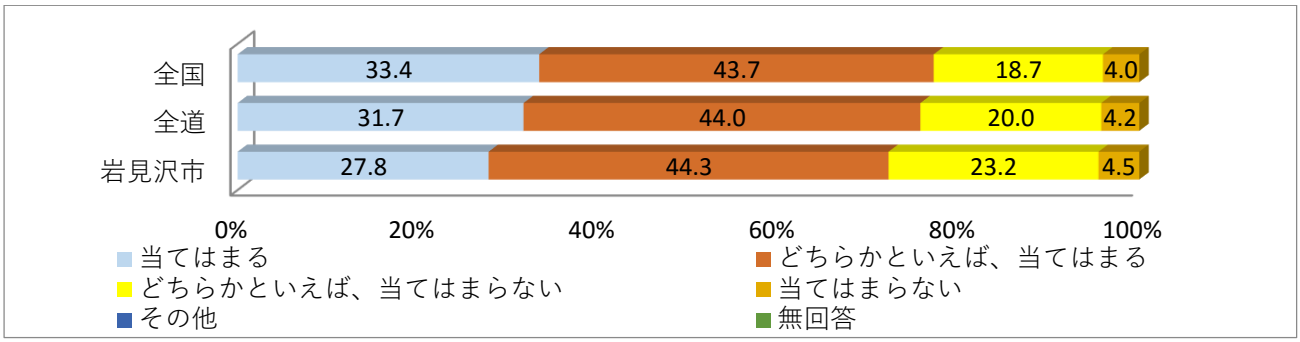


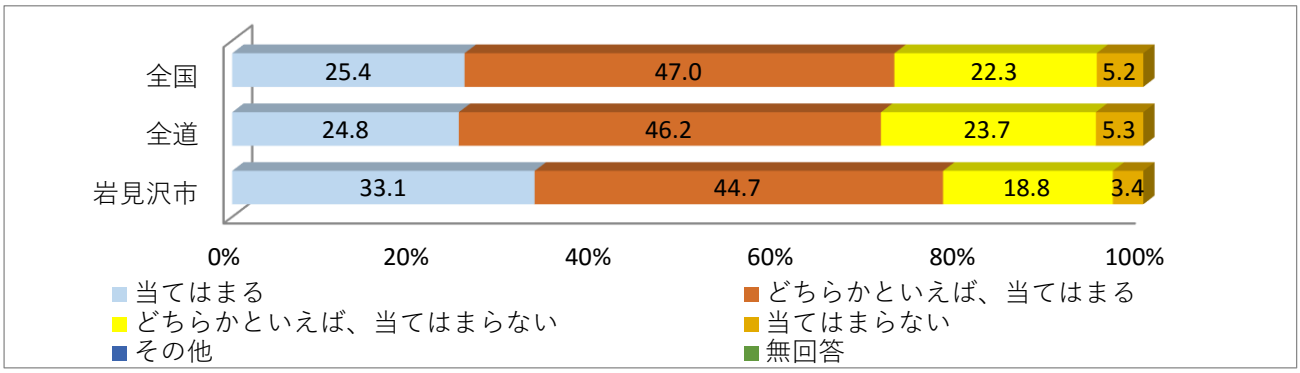
50.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業では，学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか



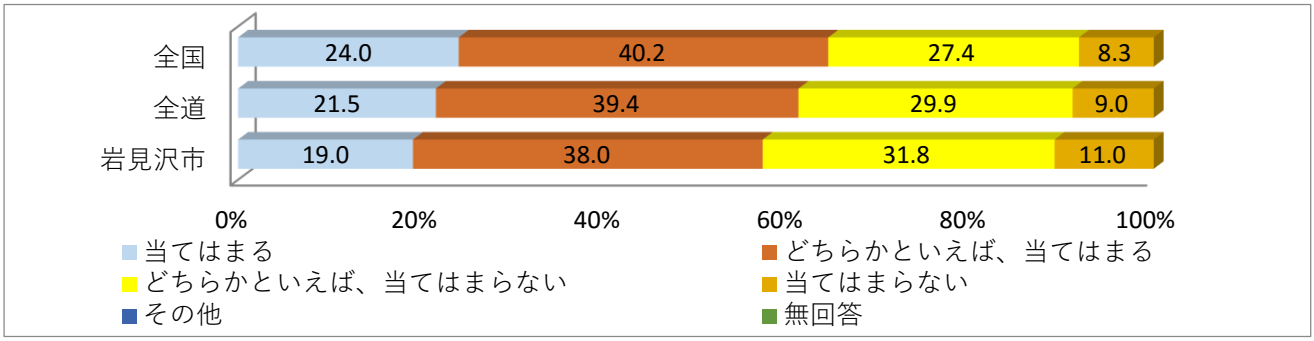


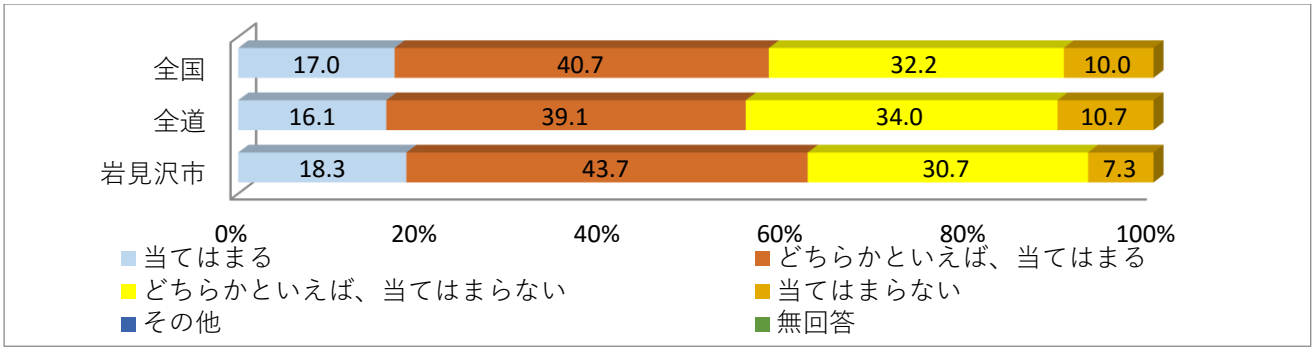
51.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業で，学級の友達との間で話し合う活動では，話し合う内容を理解して，相手の考えを最後まで聞き，自分の考えをしっかり伝えていたと思いますか



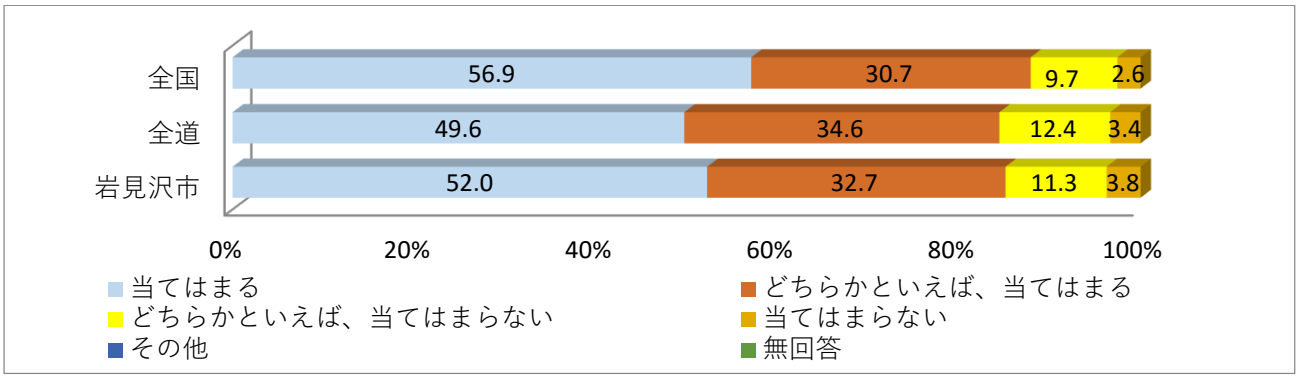


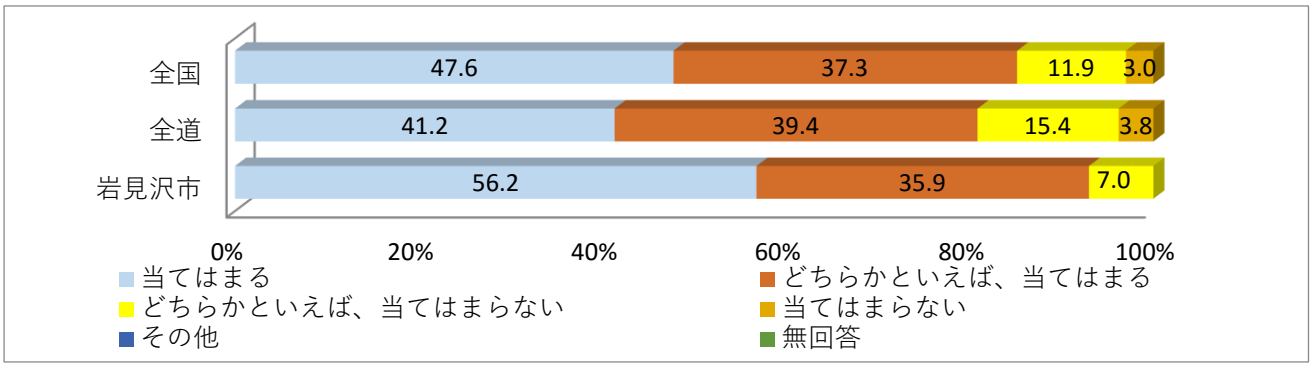
52.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業で，自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



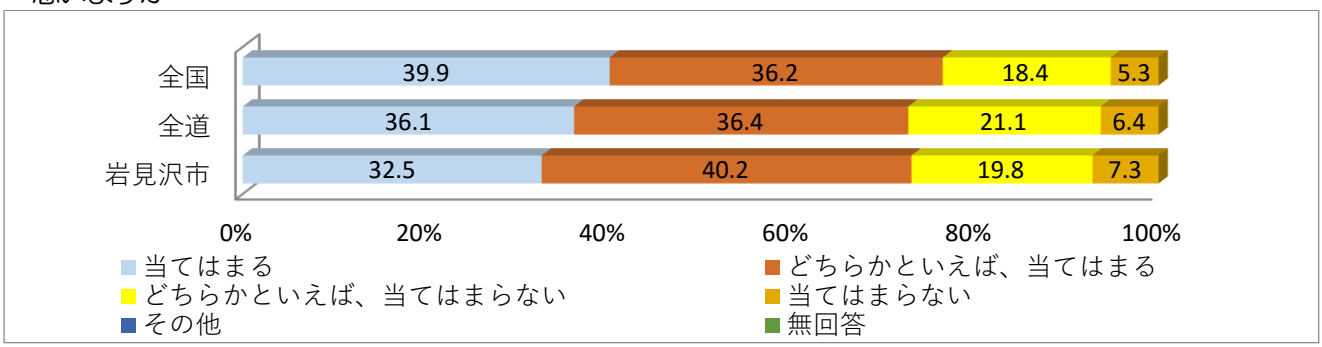


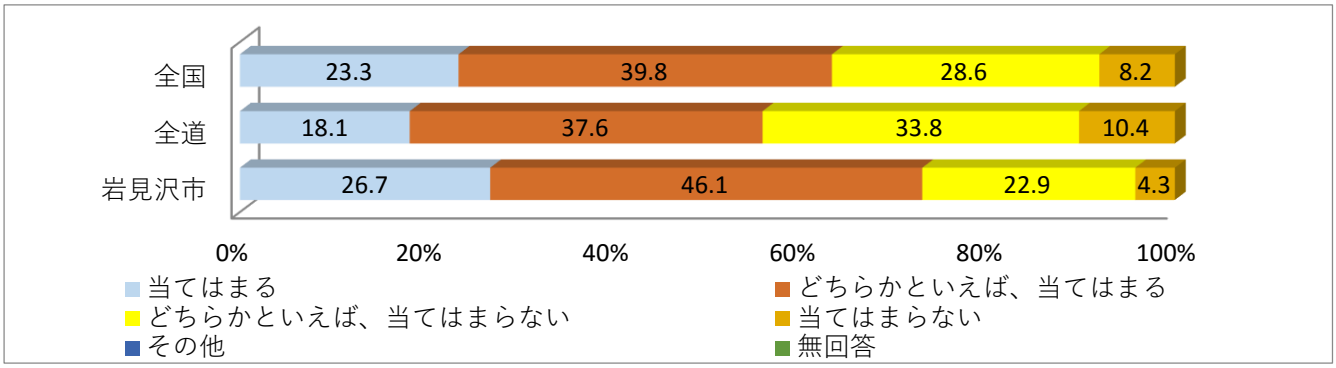
53.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか



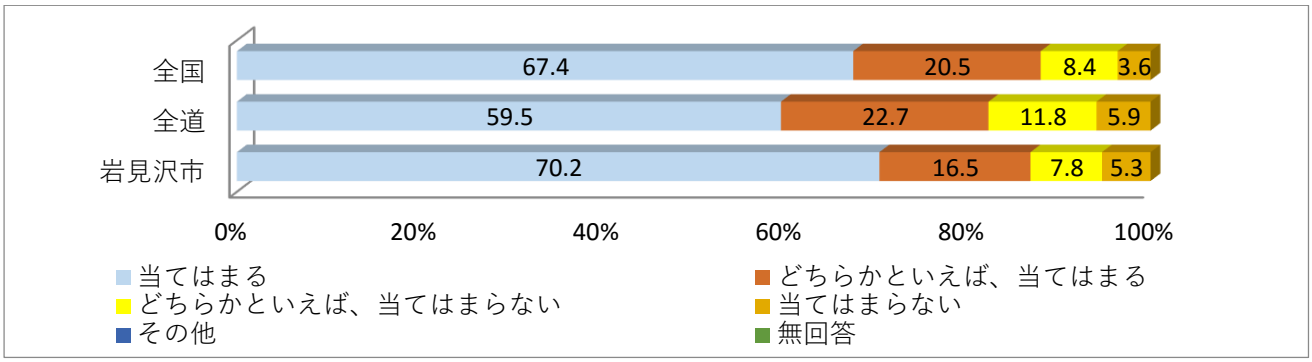


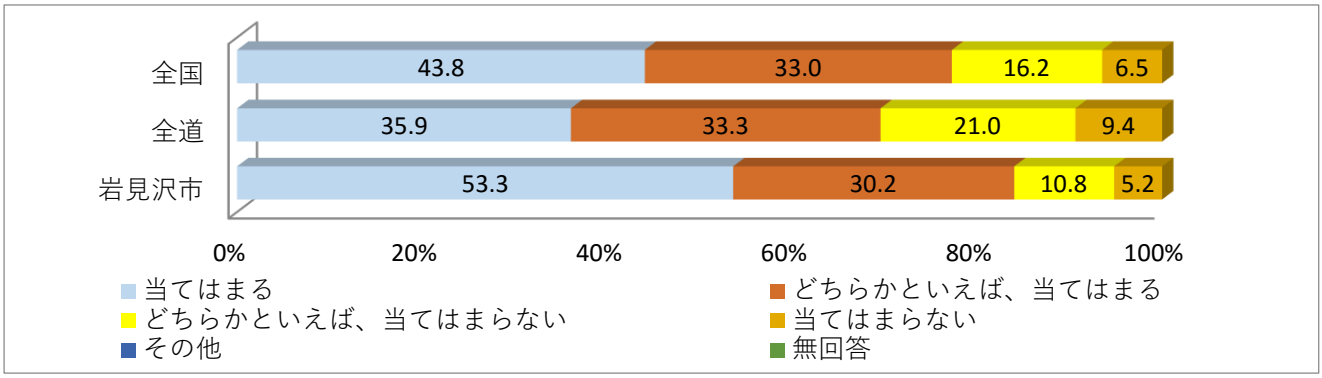
54.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



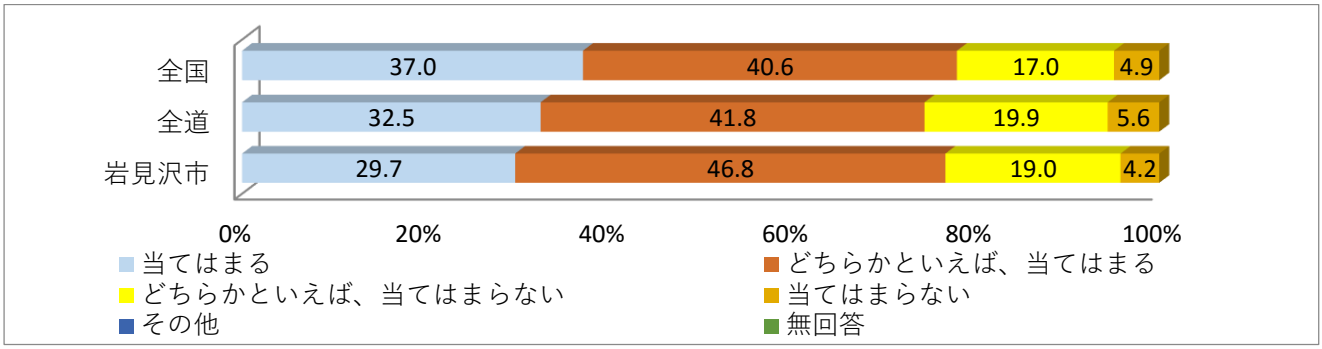


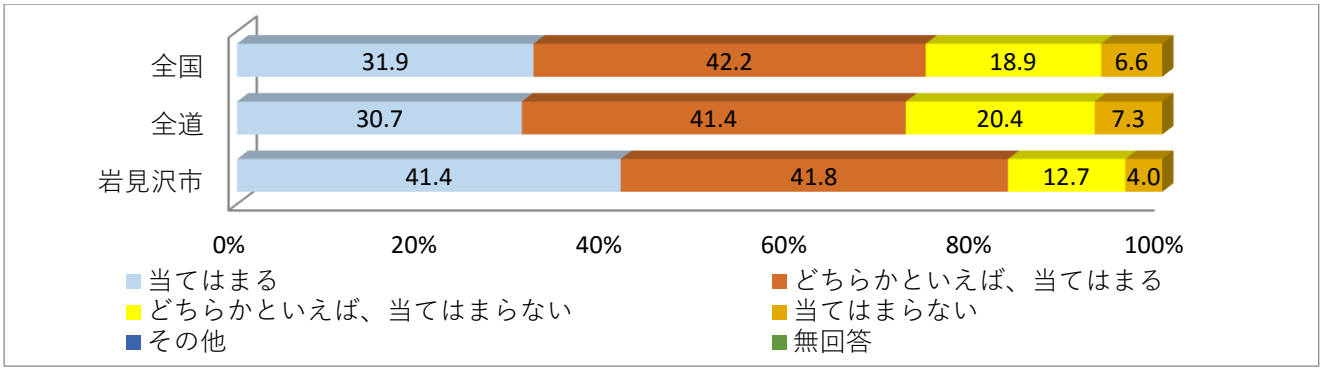
55.5年生までに（1・2年生のときに）受けた授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか



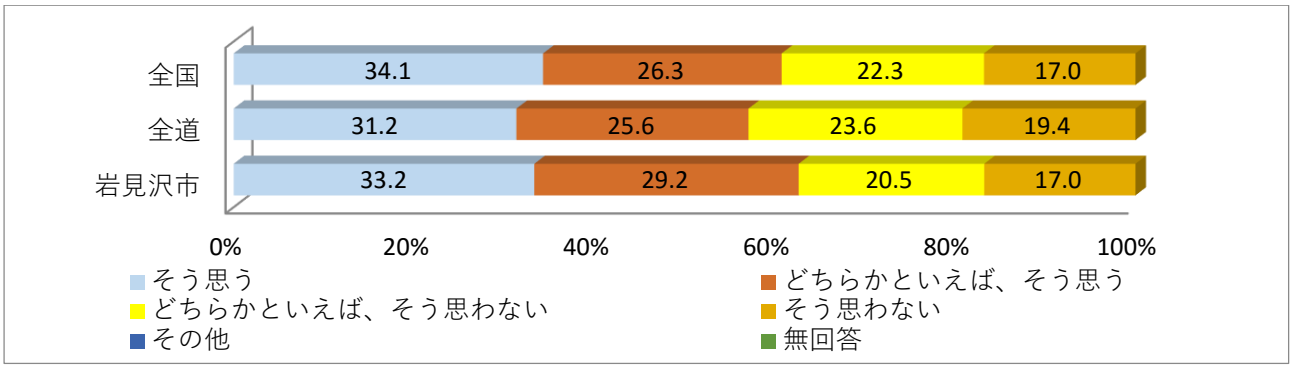


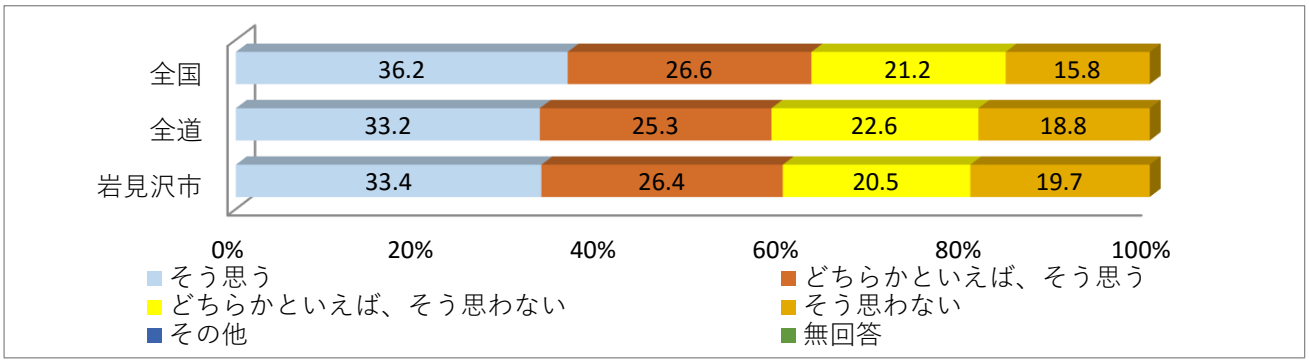
56.5年生までに（1・2年生のときに）受けた道徳の時間では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか



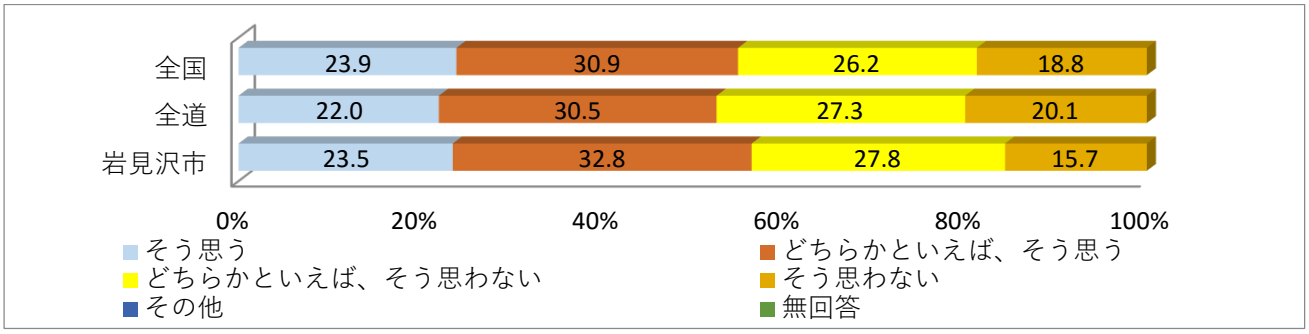


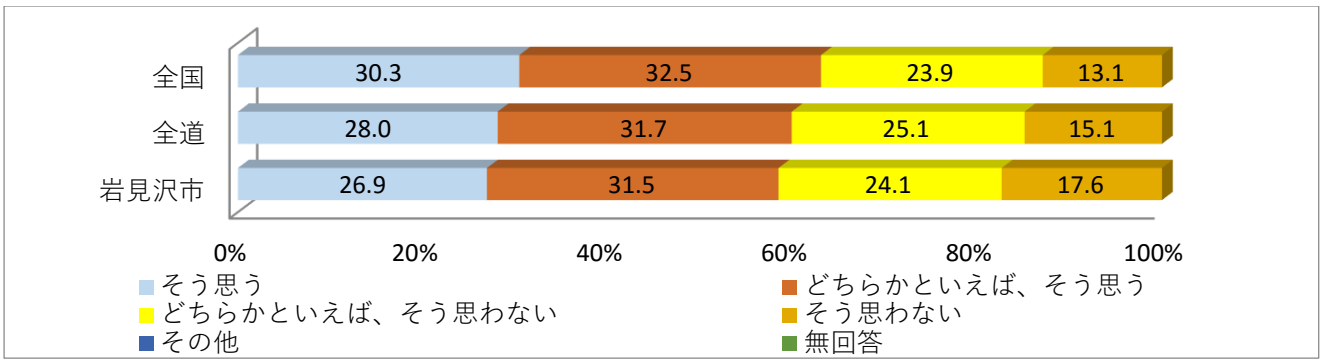
57.４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか





58.学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか

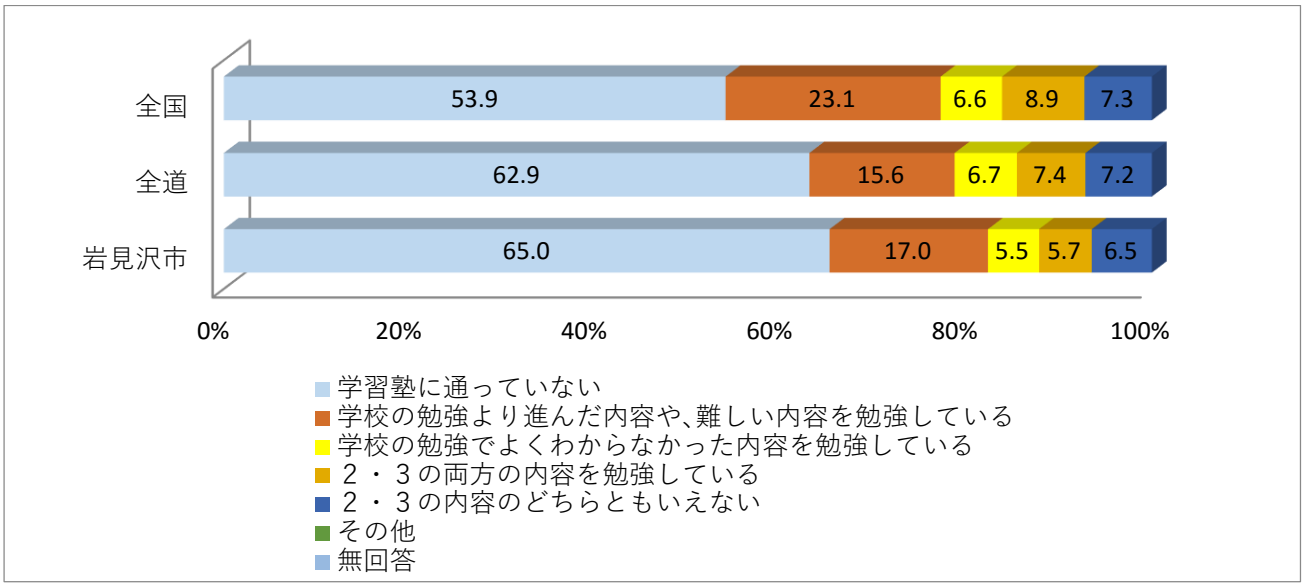


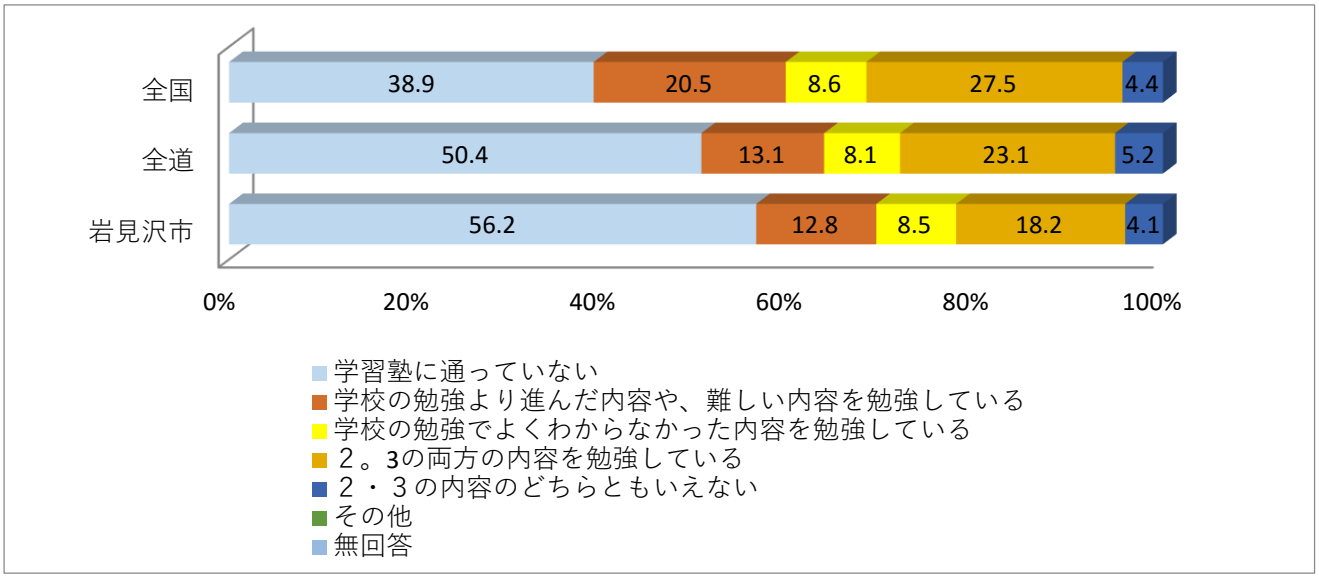


３　学習時間・学習生活等

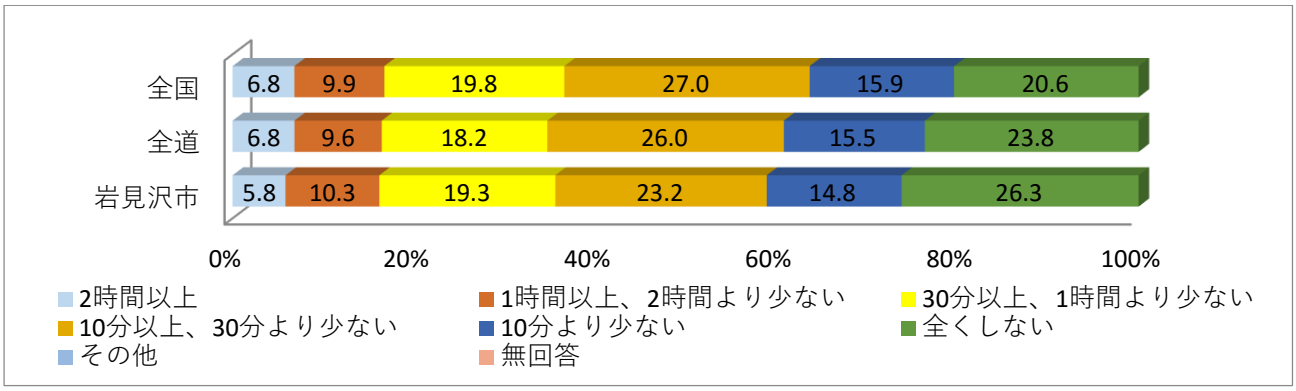
「学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校で 7.6 ポイント、中学校で 1.4 ポイント下回る。
「学校で、好きな授業がありますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校で 1.3 ポイント中学校で 5.7 ポイント上回る。
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 0.6 ポイント下回り、中学校は 6.1 ポイント上回る。

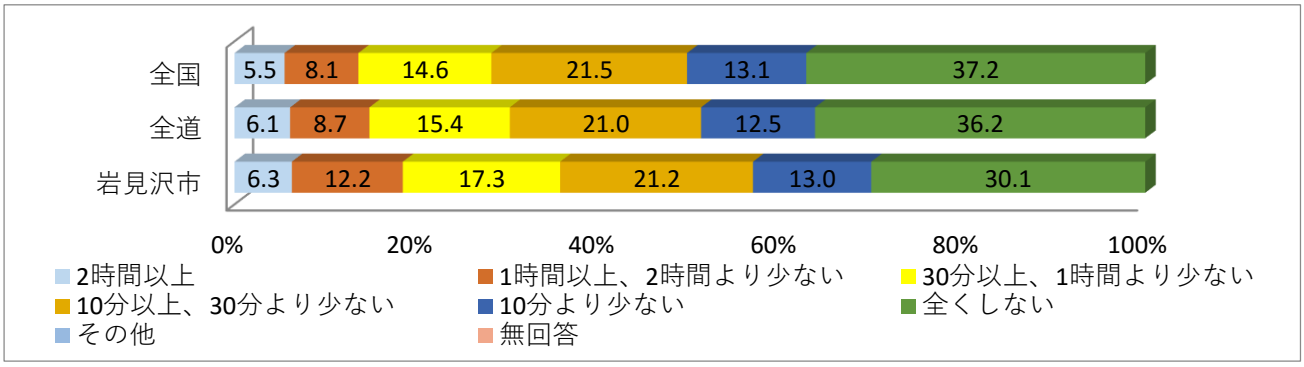
16.学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか



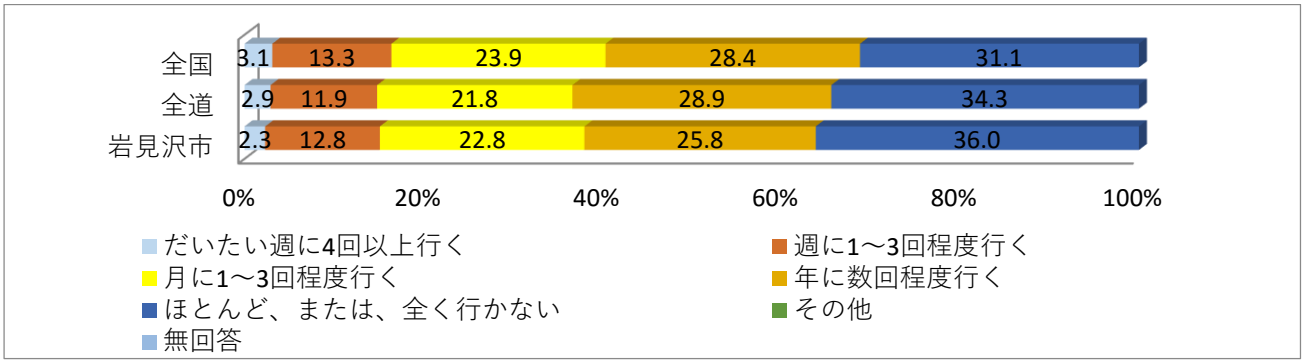


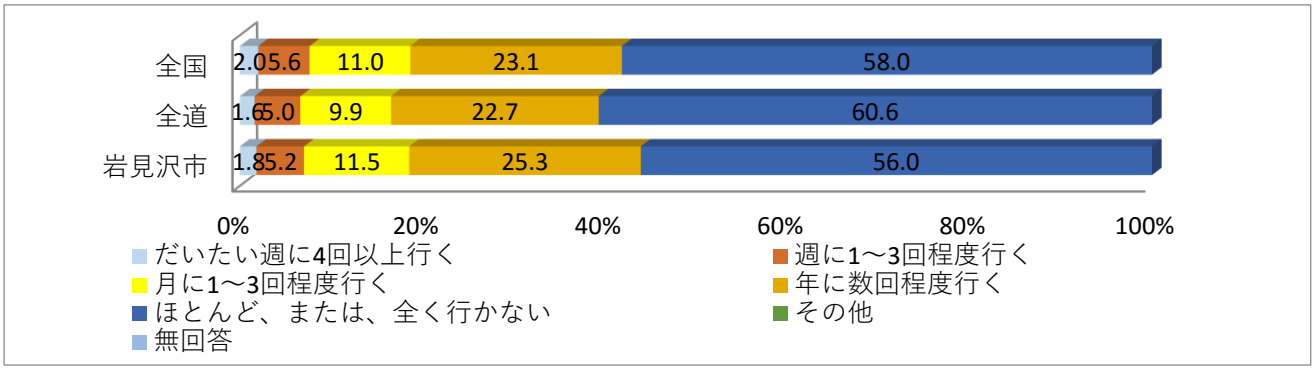
17.学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）



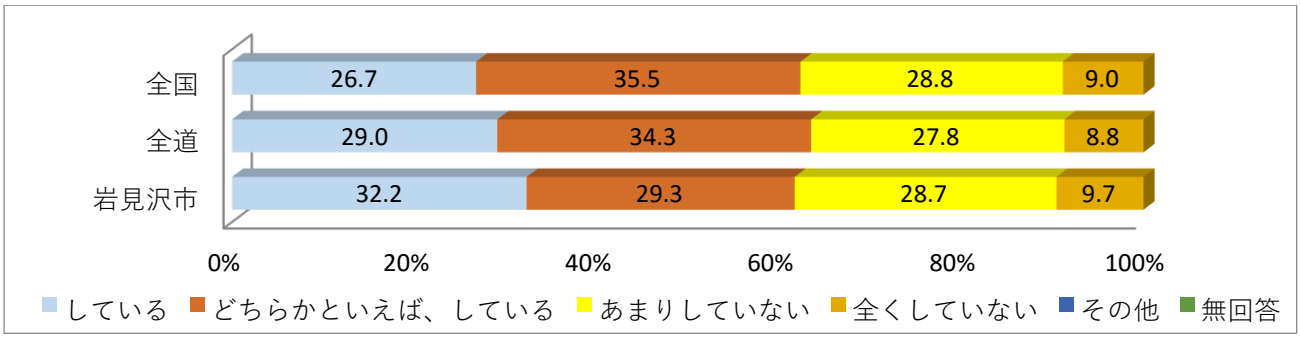


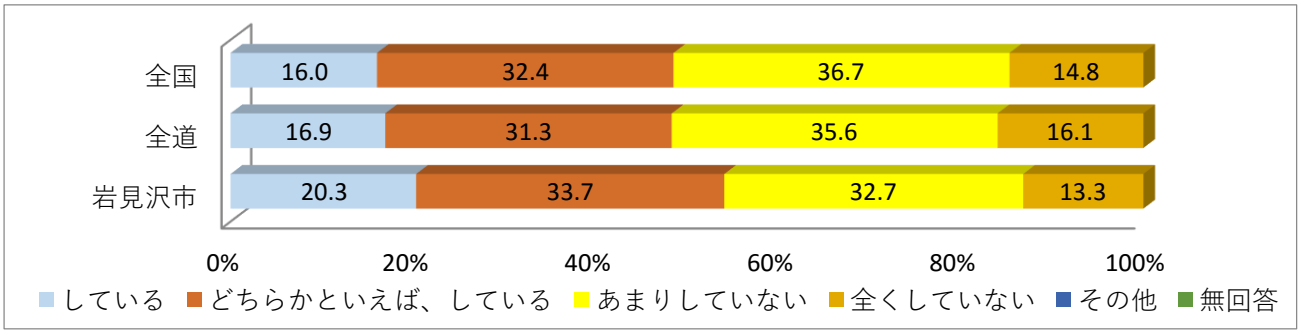
18. 昼休みや放課後，学校が休みの日に，本（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか



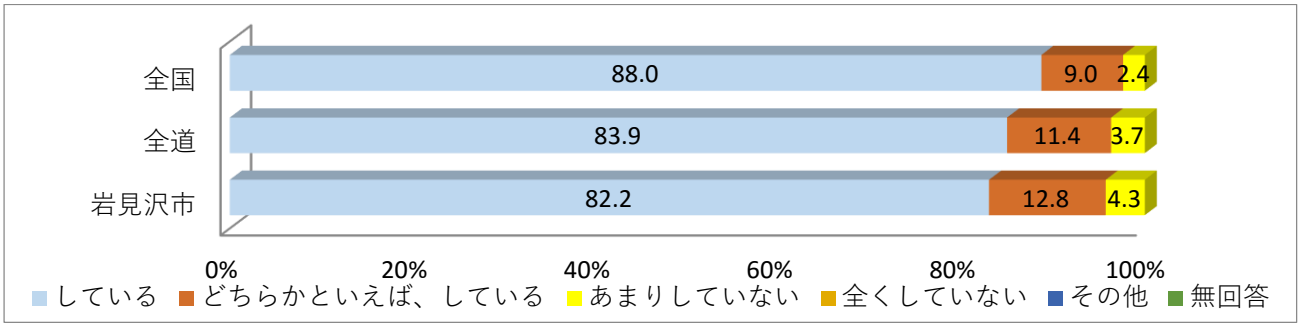


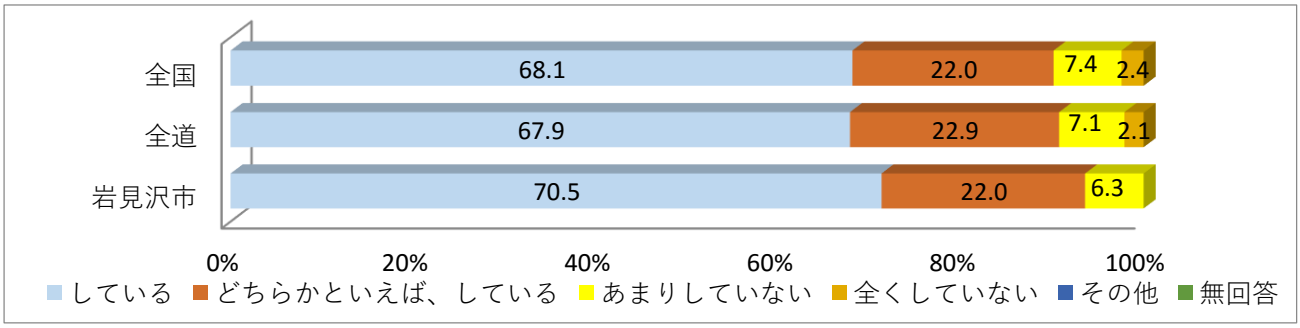
21.家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか



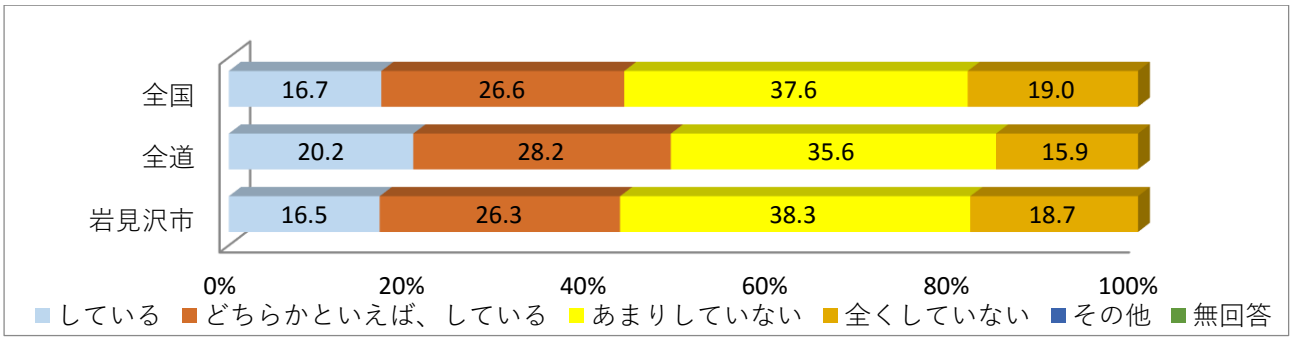


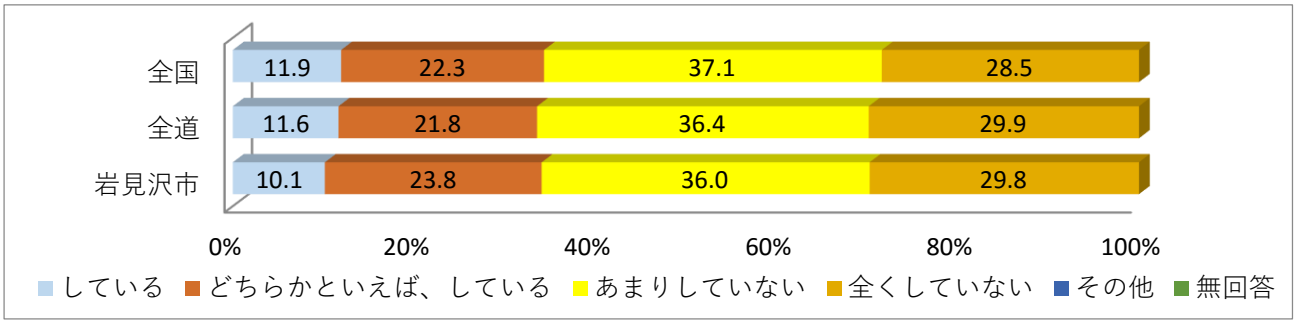
22.家で，学校の宿題をしていますか



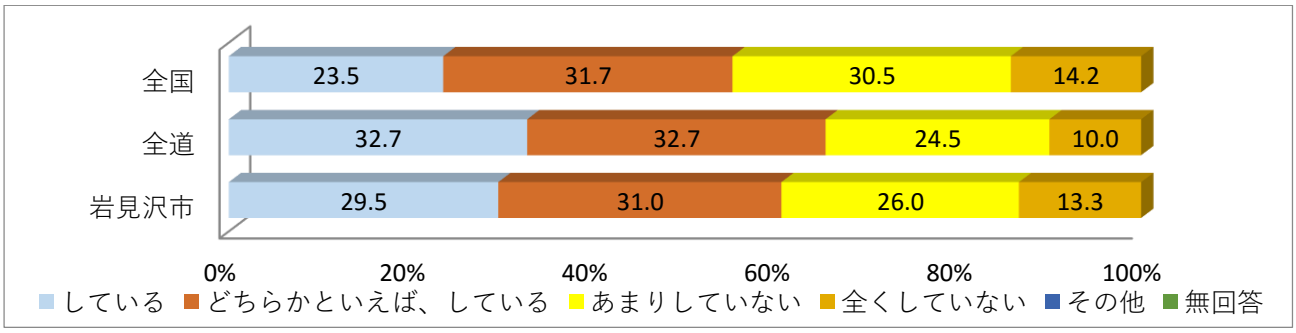


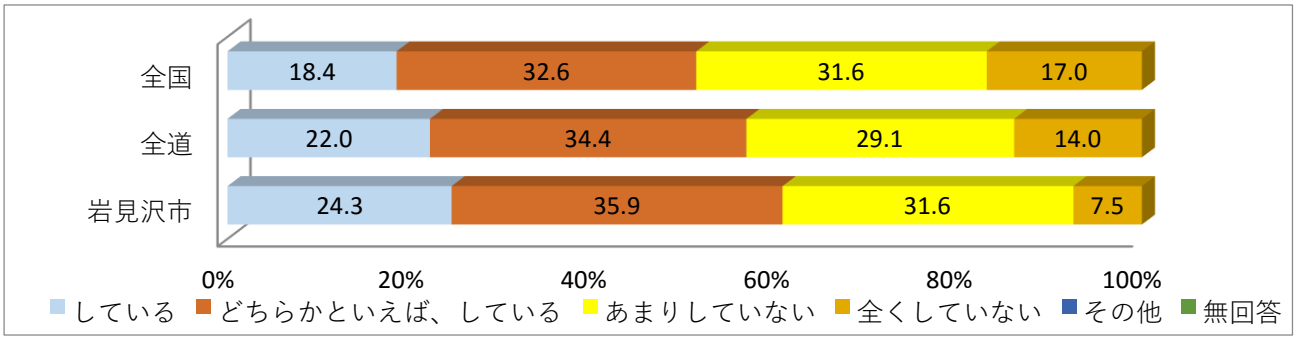
23.家で，学校の授業の予習をしていますか



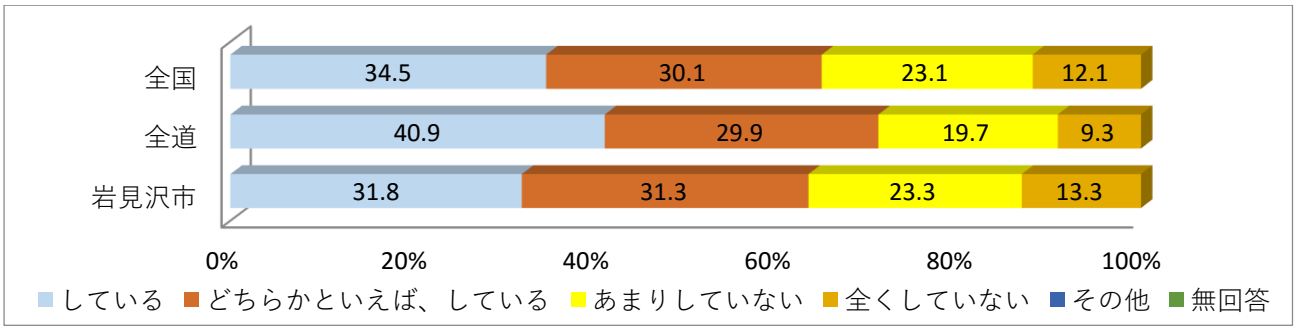


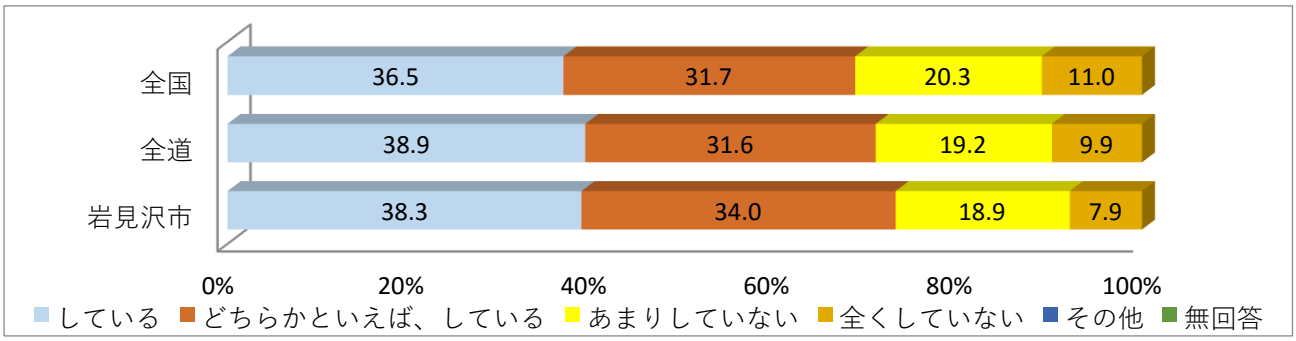
24.家で，学校の授業の復習をしていますか



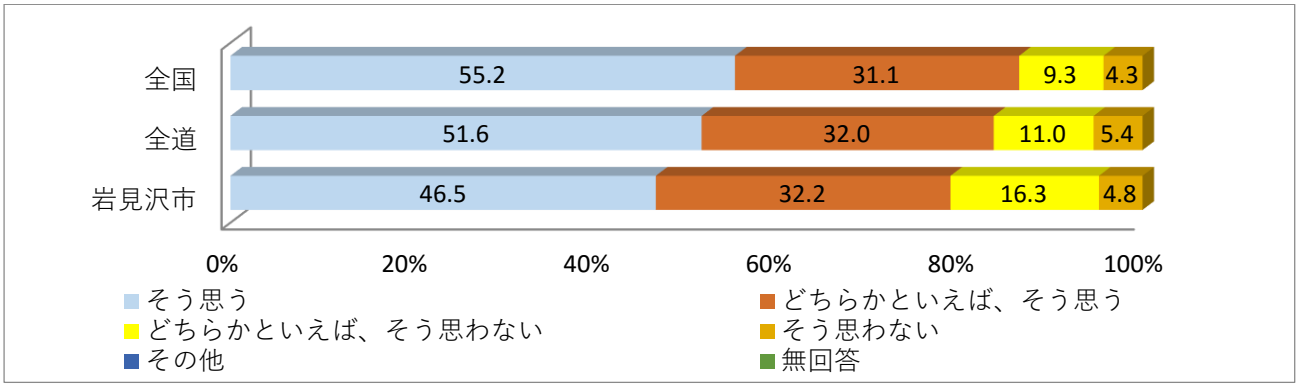


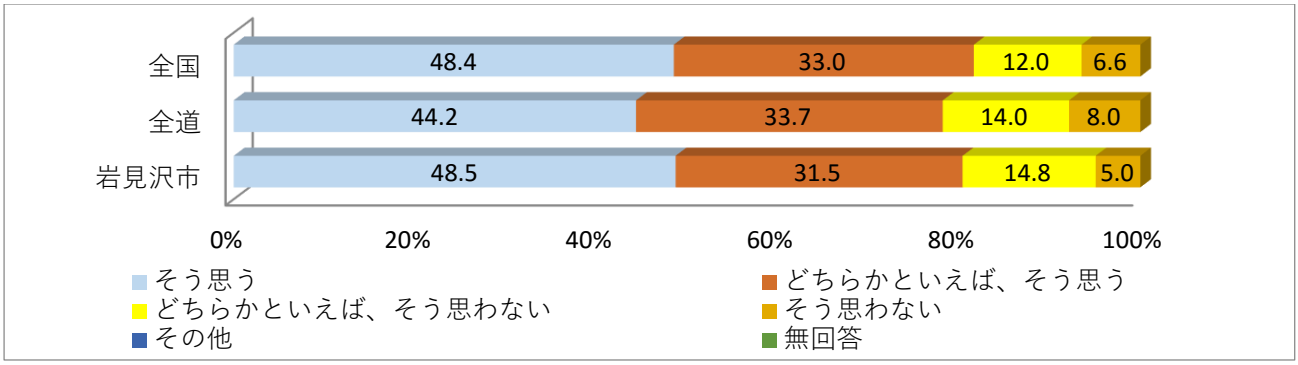
25.家で，予習・復習やテスト勉強などの自学自習において，教科書を使いながら学習していますか



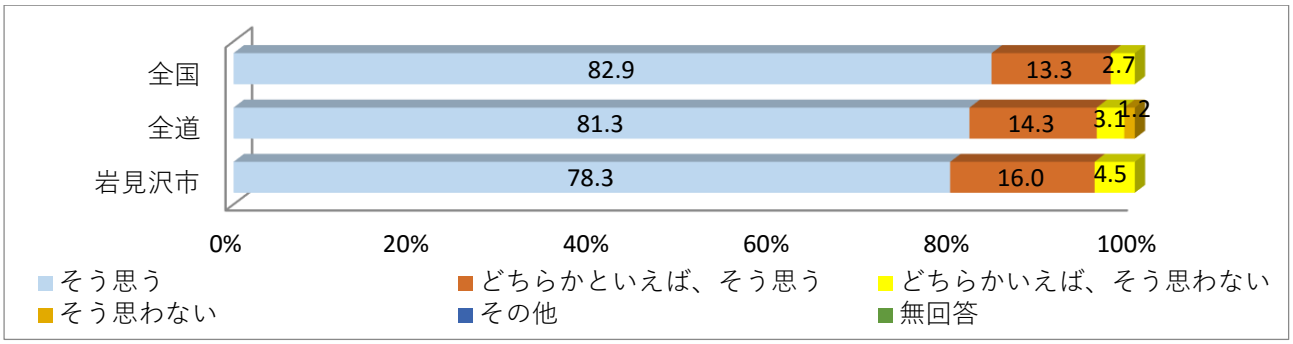


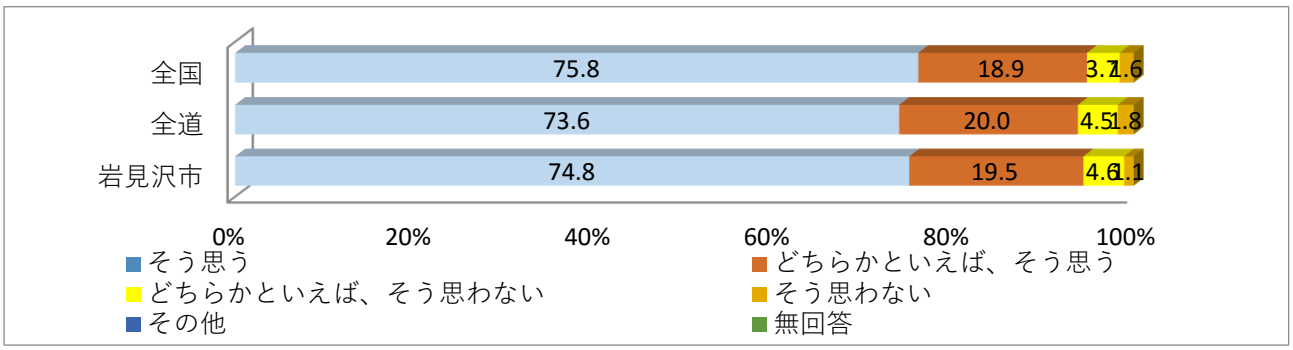
26.学校に行くのは楽しいと思いますか



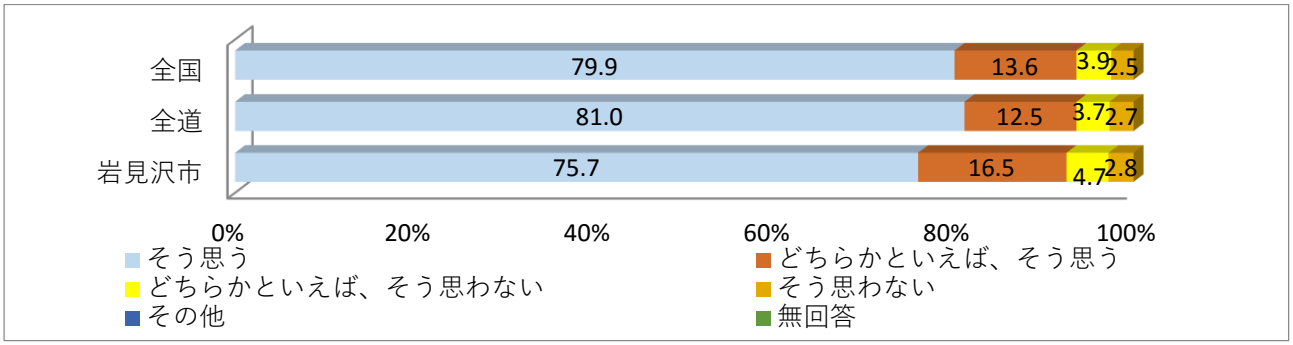


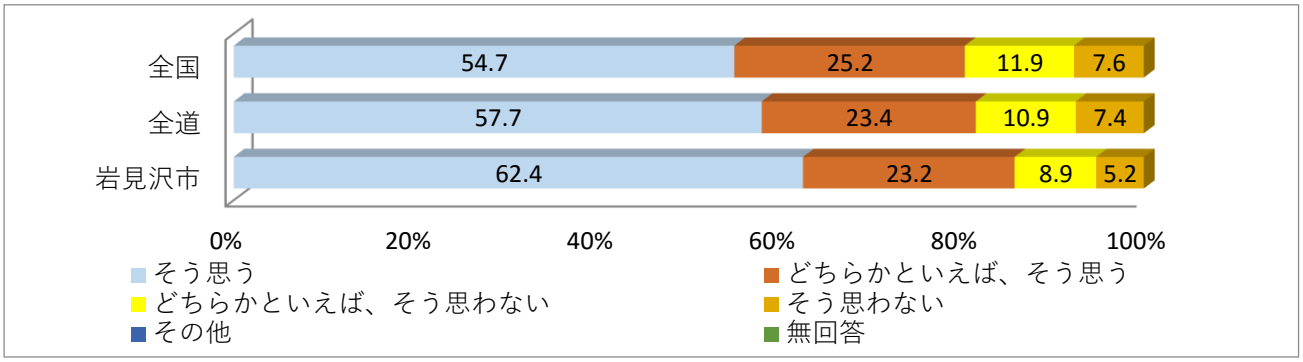
27.学校で，友達に会うのは楽しいと思いますか



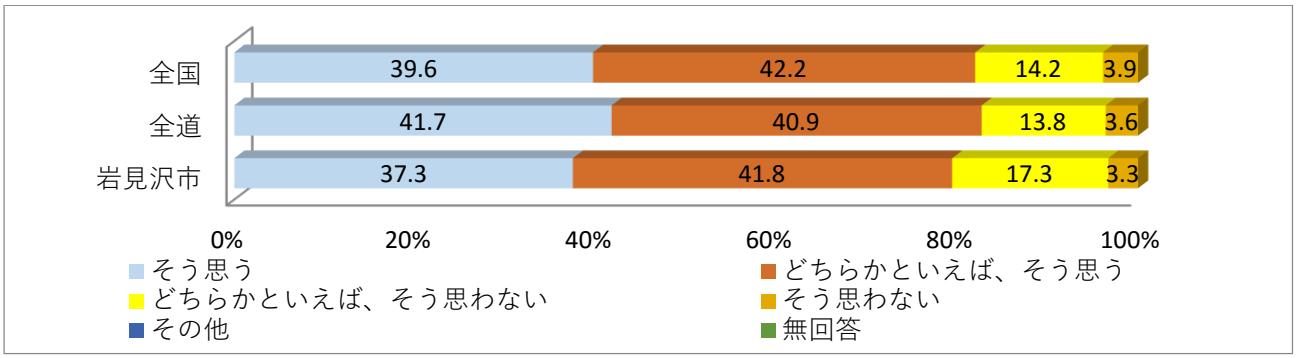


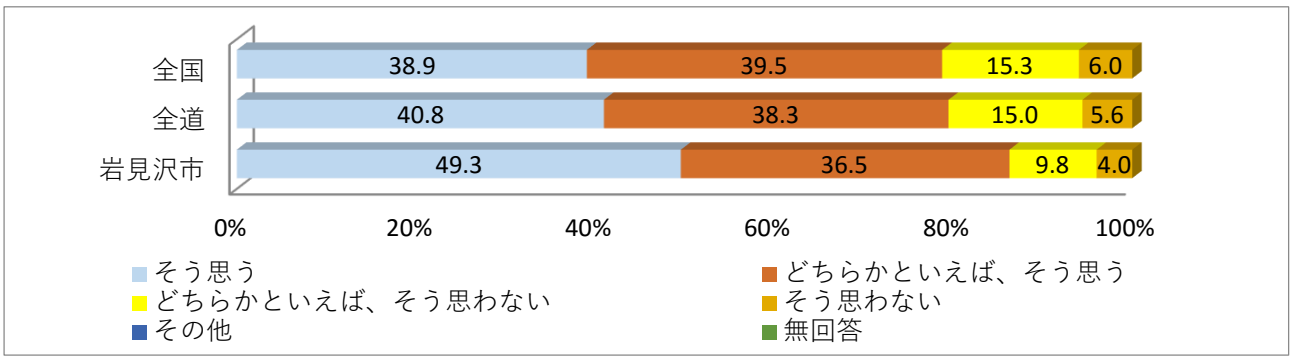
28.学校で，好きな授業がありますか



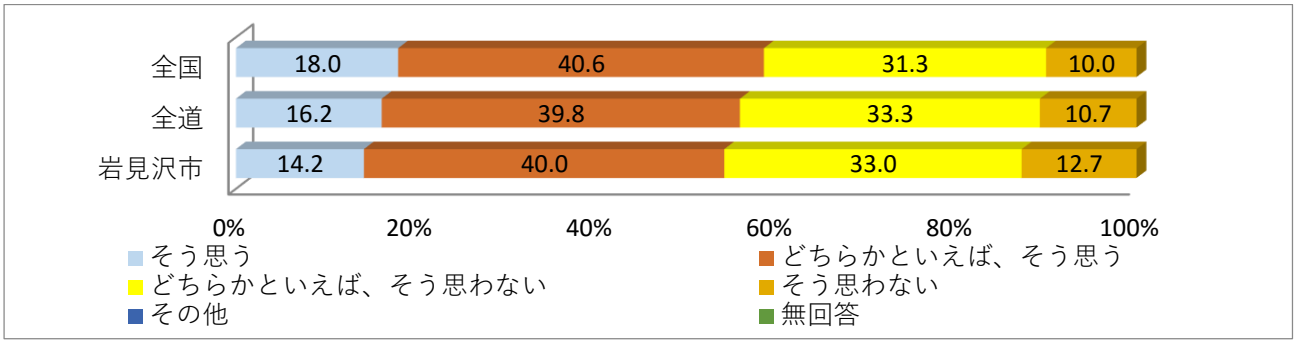


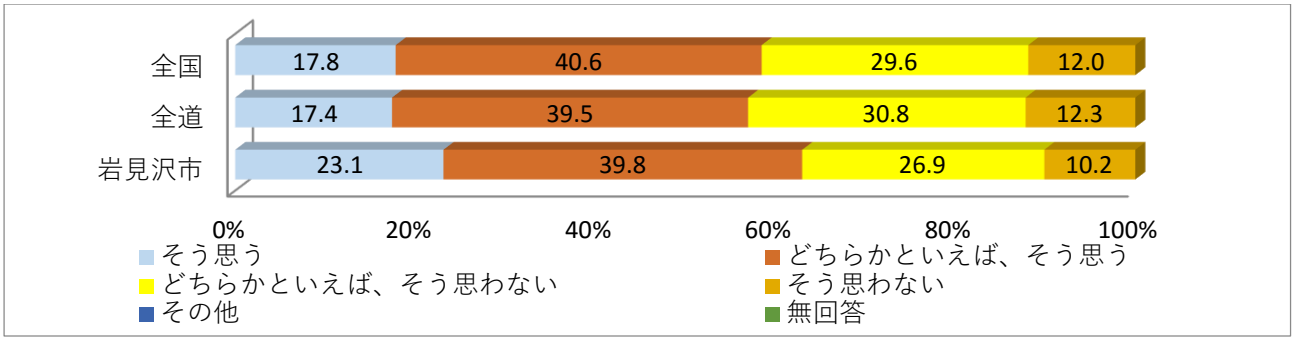
29.あなたの学級では，学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか



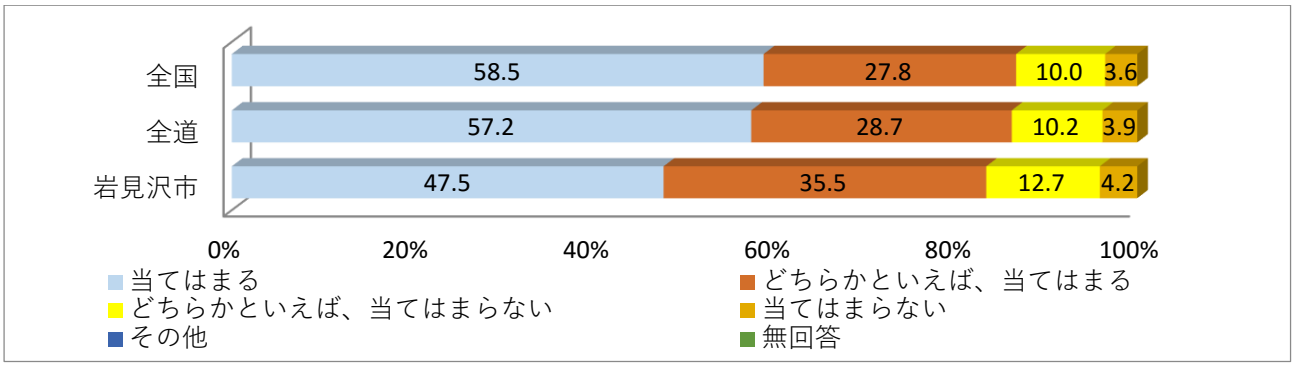


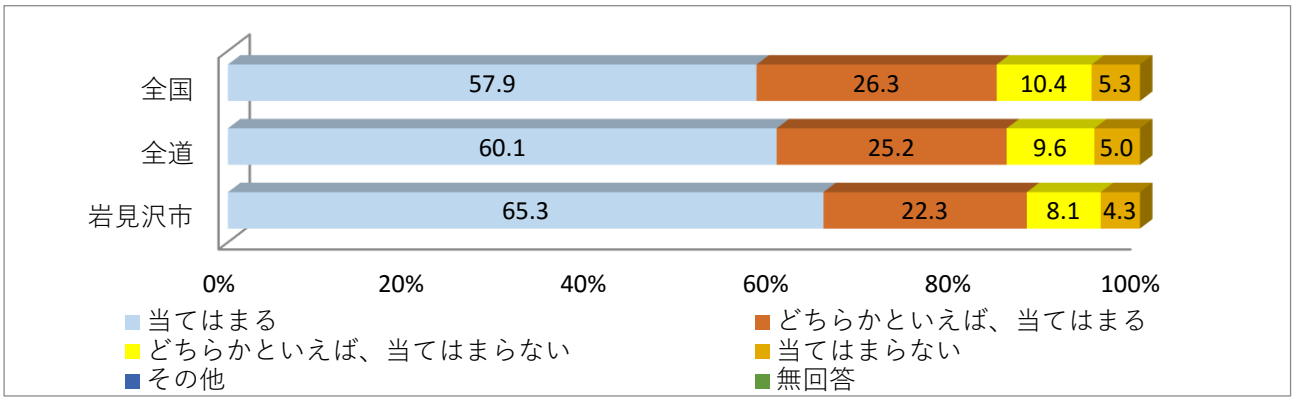
30.学級会などの話合いの活動で，自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけたりして話し合い，意見をまとめていますか



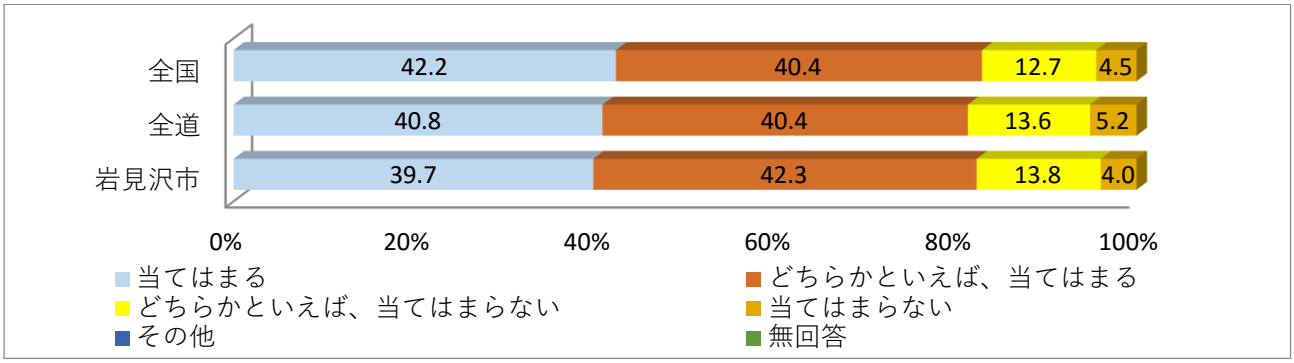


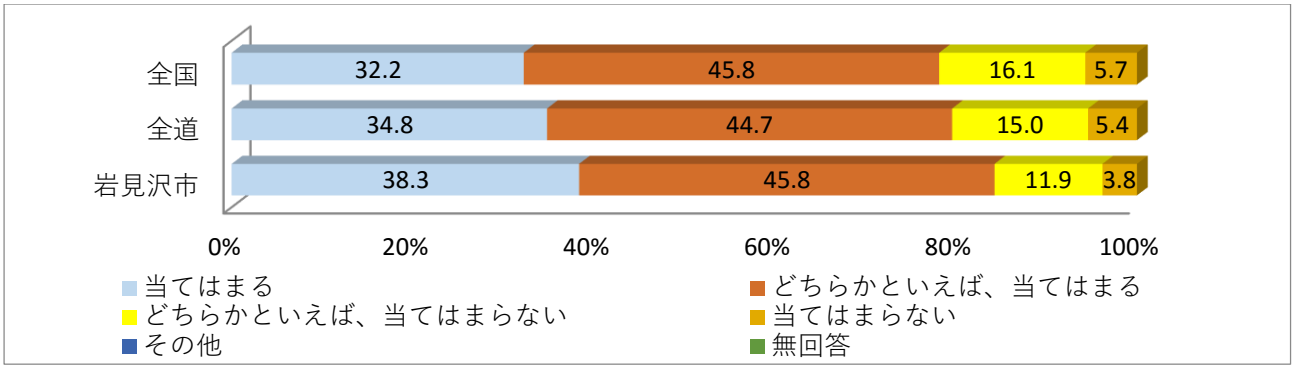
31.学級みんなで協力して何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか



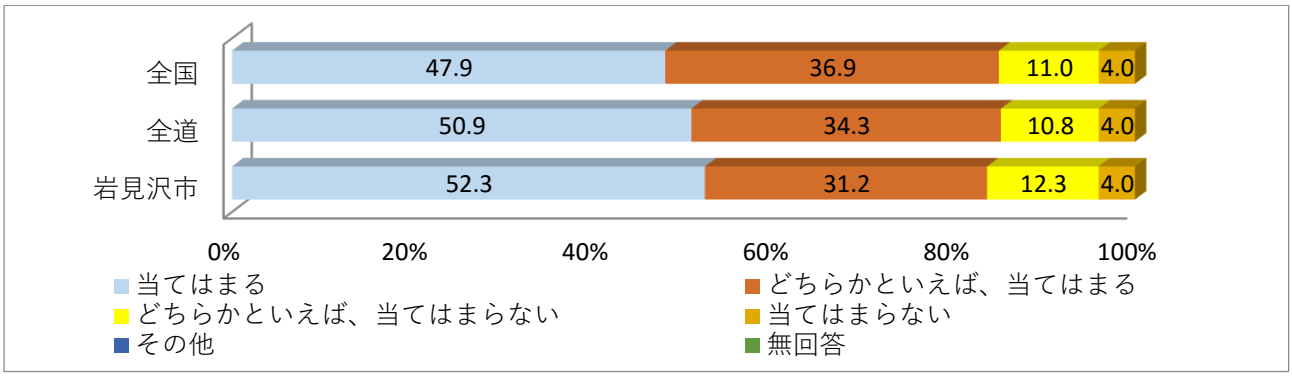


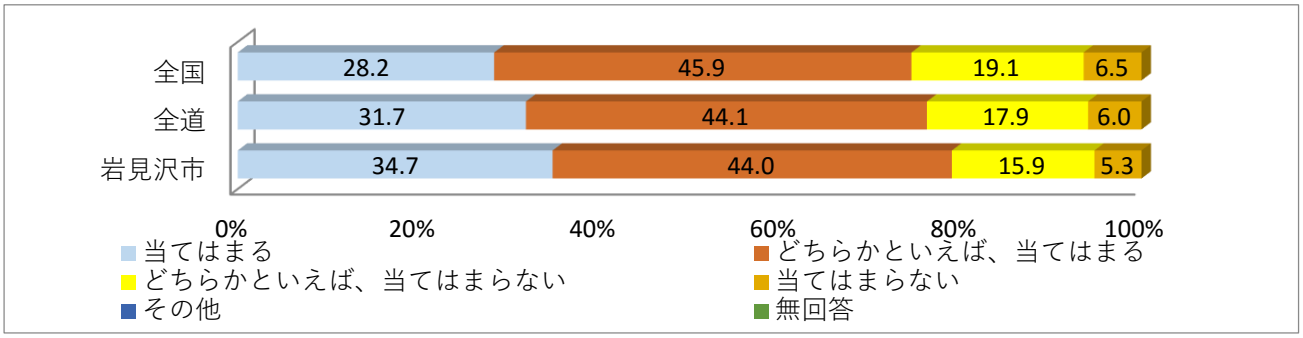
32.先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか





33.先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれますか

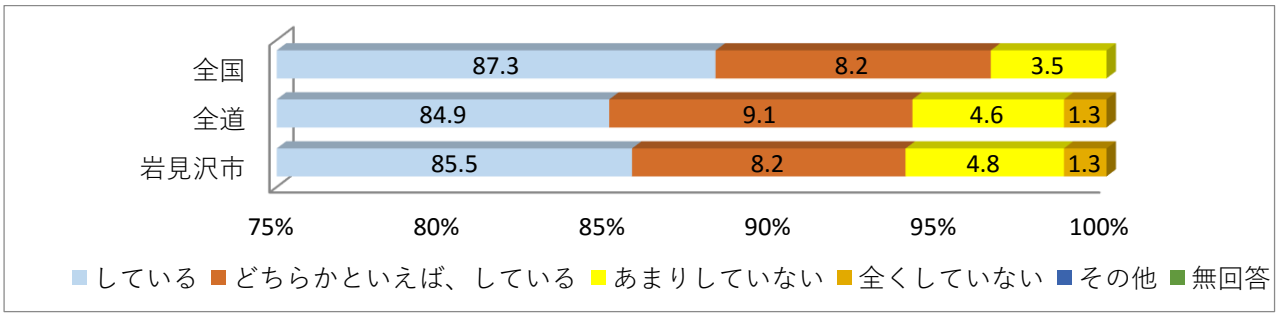


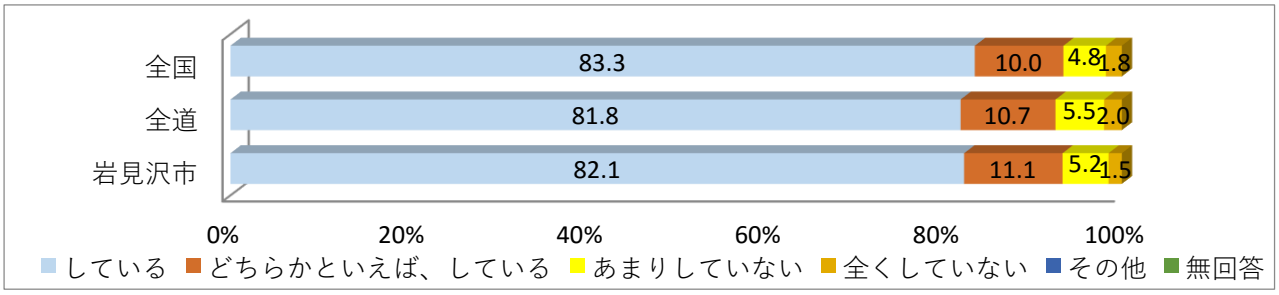


4　基本的生活習慣・家庭等

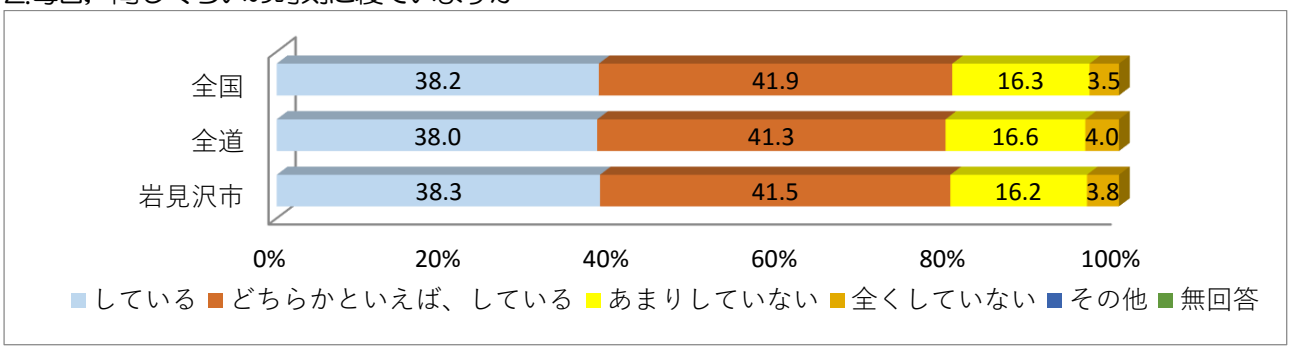
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校では 1.8 ポイント、中学校は 0.1 ポイント下回る。
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校では 0.3 ポイント下回り、中学校では 0.2 ポイント上回る。
「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 1.4 ポイント下回り、中学校は 0.6 ポイント上回る。

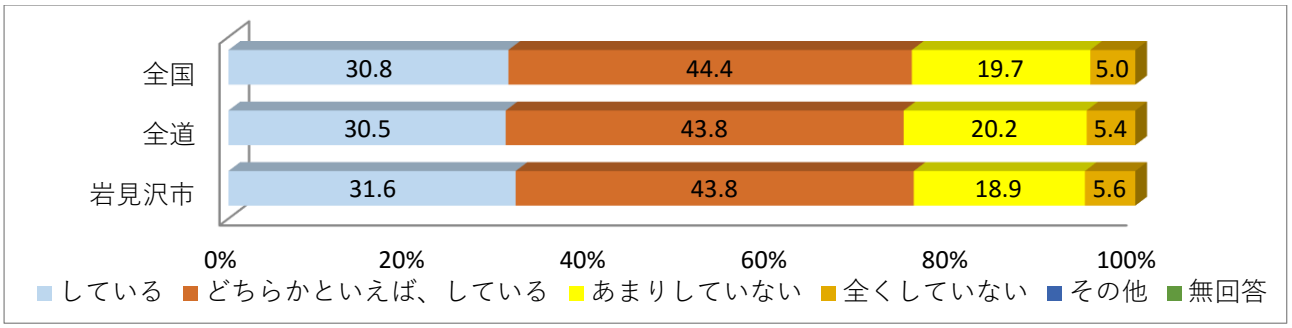
1.朝食を毎日食べていますか



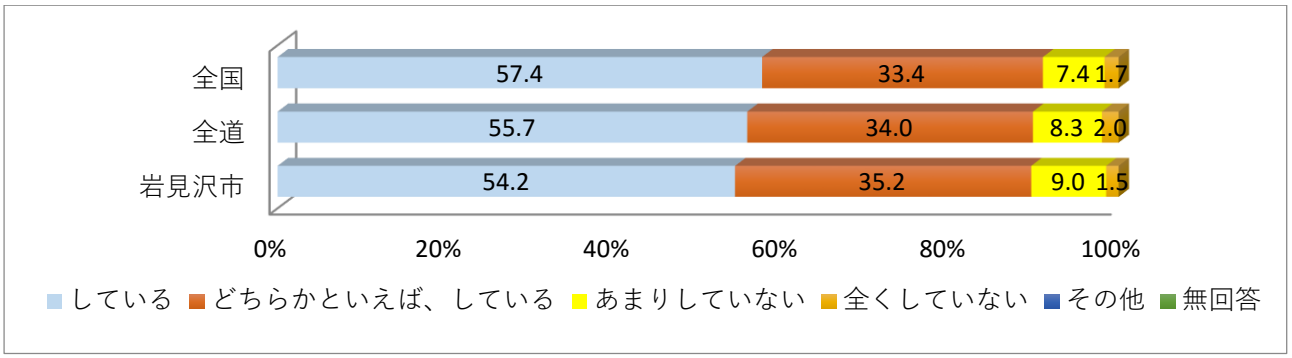


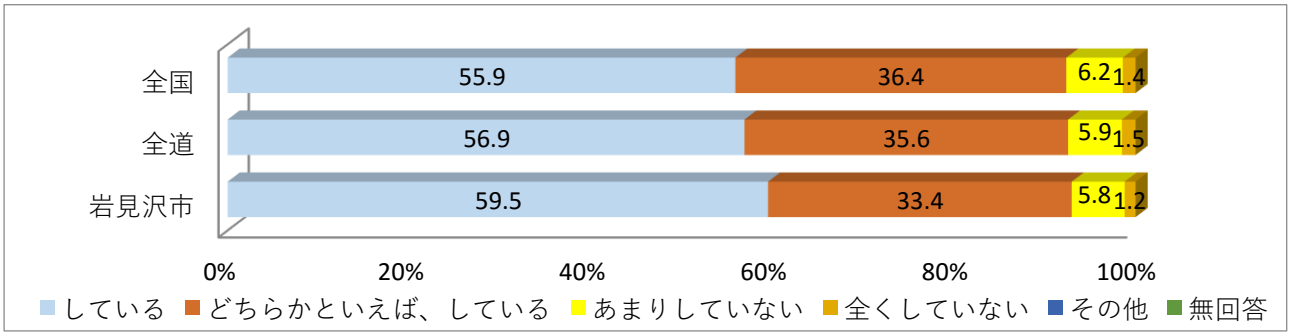
2.毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか



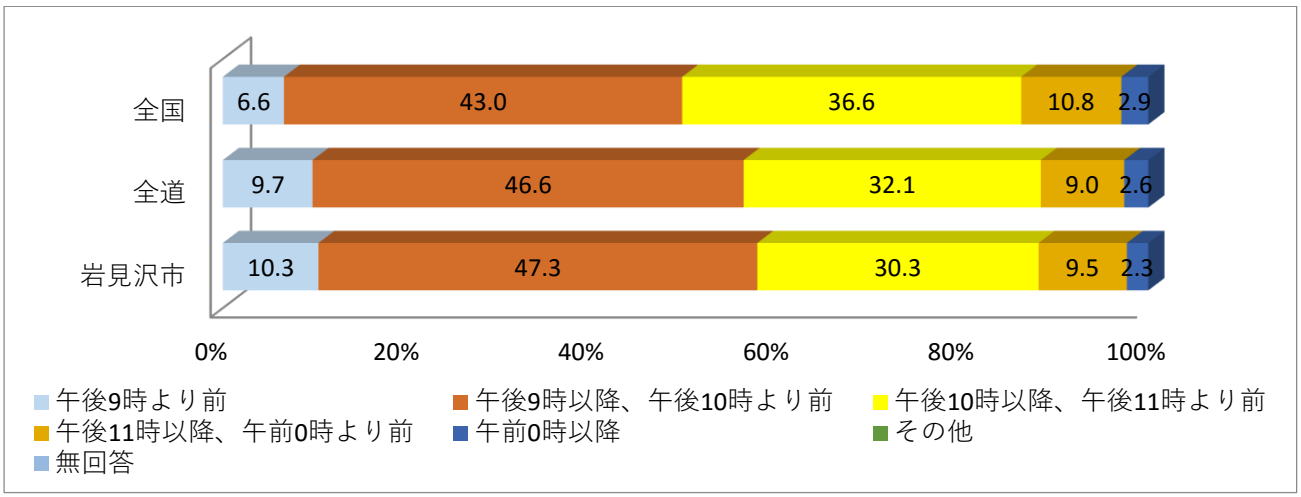


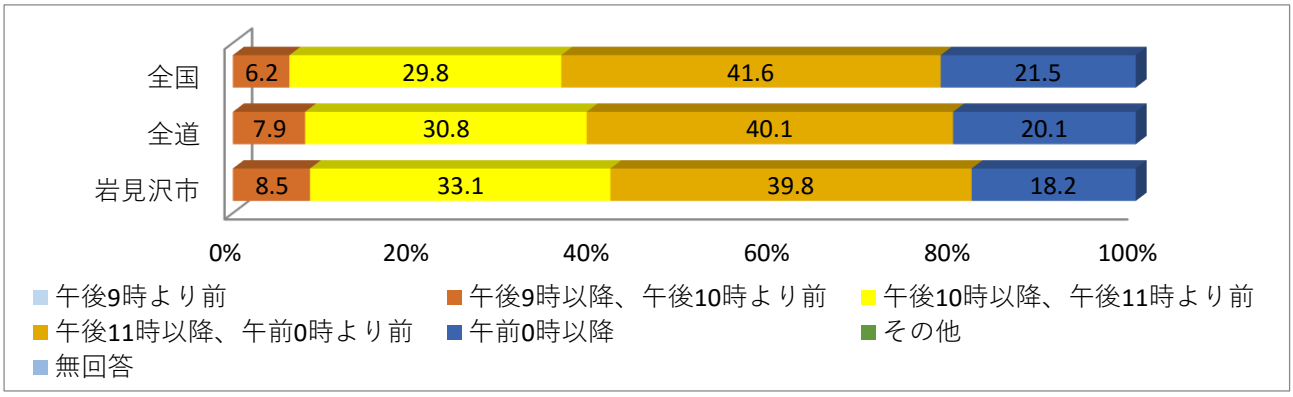
3.毎日，同じくらいの時刻に起きていますか



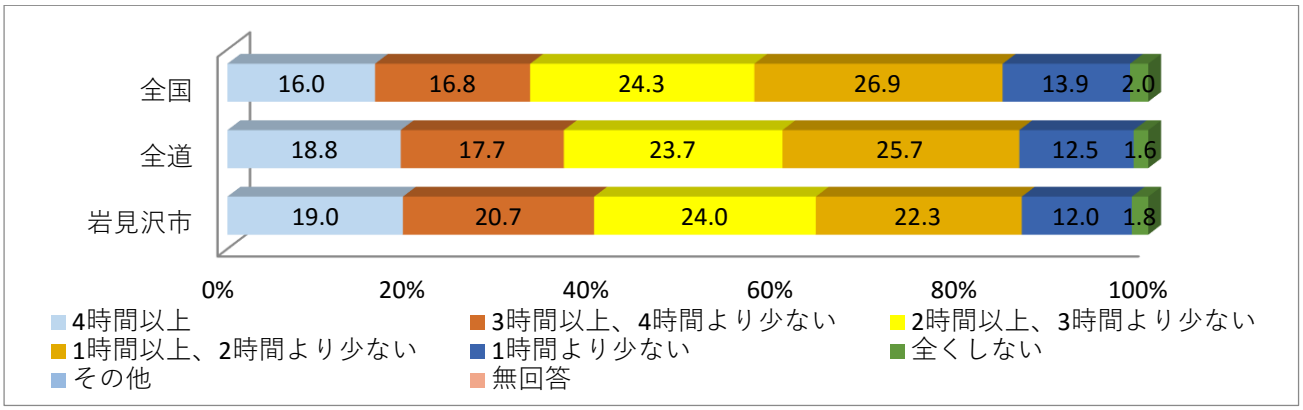


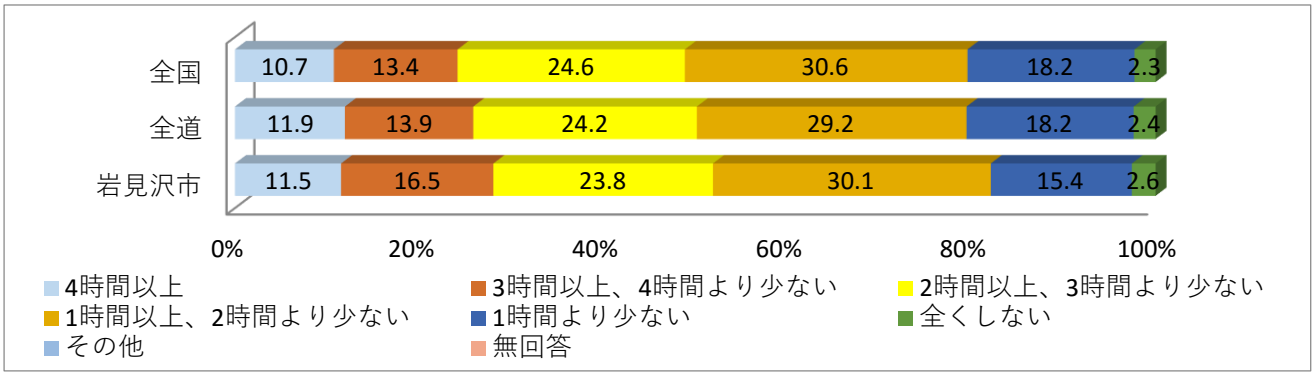
10.普段（月～金曜日），何時ごろに寝ますか



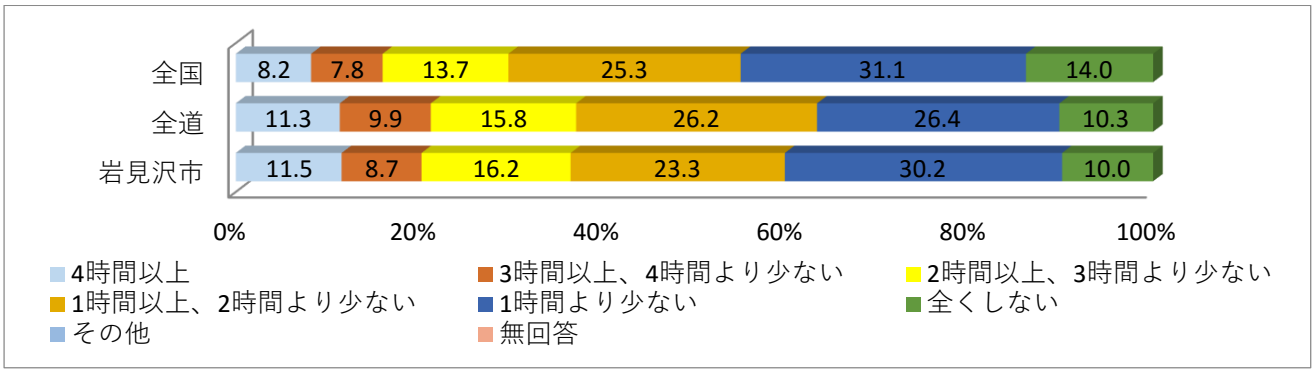


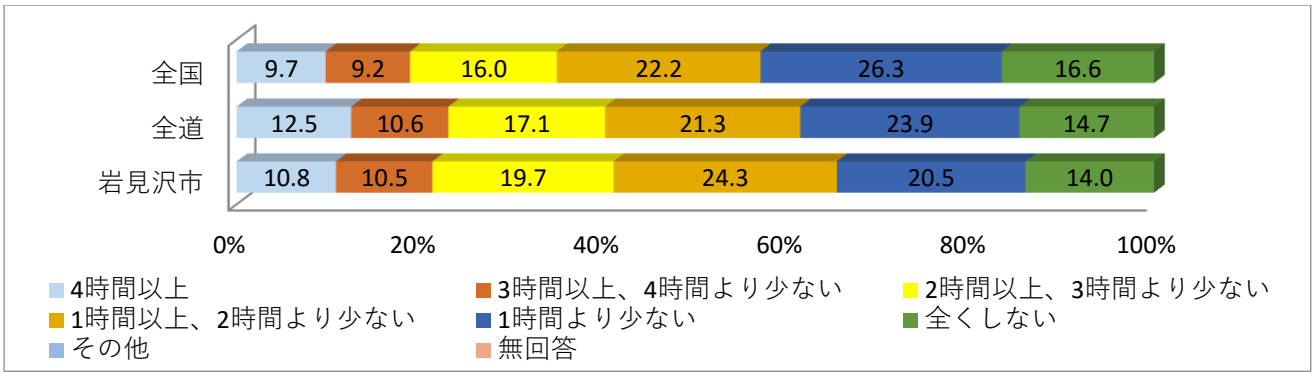
11. 普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり，聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・ＤＶＤを見る時間，テレビゲームをする時間は除く）



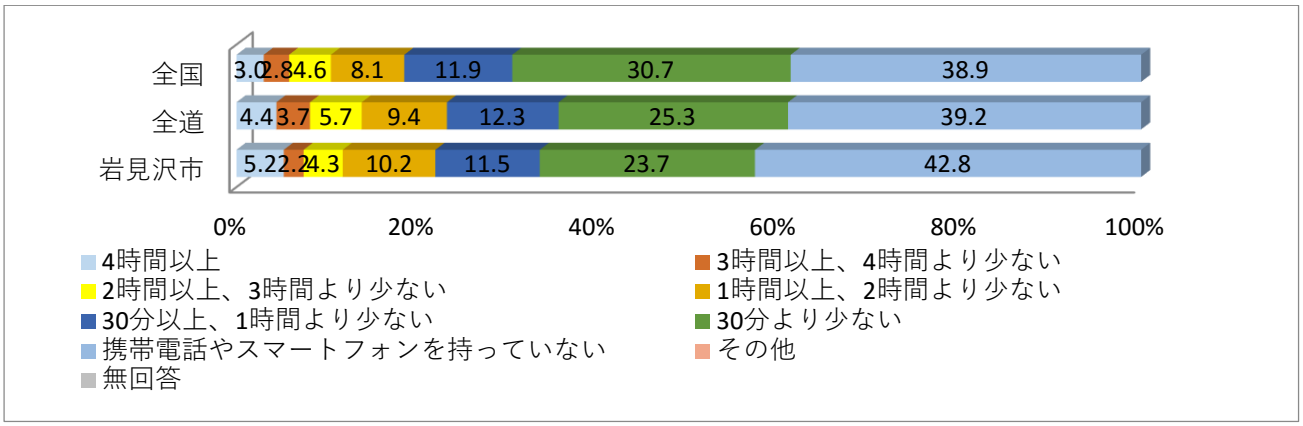


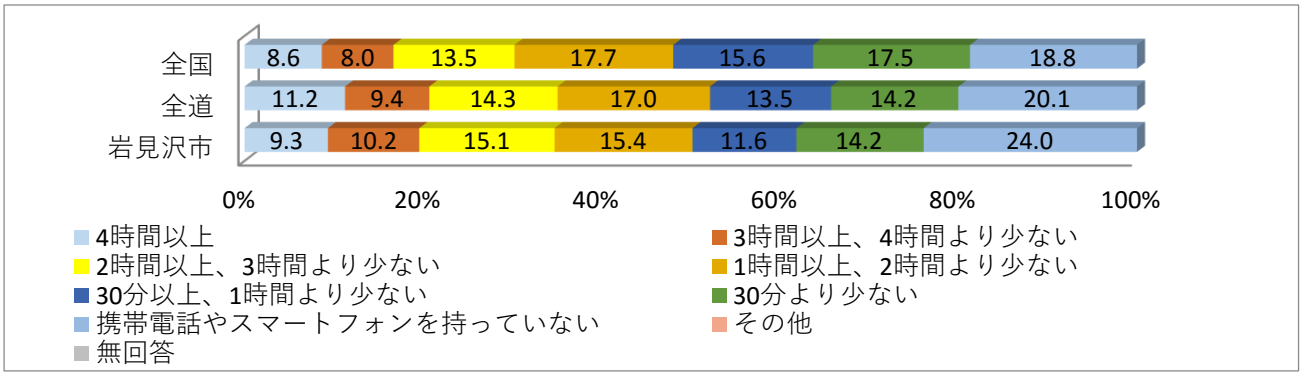
12.普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



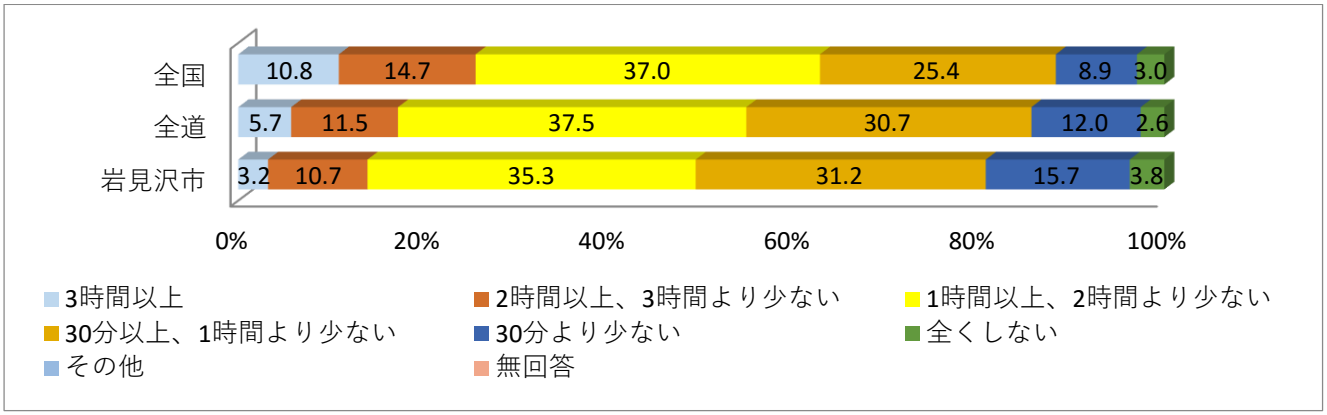


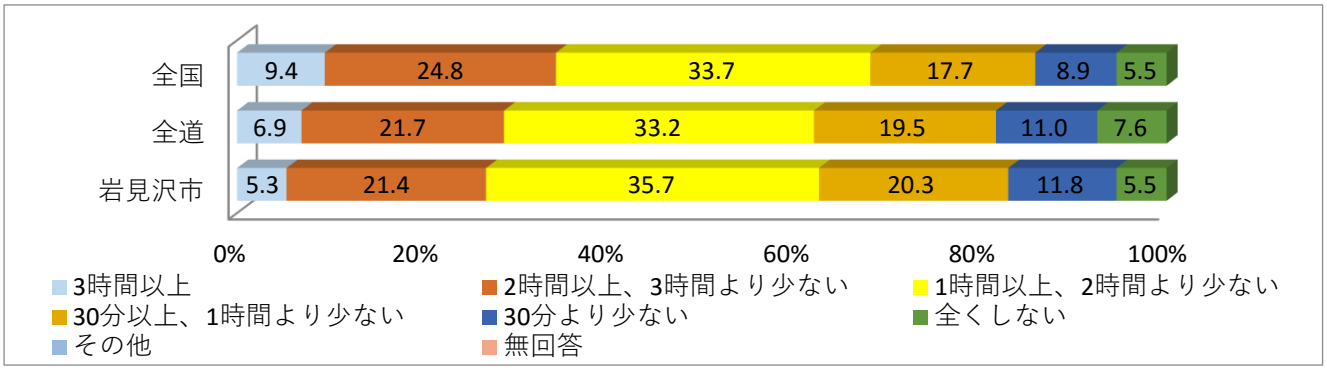
13.普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



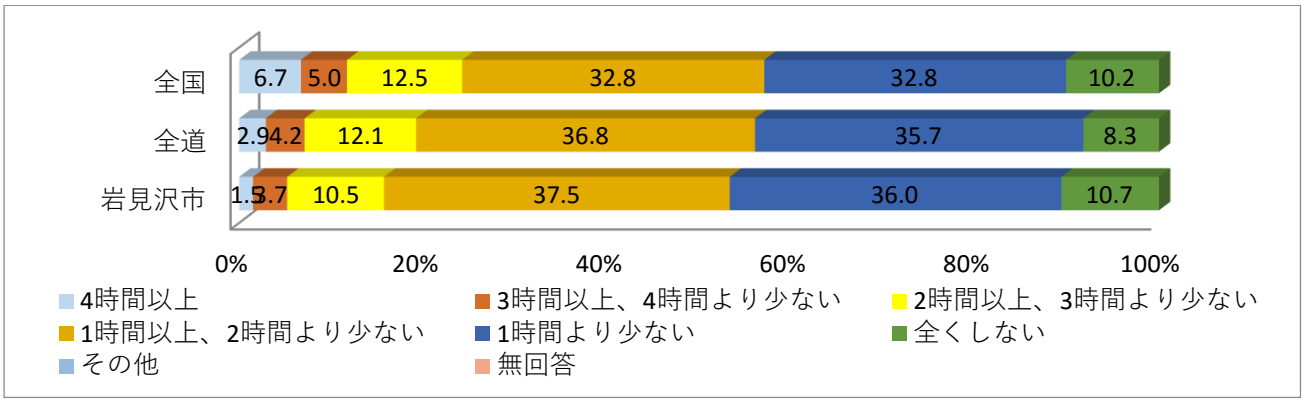


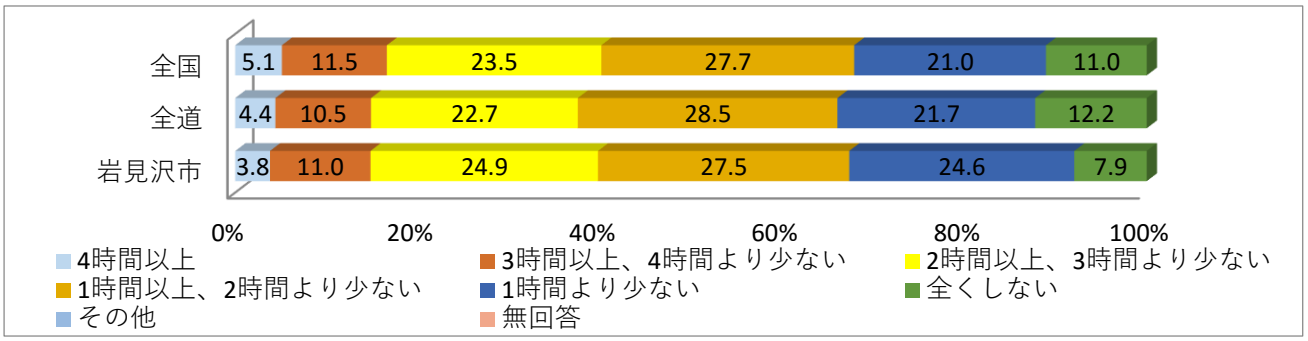
14.学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



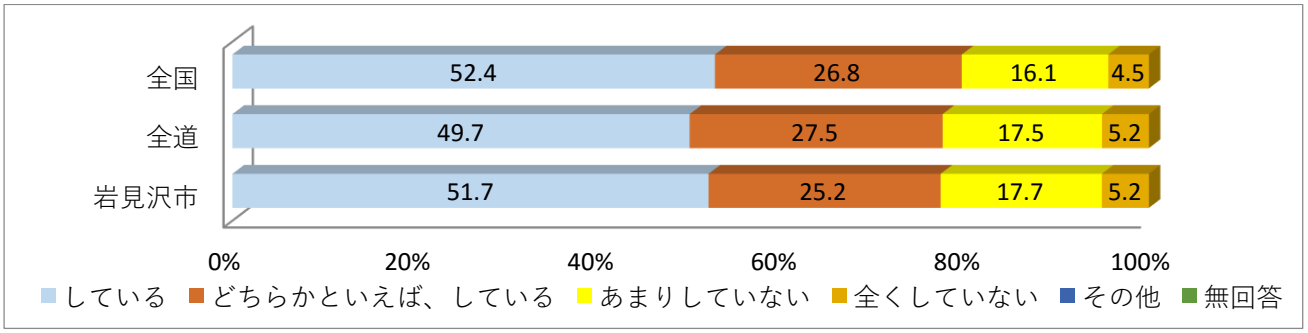


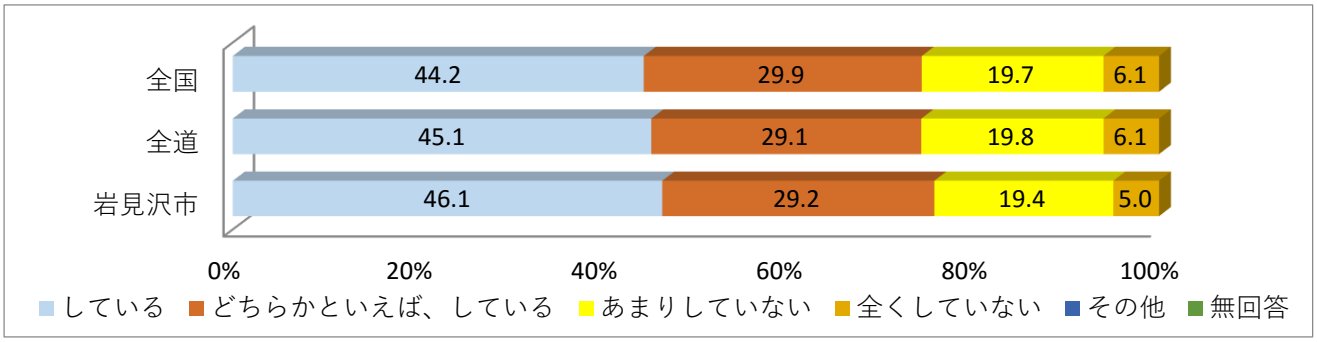
15.土曜日や日曜日など学校が休みの日に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



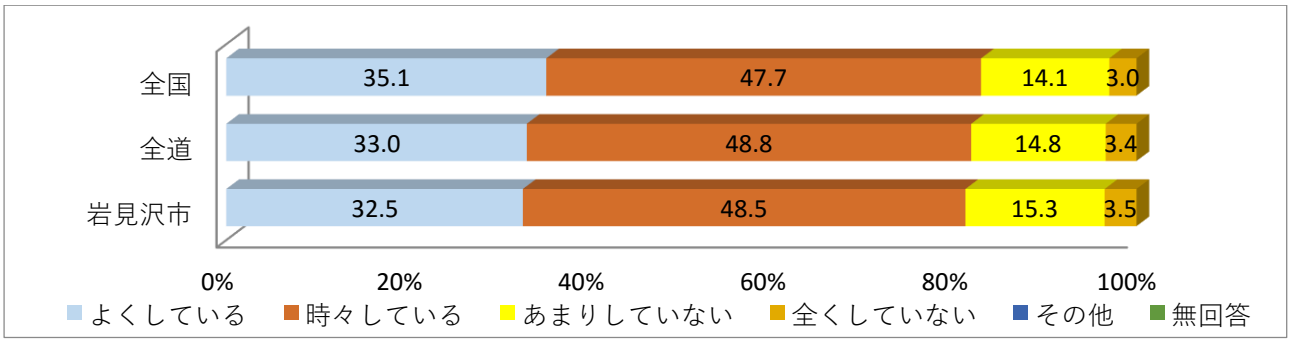


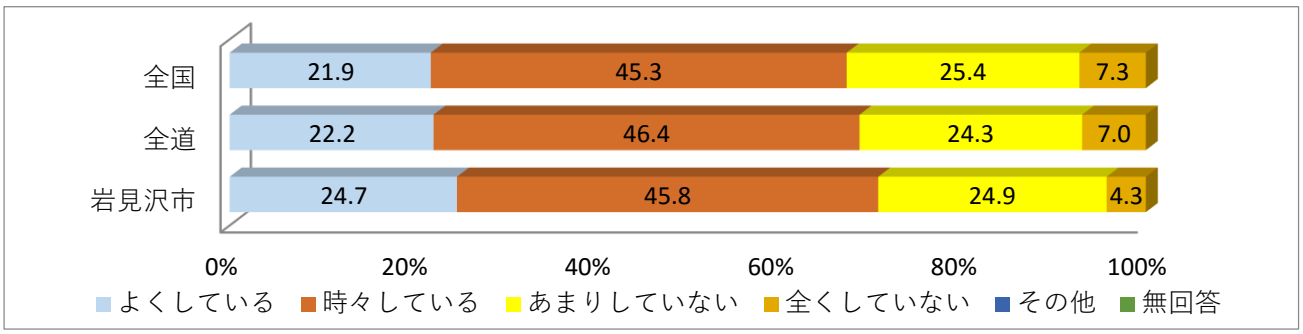
19.家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか





20.家の手伝いをしていますか

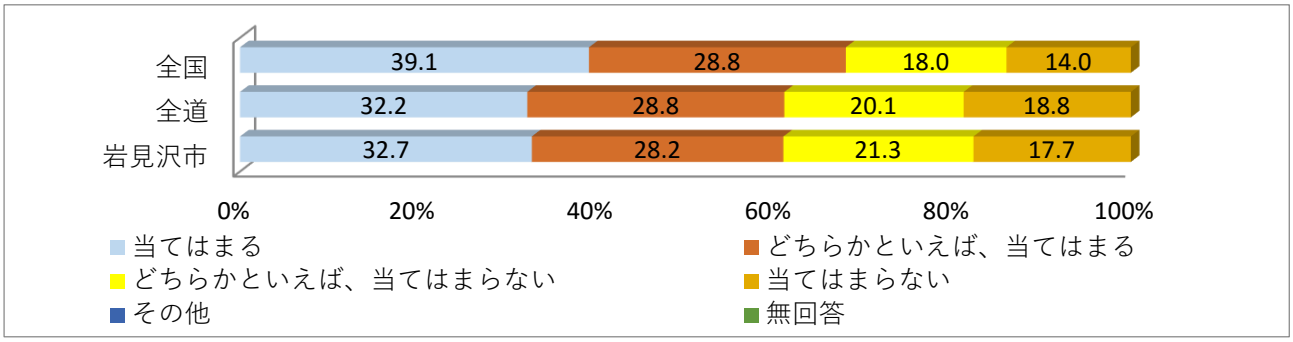


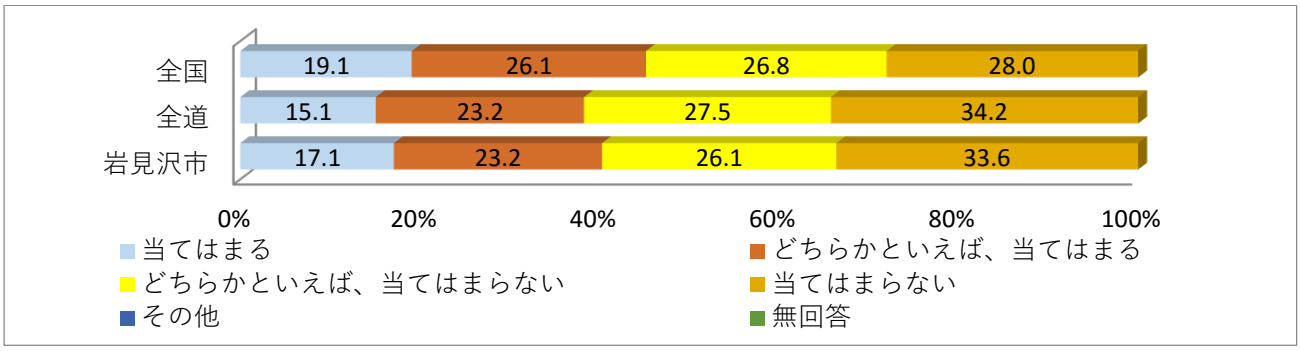


5　地域・社会に対する興味・関心等

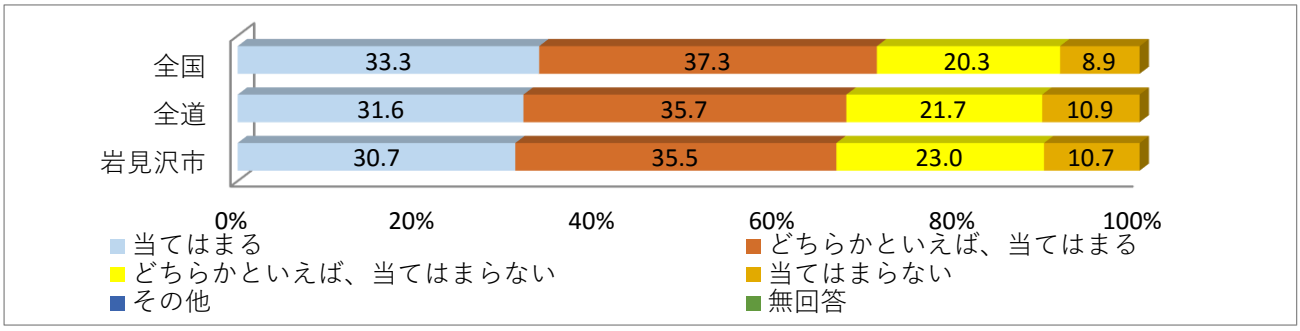
「今住んでいる地域の行事に参加しますか」と言う設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校では 7.0 ポイント、中学校では 4.9 ポイント下回る。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 4.4 ポイント下回り、中学校は 0.7 ポイント上回る。

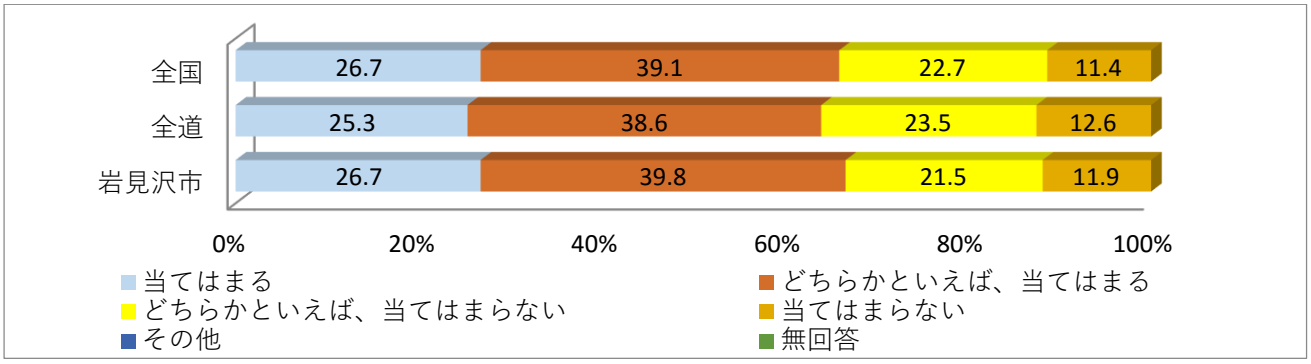
34.今住んでいる地域の行事に参加していますか





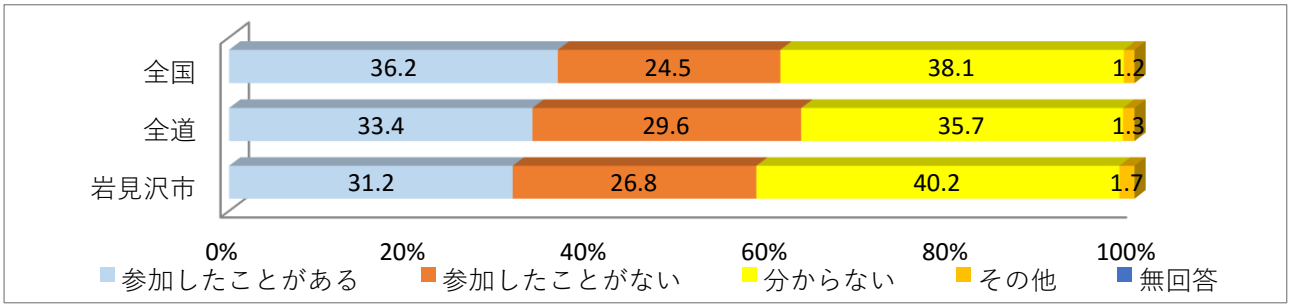
35.地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

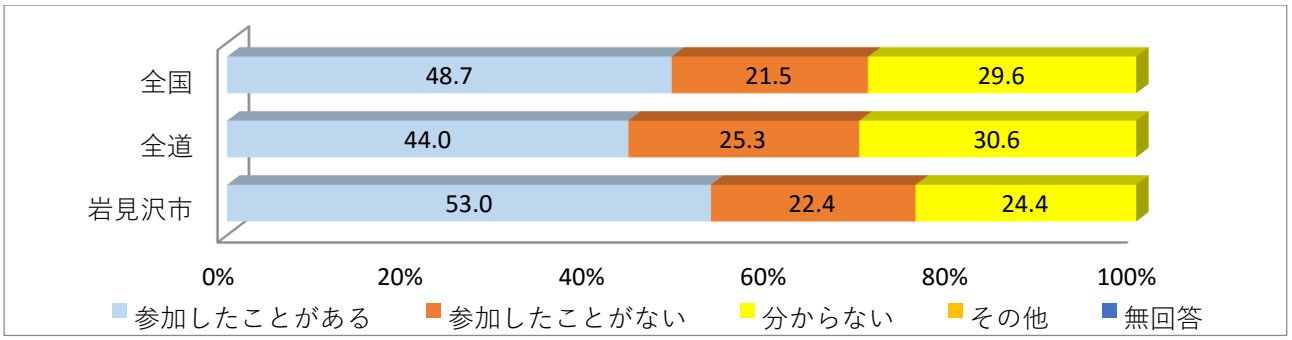




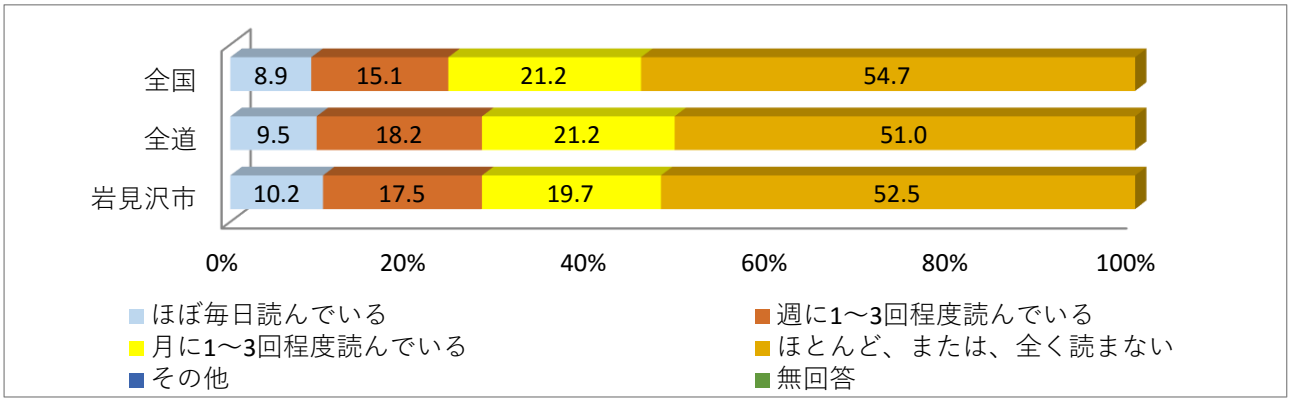
「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 2.7 ポイント下回り、中学校は 5.2 ポイント上回る。
「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 2.9 ポイント下回り、中学校は 2.8 ポイント上回る。

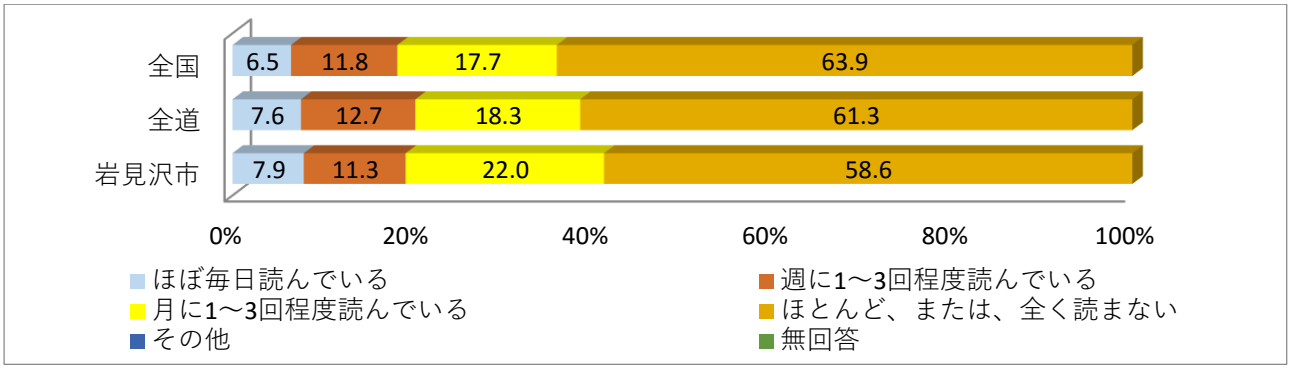
36.地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



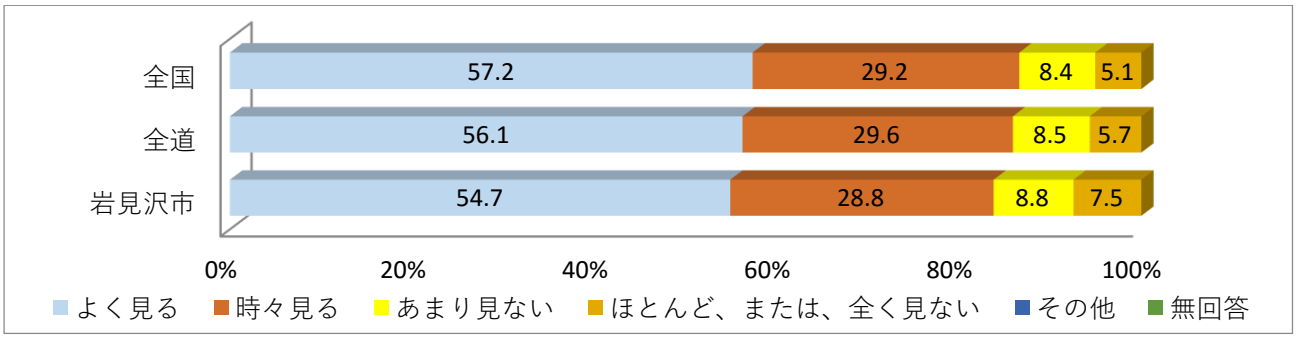


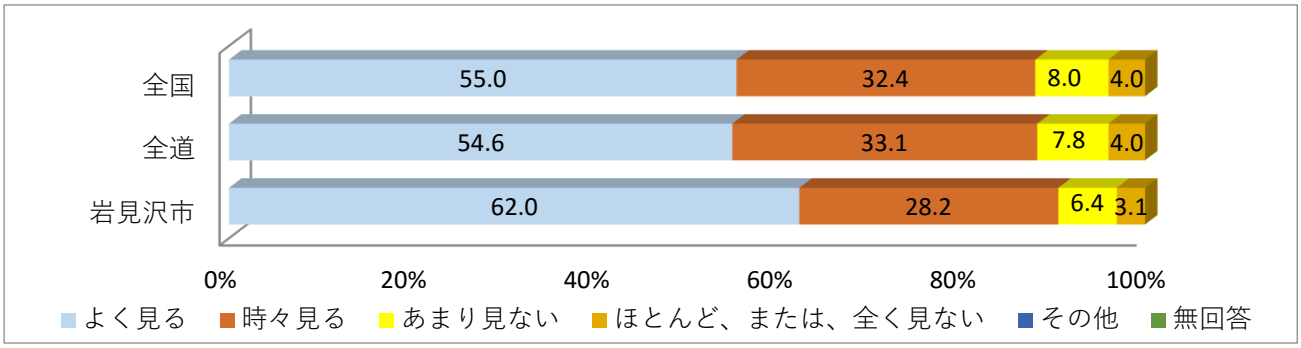
37.新聞を読んでいますか





38.テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）

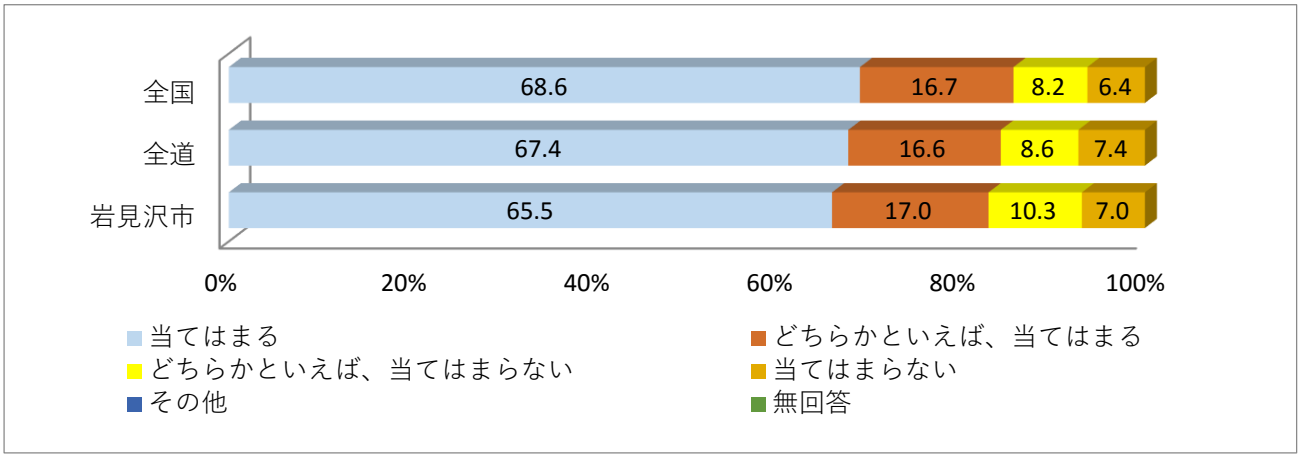


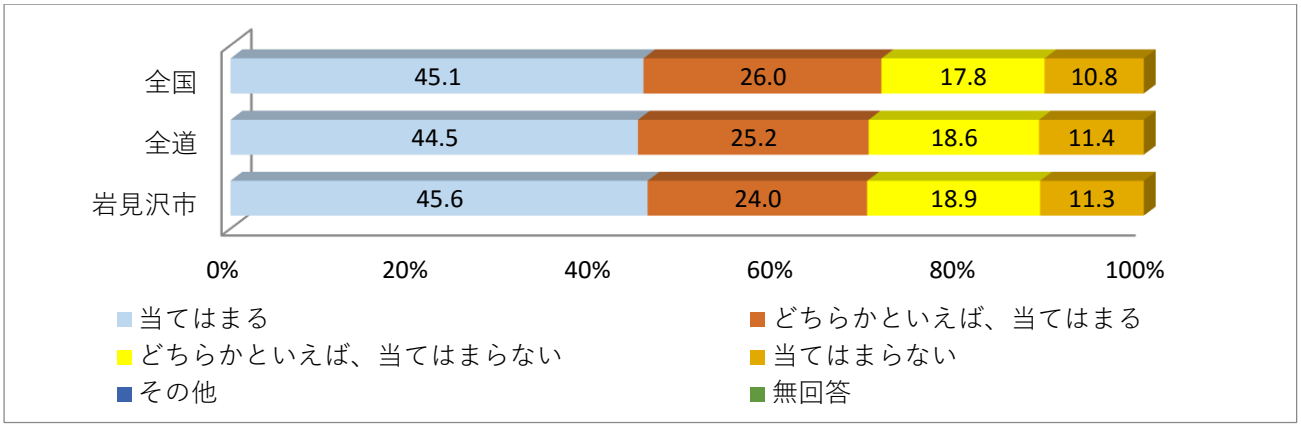


６　将来に関する意識

「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対し、肯定的な回答をしたのは全国に対し、小学校は 2.8 ポイント、中学校は 1.5 ポイント下回る。

９．将来の夢や目標を持っていますか

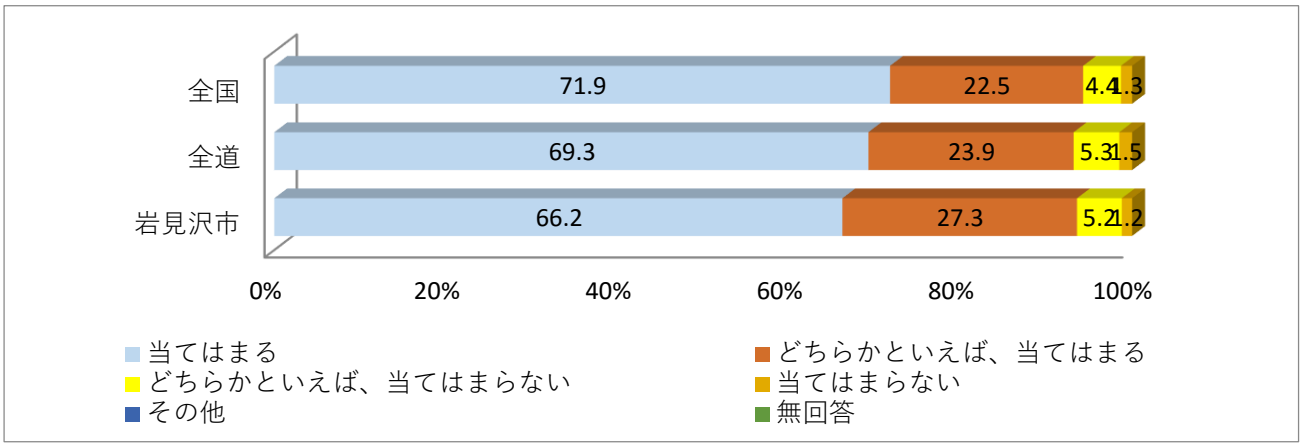


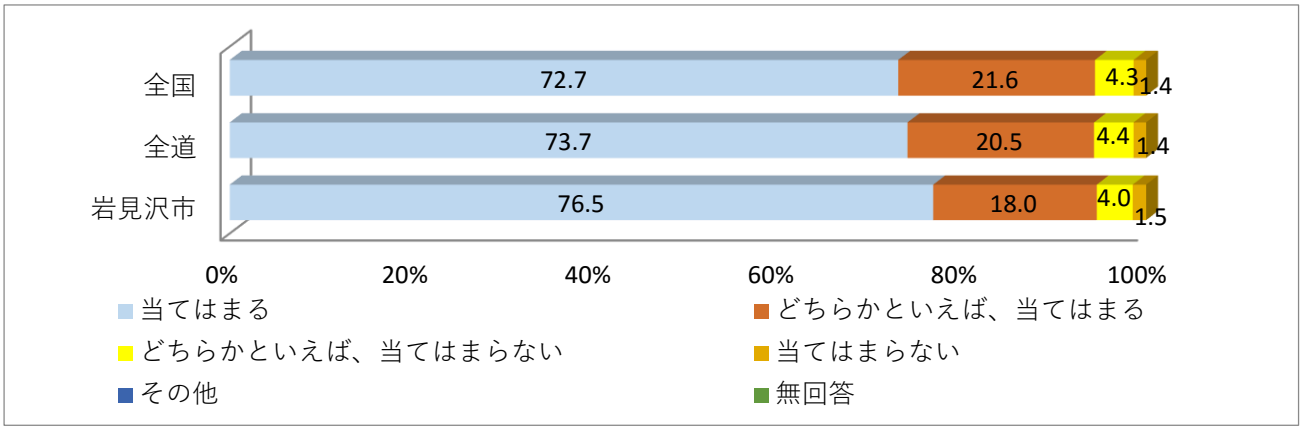


7　自尊・規範意識等

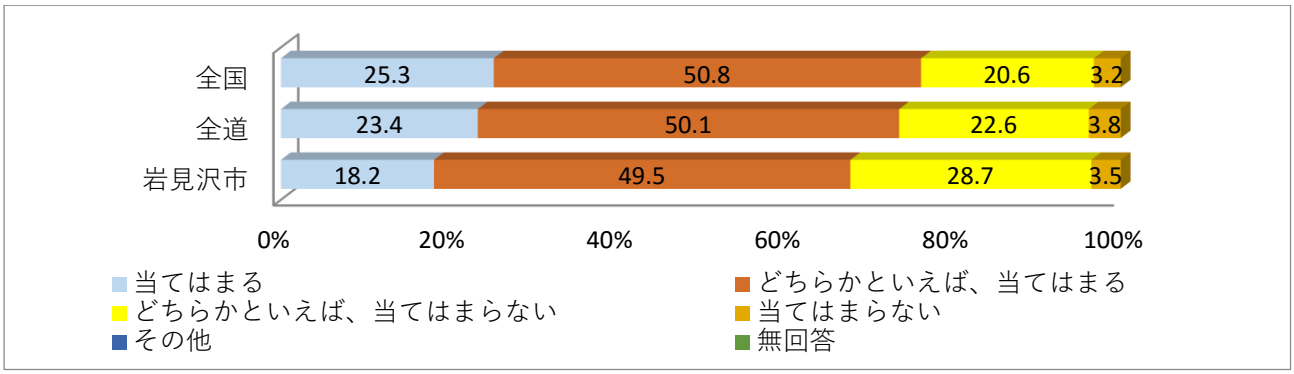
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という設問対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 0.9 ポイント下回り、中学校は 0.2 ポイント上回る。
「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国平に対し、小学校は 8.4 ポイント下回り、中学校は 2.0 ポイント上回る。
「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 6.5 ポイント下回り、中学校は 1.6 ポイント上回る。
「学校のきまりを守っていますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 4.5 ポイント下回り、中学校では 1.2 ポイント上回る。
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 2.5 ポイント下回り、中学校は 0.5 ポイント上回る。

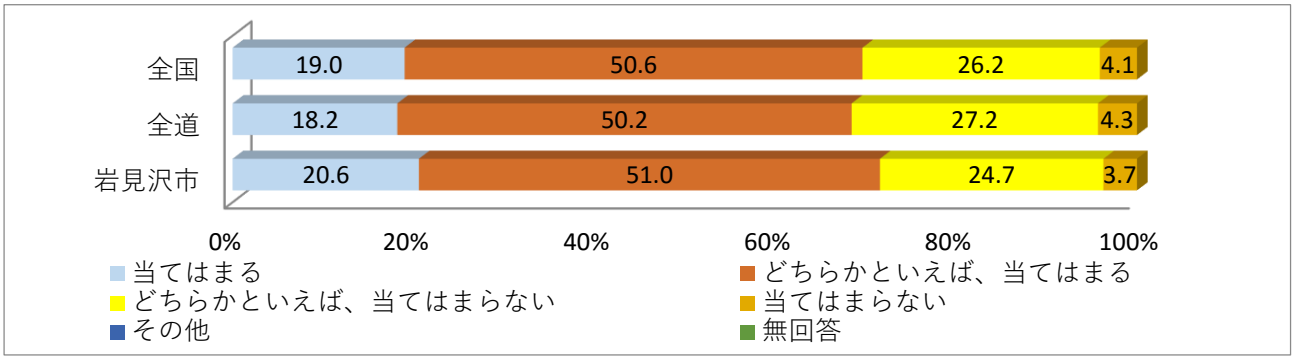
4．ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがありますか



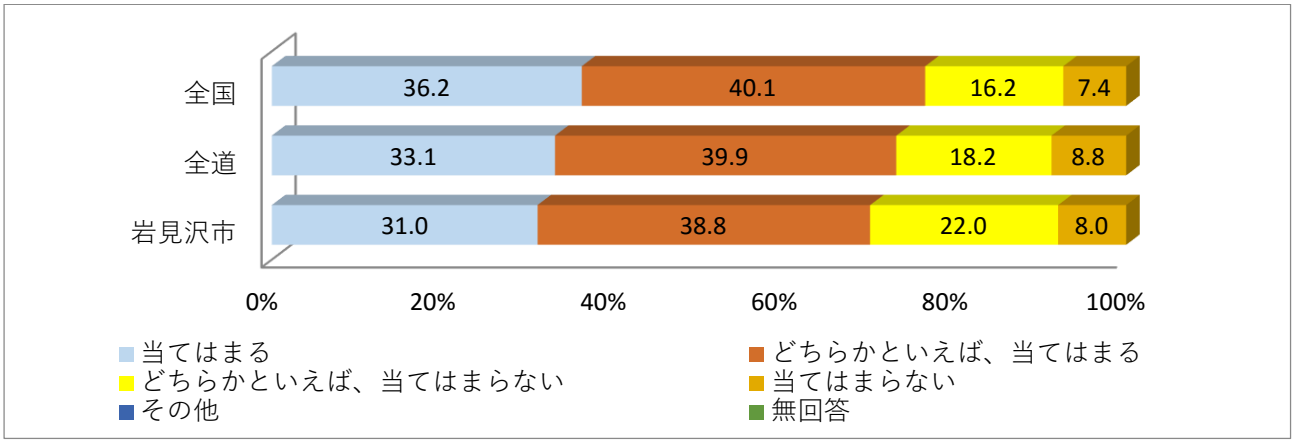


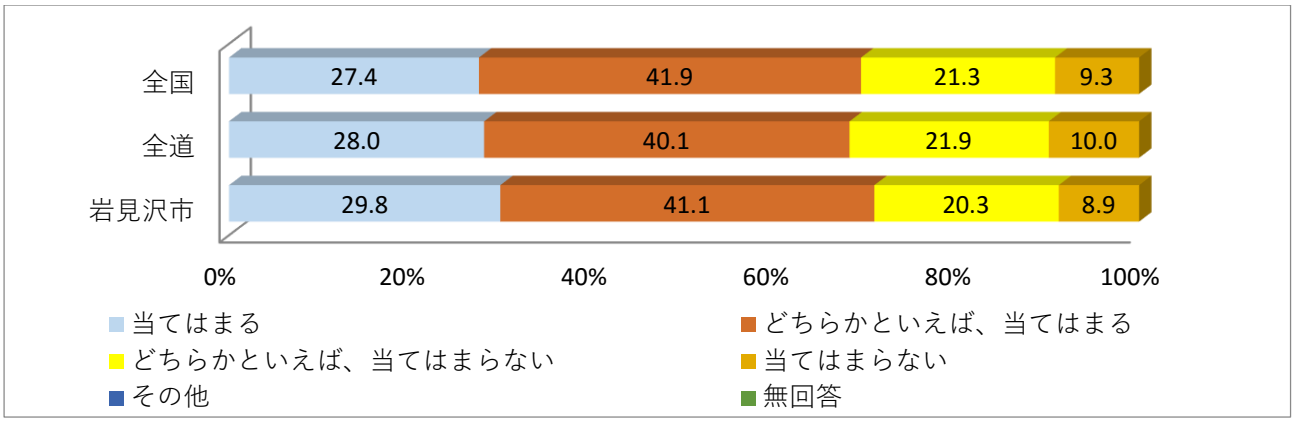
5．難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか



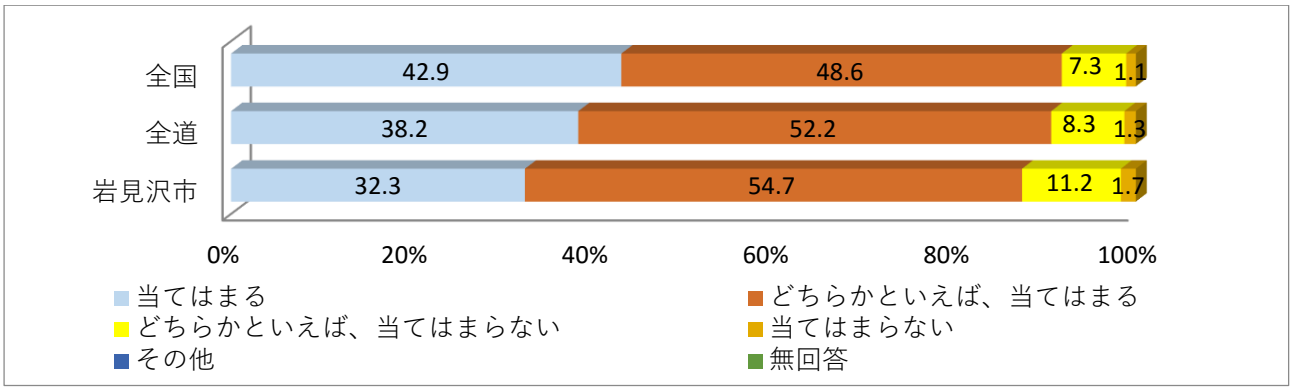


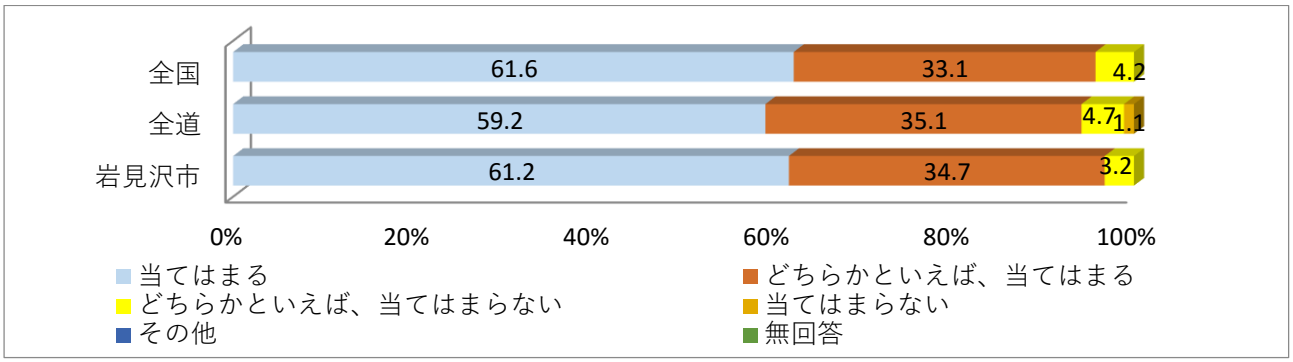
6．自分には，よいところがあると思いますか



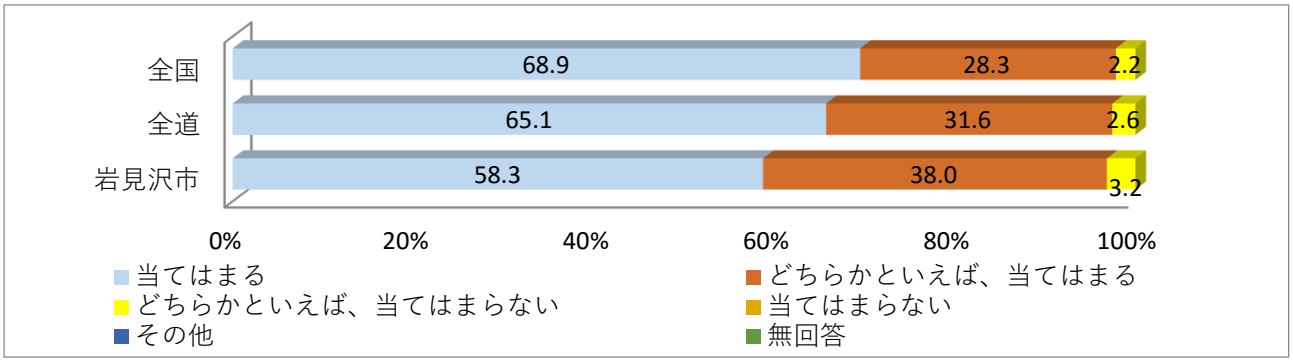


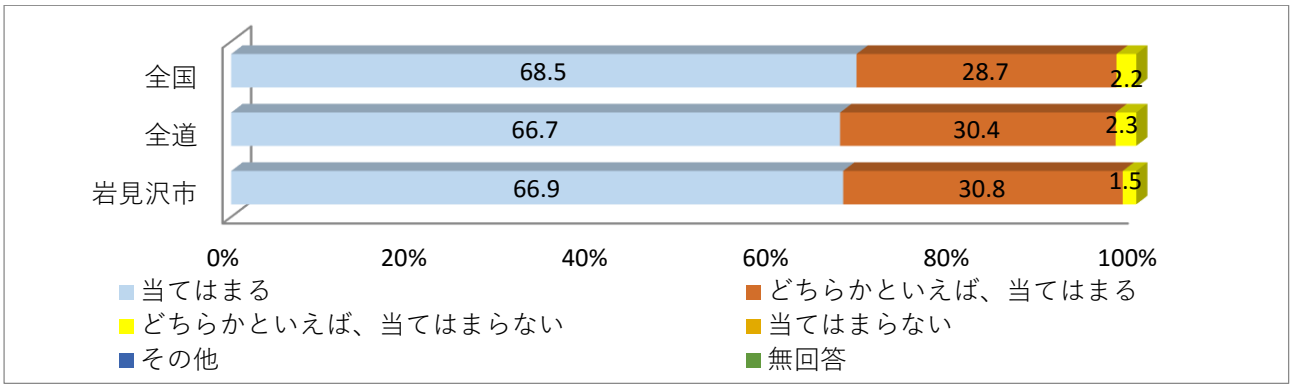
39.学校のきまりを守っていますか



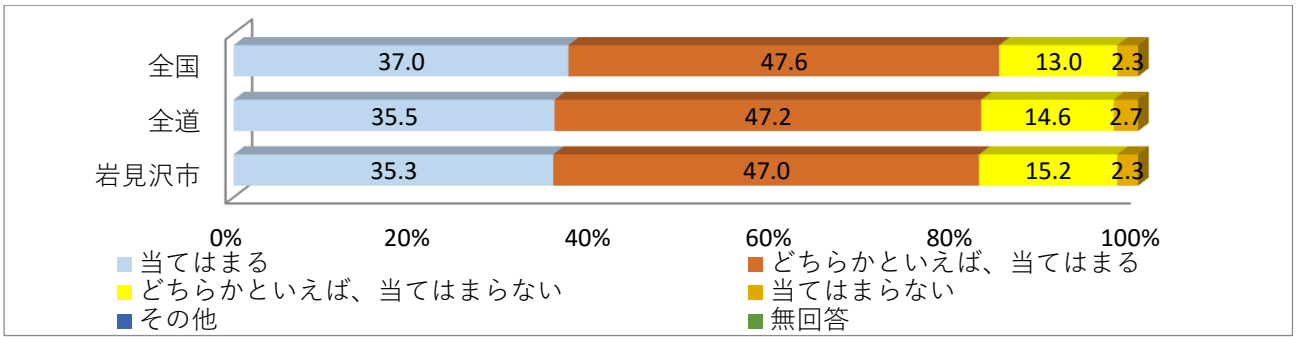


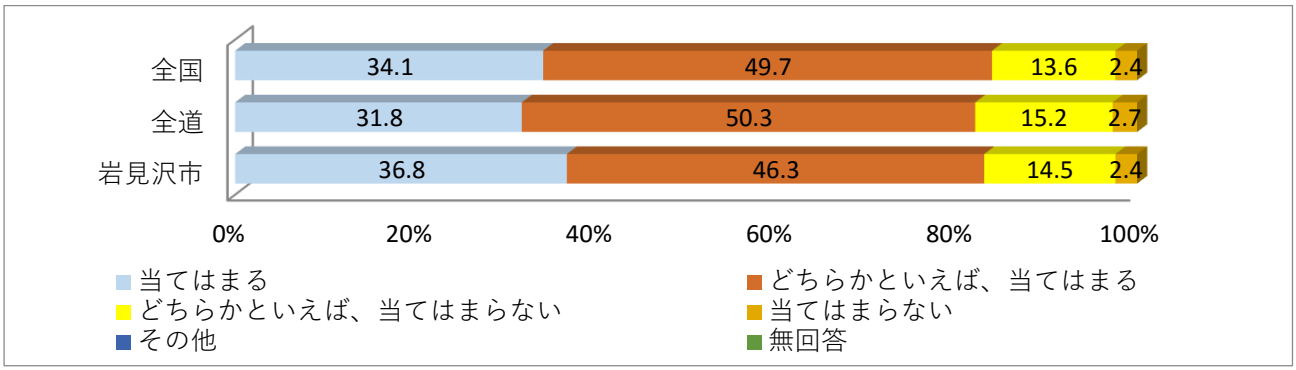
40.友達との約束を守っていますか



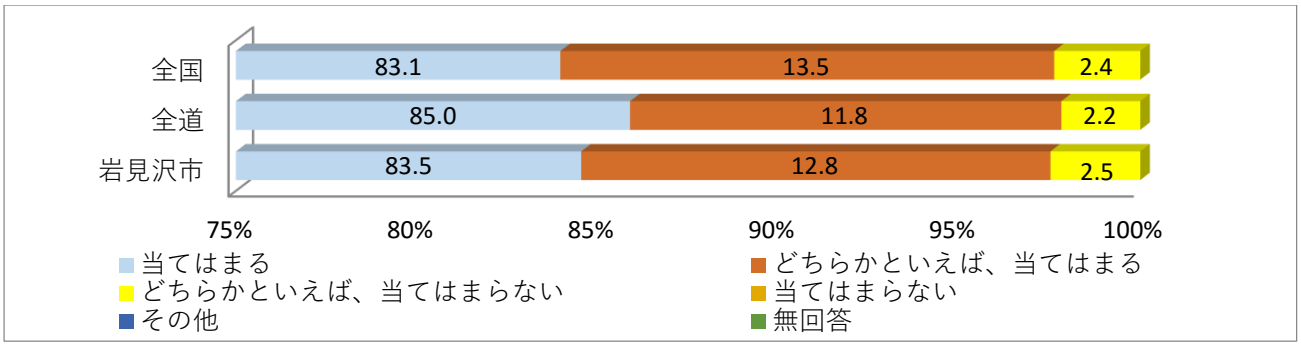


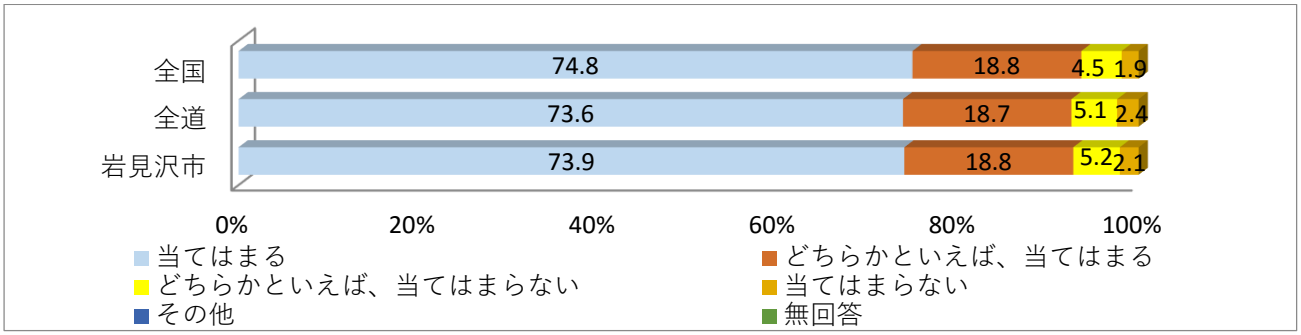
41.人が困っているときは，進んで助けていますか



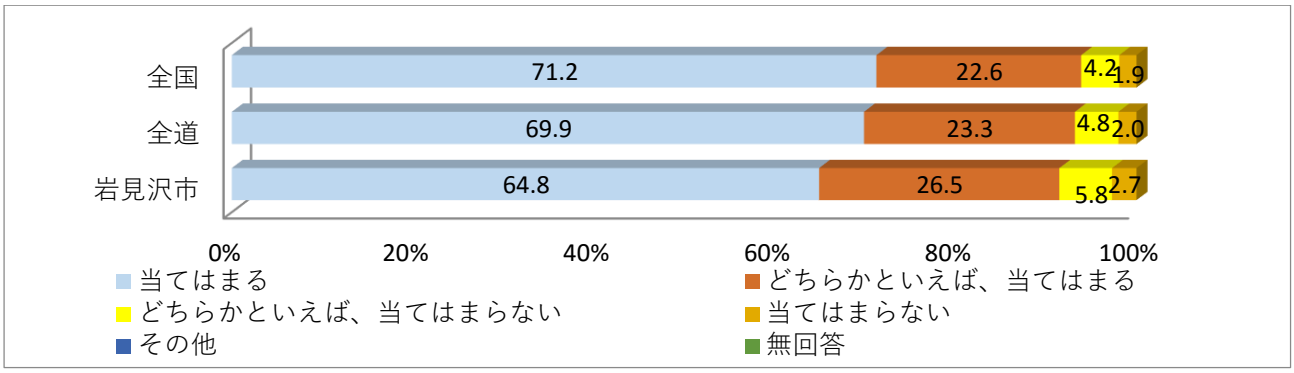


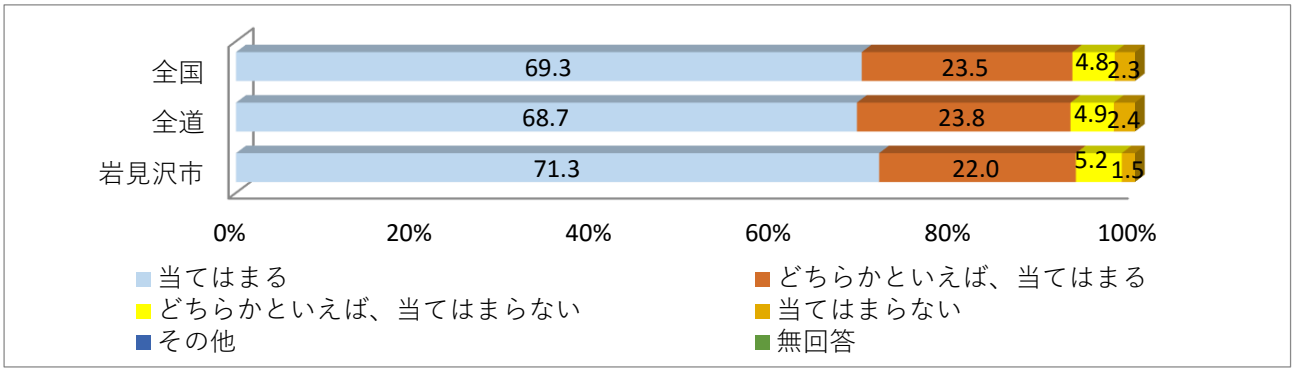
42.いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか





43.人の役に立つ人間になりたいと思いますか

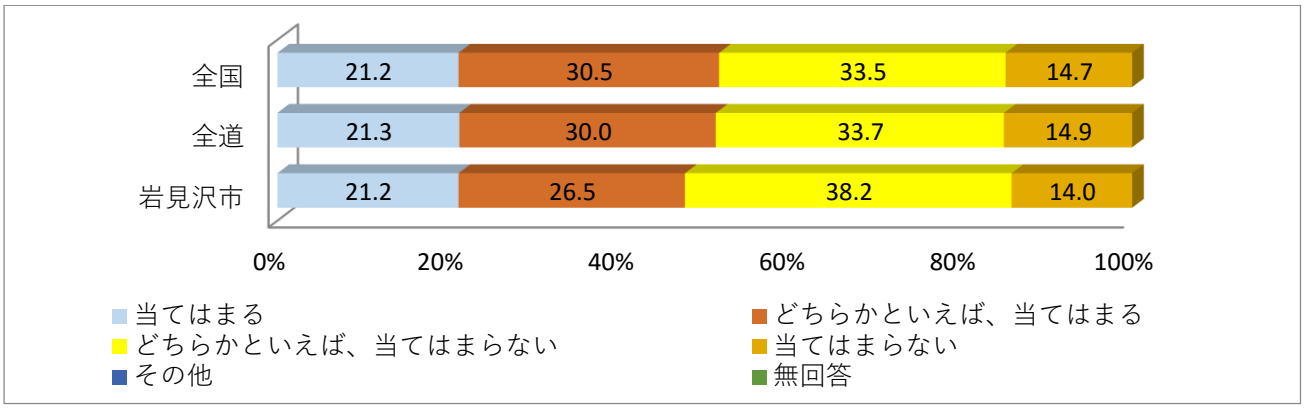


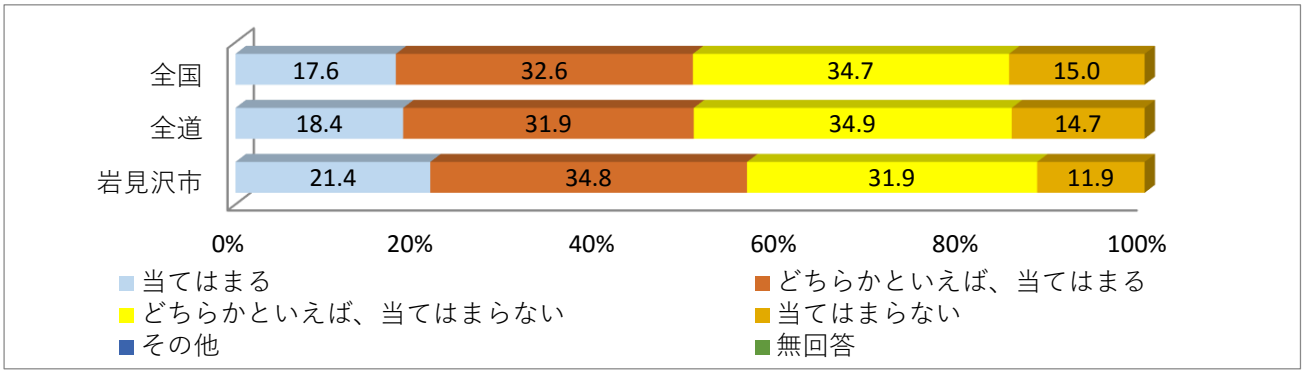


８　主体的な学び

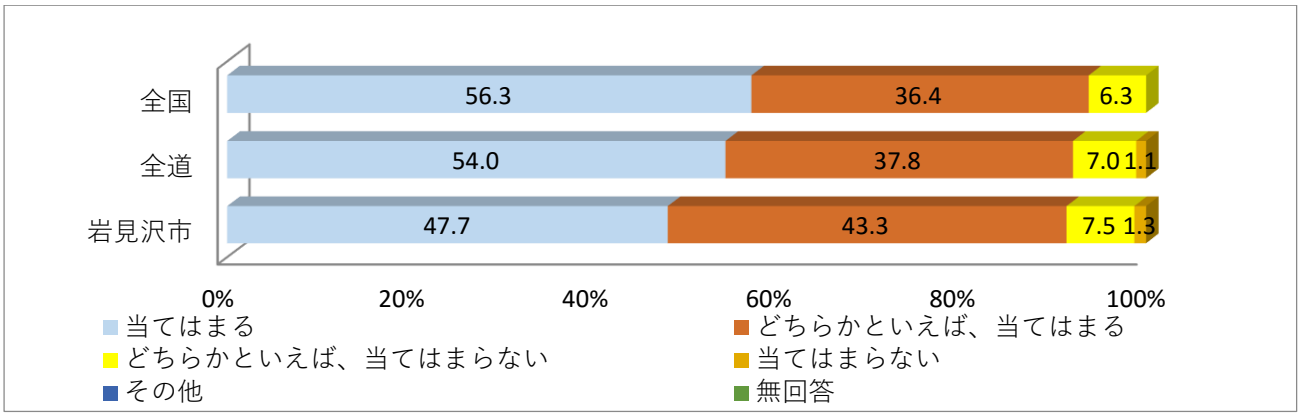
「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 4.0 ポイント下回り、中学校は 6.0 ポイント上回る。
「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 1.7 ポイント下回り、中学校は 0.2 ポイント上回る。
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問に対し、肯定的な回答は全国に対し、小学校は 2.5 ポイント下回り、中学校は 4.0 ポイント上回る。
「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」という設問に対し、自分で調べると回答したものは全国に対し、小学校は 1.2 ポイント、中学校は 5.9 ポイント上回る。

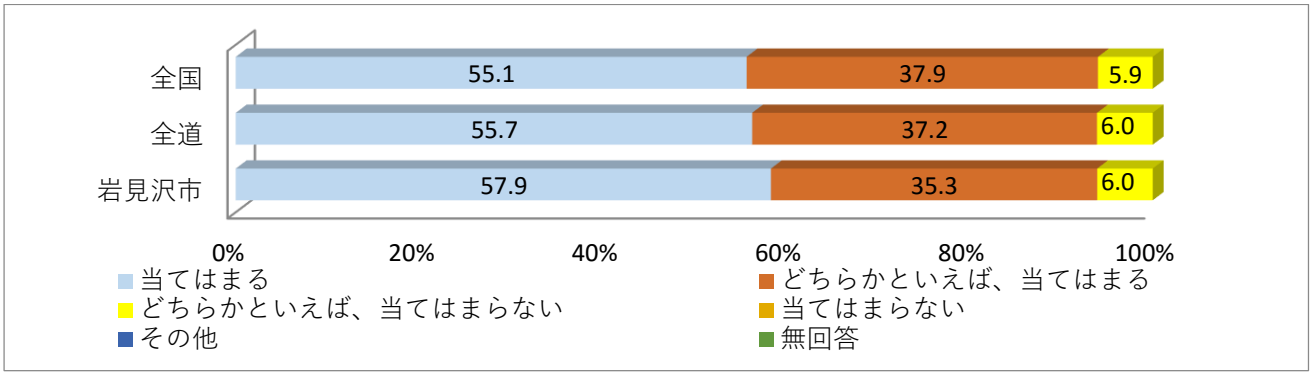
７．友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか



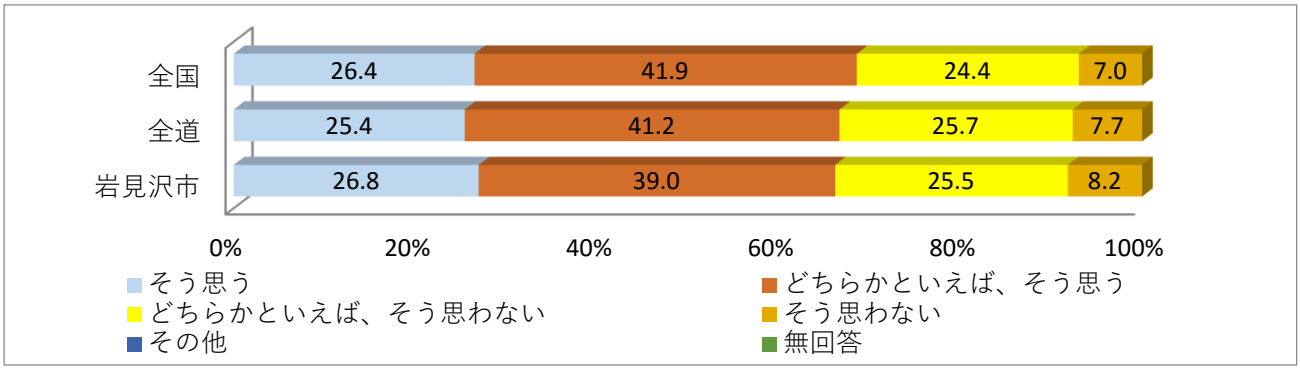


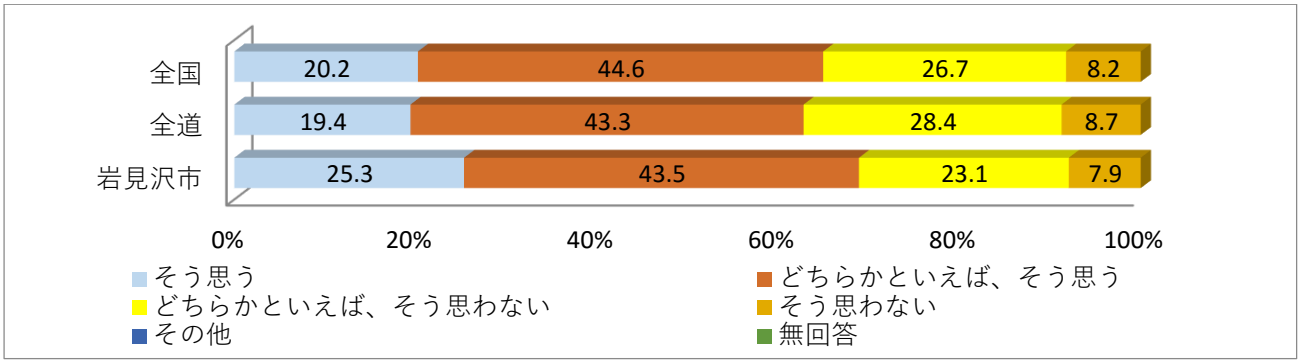
8．友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができますか



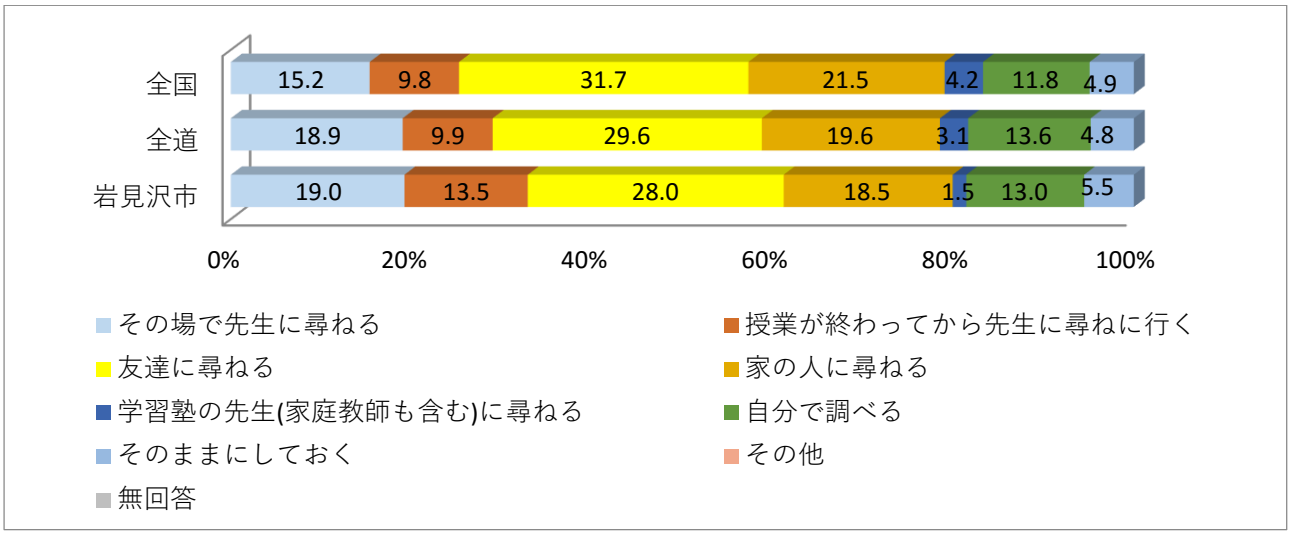


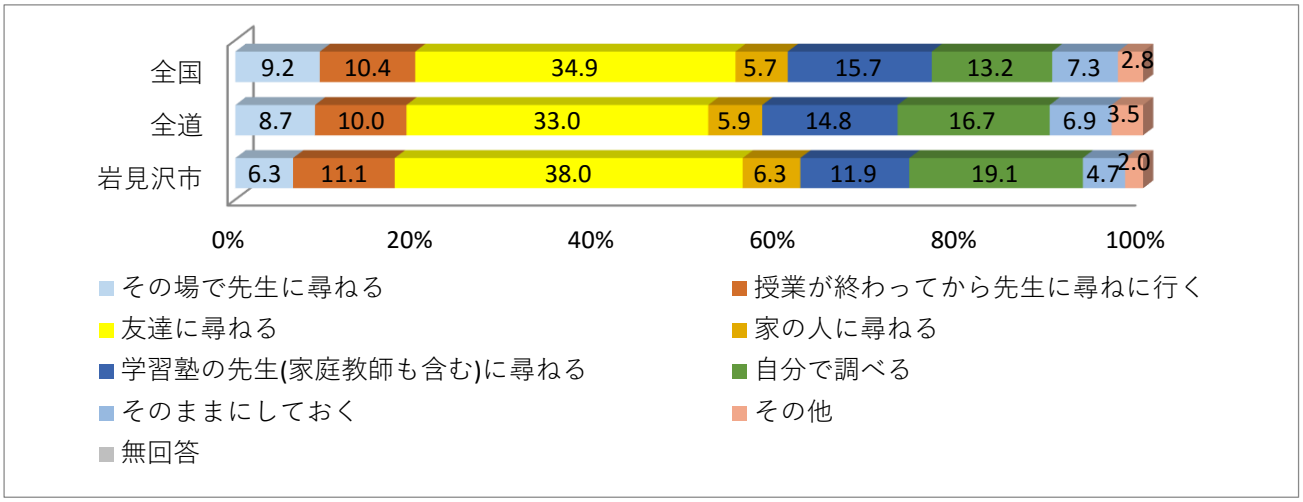
59.学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか





60.授業の中で分からないことがあったら，どうすることが多いですか

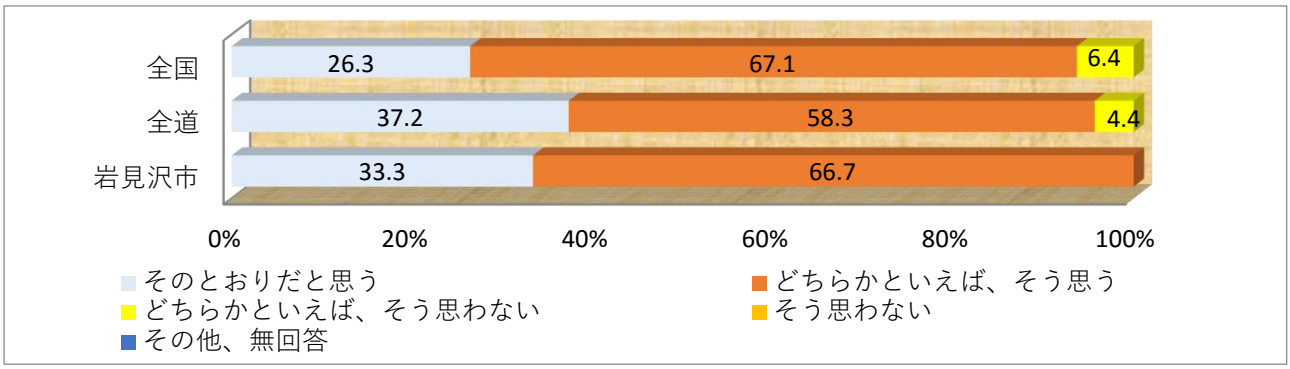


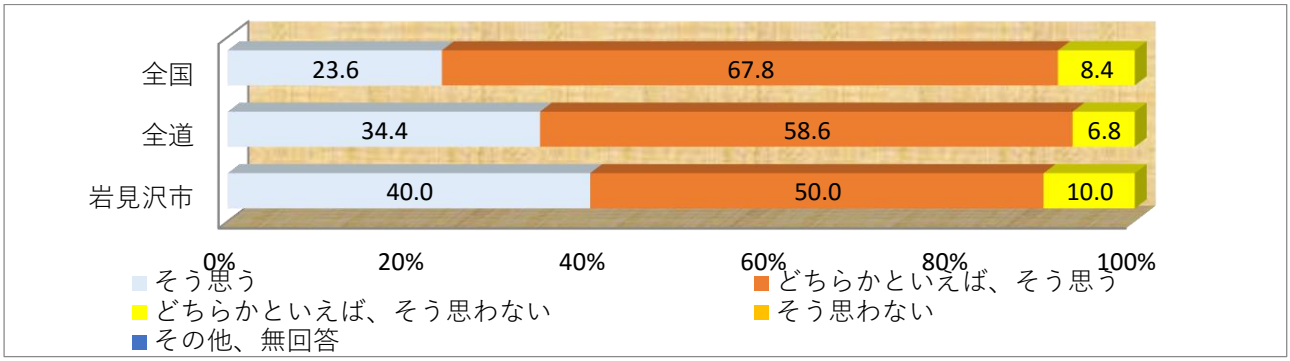


《学校質問紙》

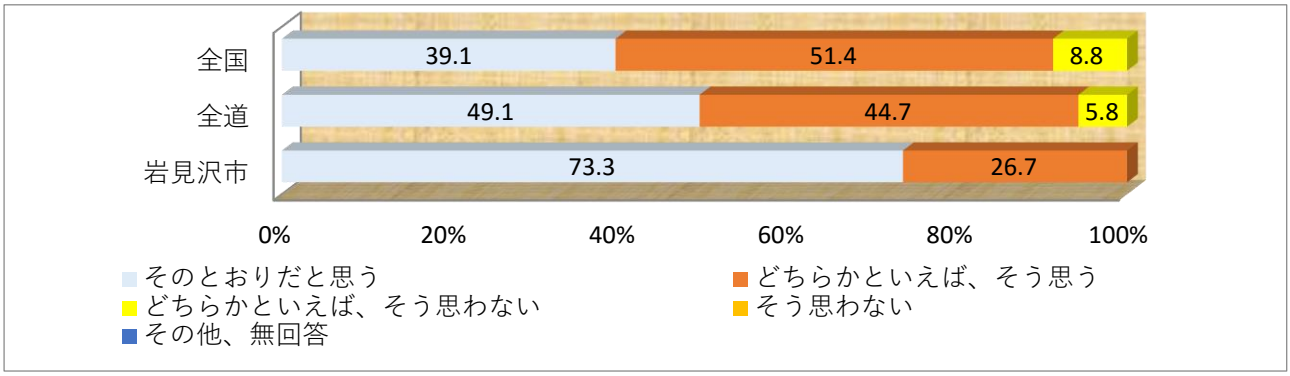
1　学習態度

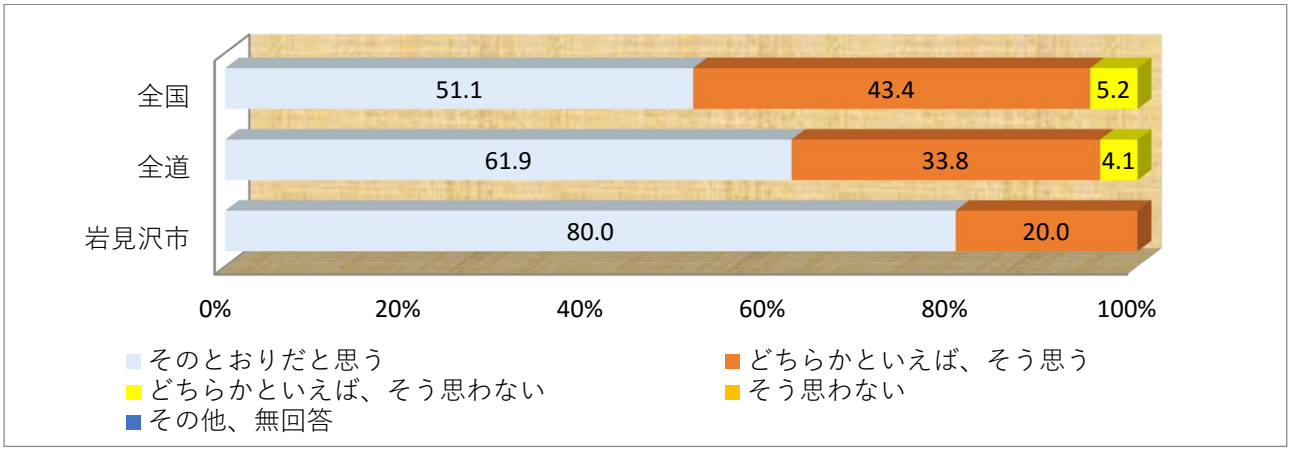
１４．対象学年の児童（生徒）は，熱意をもって勉強していると思いますか



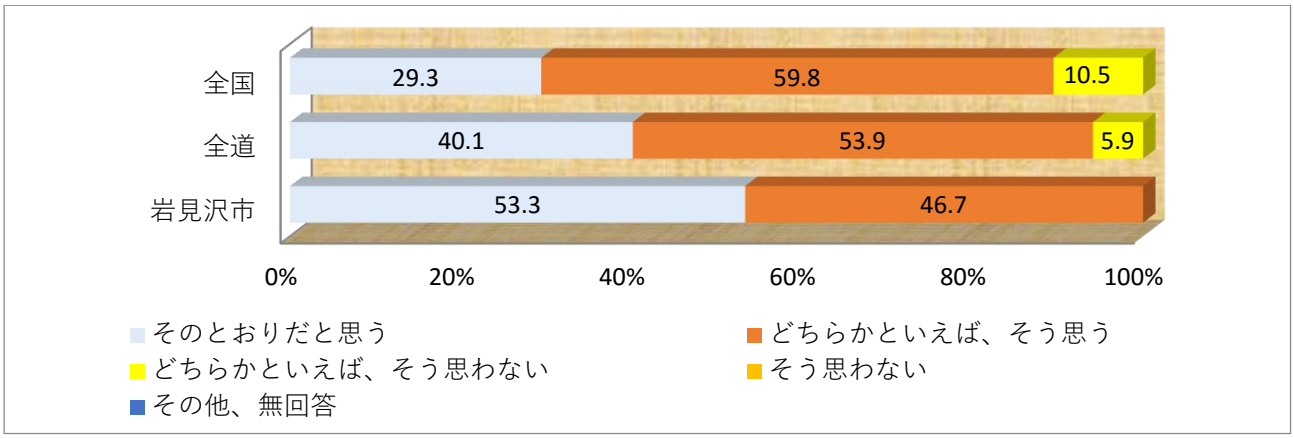


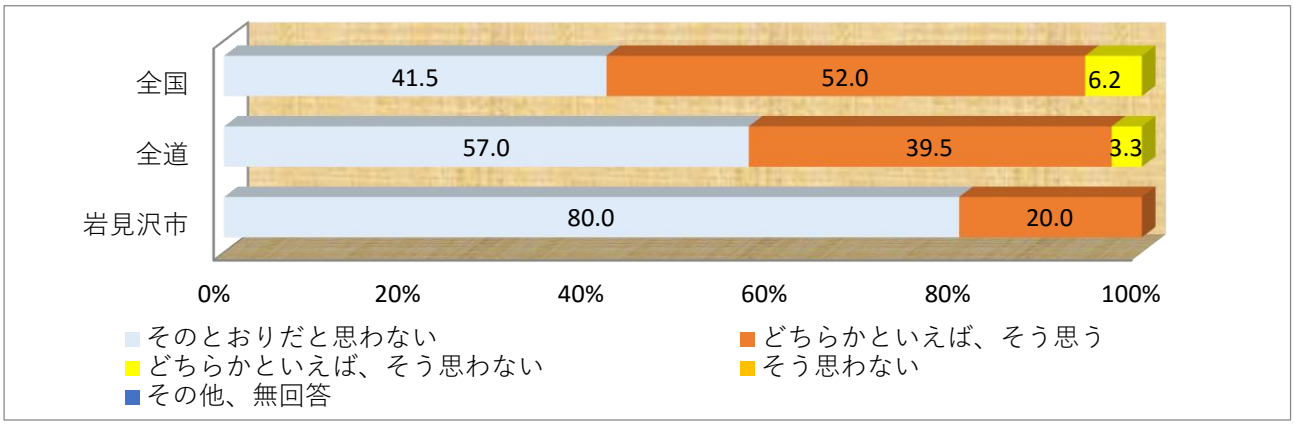
１５．調査対象学年の児童（生徒）は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか





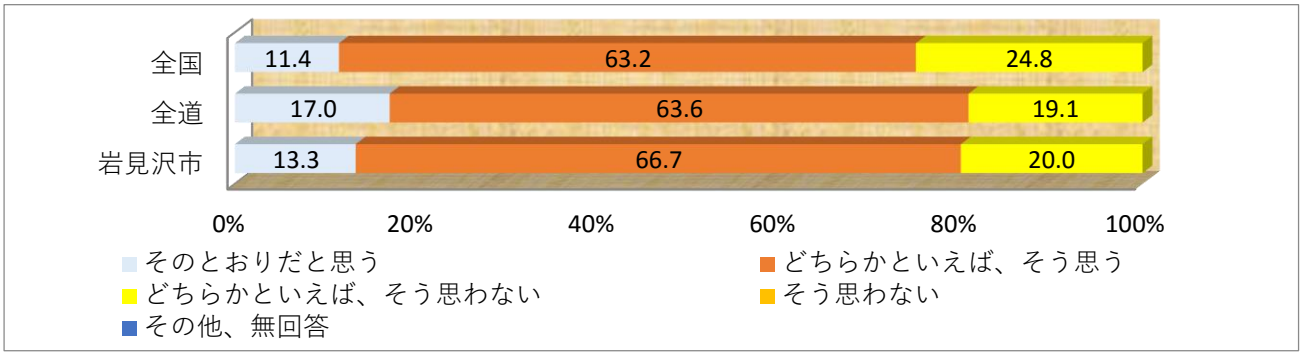
１６．調査対象学年の児童（生徒）は，礼儀正しいと思いますか

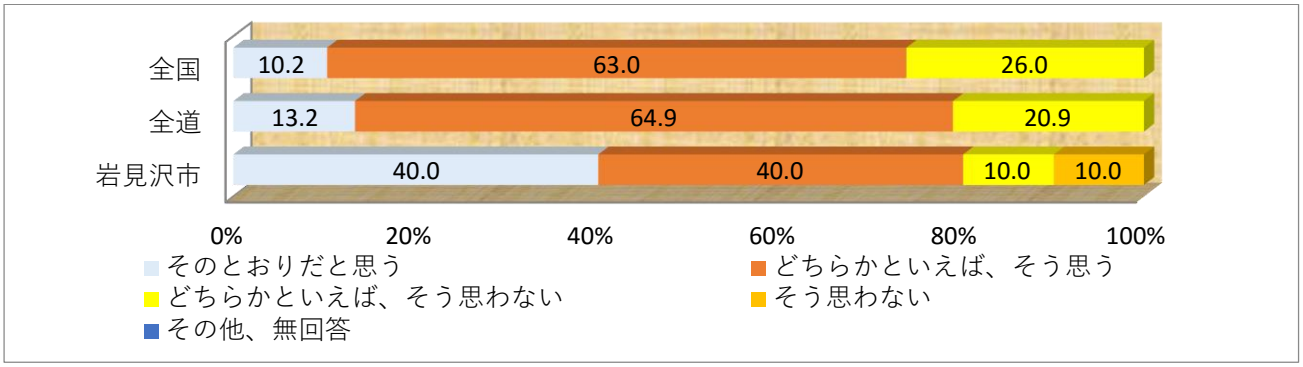




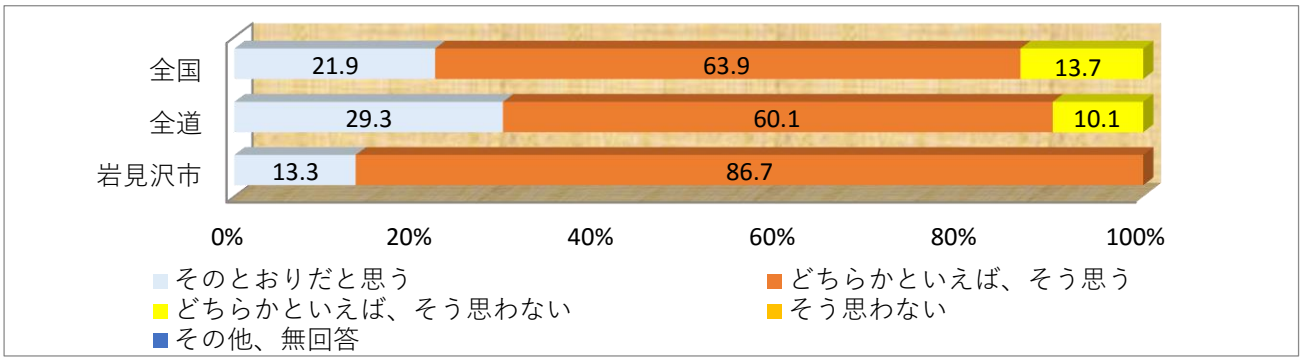
２　主体的な学び

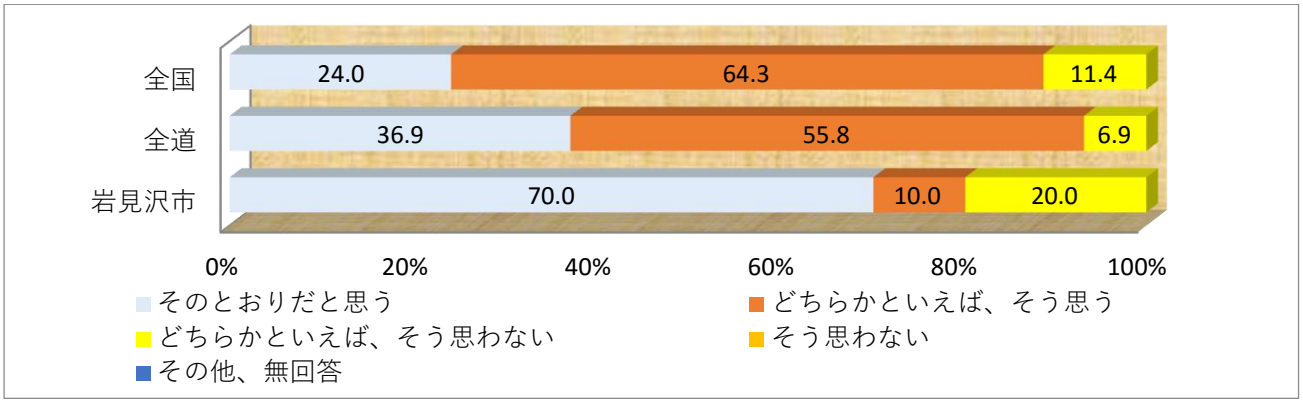
１７．査対象学年の児童（生徒）は，学級やグループでの話合いなどの活動で，自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか



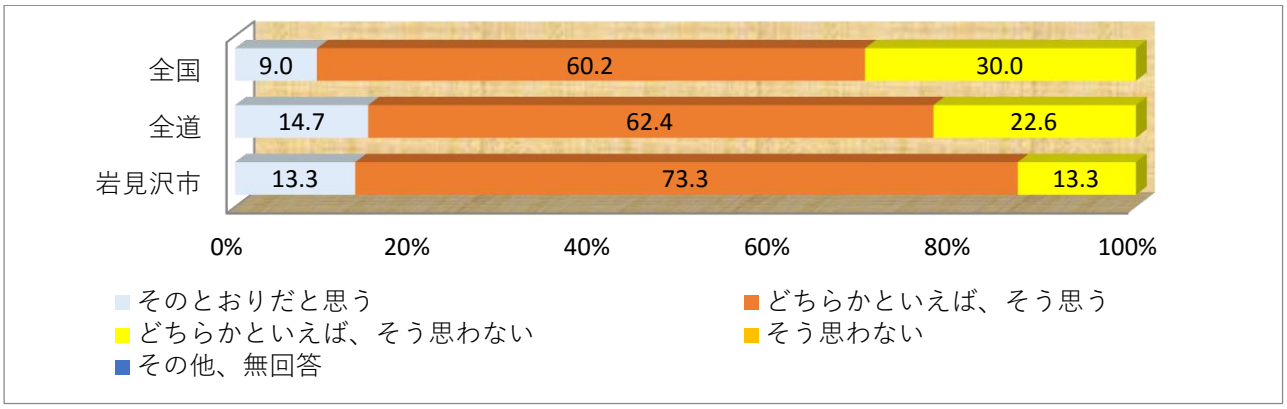


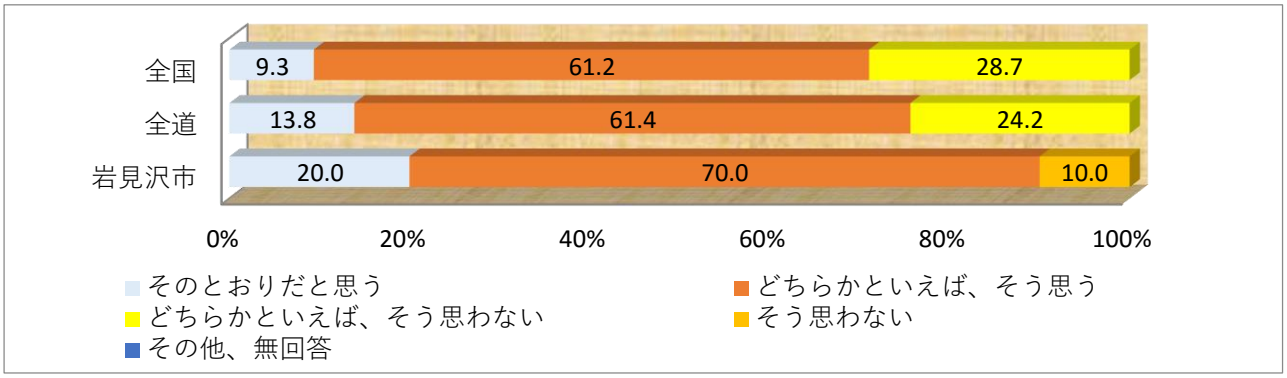
１８．調査対象学年の児童は，学級やグループでの話合いなどの活動で，相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか



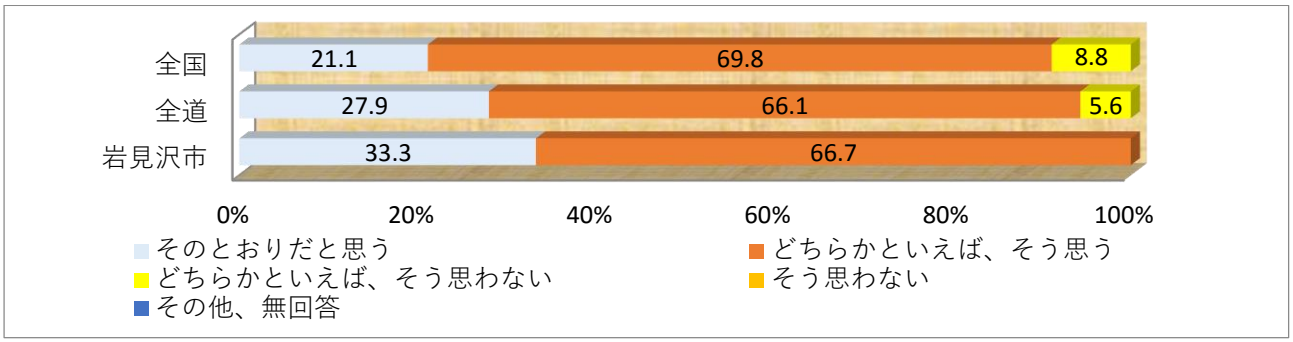


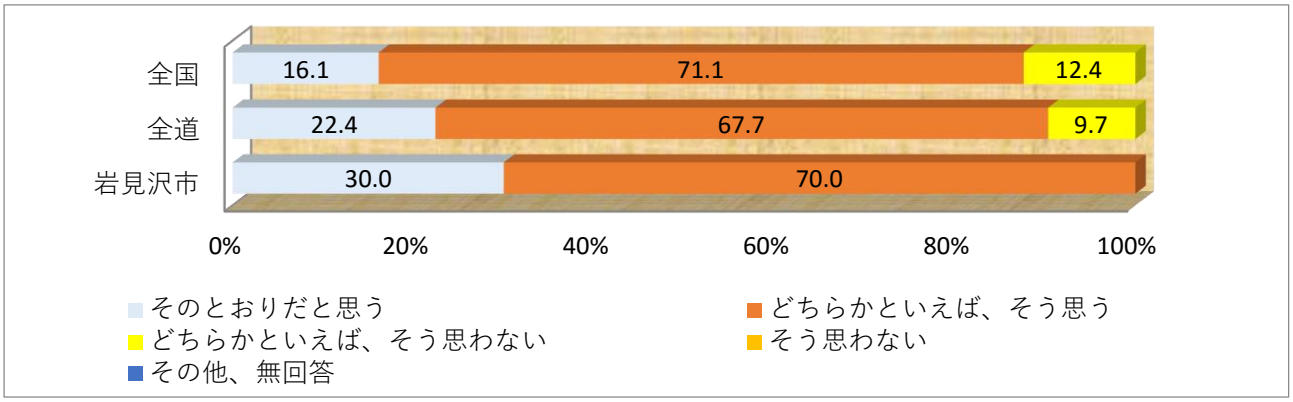
１９．調査対象学年の児童は，学級やグループでの話合いなどの活動で，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか



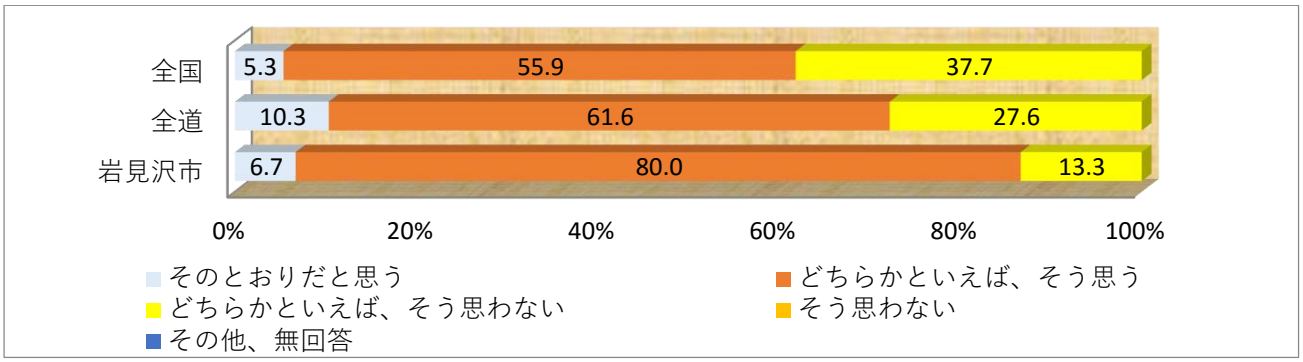


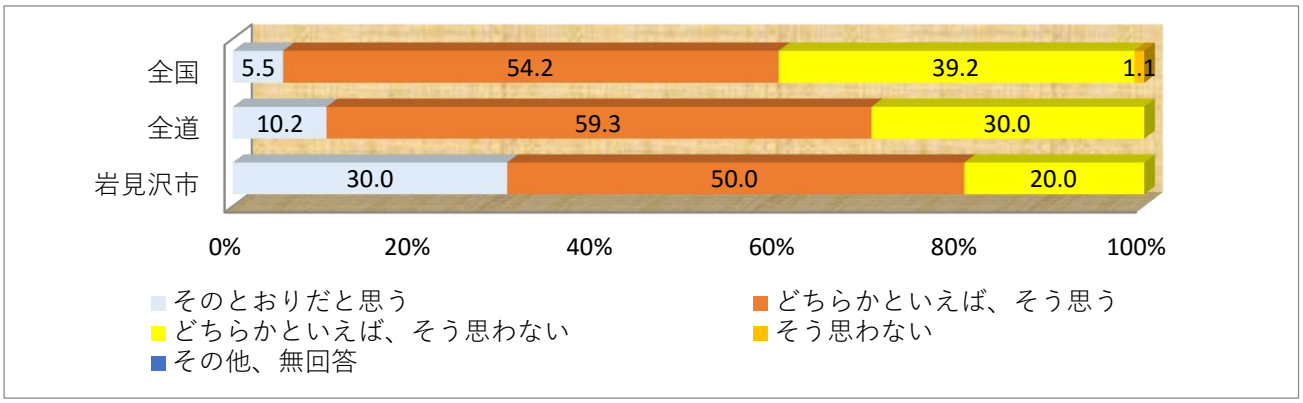
２０．調査対象学年の児童は，自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか





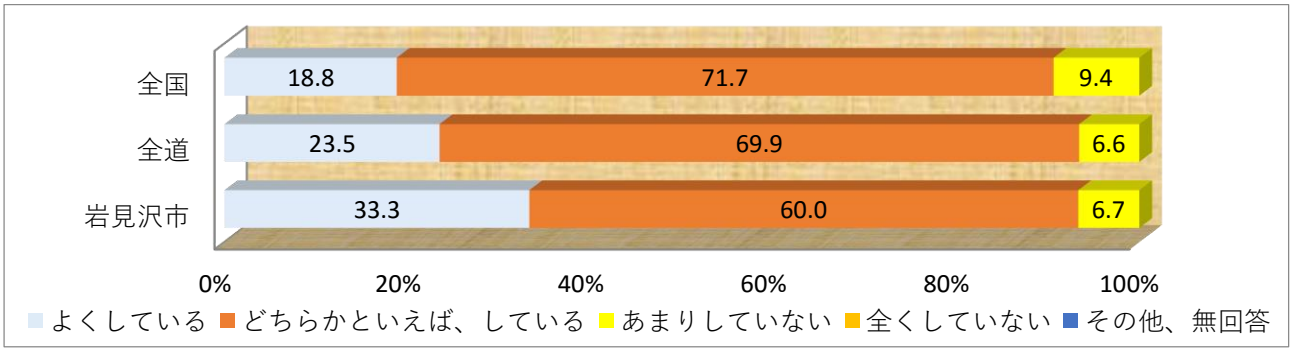
２１．調査対象学年の児童は，授業において，自らの考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組立てなどを工夫して，発言や発表を行うことができている

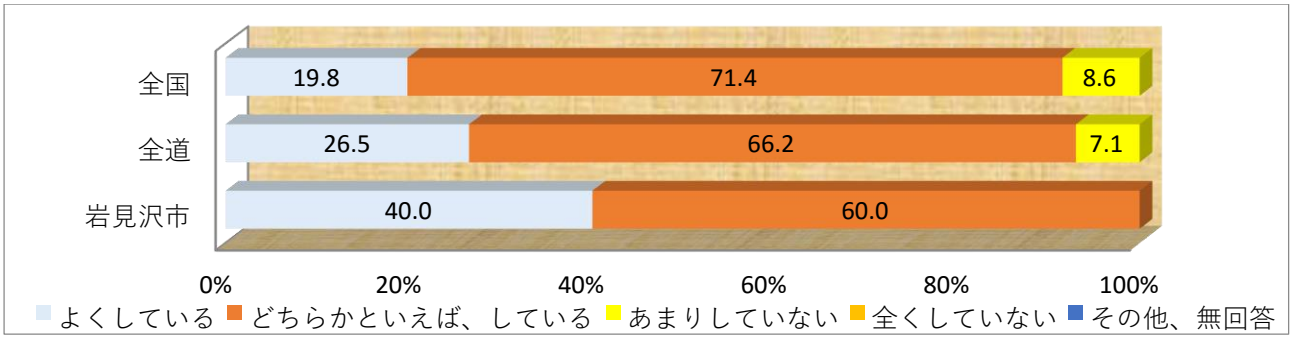




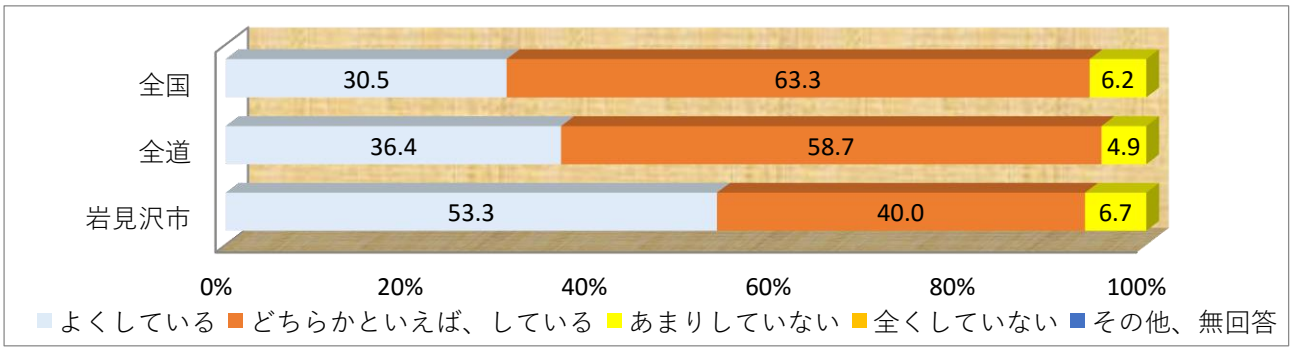
３　教職員の取組

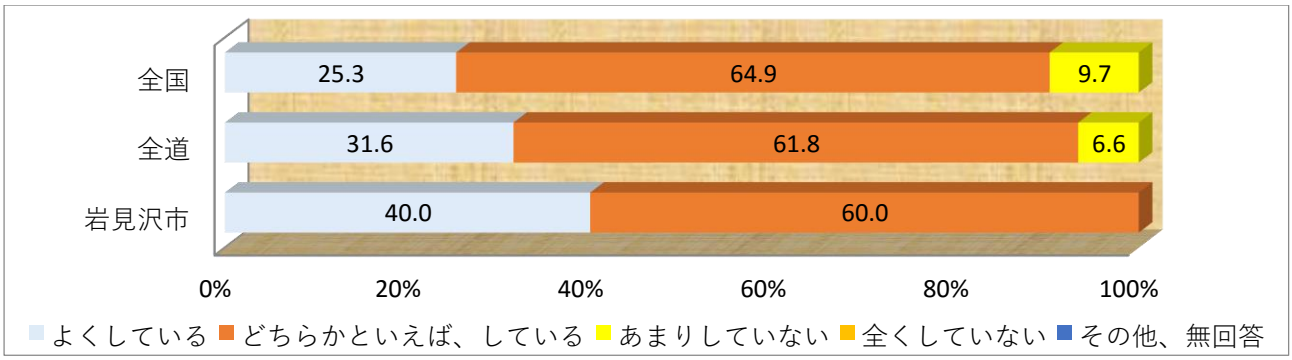
28．指導計画について，知識・技能の活用に重点を置いて作成していますか



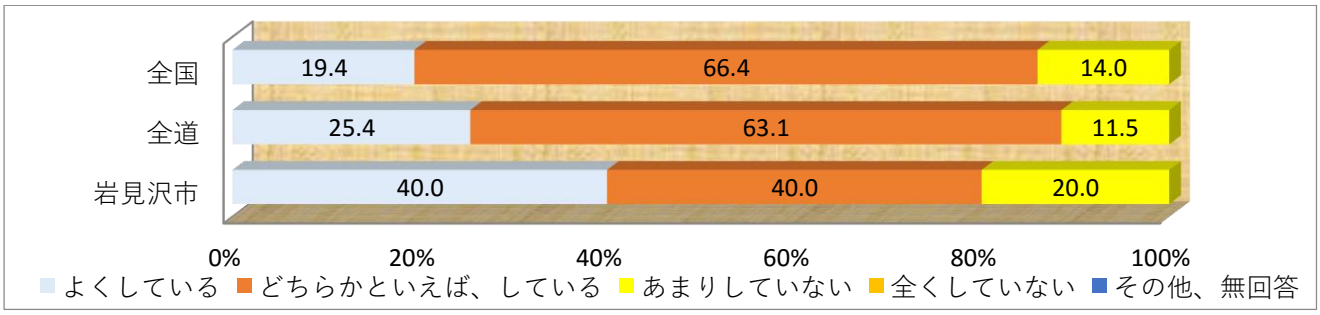


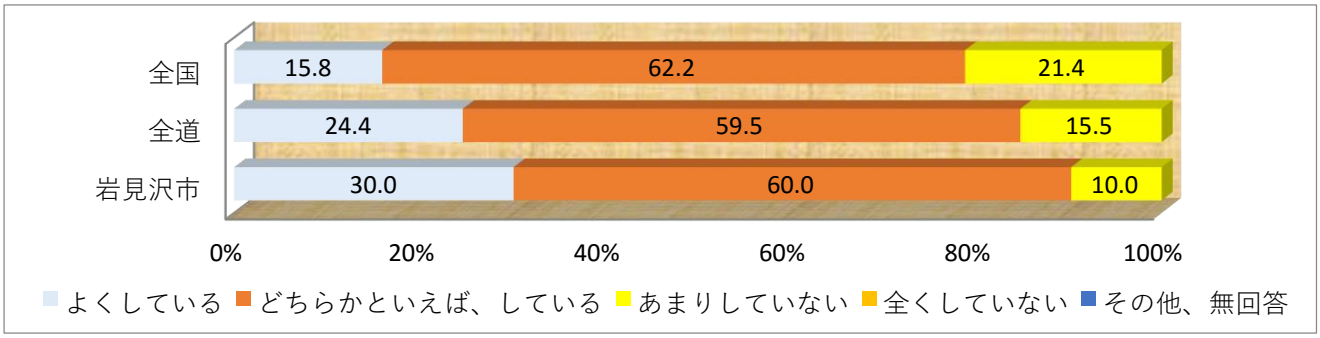
29．指導計画について，言語活動に重点を置いて作成していますか



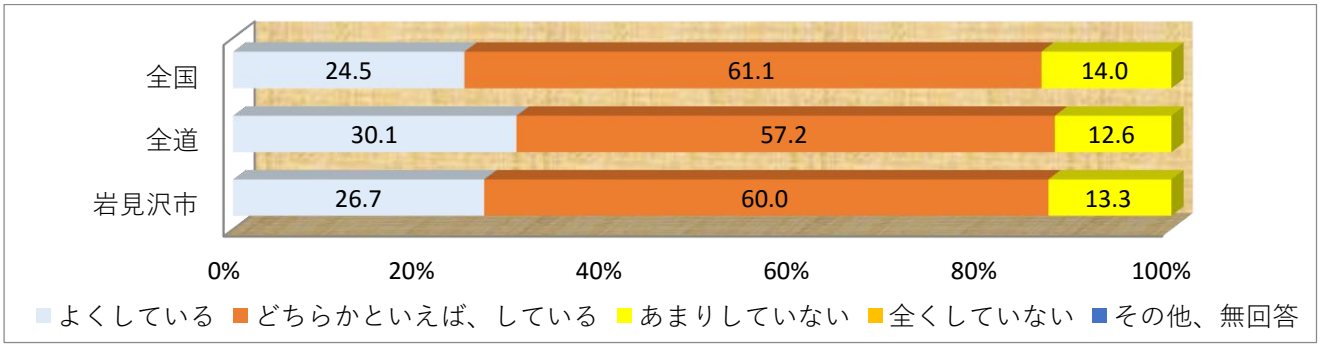


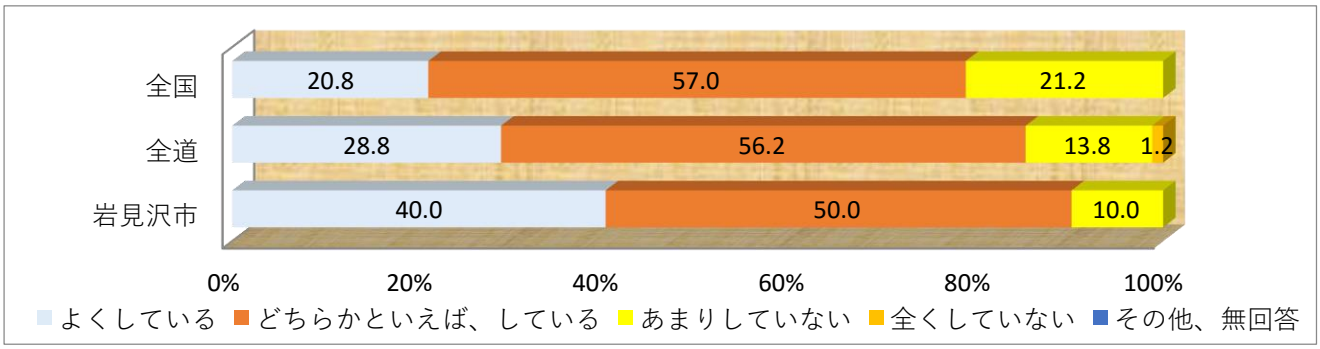
３０．指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



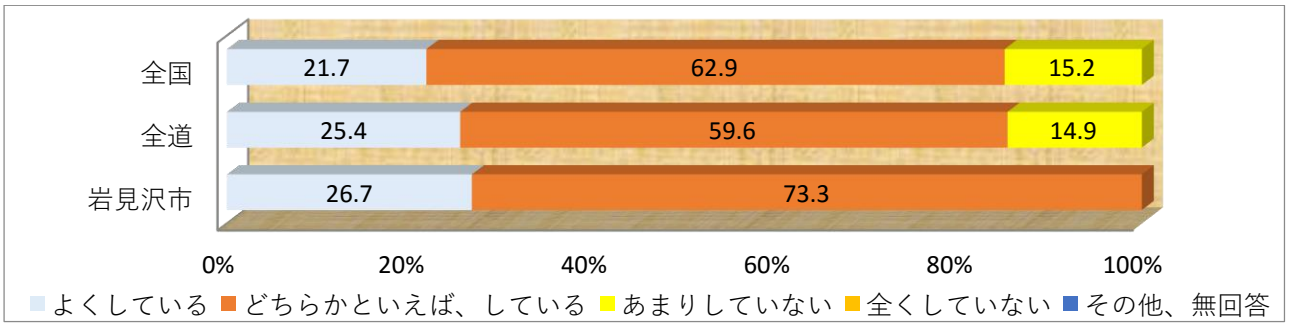


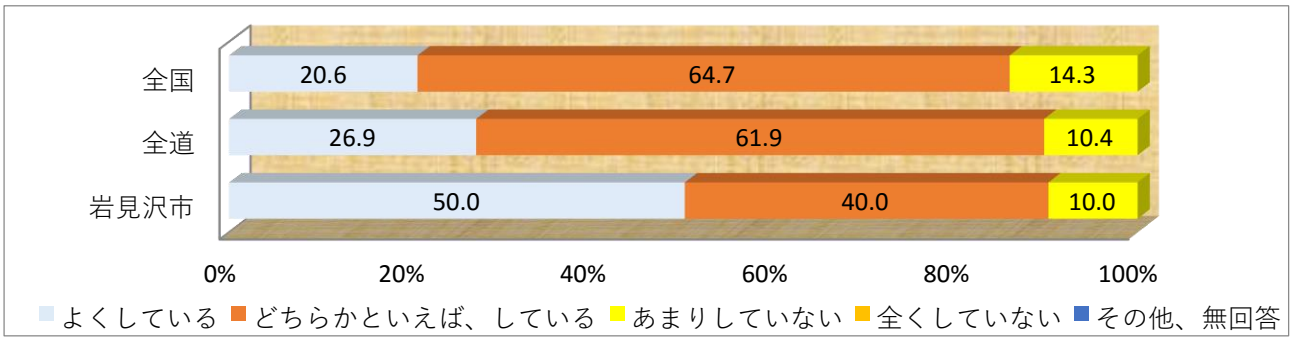
３１．教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



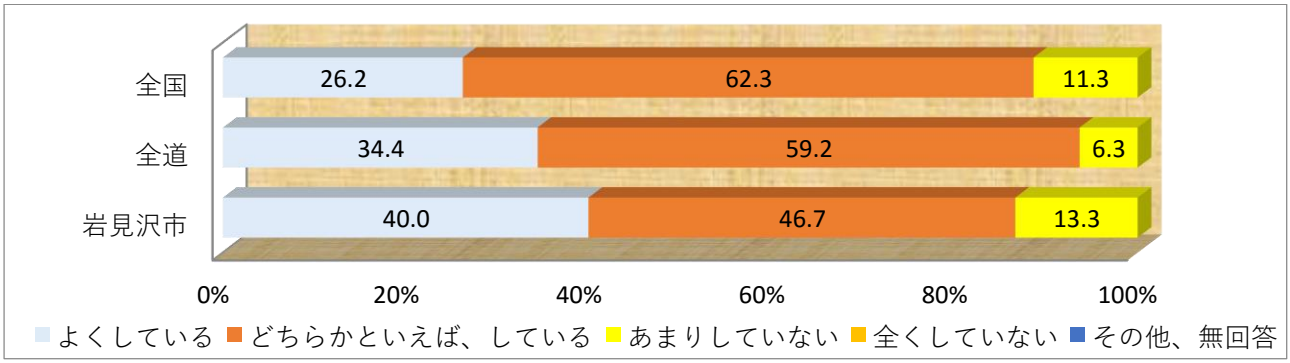


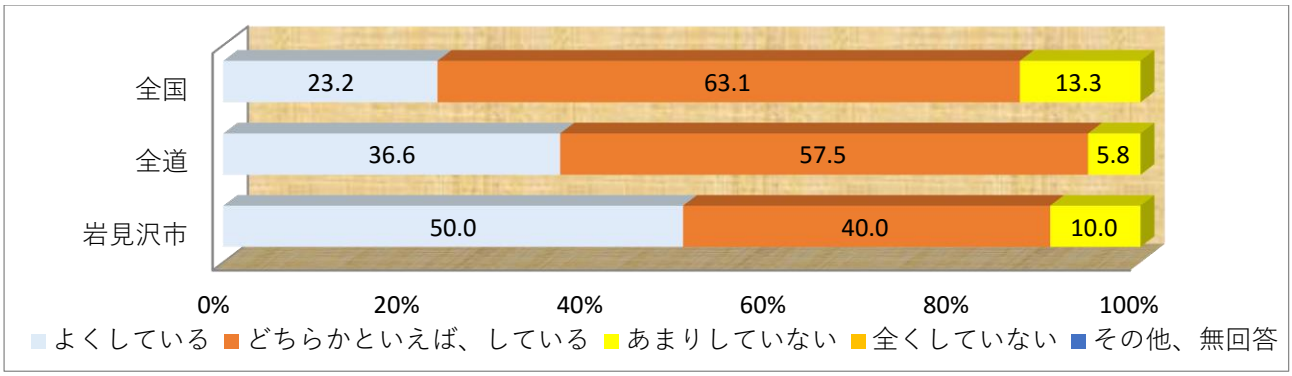
３２．教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，指導事項の系統性が分かるように作成していますか



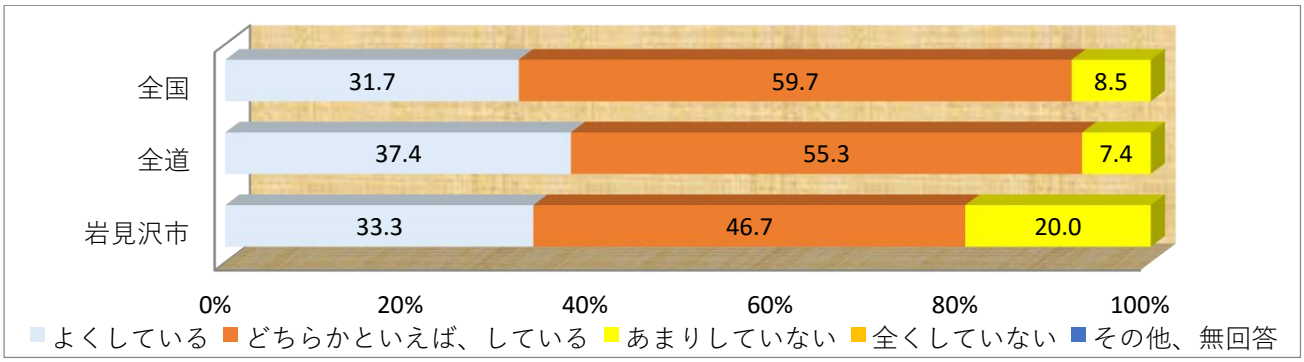


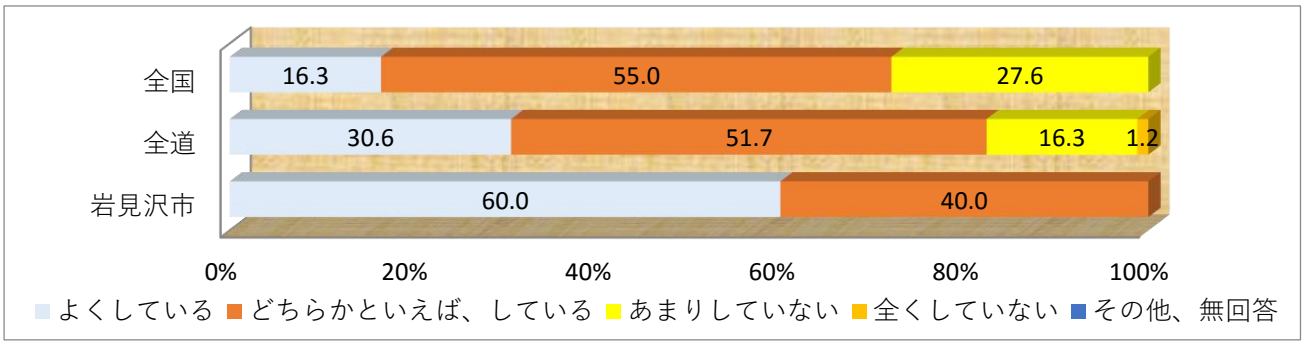
３３．児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか





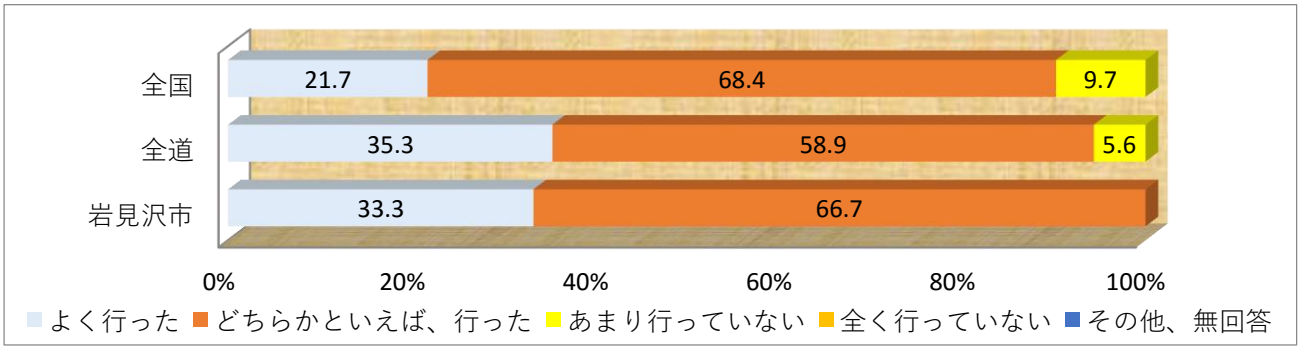
３４．指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

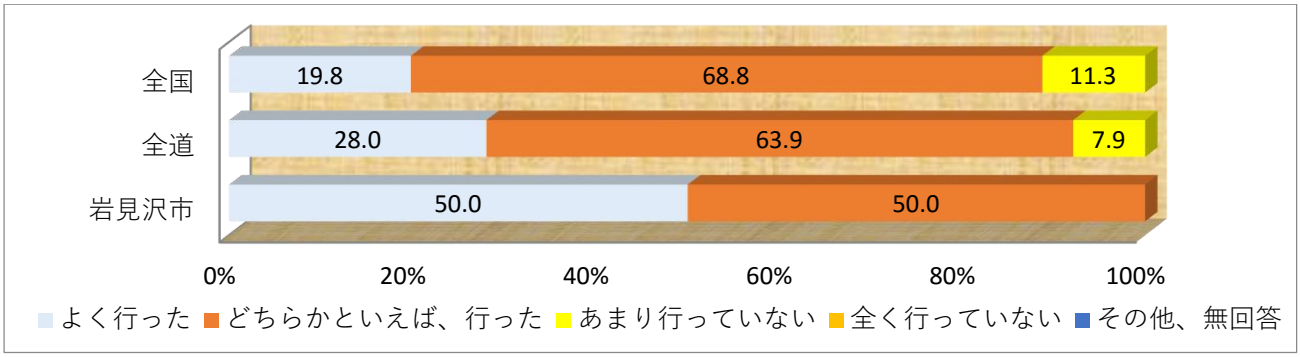




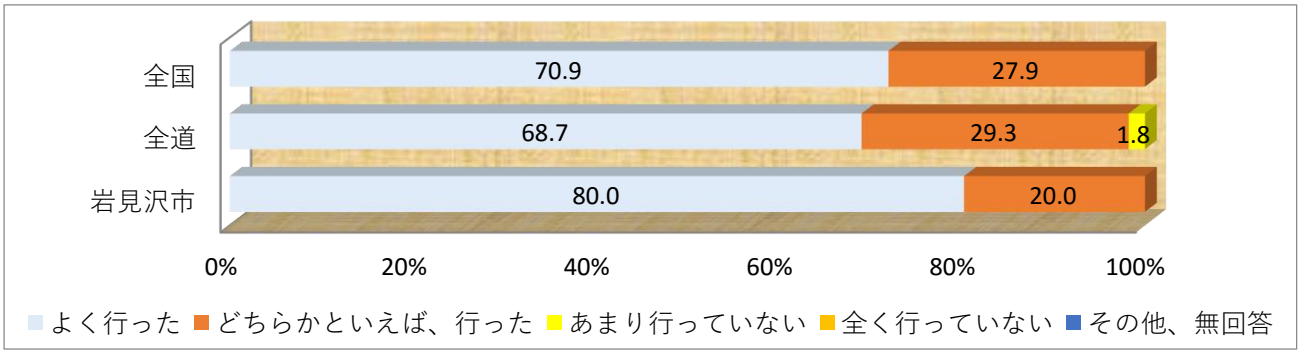
４　指導方法・学習規律

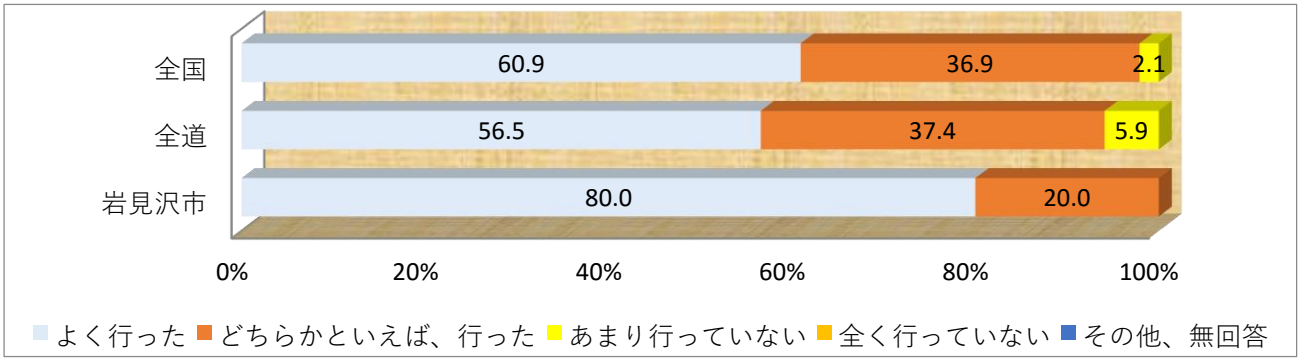
３５．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



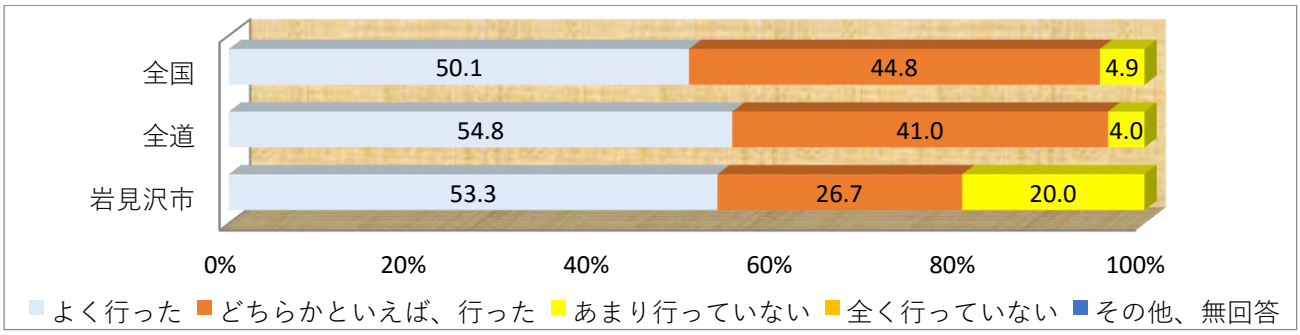


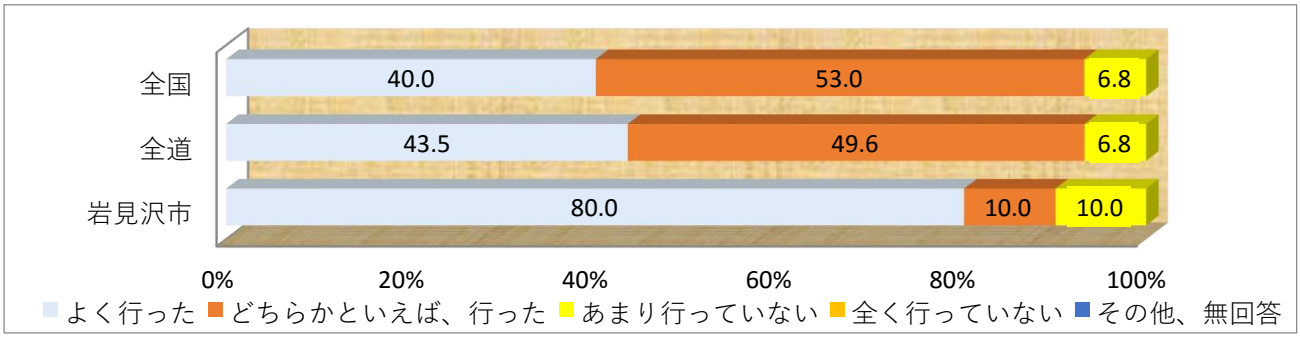
３６．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか



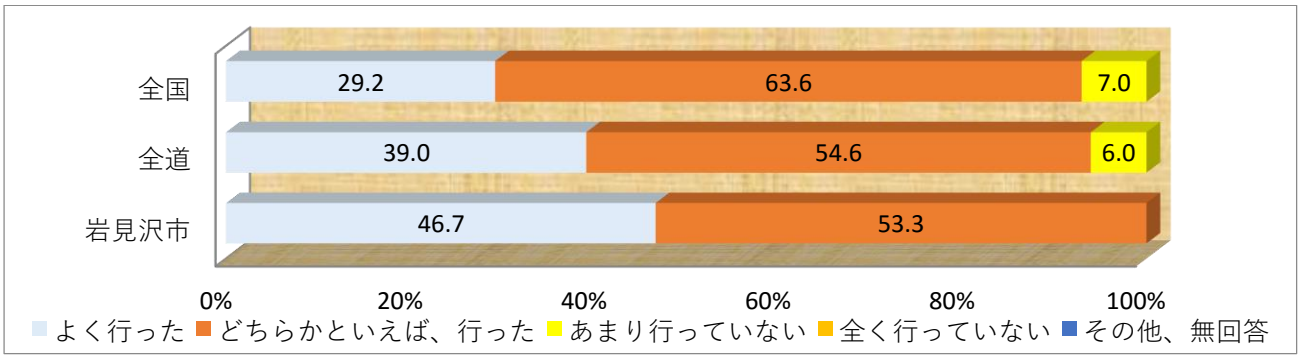


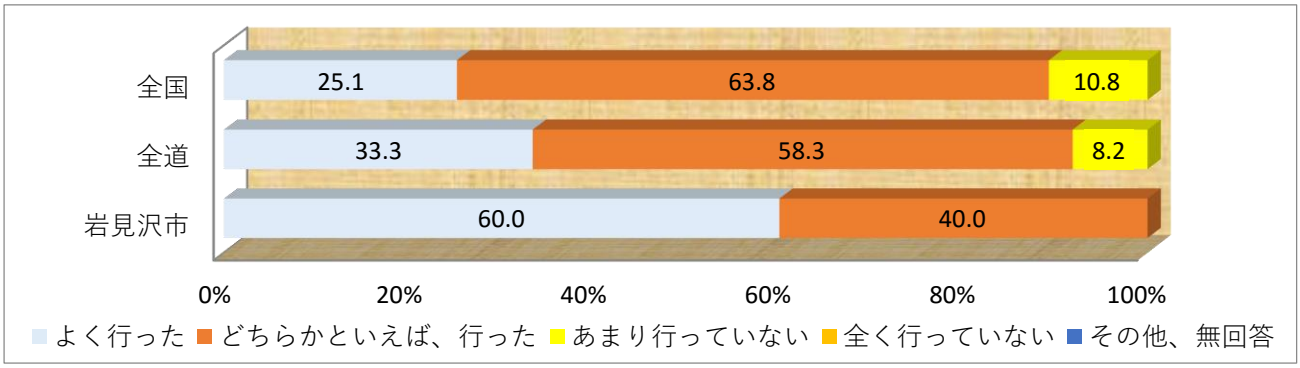
３７．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか



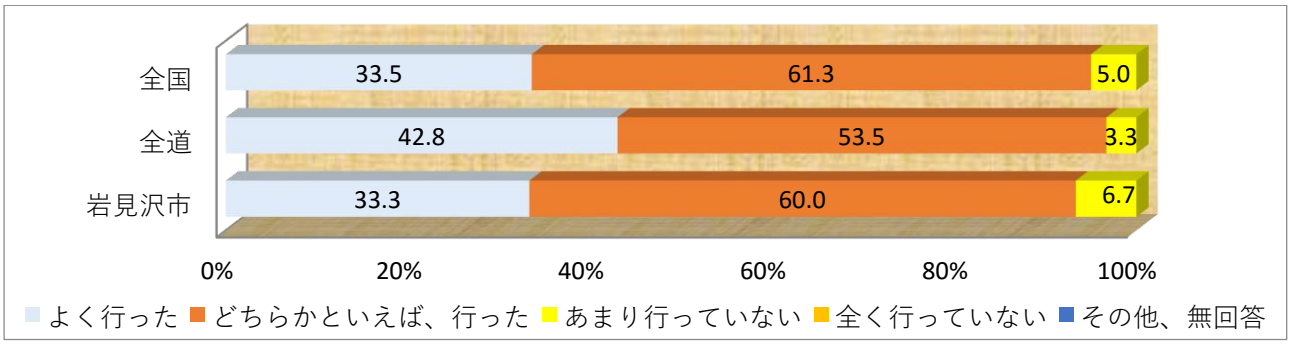


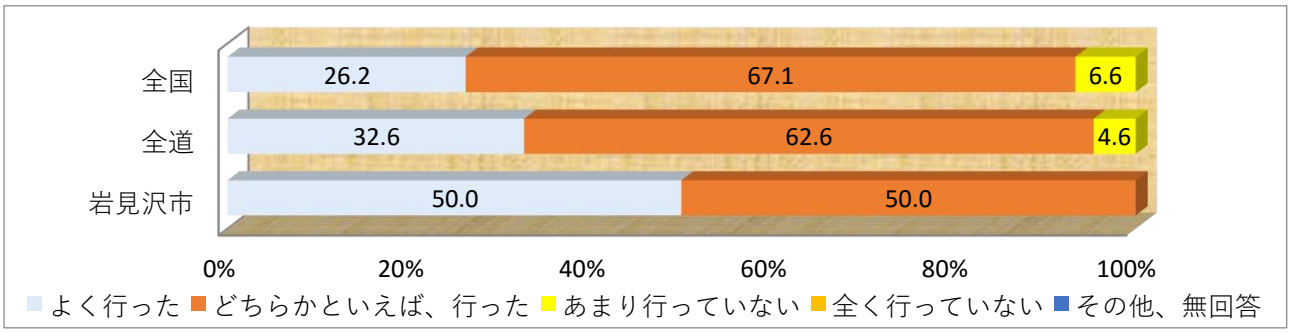
３８．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，各教科等の指導のねらいを明確にした上で，言語活動を適切に位置付けましたか



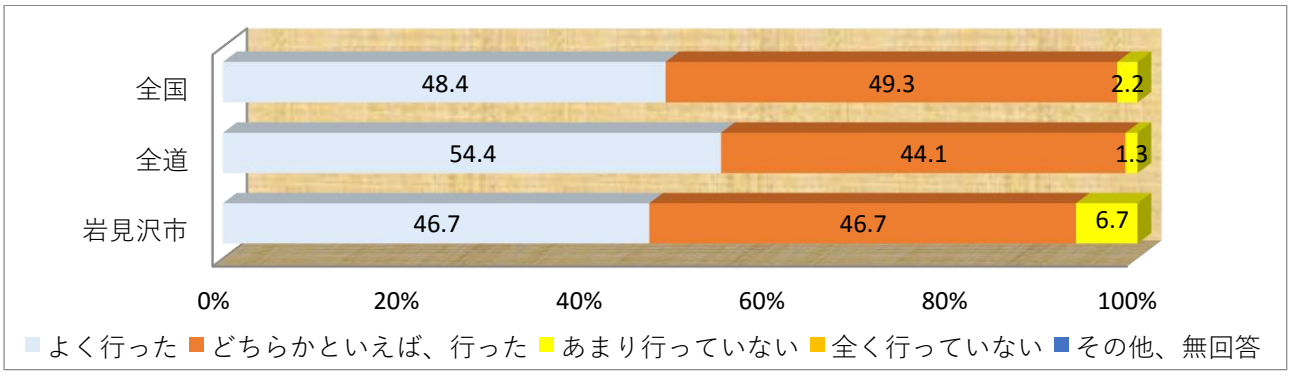


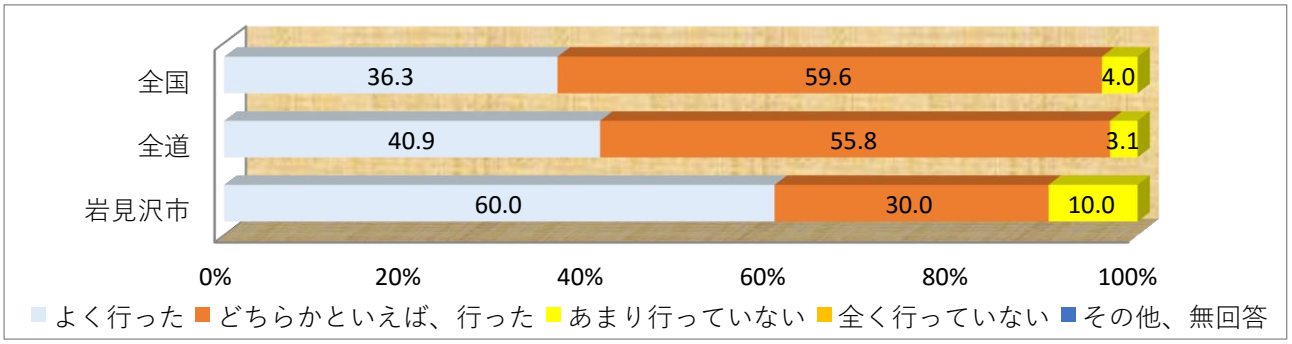
３９．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしましたか



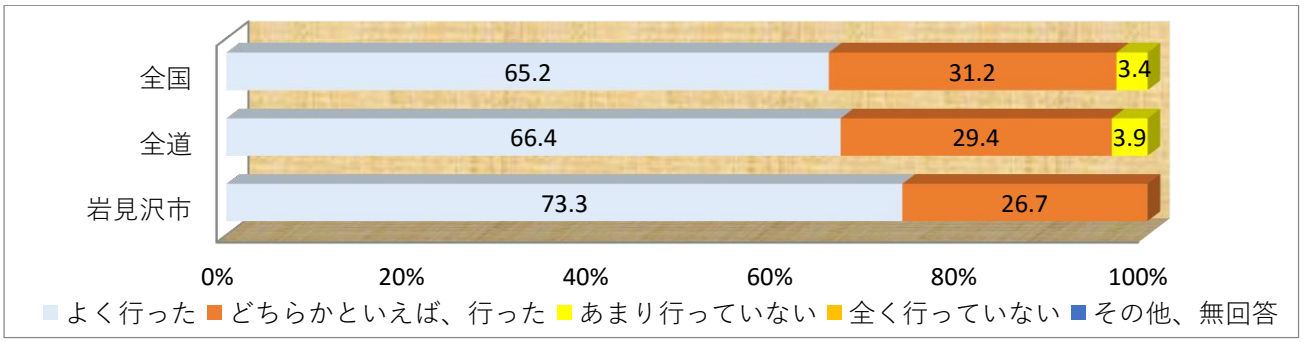


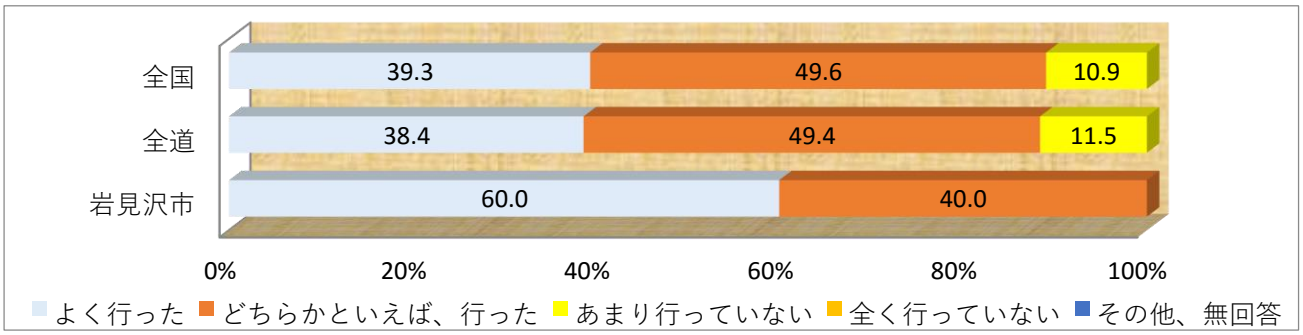
４０．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



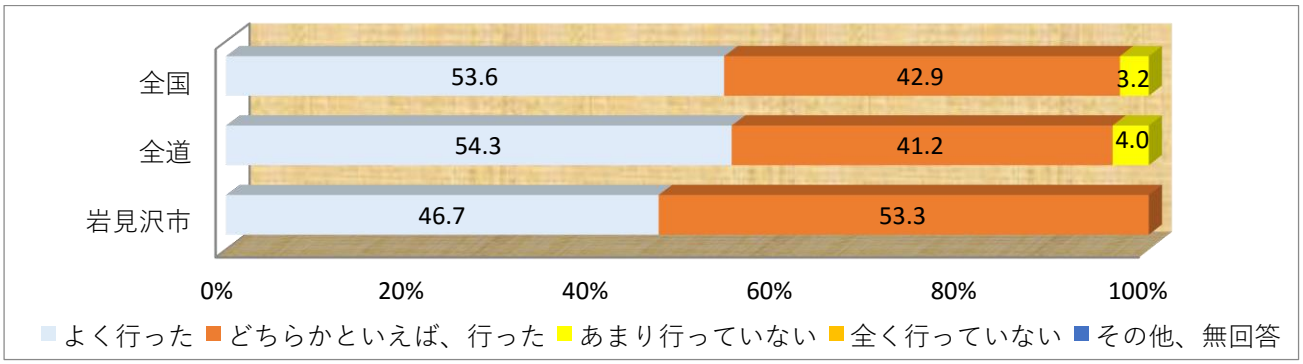


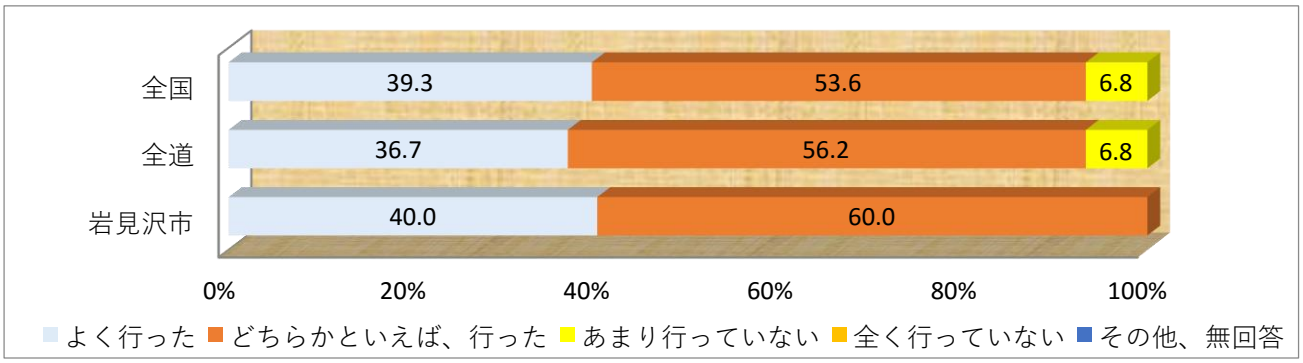
４１．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，授業で扱うノートに，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか



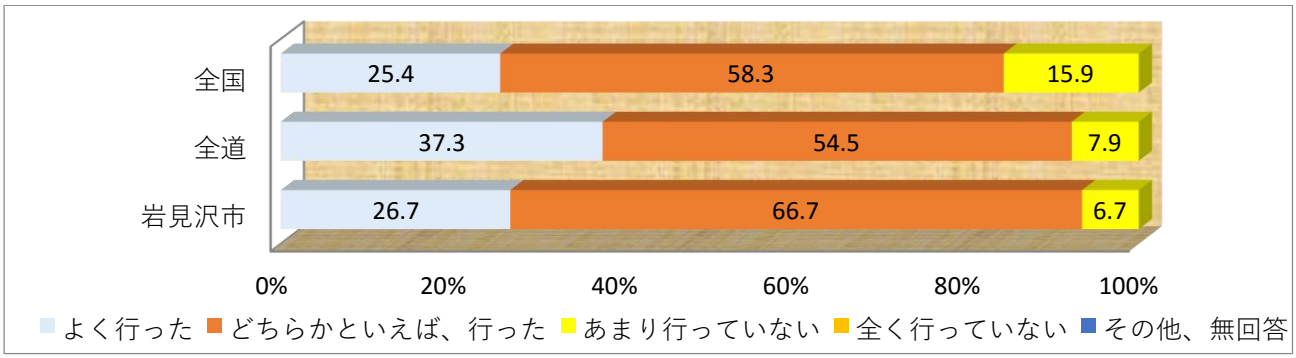


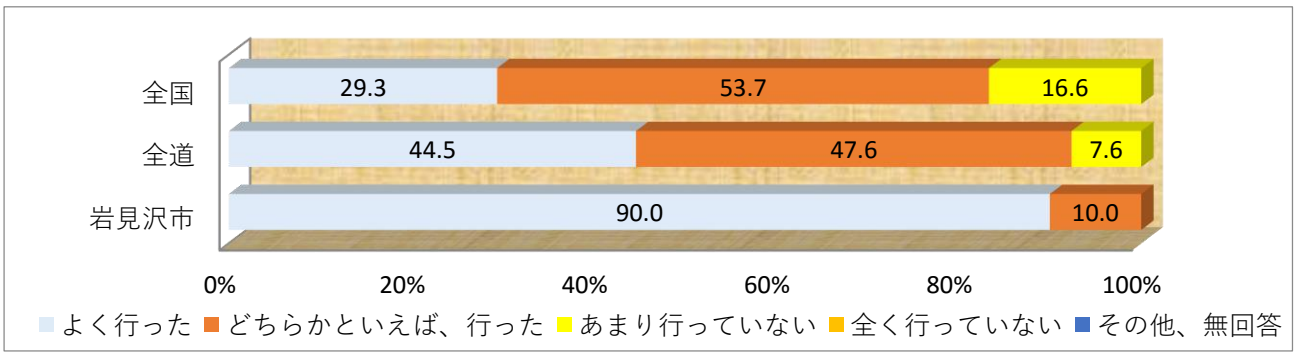
４２．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか



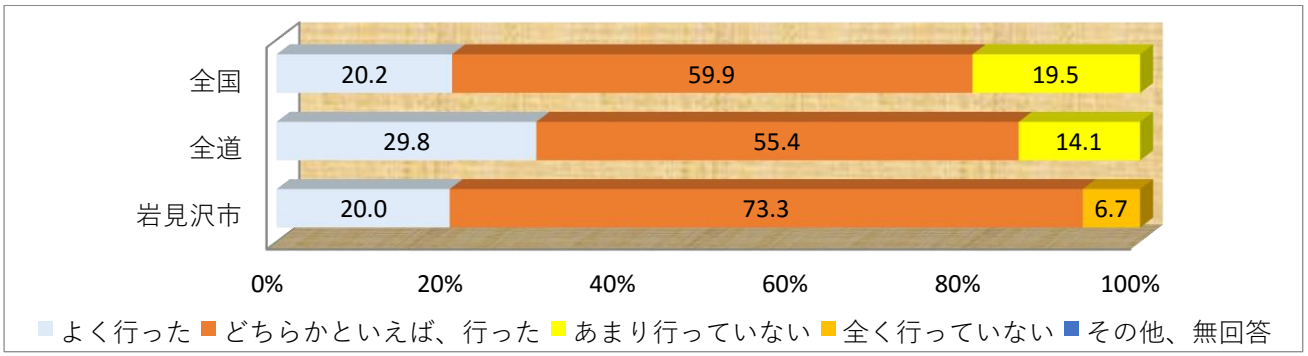


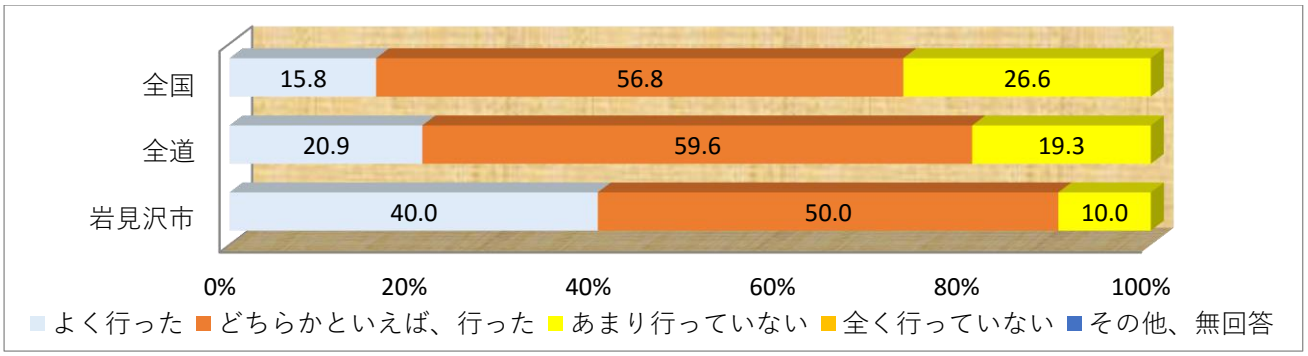
４３．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，総合的な学習の時間において，課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



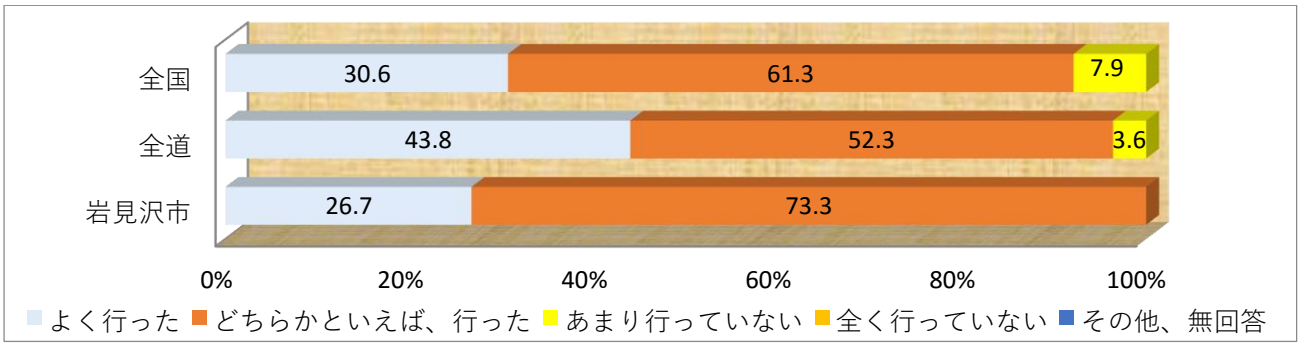


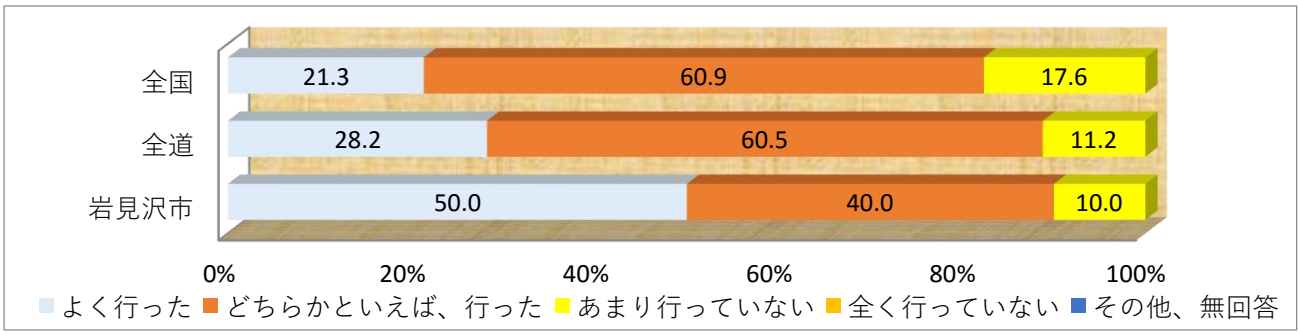
４４．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，授業において，児童自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を取り入れましたか



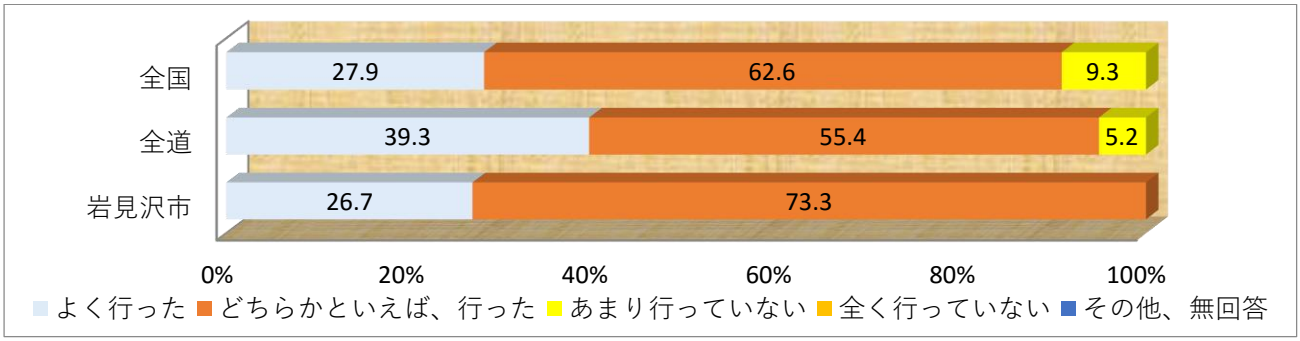


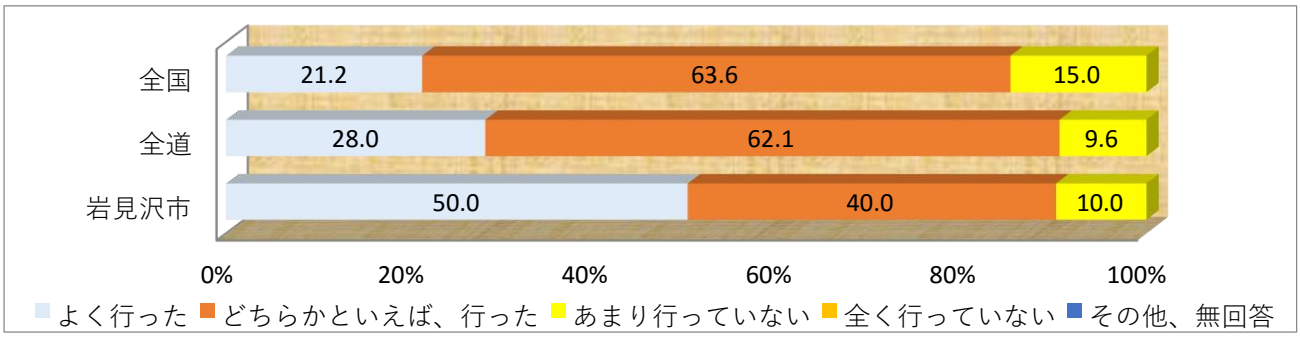
４５．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか



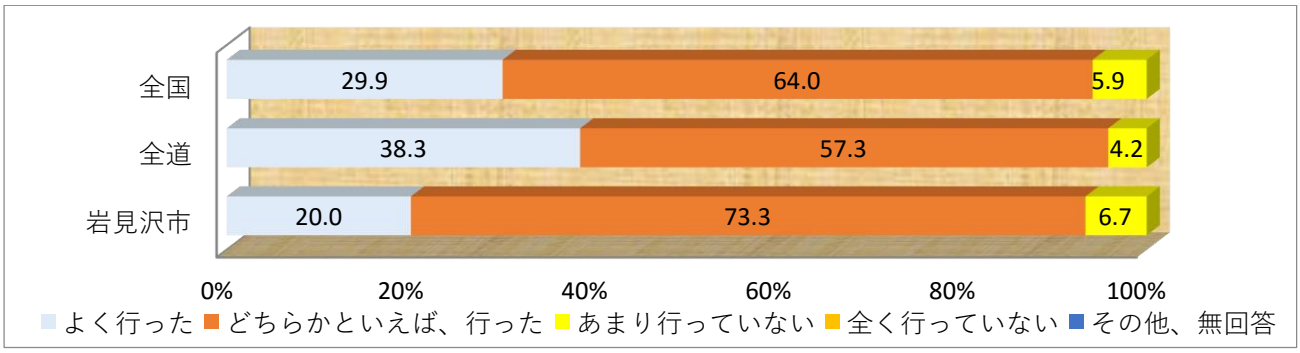


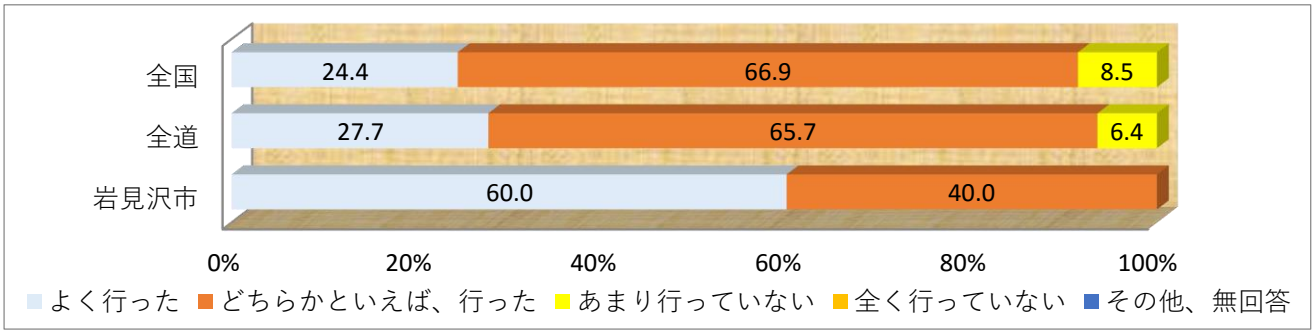
４６．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，資料を使って発表ができるよう指導しましたか



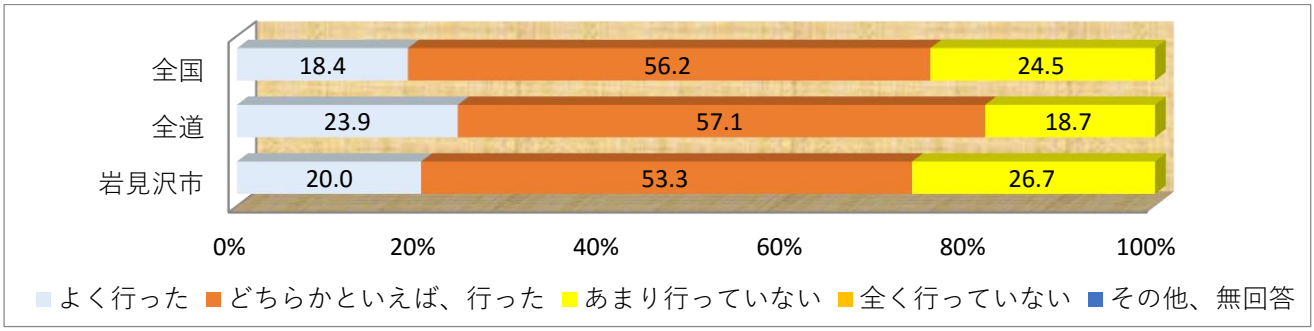


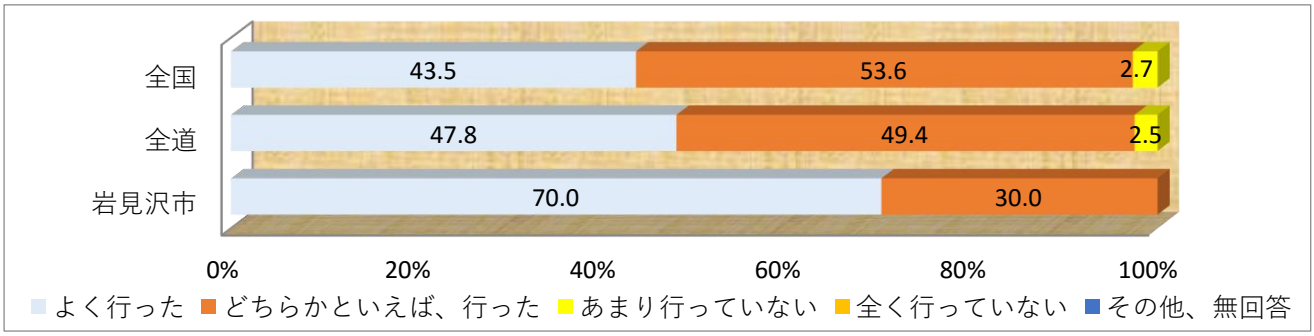
４７．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



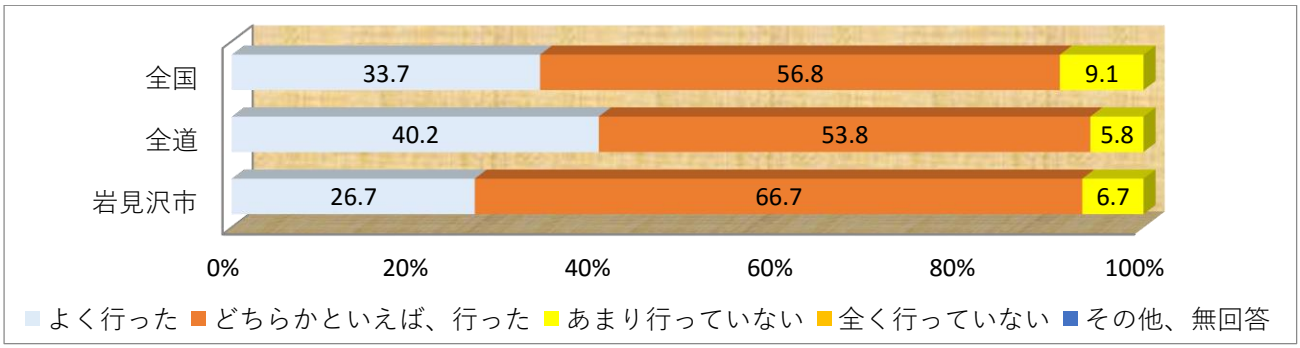


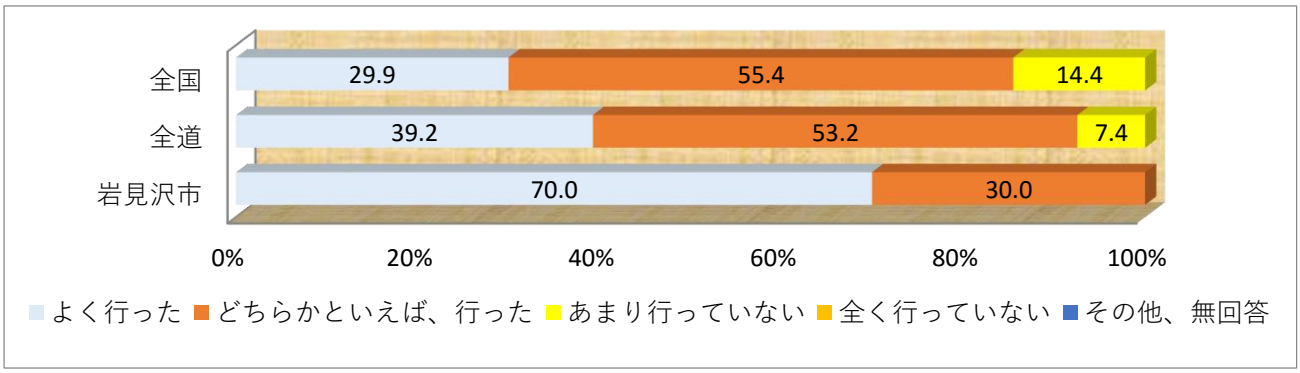
４８．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



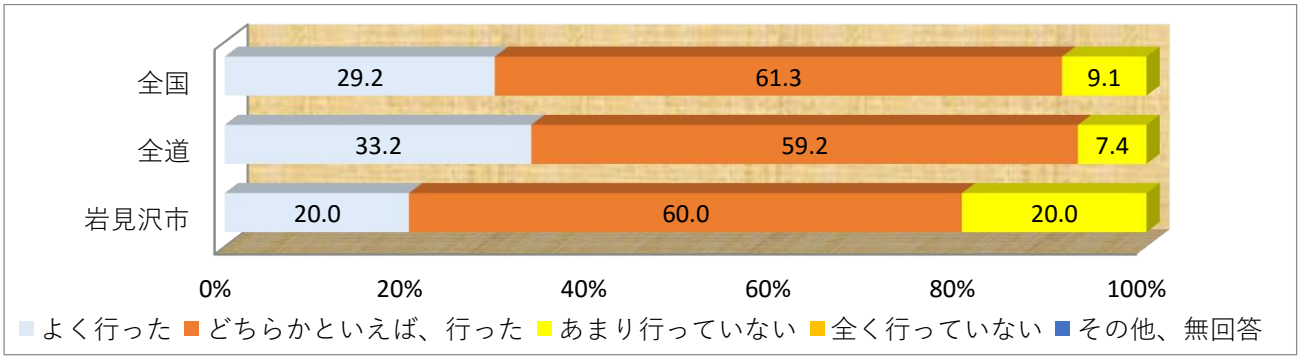


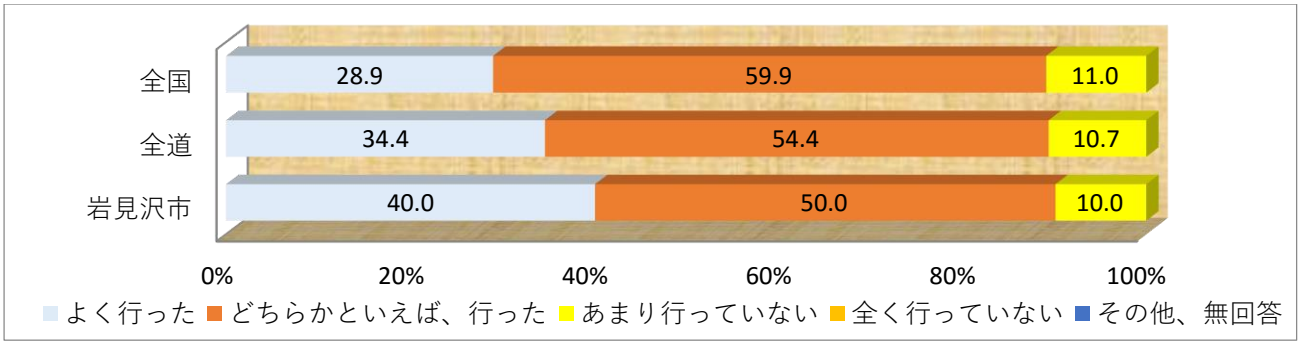
４９．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか



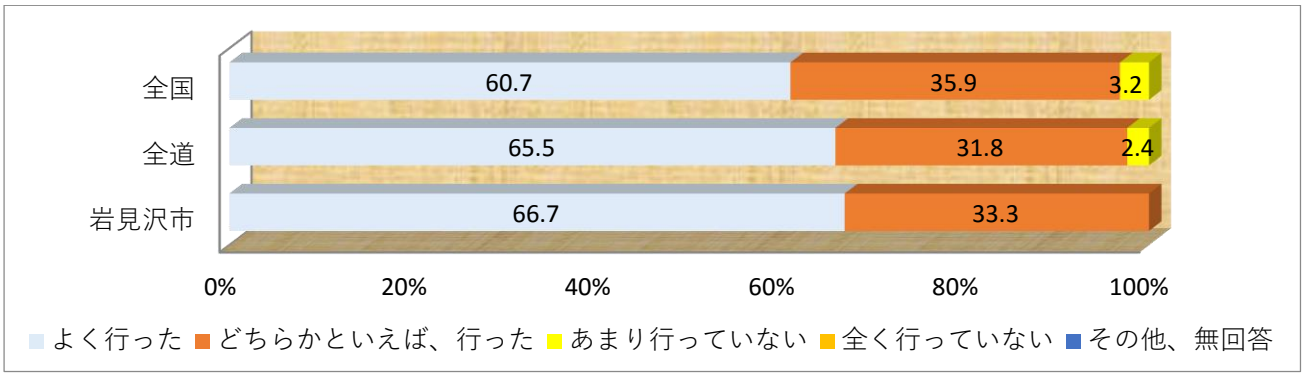


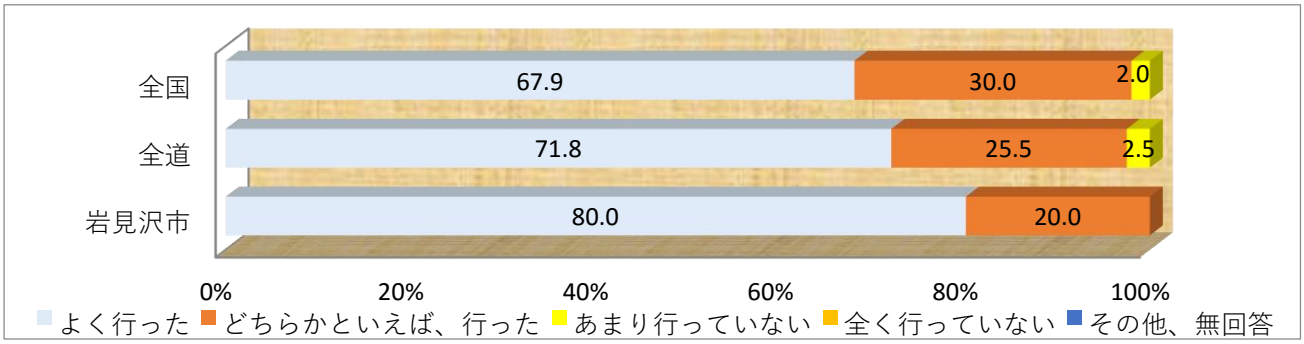
５０．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，道徳の時間において，児童（生徒）自らが考え，話し合う指導をしましたか



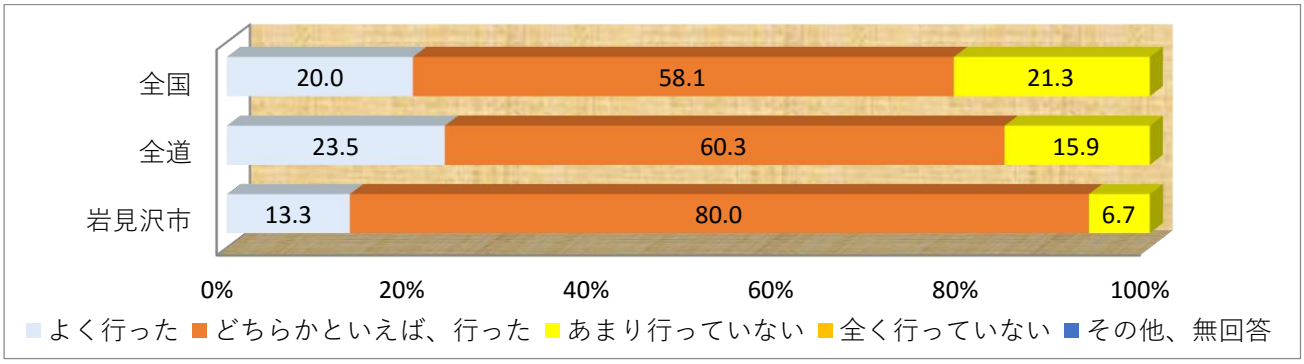


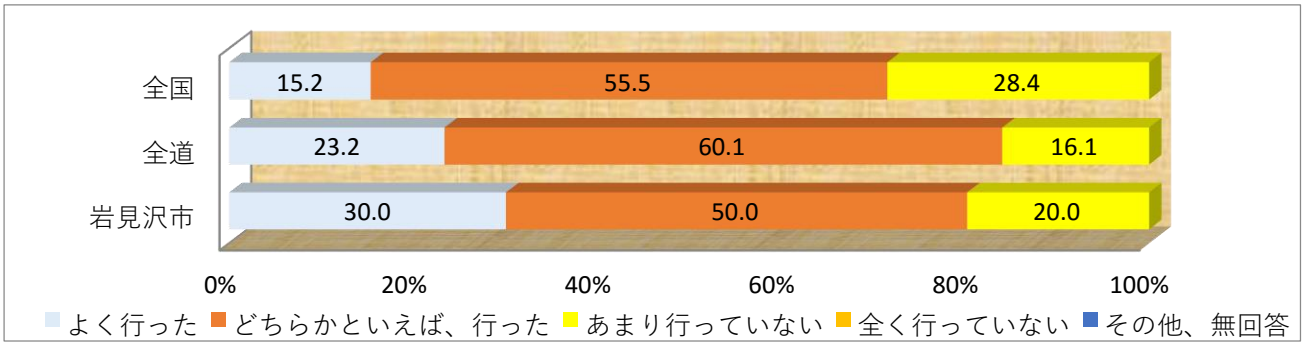
５１．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，学習規律（私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をする，授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか



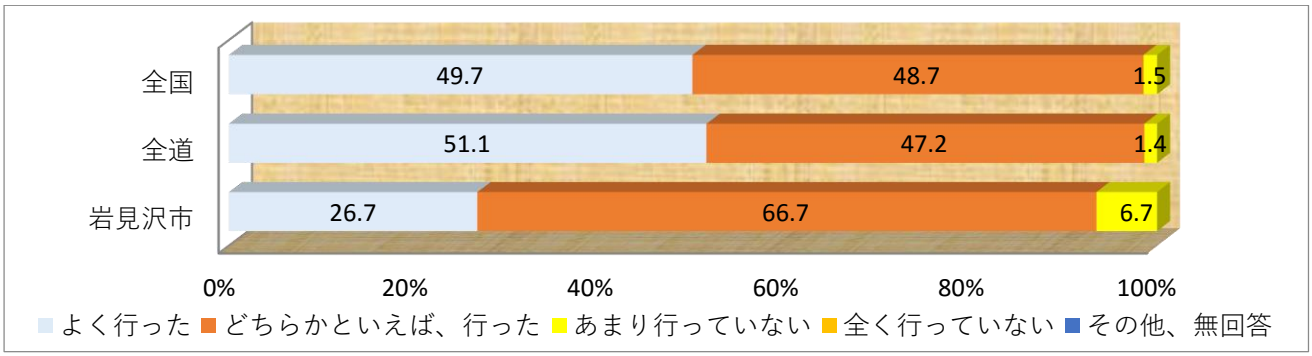


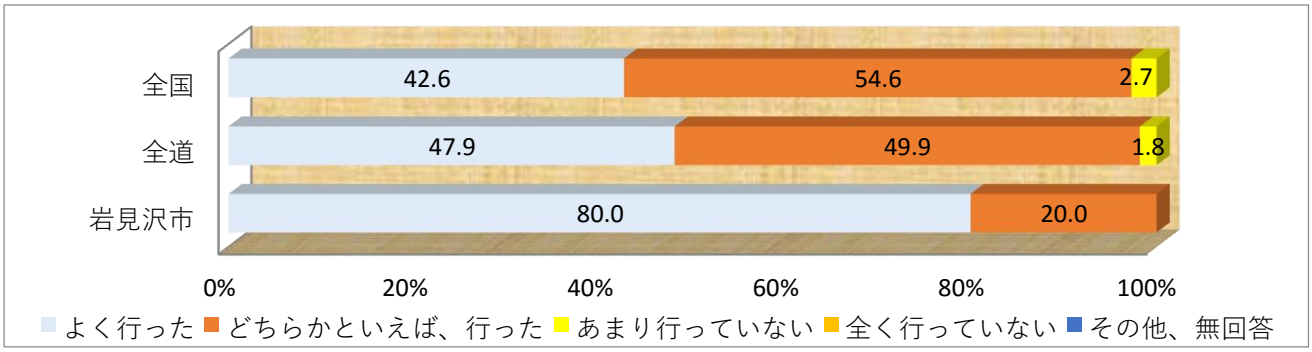
５２．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度に，教科や総合的な学習の時間，あるいは朝や帰りの会などにおいて，地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



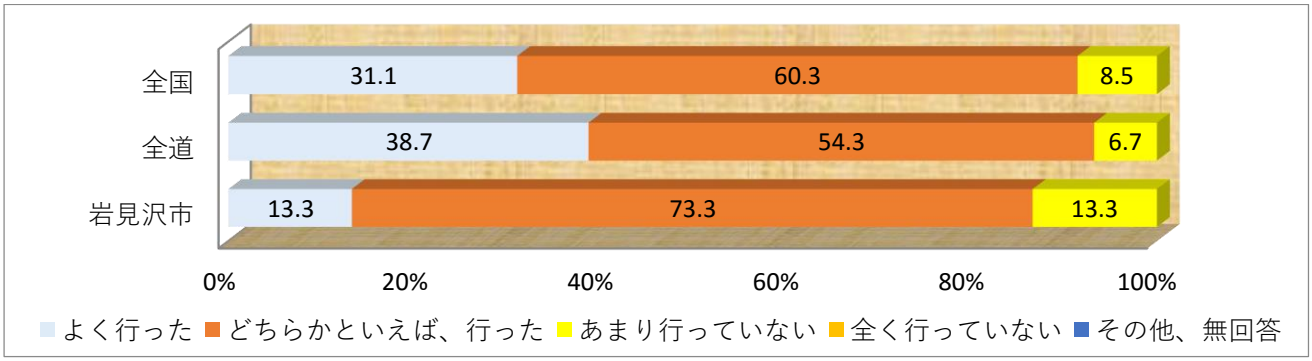


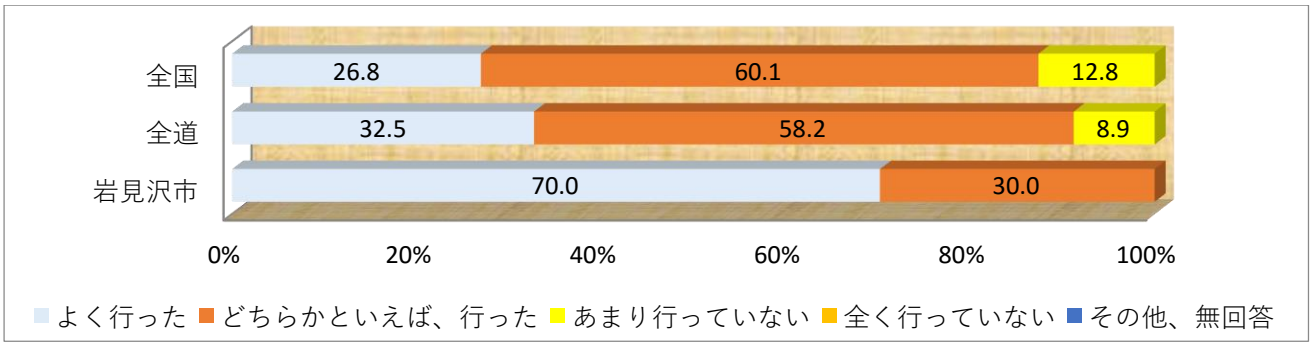
５３．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，学校生活の中で，児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け，児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価しましたか



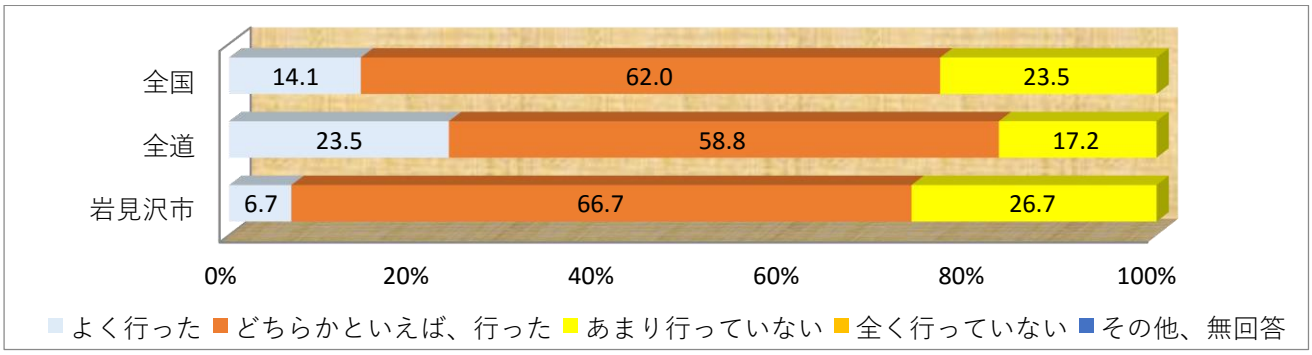


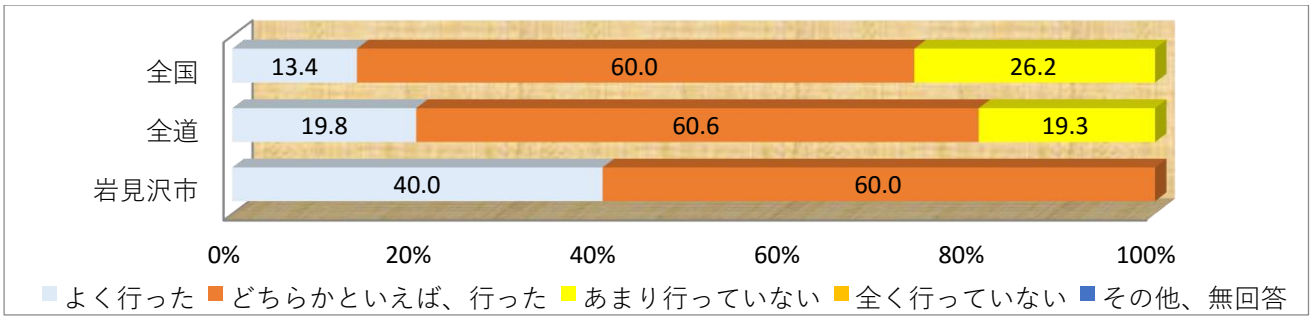
５４．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，国語や算数（数学）において，論述やレポートの作成，発表，グループでの話合い，作品の制作等の多様な活動に取り組ませることにより，ペーパーテストの結果に留まらない，多面的な評価を行いました



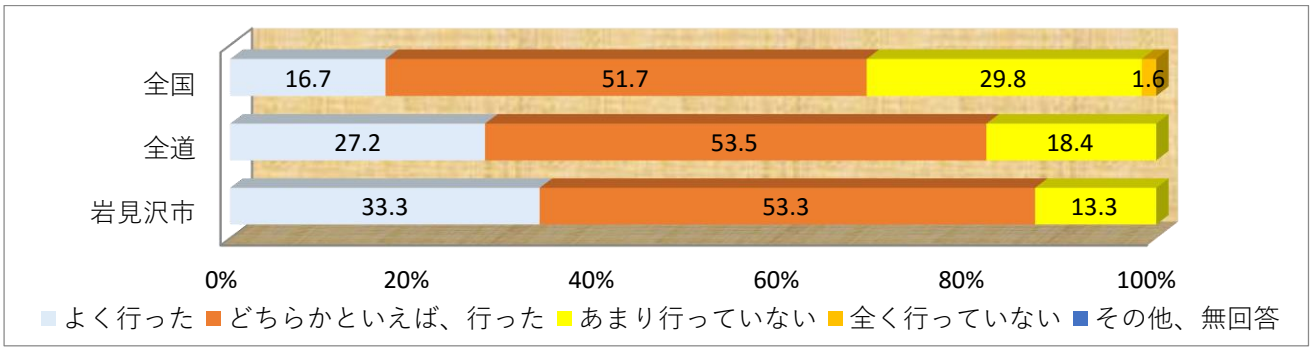


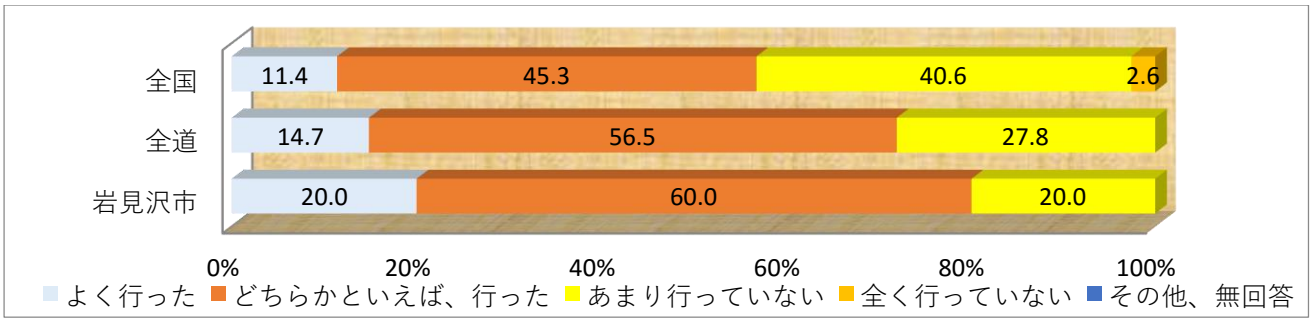
55．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，国語や算数（数学）において，一人一人の学びの多様性に応じて，学習の過程における形成的な評価を行い，児童（生徒）の資質・能力がどのように伸びているかを，児童（生徒）自身が把握できるような評価を行いましたか



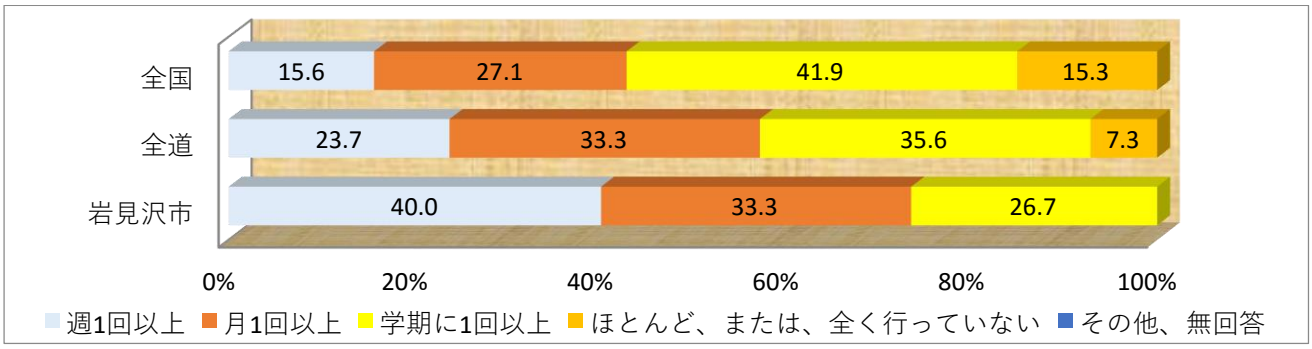


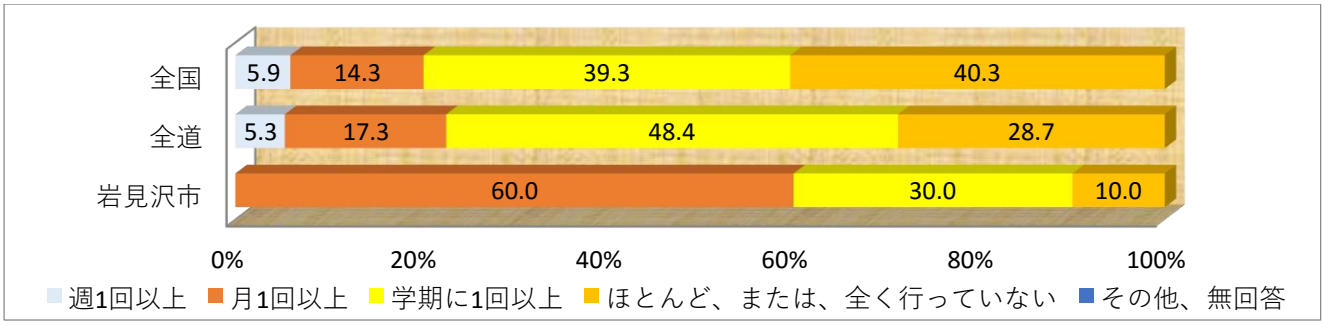
56．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む），電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネットなどを指す）を活用して，子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか



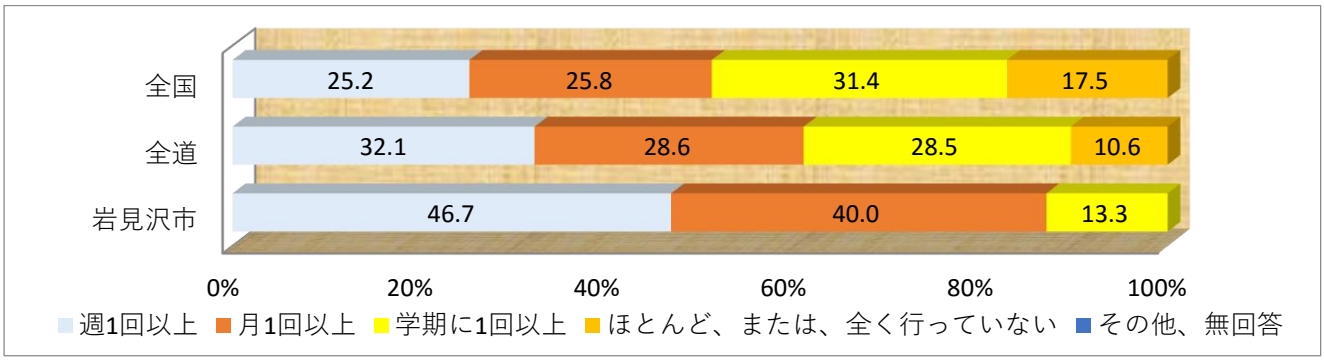


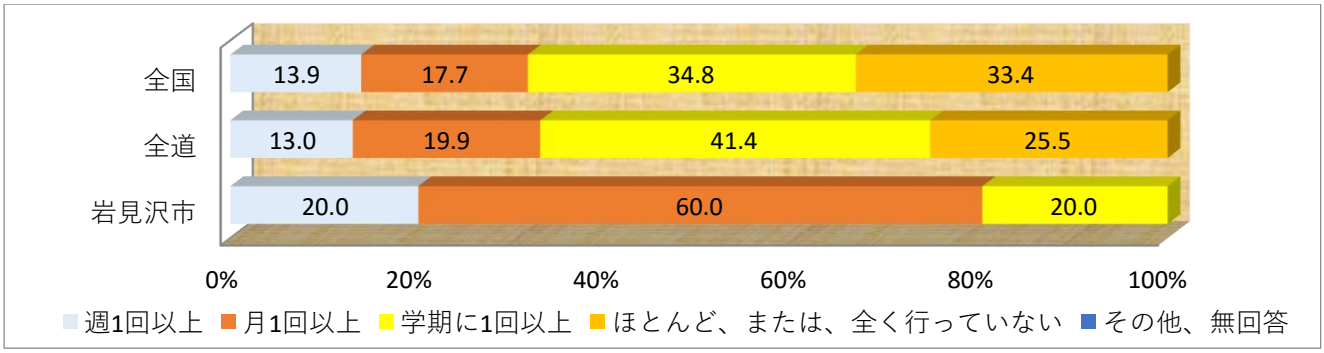
５７．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度に，国語の授業において，コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む），電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか





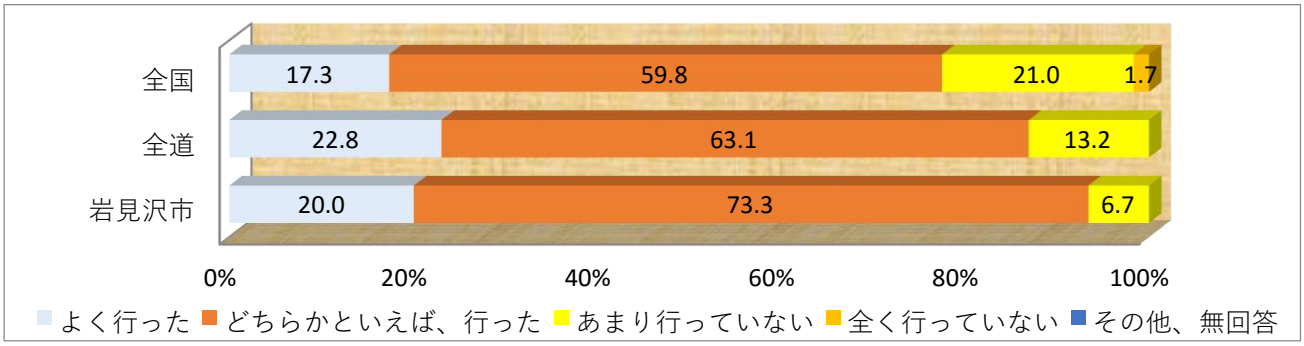
５８．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度に，算数（数学）の授業において，コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む），電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか

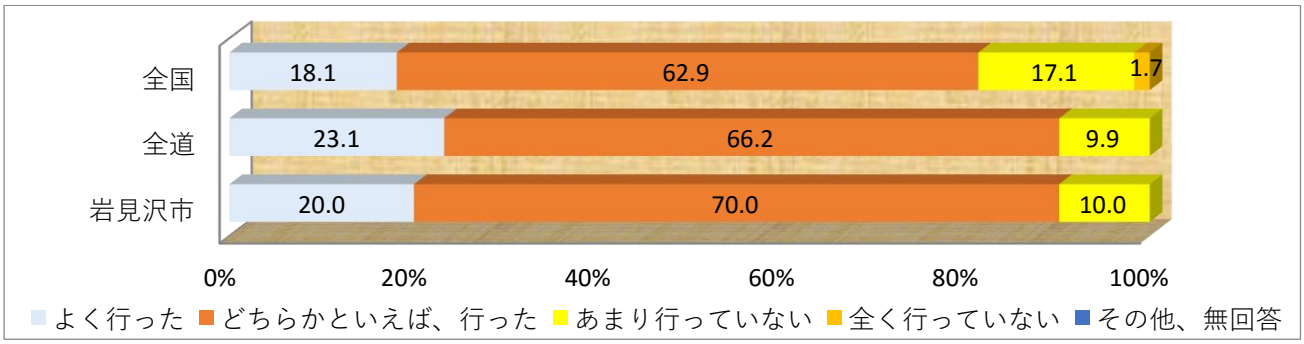




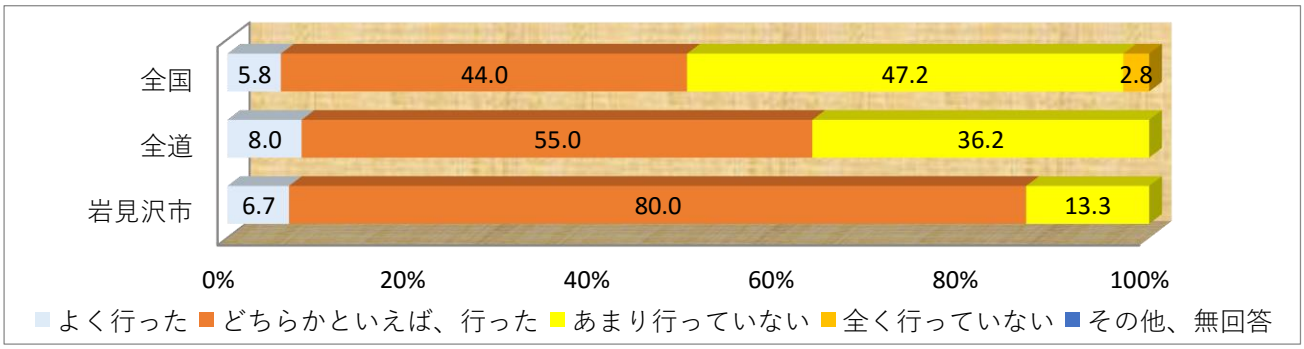
５　国語科の指導方法

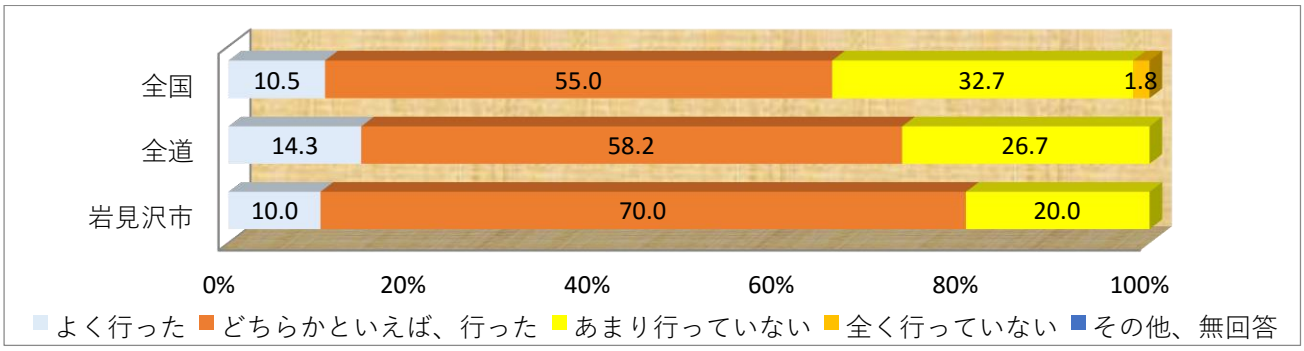
６７．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか



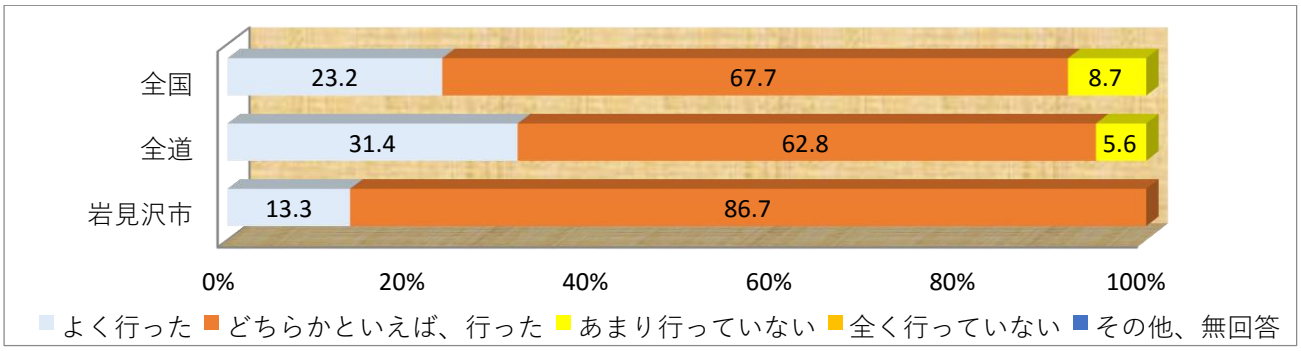


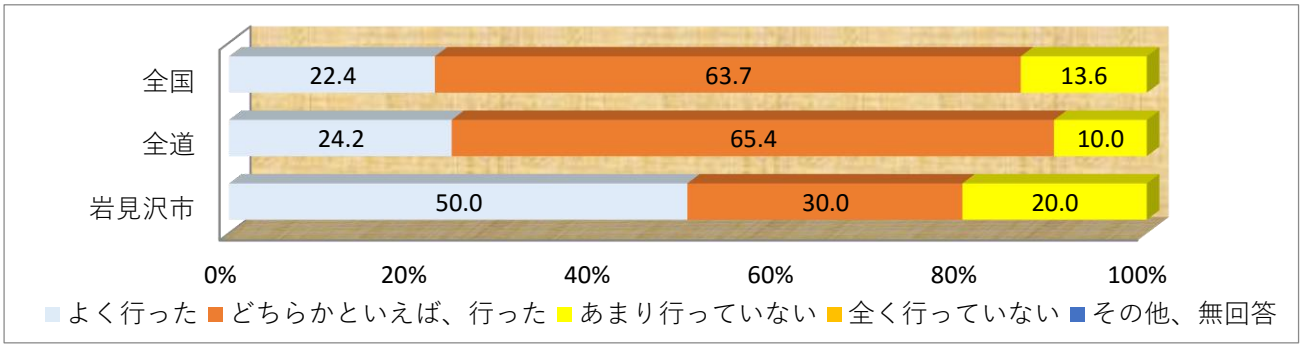
６８．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか



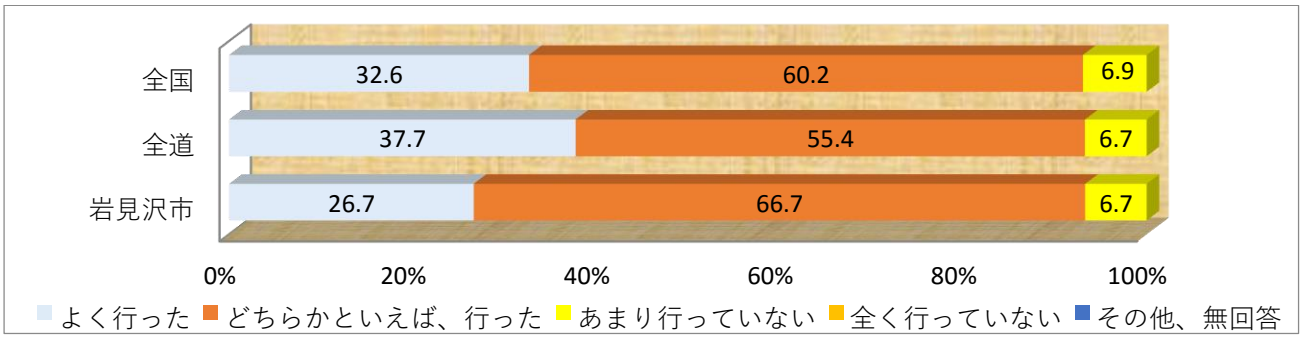


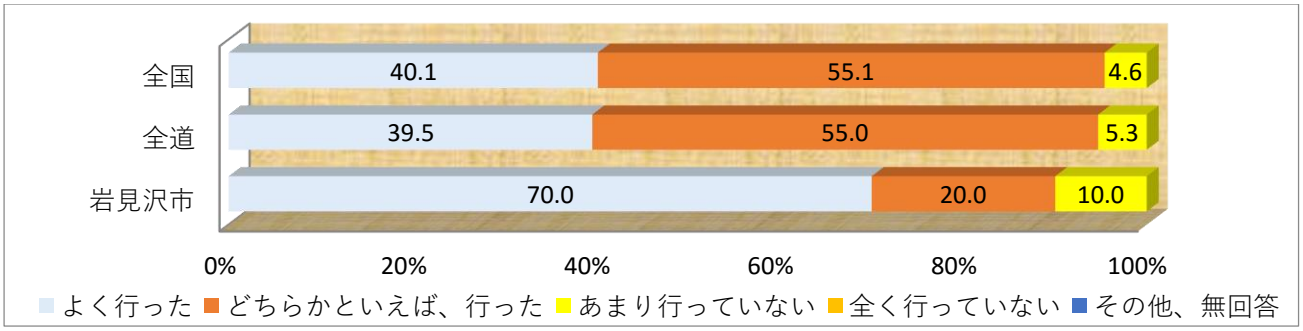
６９．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



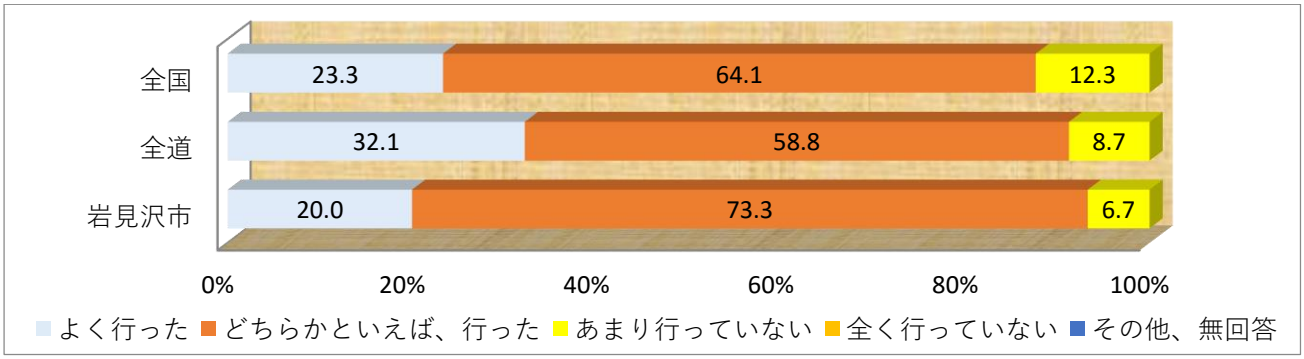


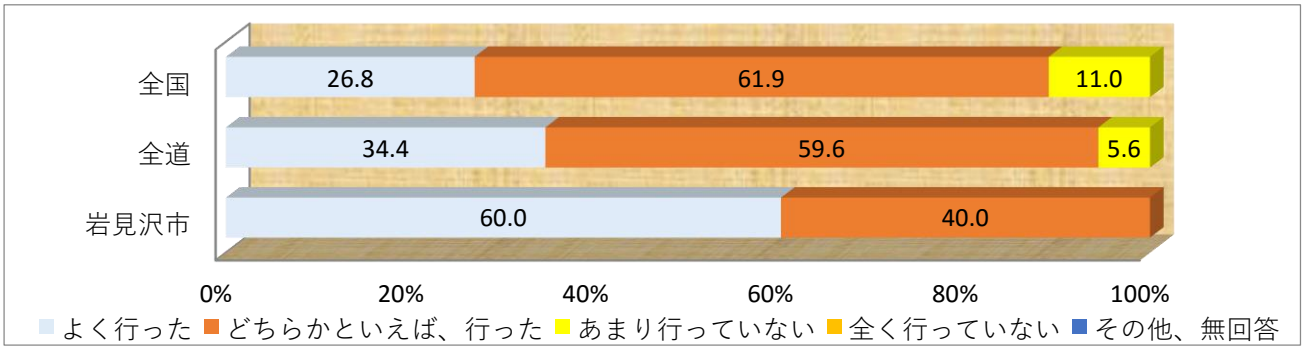
７０．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，書く習慣を付ける授業を行いましたか



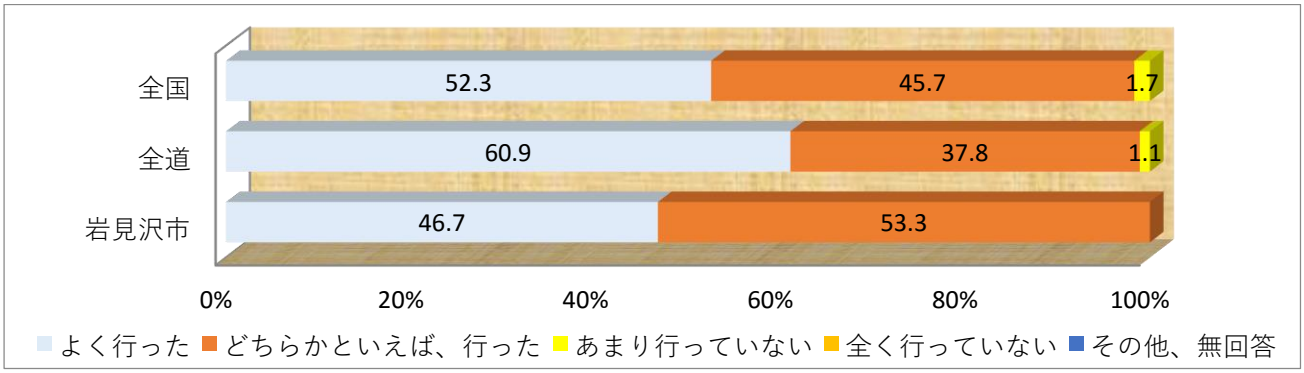


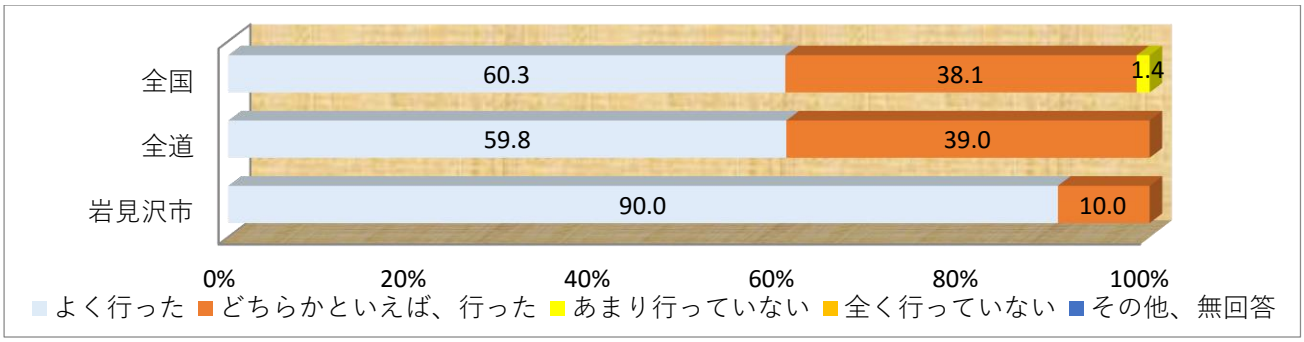
７１．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか





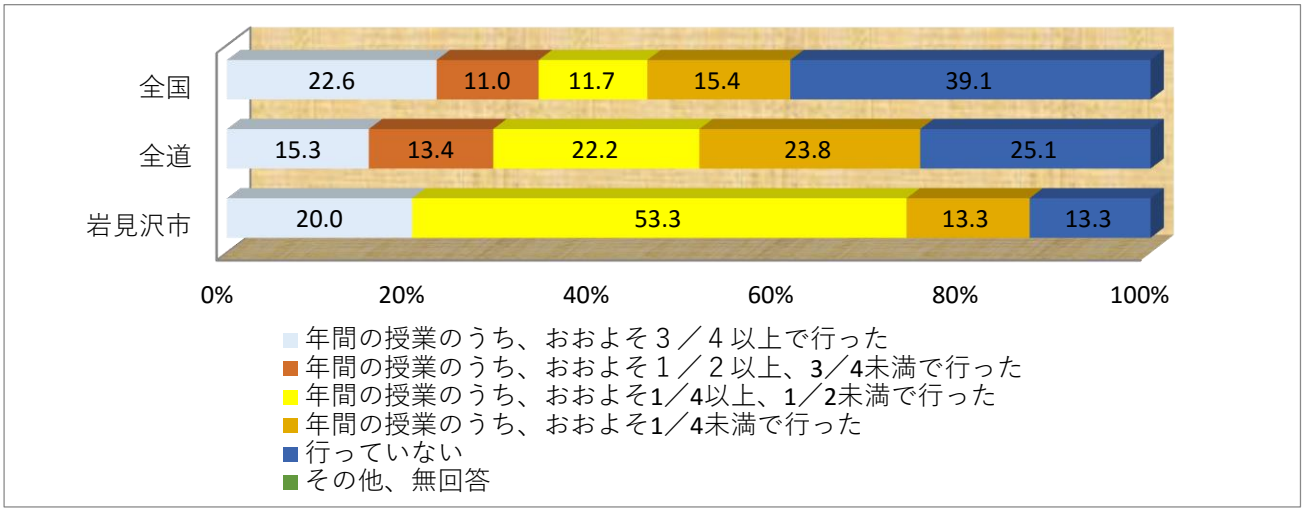
７２．調査対象学年の児童（生徒）に対する国語の指導として，前年度までに，漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか

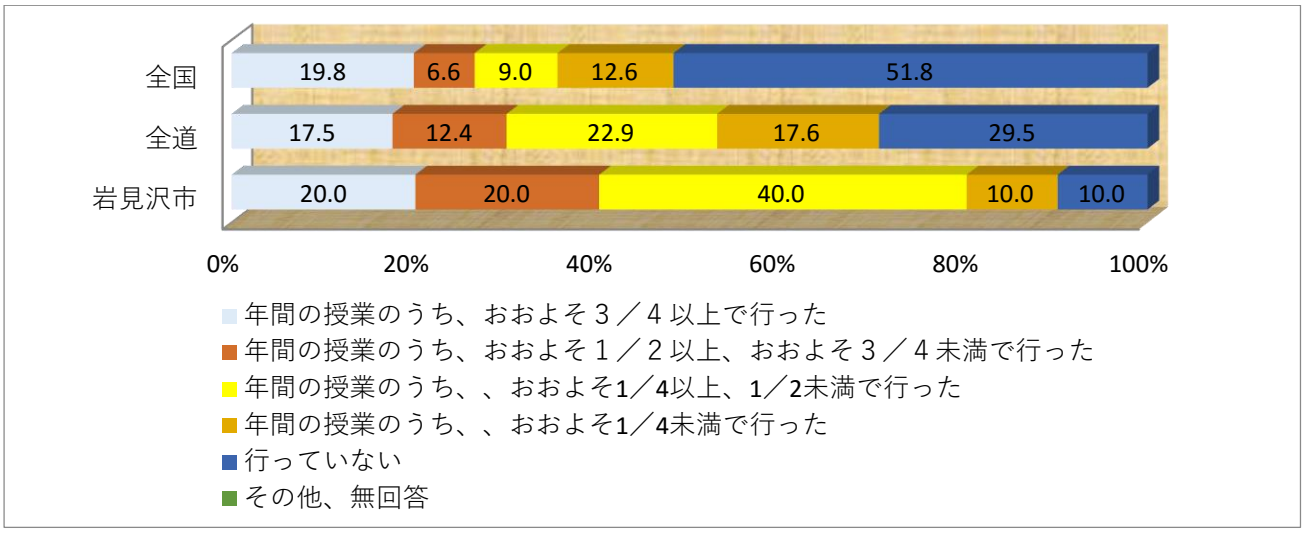




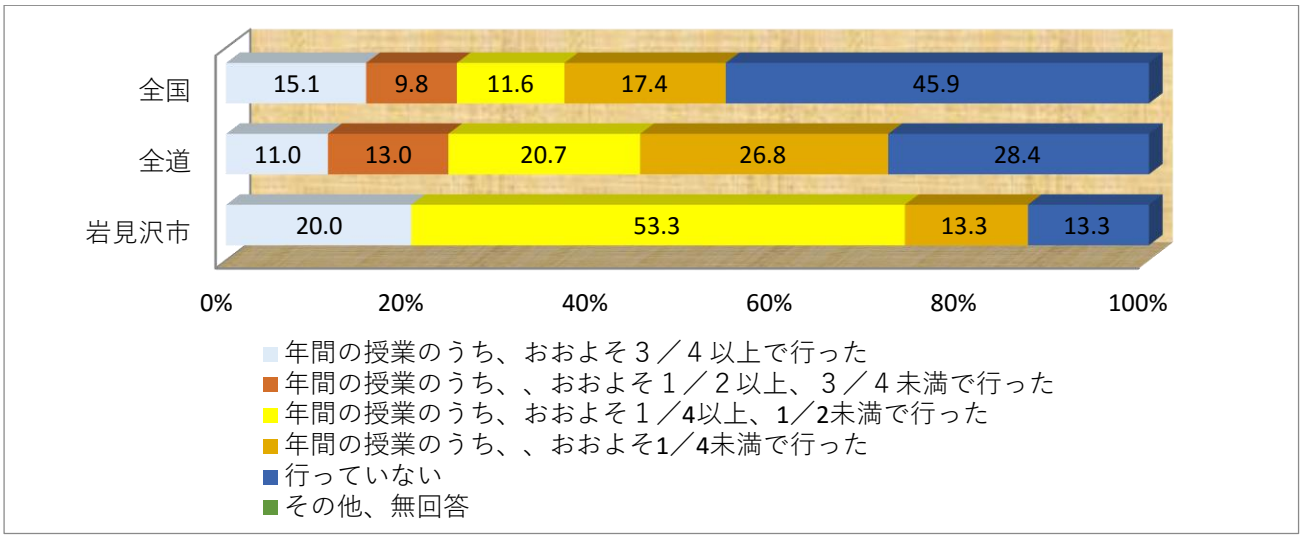
６　算数（数学）科の指導方法

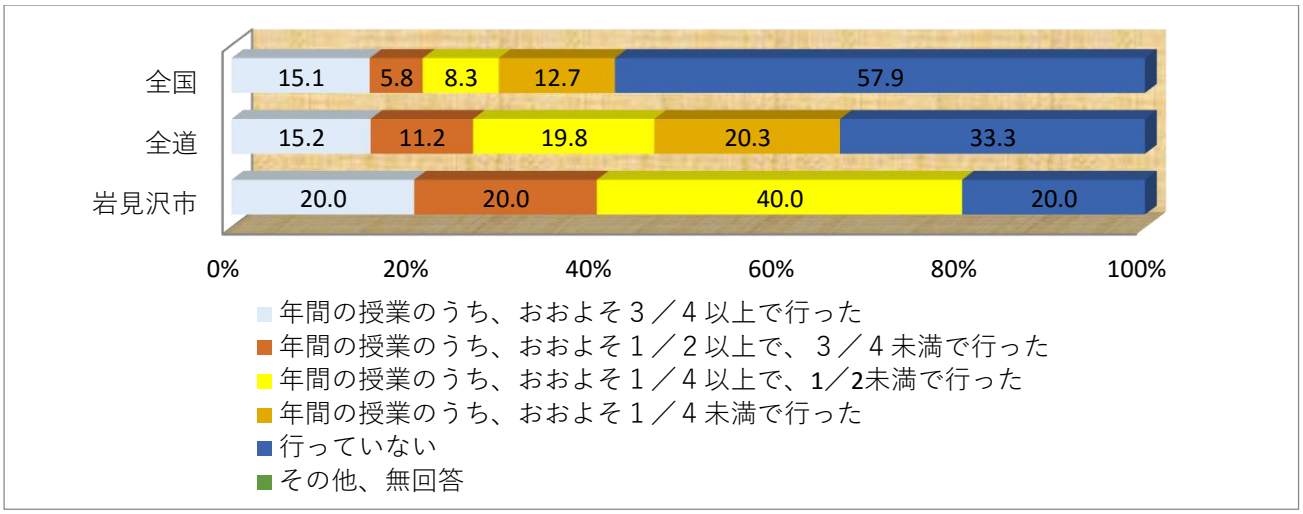
６４．調査対象学年の児童（生徒）に対して，算数（数学）の授業において，前年度に，習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い，習得できるようにしましたか



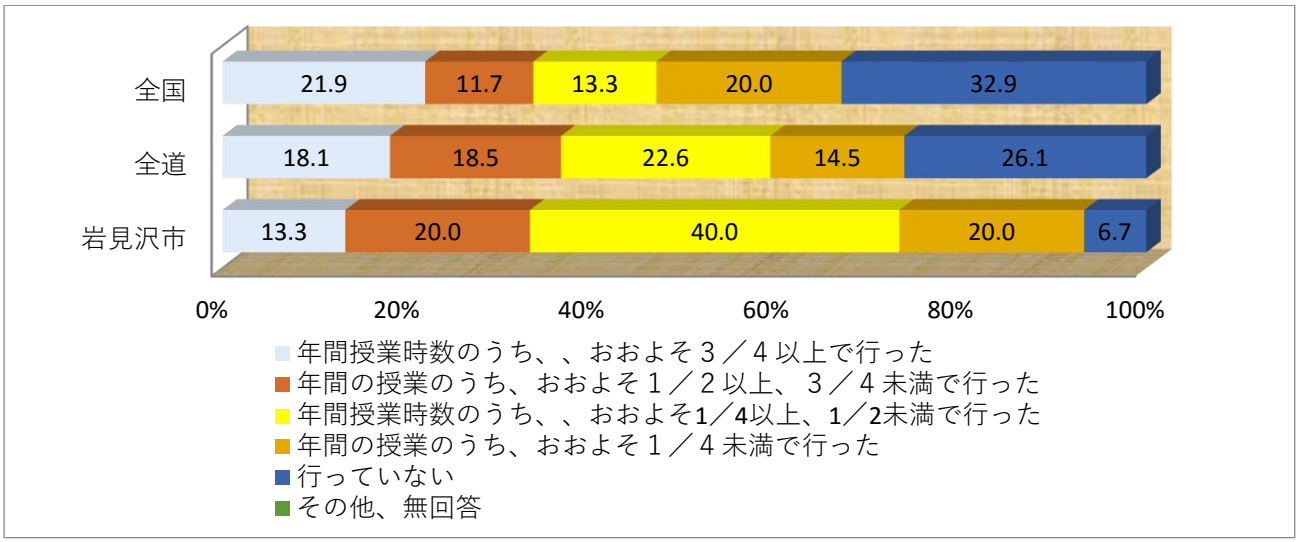


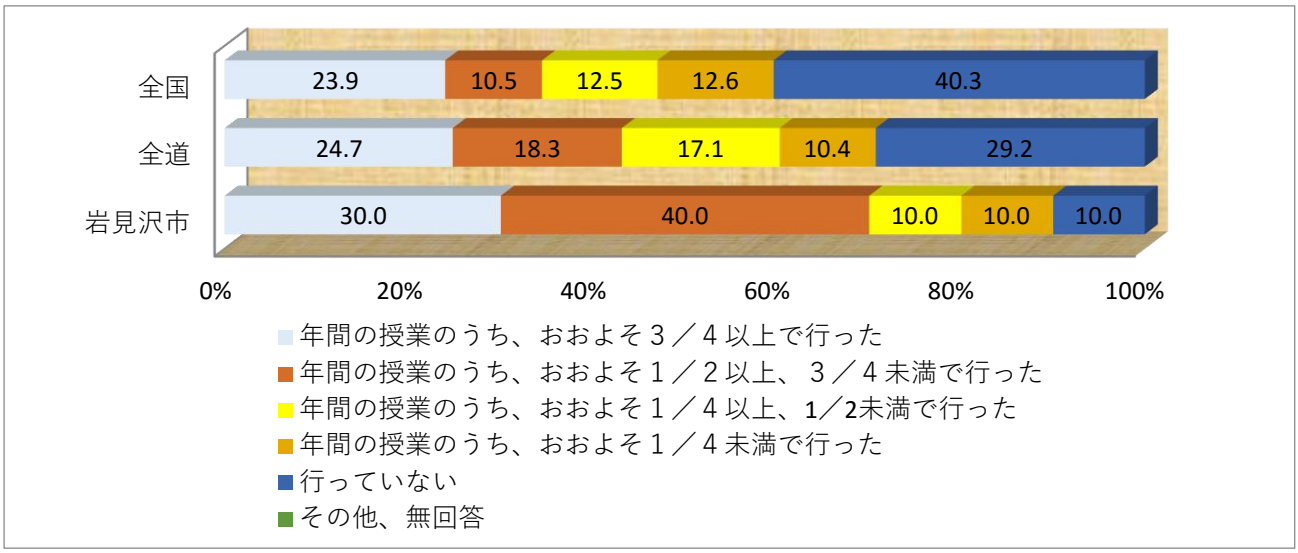
６５．調査対象学年の児童（生徒）に対して，算数（数学）の授業において，前年度に，習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い，発展的な内容を扱いましたか



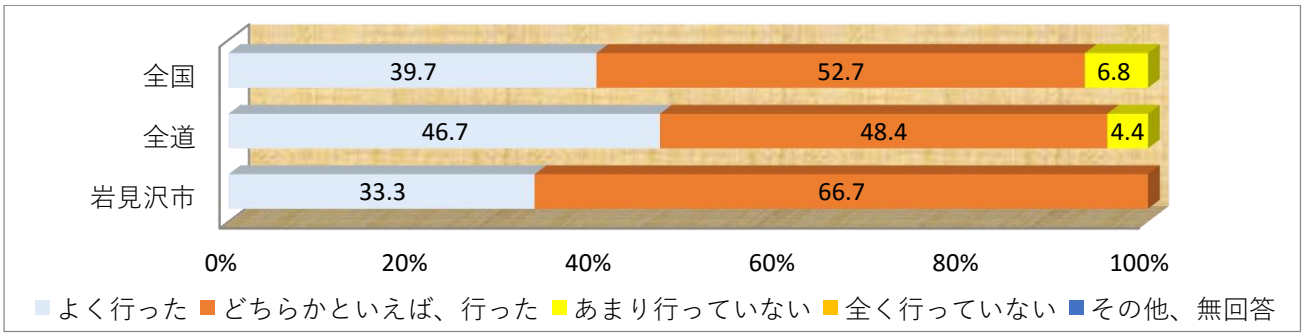


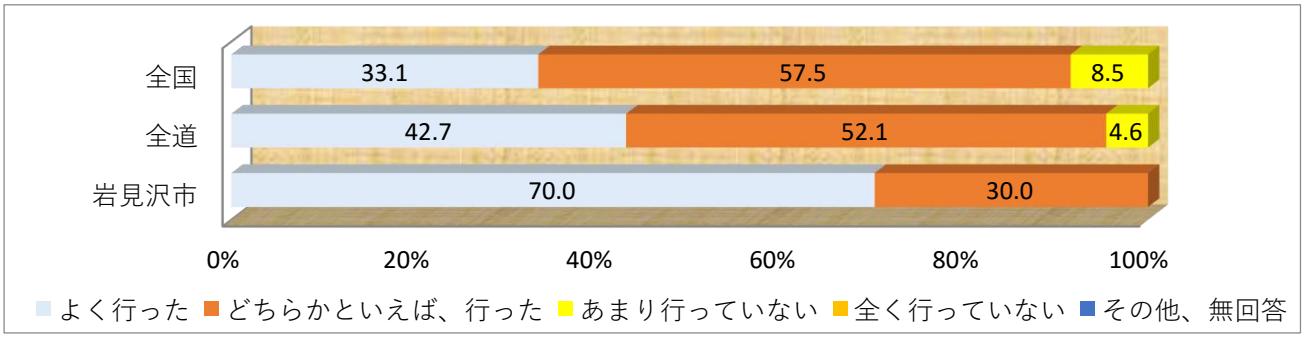
６６．調査対象学年の児童（生徒）に対して，算数（数学）の授業において，前年度に，ティームティーチングによる指導を行いましたか



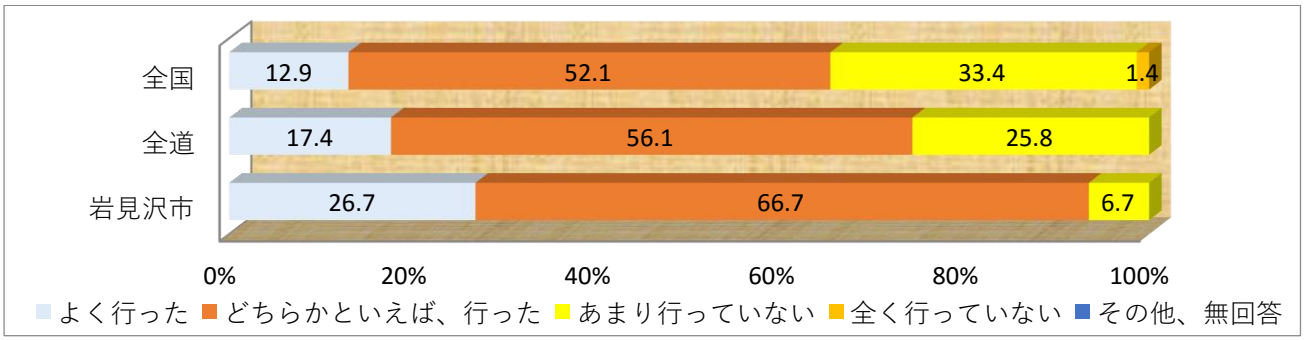


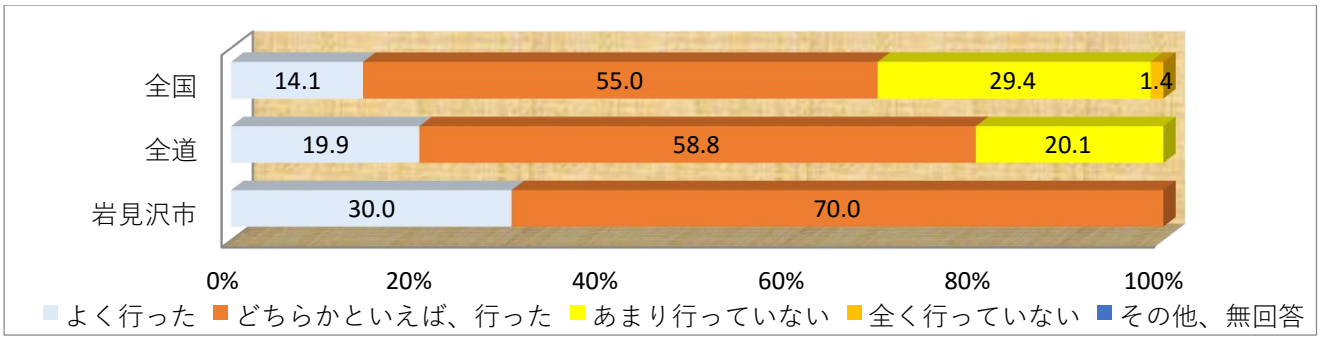
７３．調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として，前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか



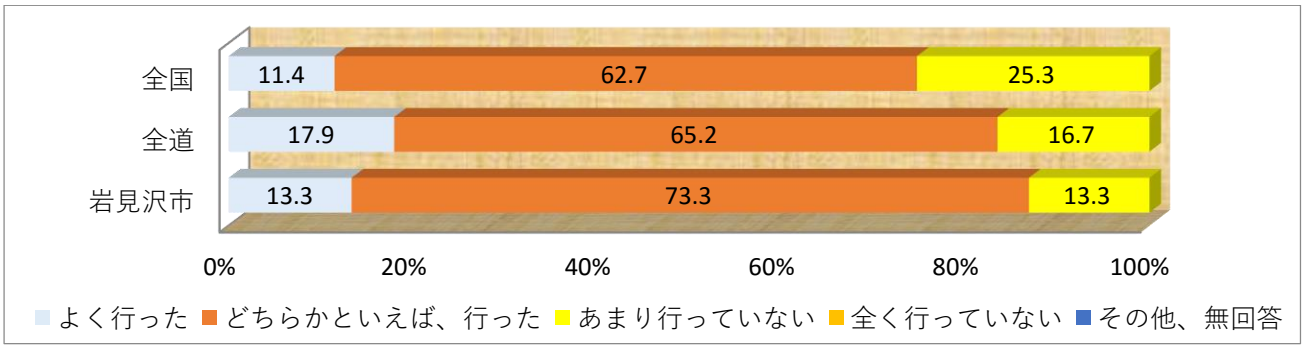


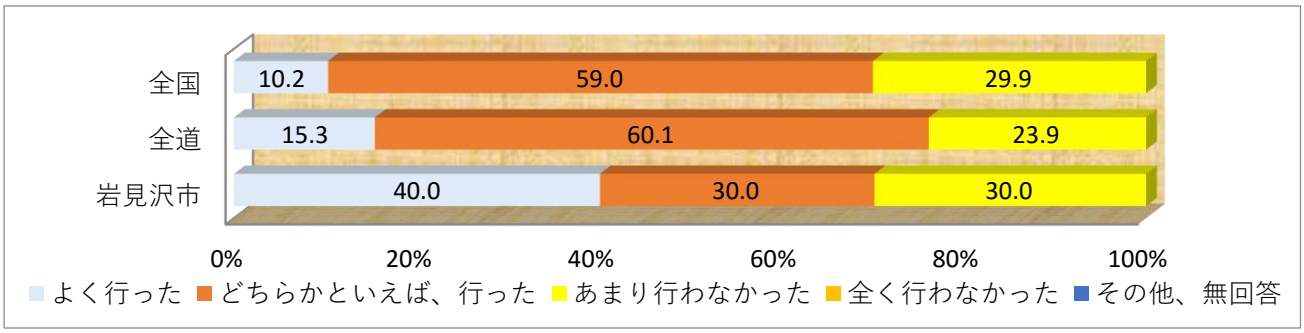
７４．調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか



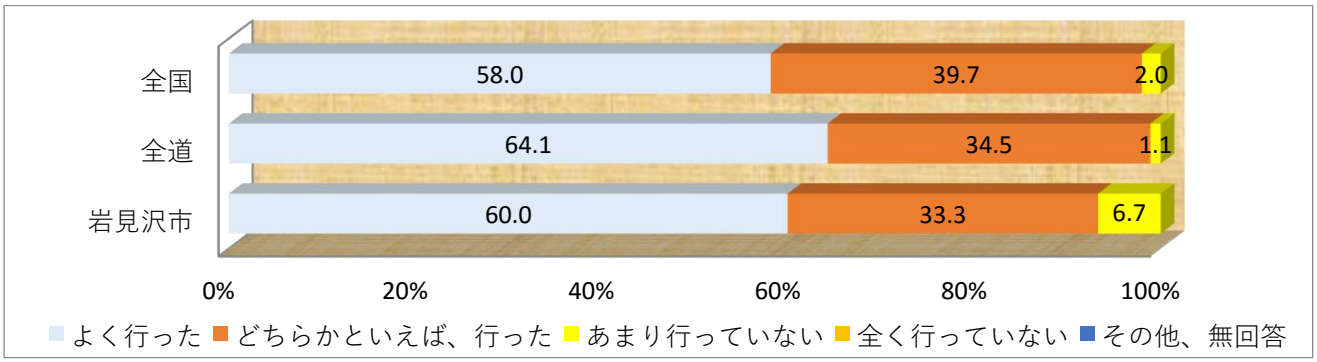


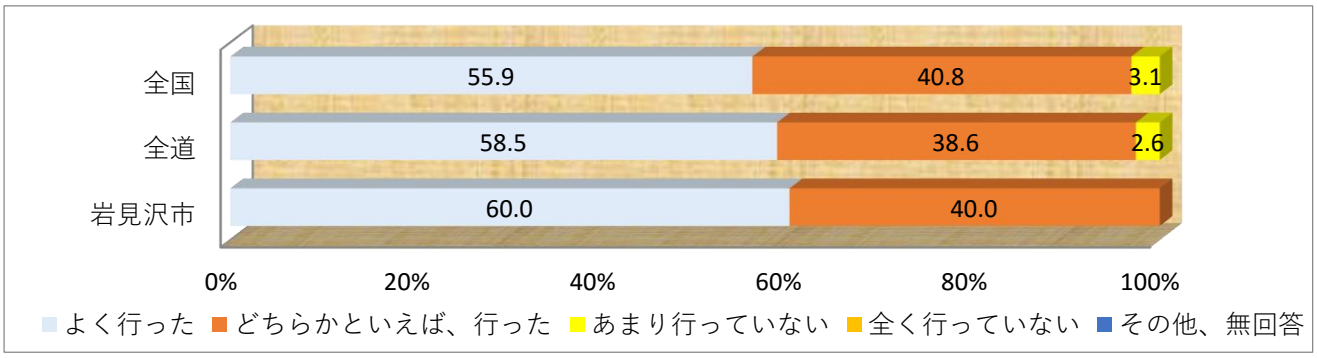
７５．調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか





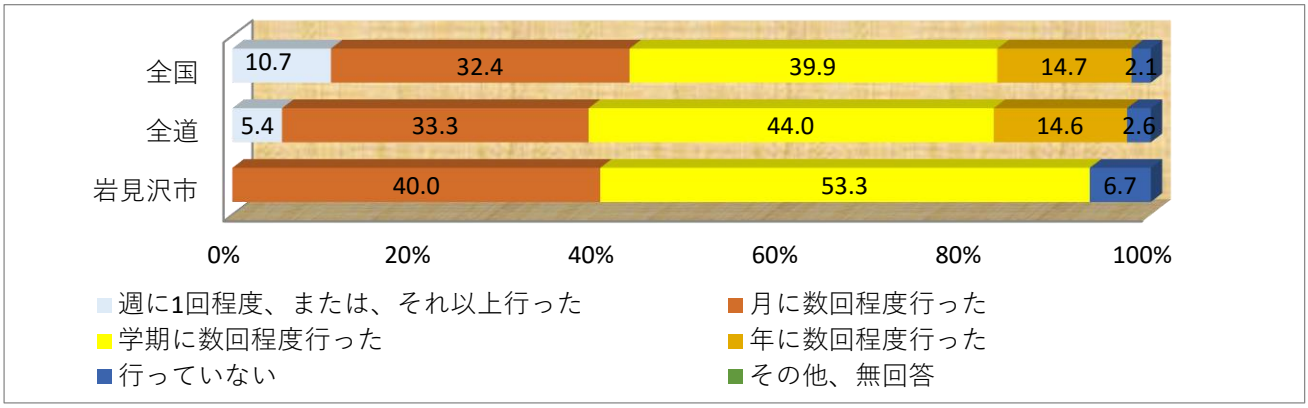
７６．調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として，前年度までに，計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか

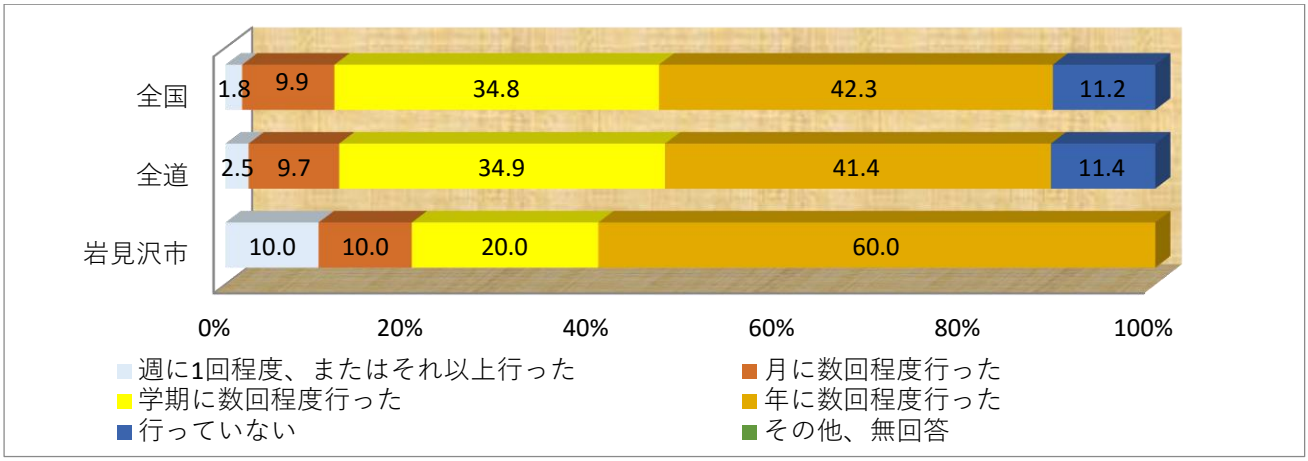




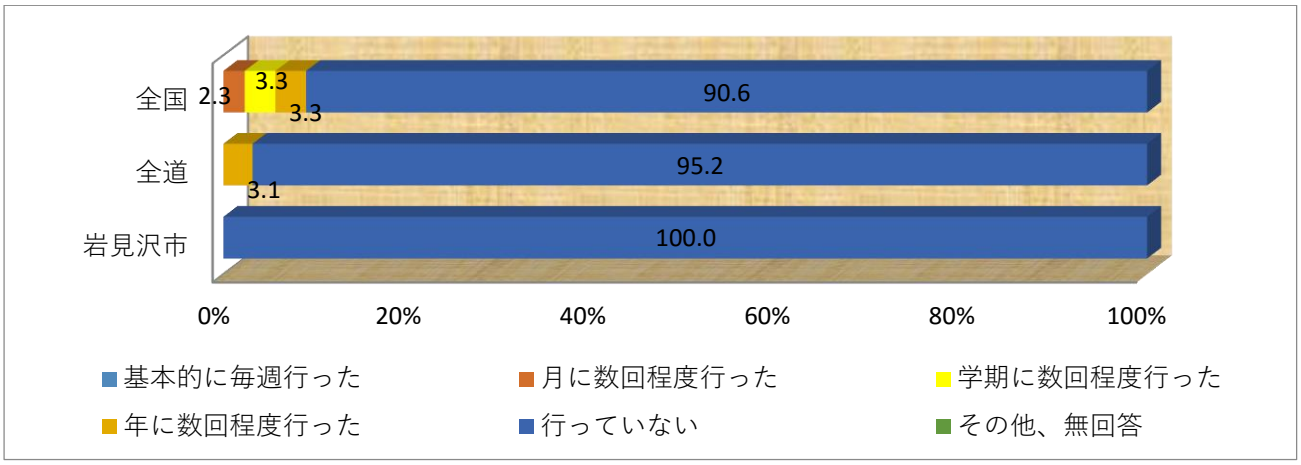
７　学力向上に向けた取組

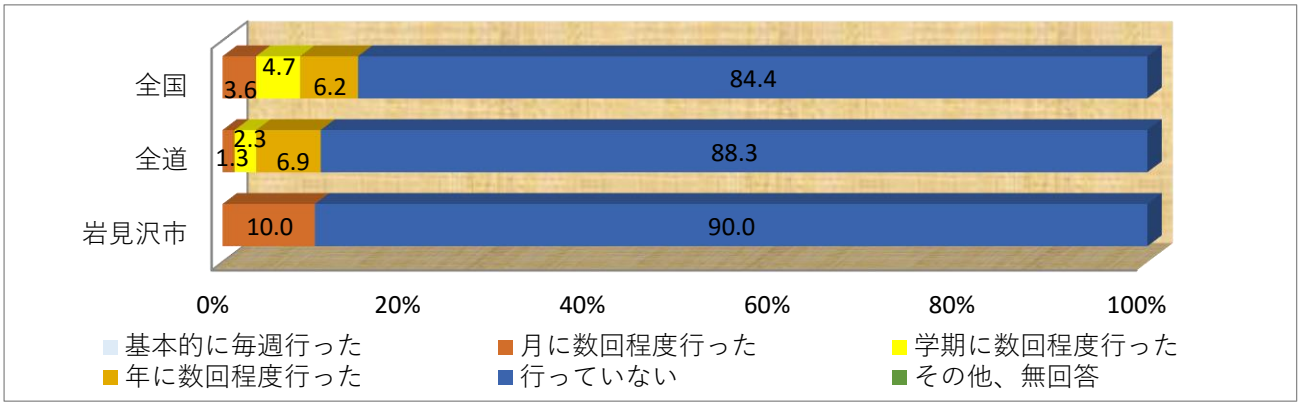
２４．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度に，図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか





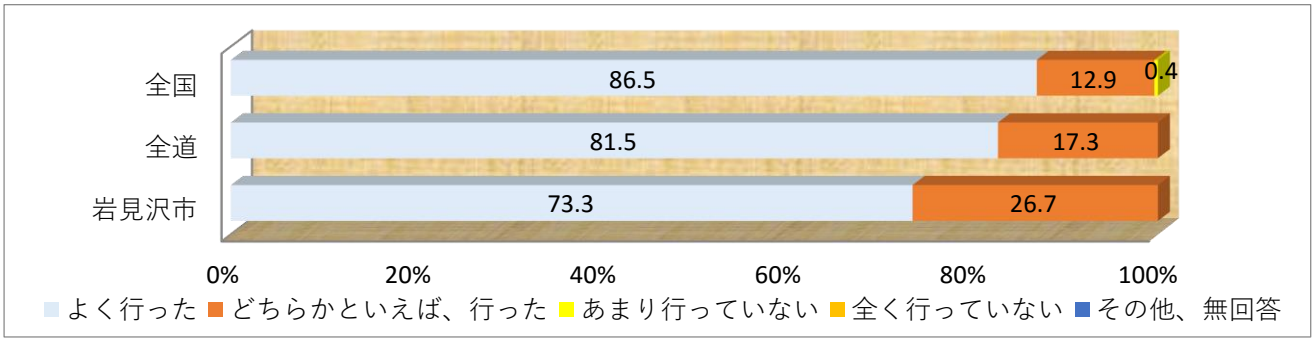
２６．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度に，土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか

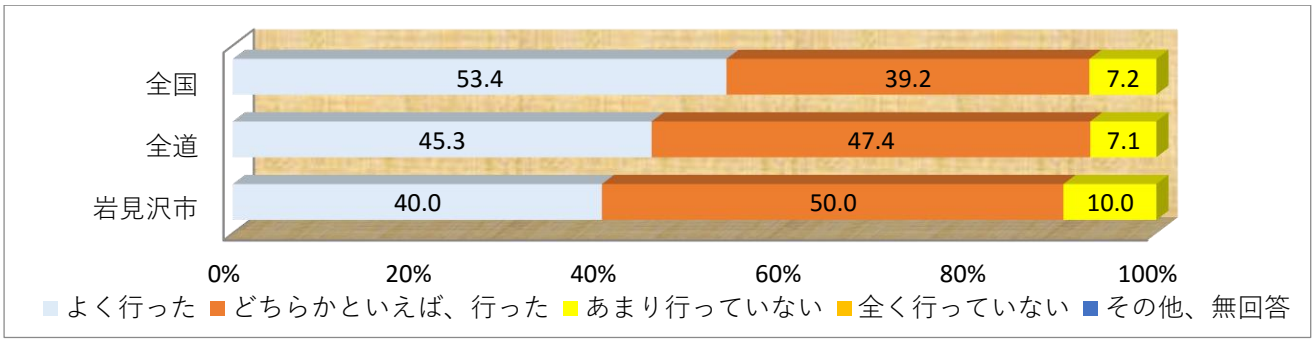




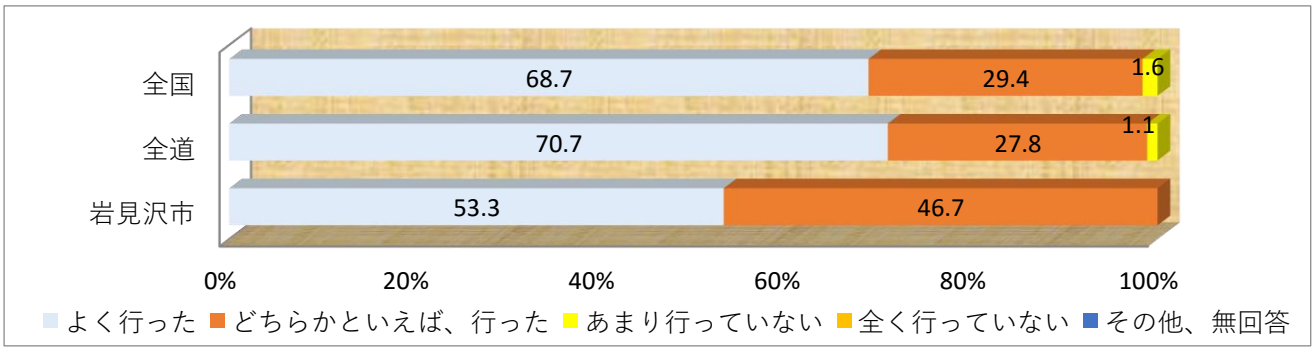
８　家庭学習

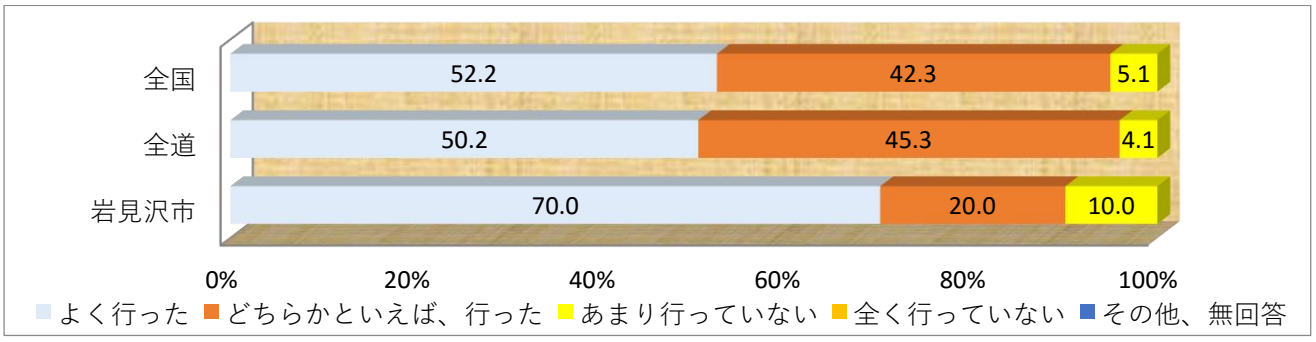
９２（９０）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，国語の指導として，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



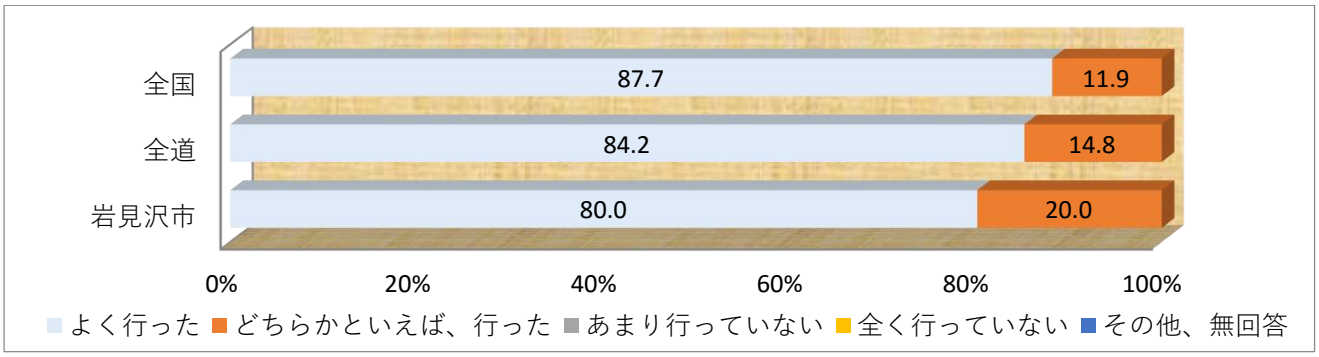


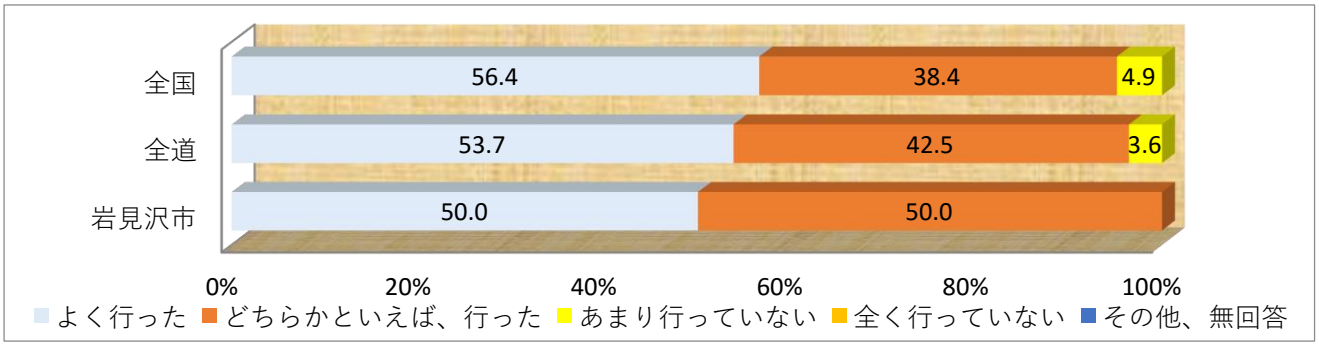
９３（９１）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，国語の指導として，児童（生徒）に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導しましたか



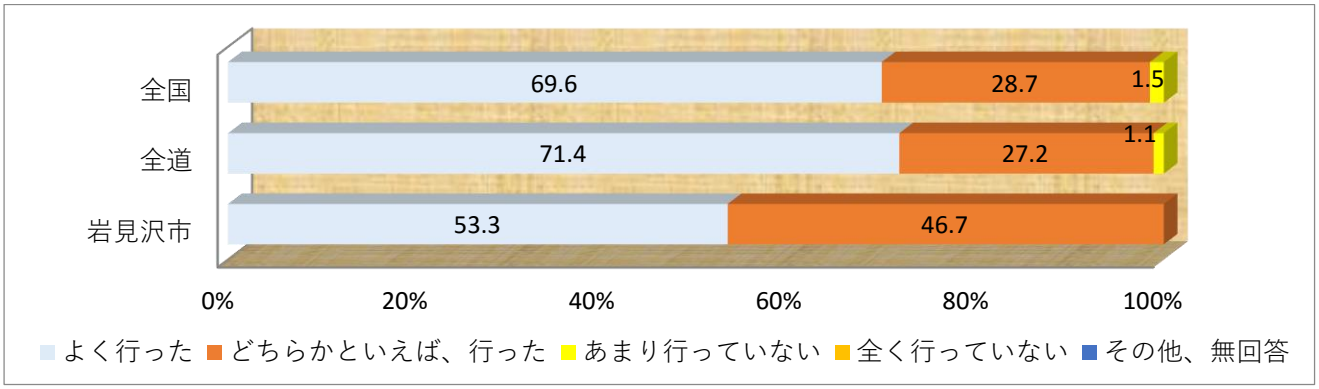


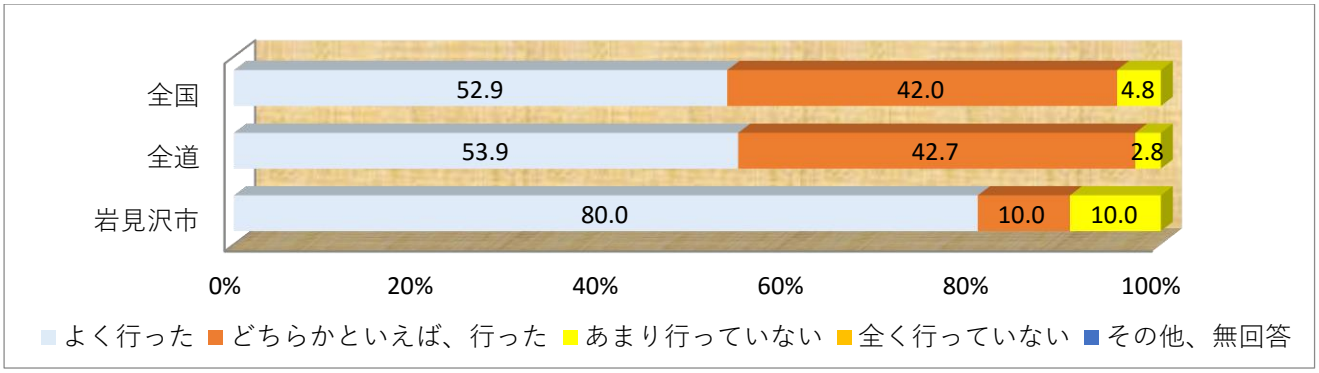
94（92）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，算数（数学）の指導として，家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



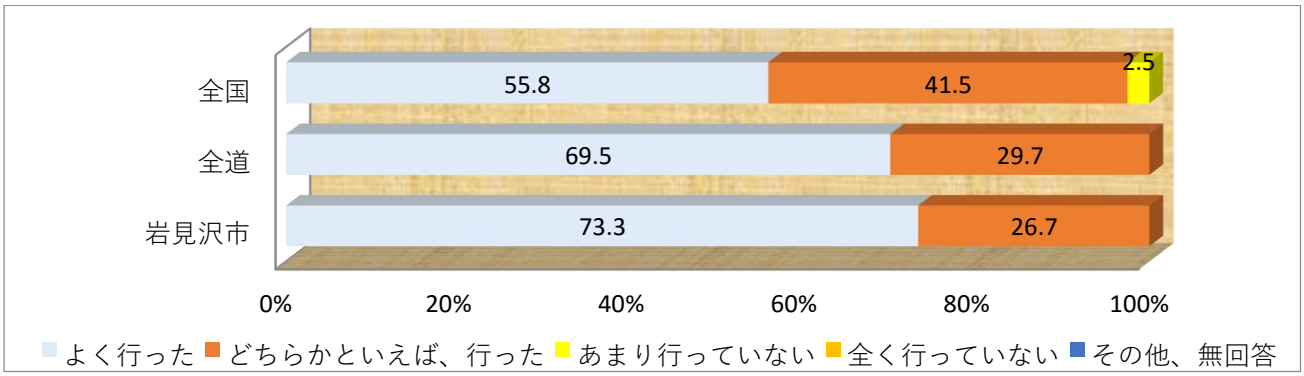


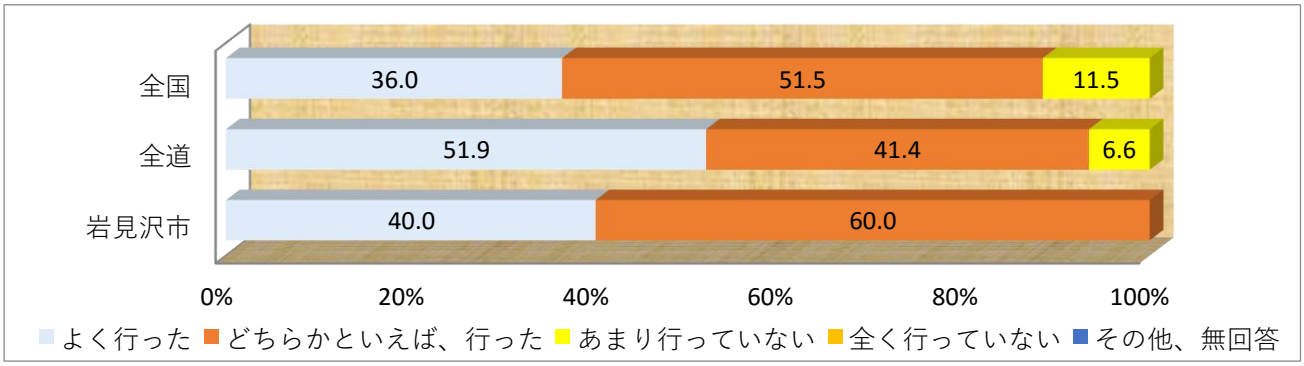
95（93）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，算数（数学）の指導として，児童（生徒）に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導しましたか



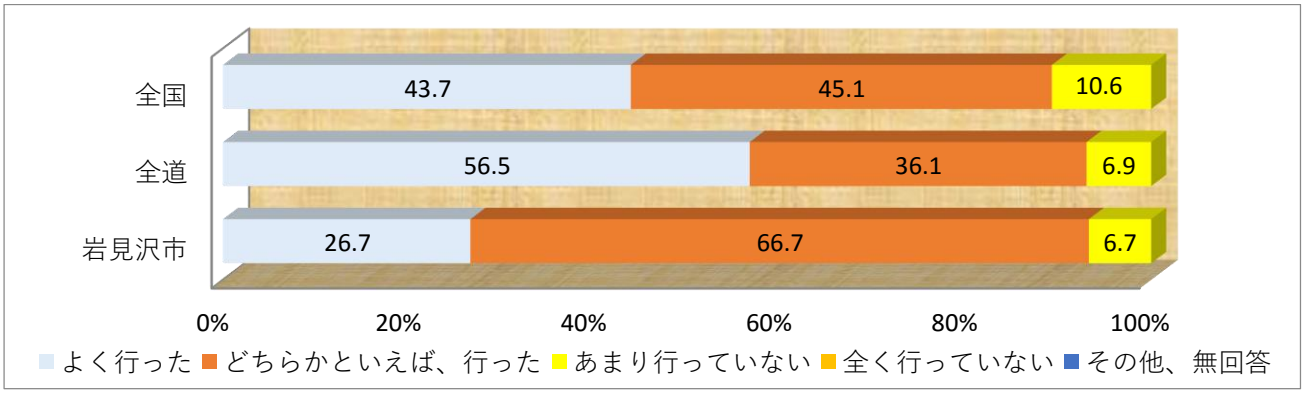


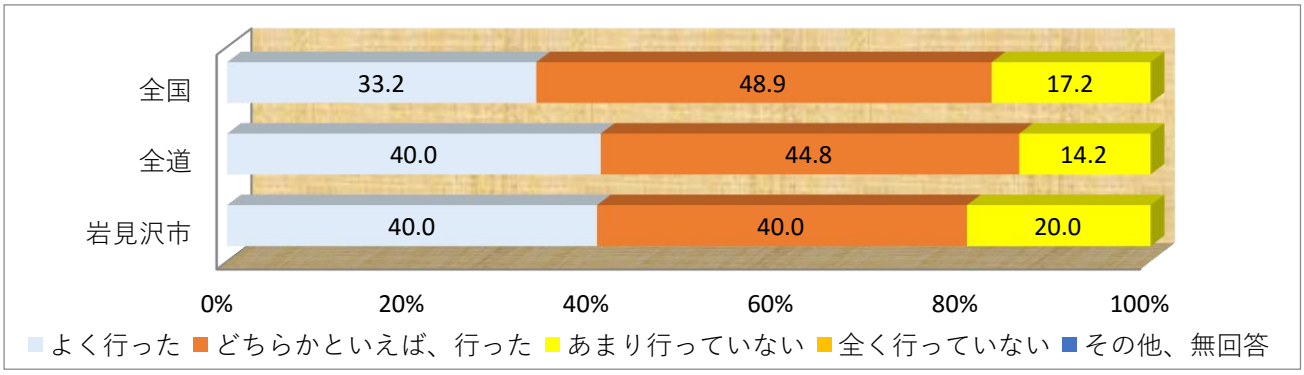
96（94）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，保護者に対して児童（生徒）の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）



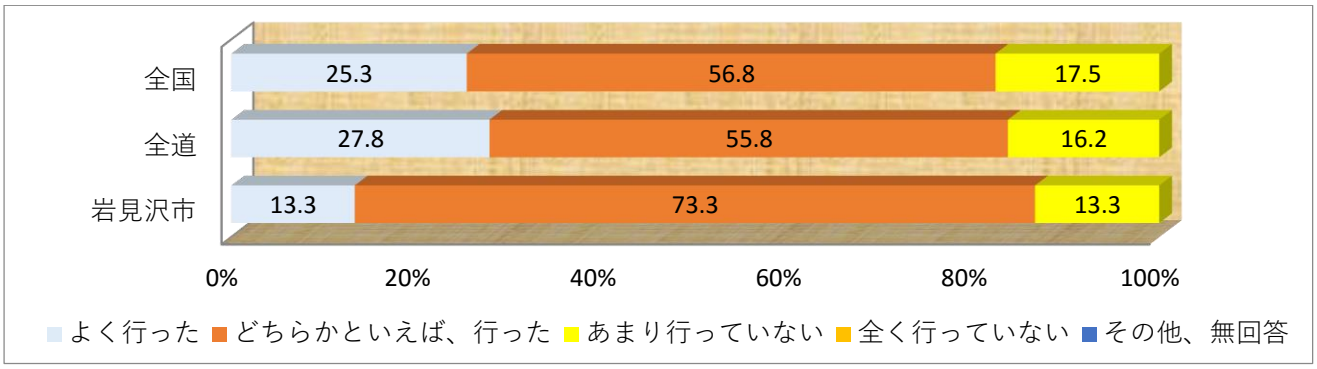


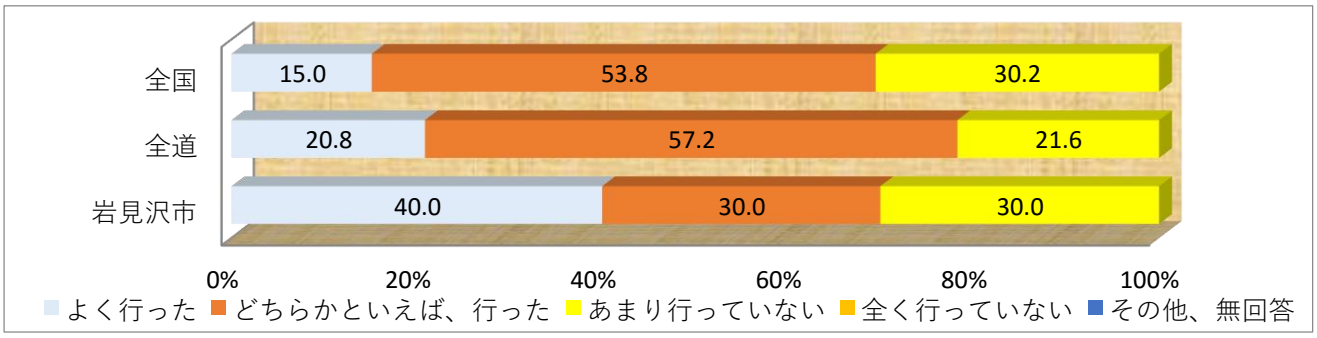
97（95）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数・数学共通）



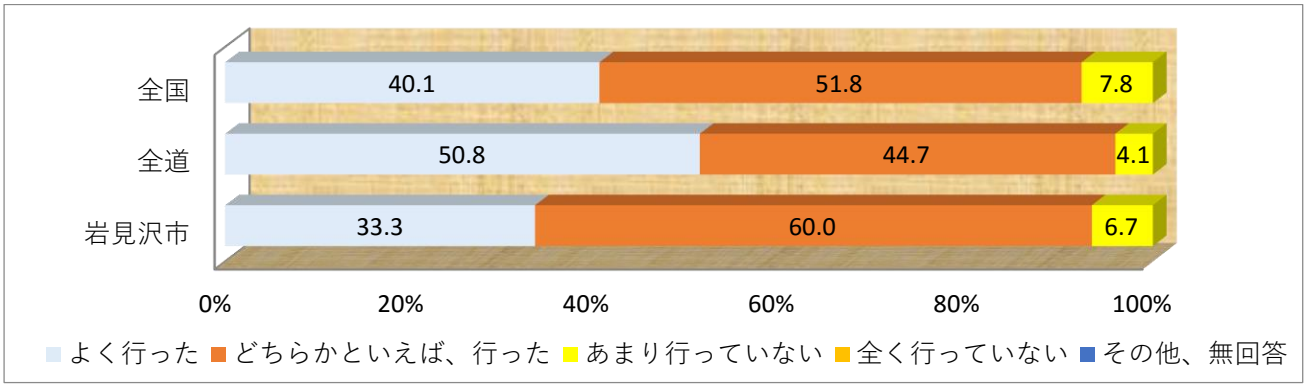


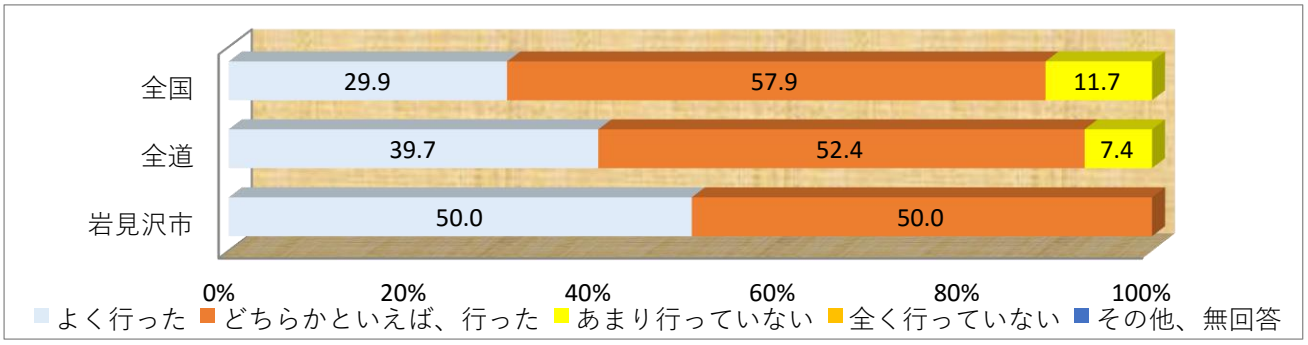
98（96）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，家庭学習の取組として，調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）



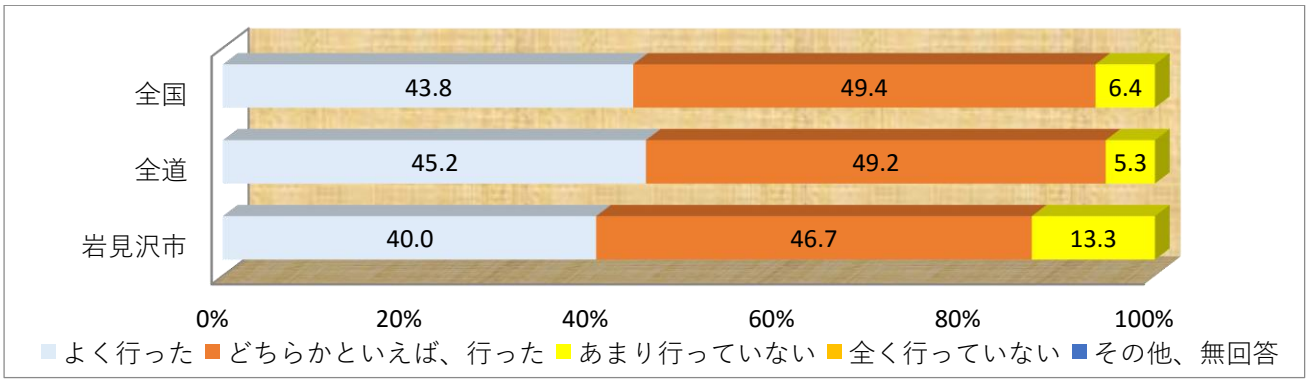


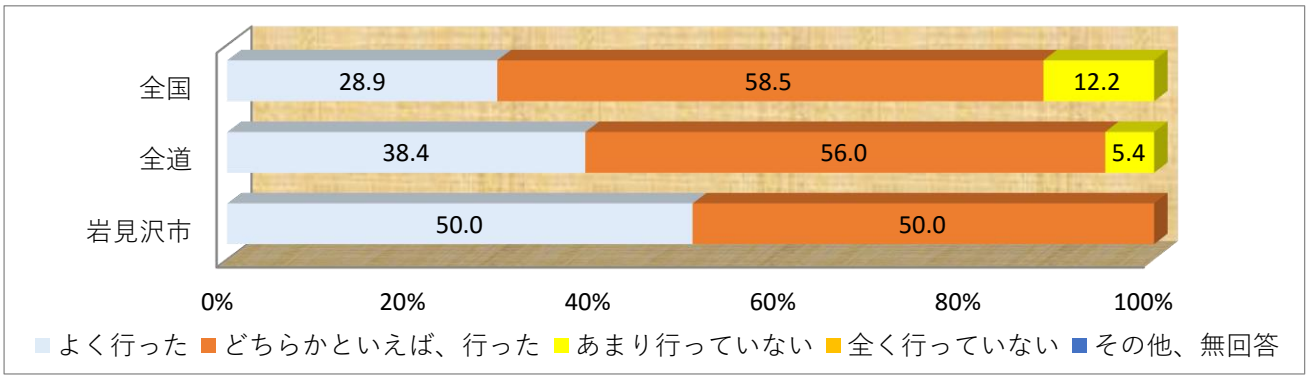
99（97）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，家庭学習の取組として，児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数・数学共通）





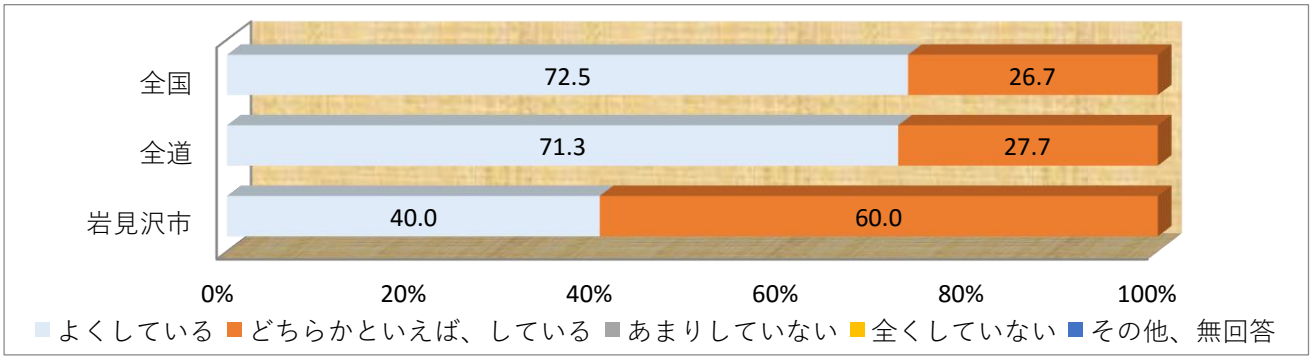
１００（９８）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，予習・復習や宿題をさせる際に，教科書の活用（自宅等で教科書を読むなどを含む）を促しましたか

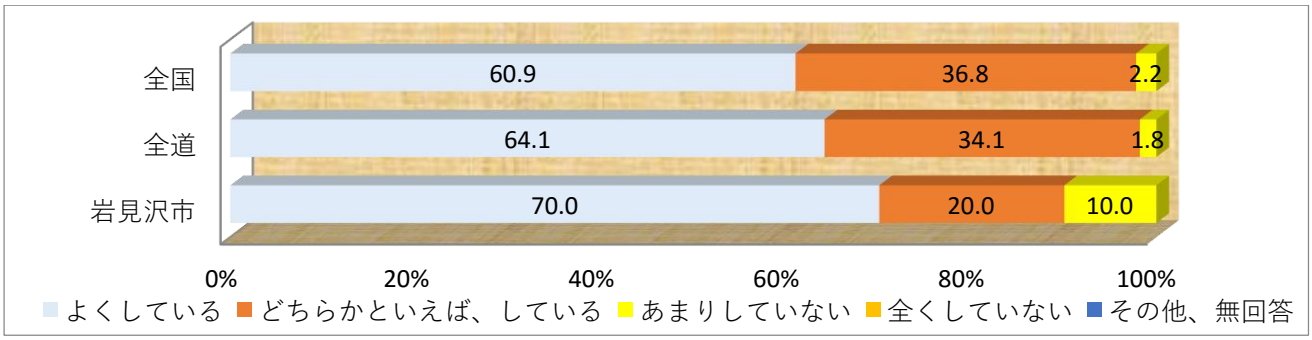




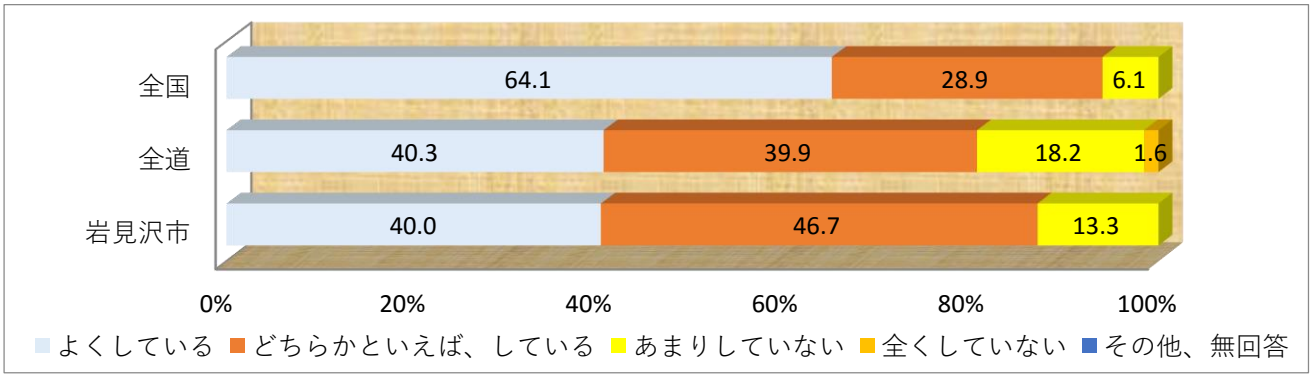
９　教員研修

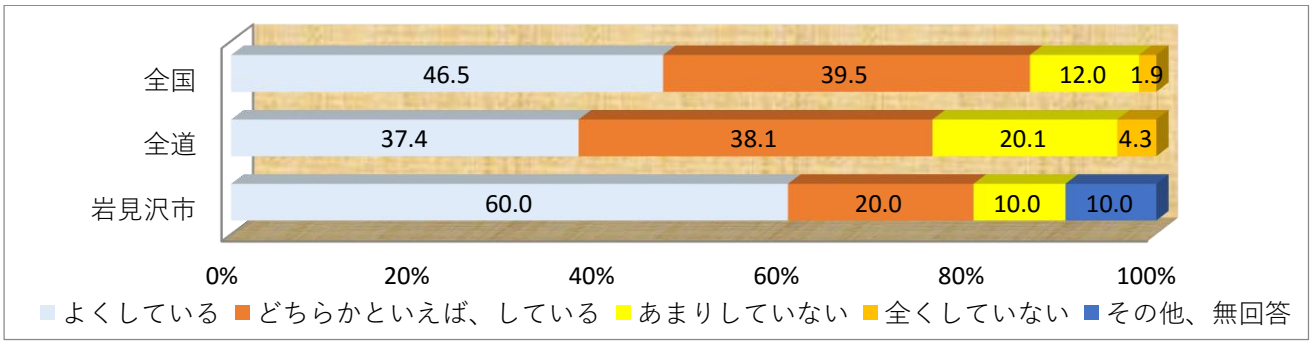
１０１（９９）．校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っていますか



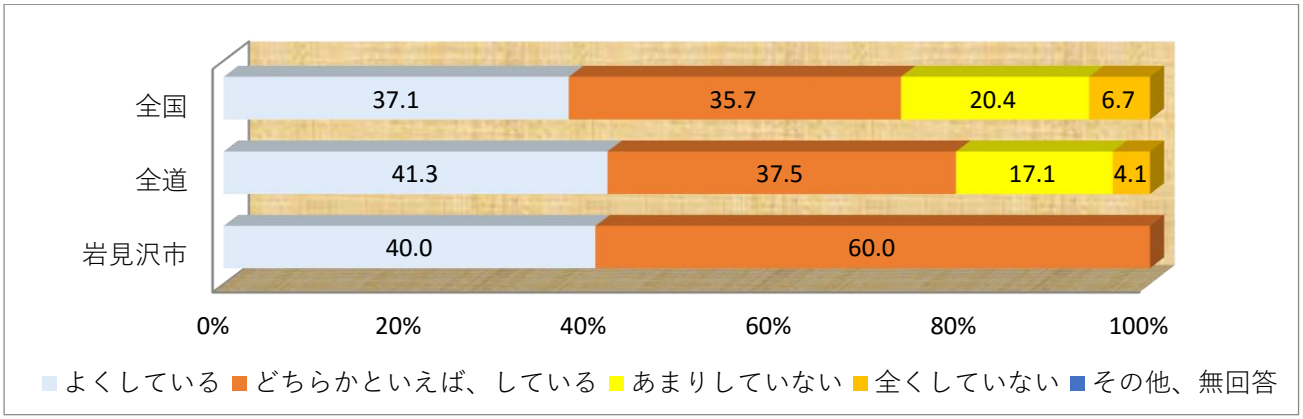


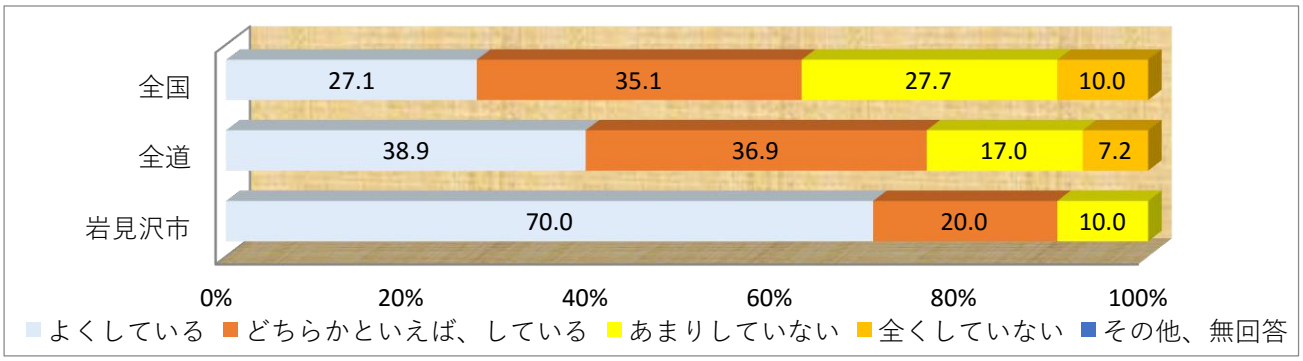
１０２（１００）．学校でテーマを決め，講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか



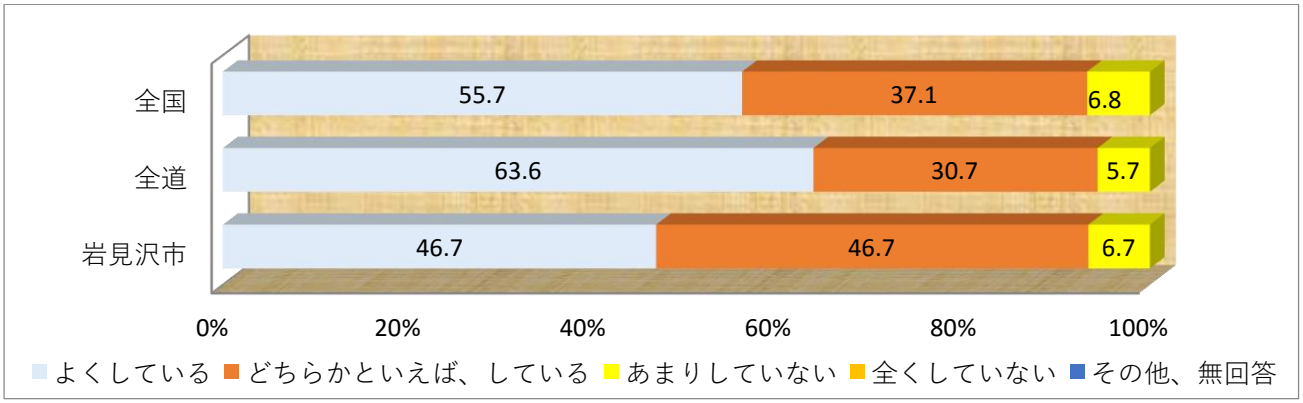


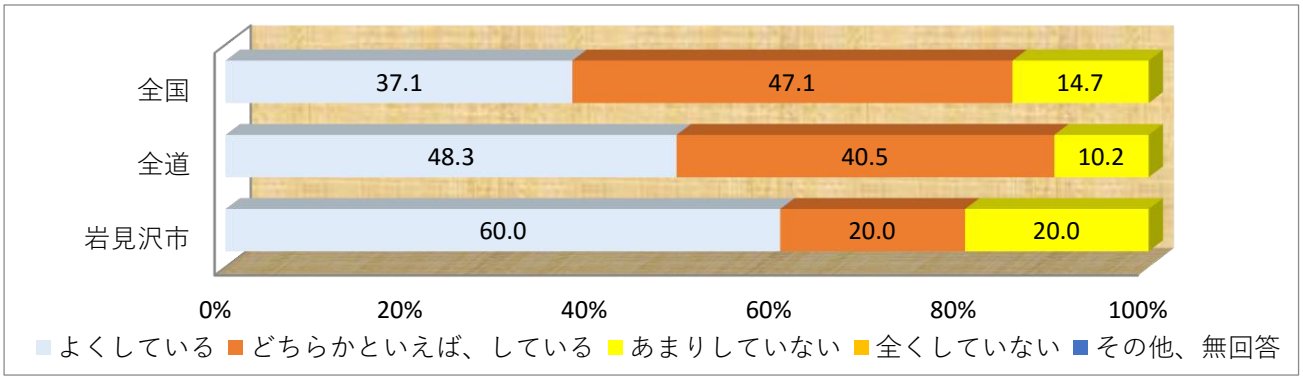
１０３（１０１）．都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が，校内研修の指導のために定期的に来校していますか



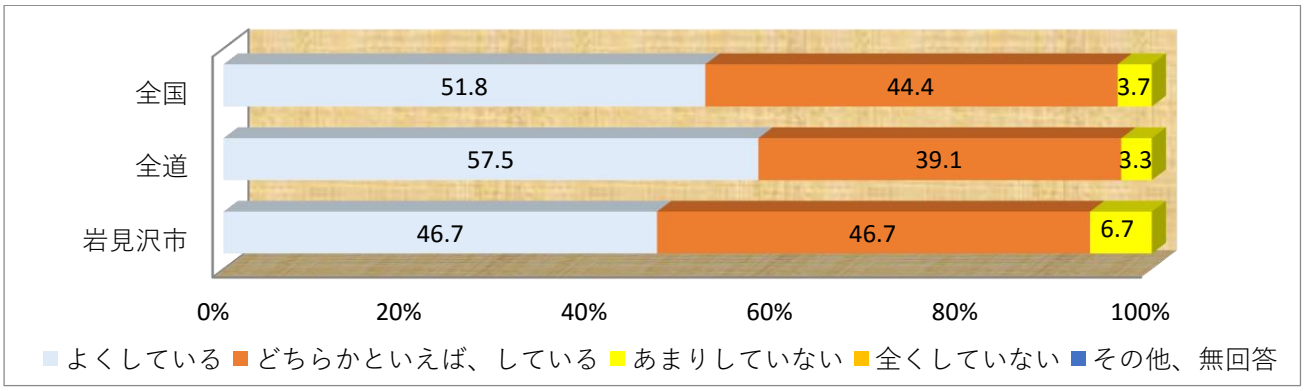


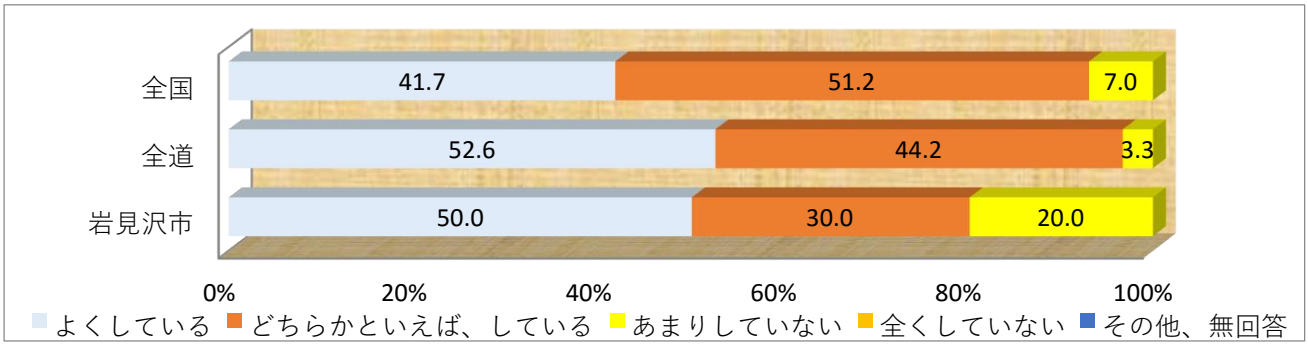
１０４（１０２）．授業や事例研究など，実践的な研修を行っていますか



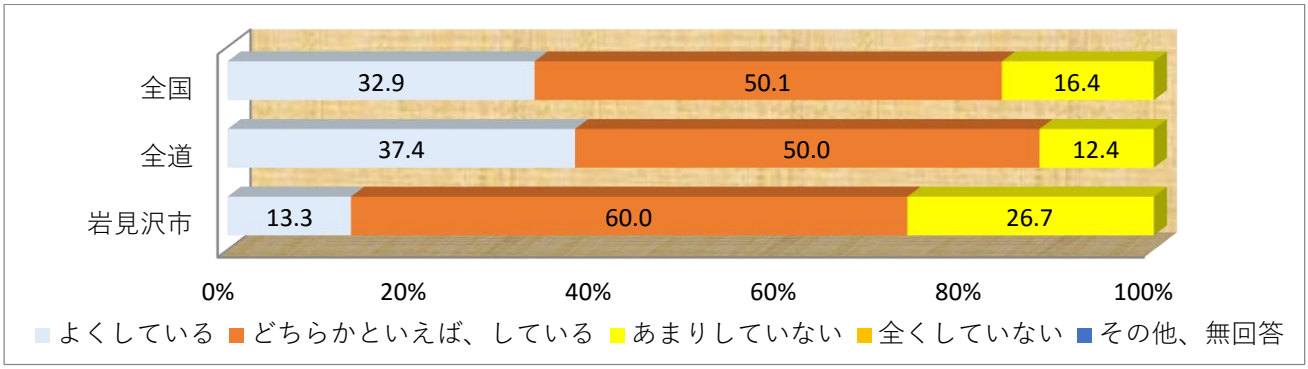


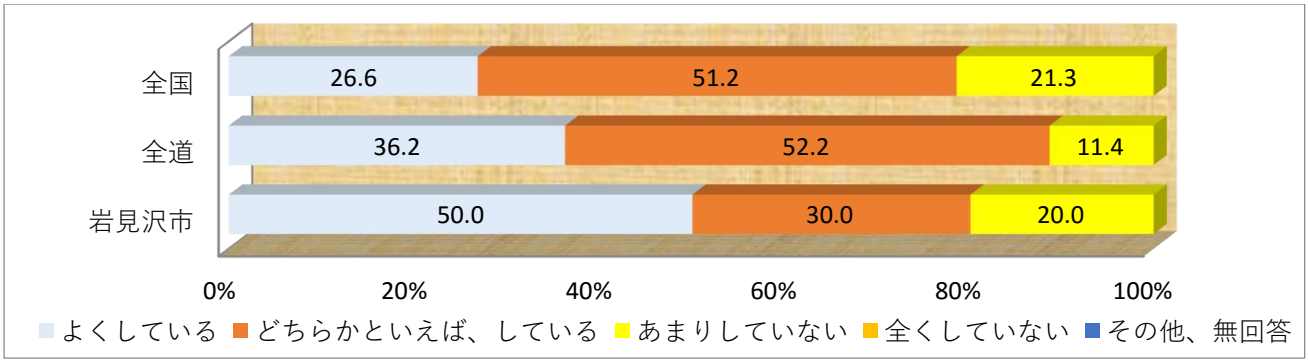
１０５（１０３）．教員が，他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか



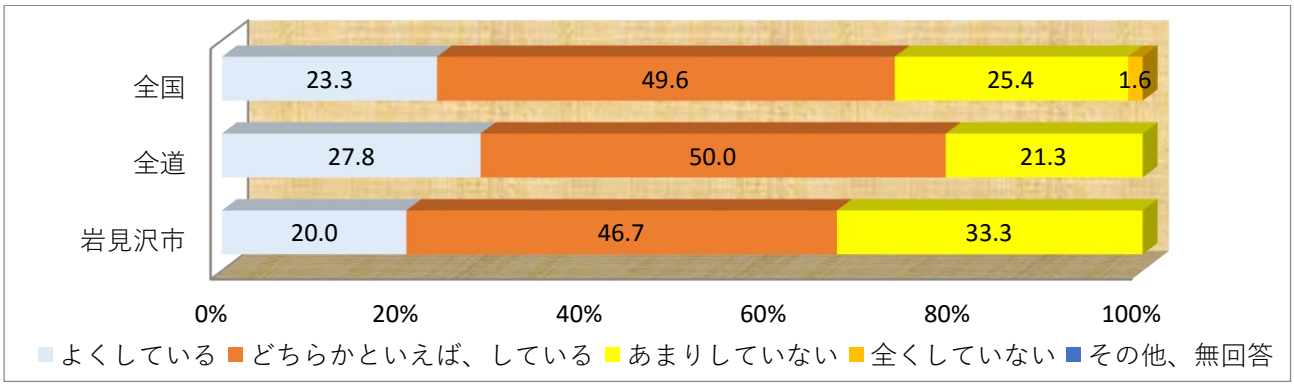


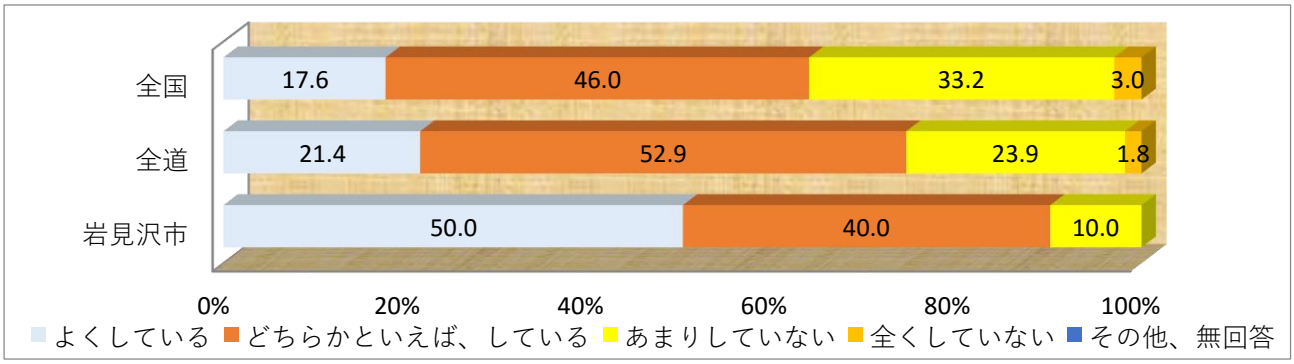
１０６（１０４）．個々の教員が，自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており，校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか



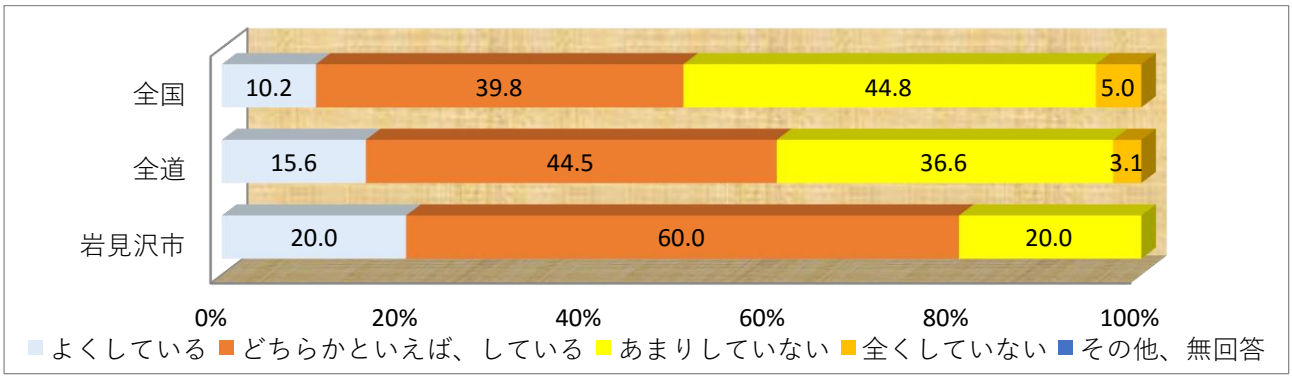


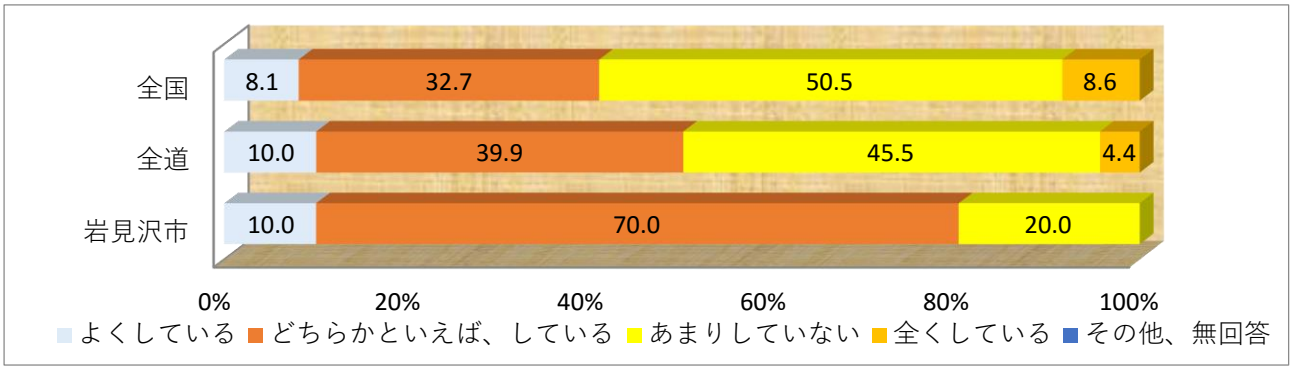
１０７（１０５）．児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか



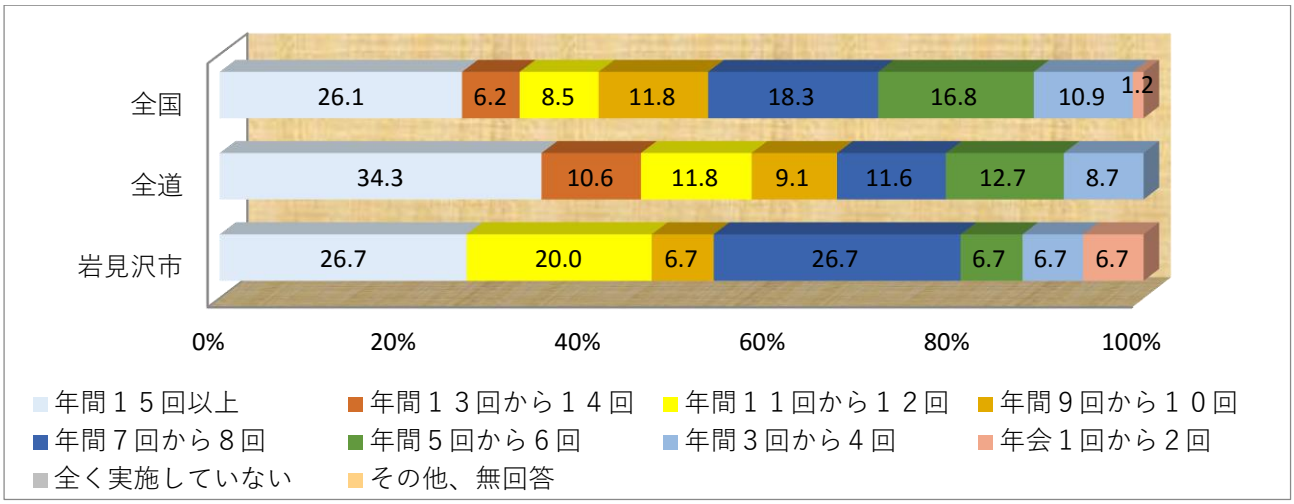


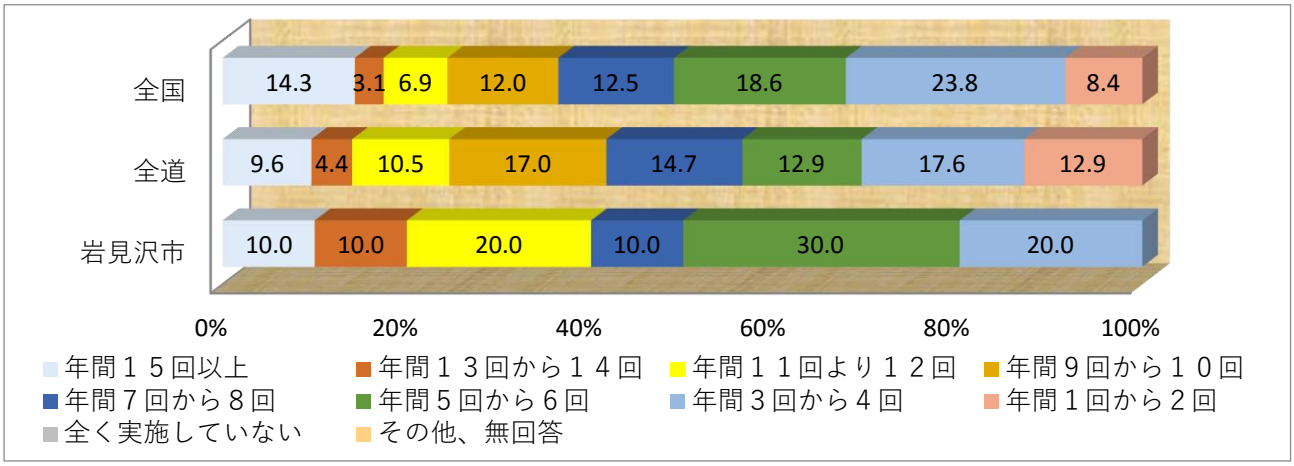
１０８（１０６）．コンピュータ等の情報通信技術を活用して，子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っていますか



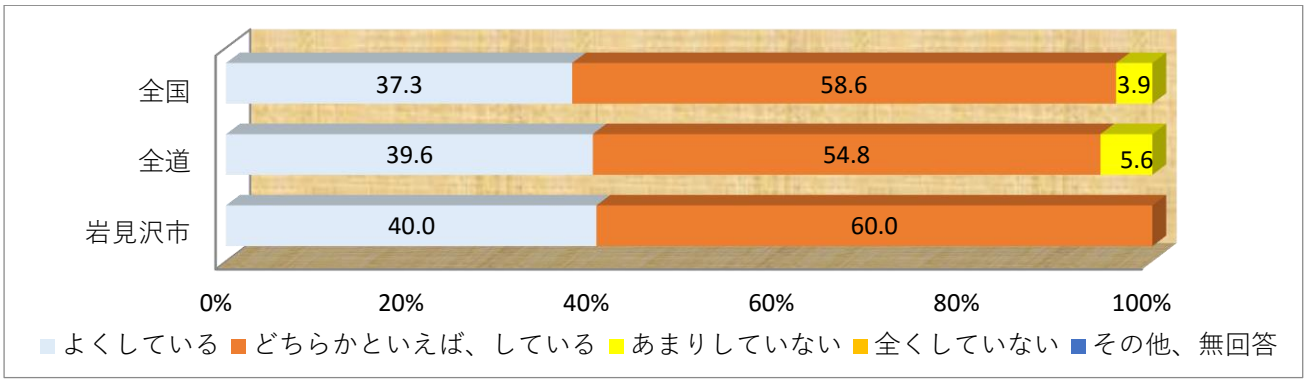


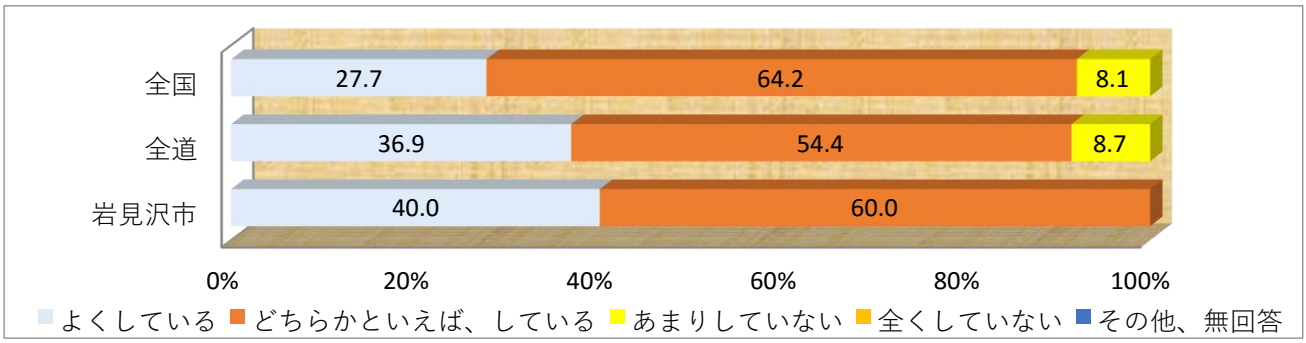
１０９（１０７）．授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



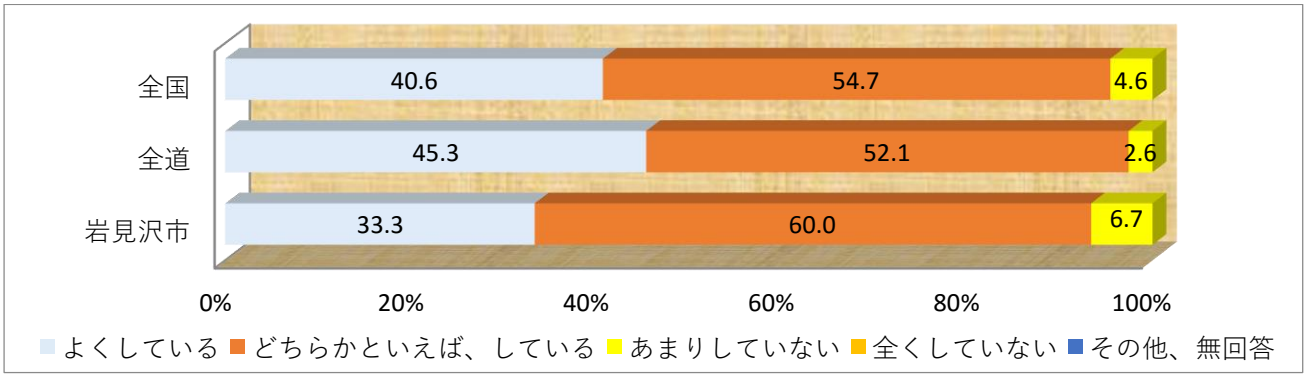


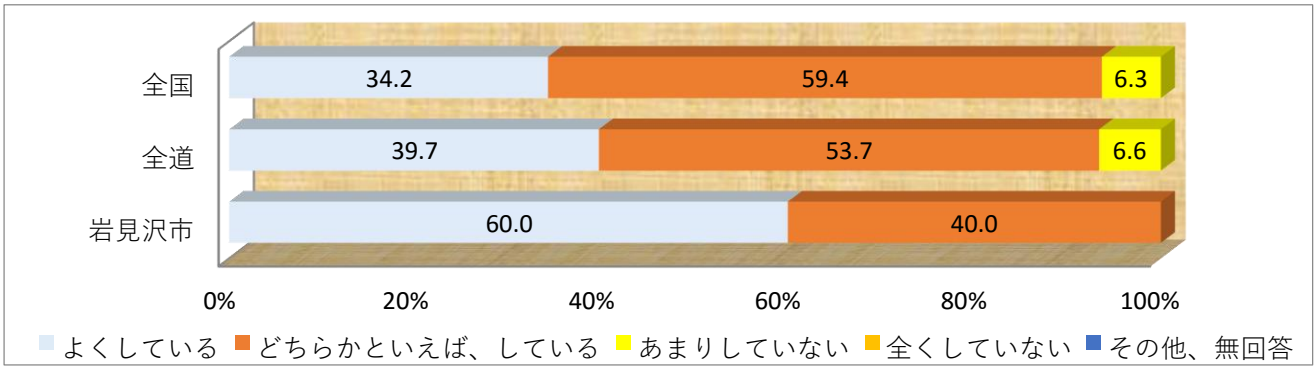
１１０（１０８）．教職員は，校内外の研修や研究会に参加し，その成果を教育活動に積極的に反映させていますか



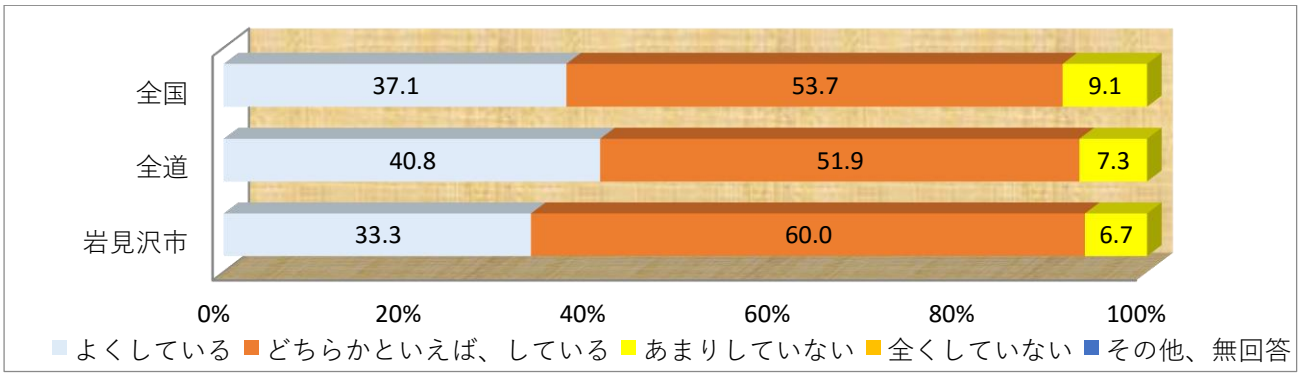


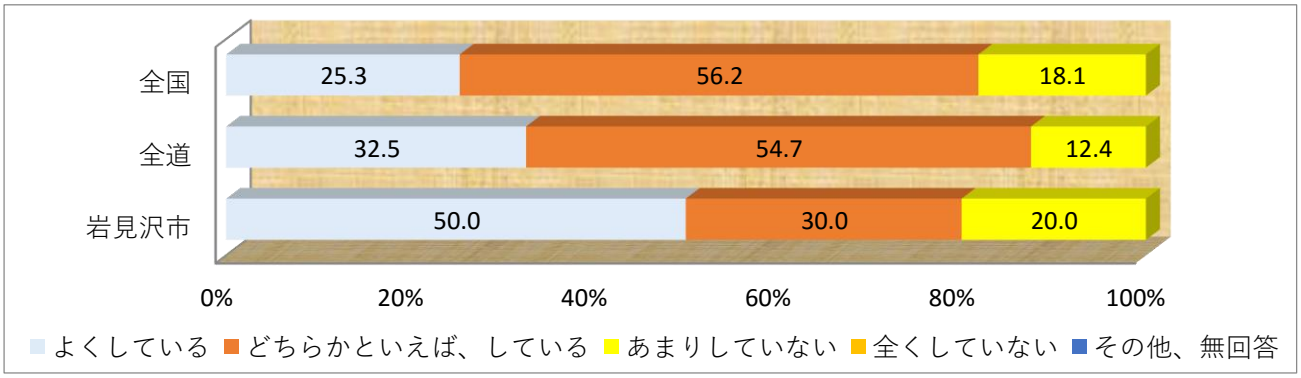
１１１（１０９）．学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては，教職員同士が協力し合っていますか



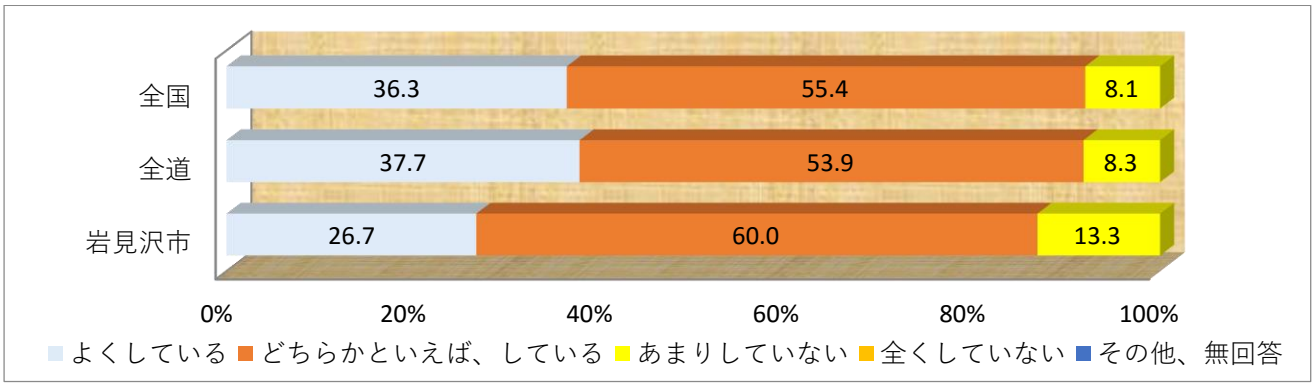


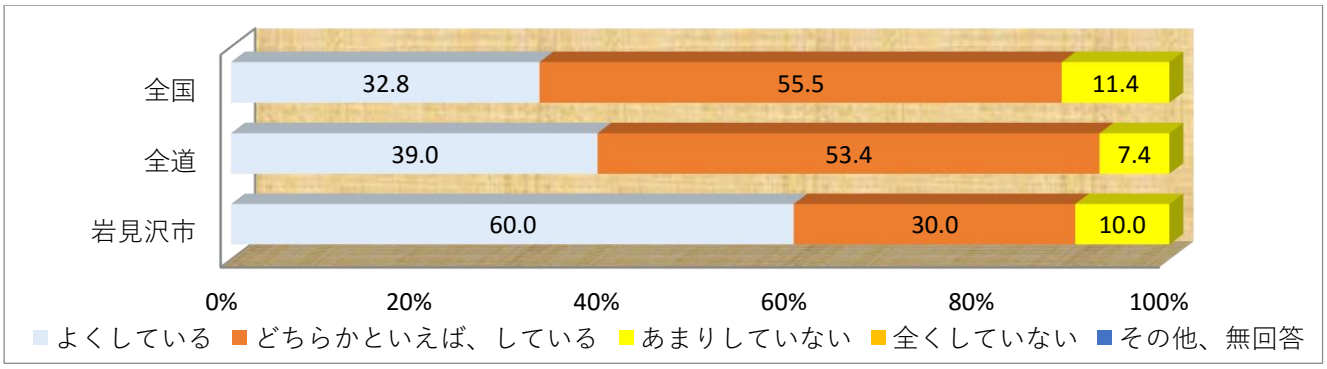
１１２（１１０）．学校全体の言語活動の実施状況や課題について，全教職員の間で話し合ったり，検討したりしていますか



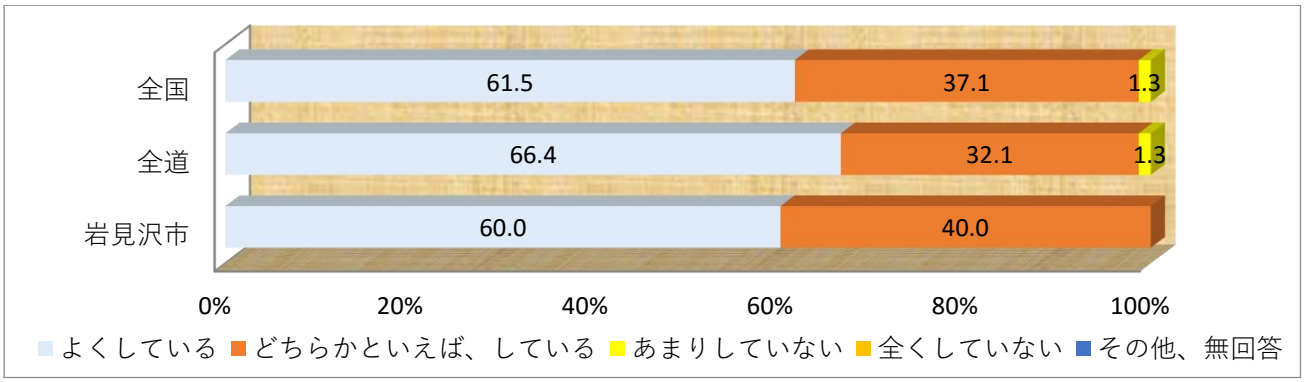


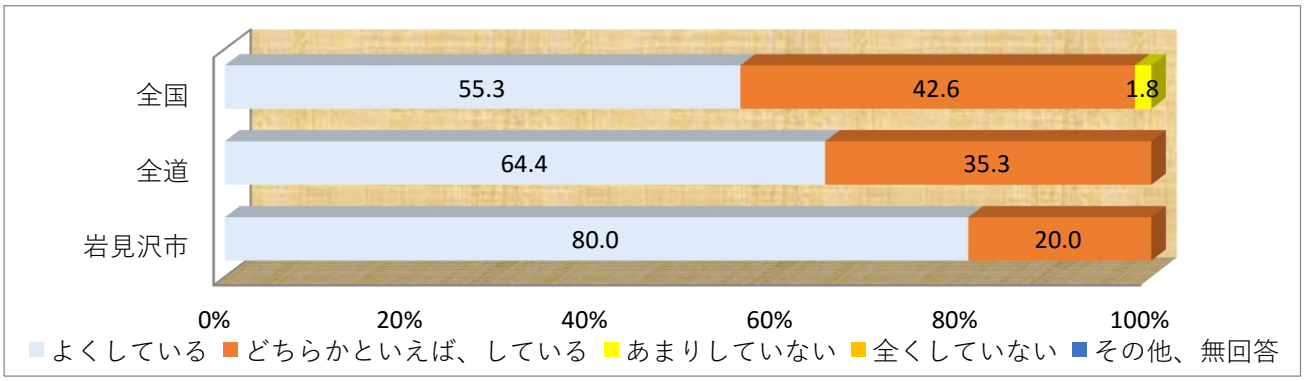
１１３（１１１）．言語活動について，国語科だけではなく，各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて，学校全体として取り組んでいますか



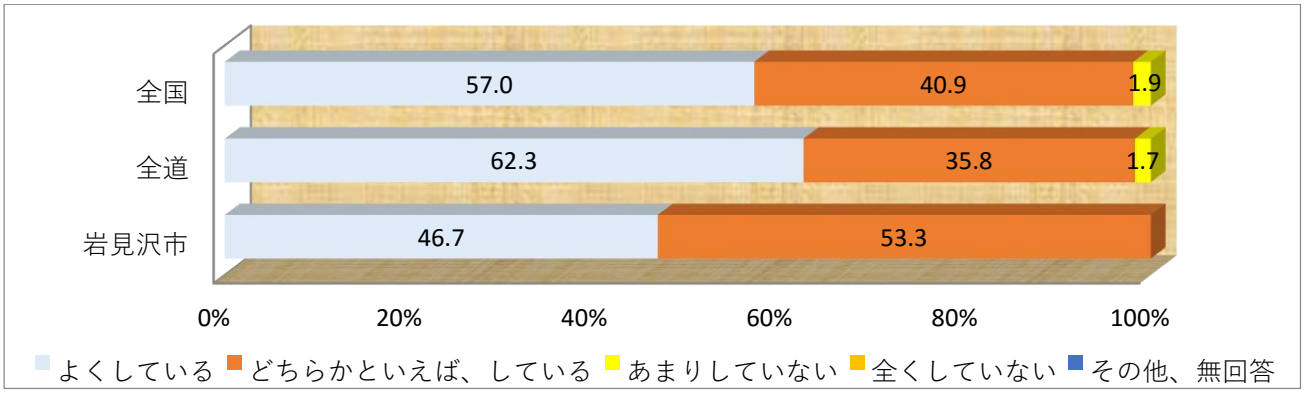


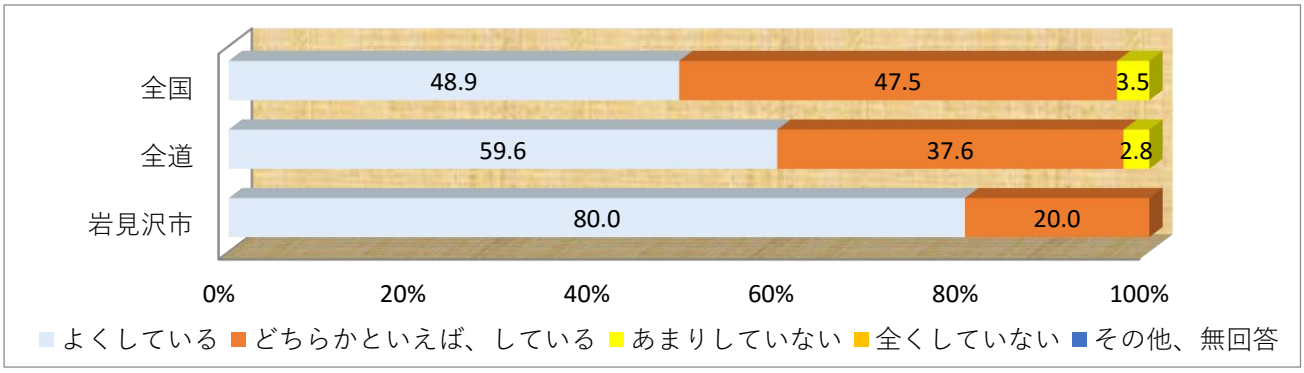
１１４（１１２）．学校全体の学力傾向や課題について，全教職員の間で共有していますか



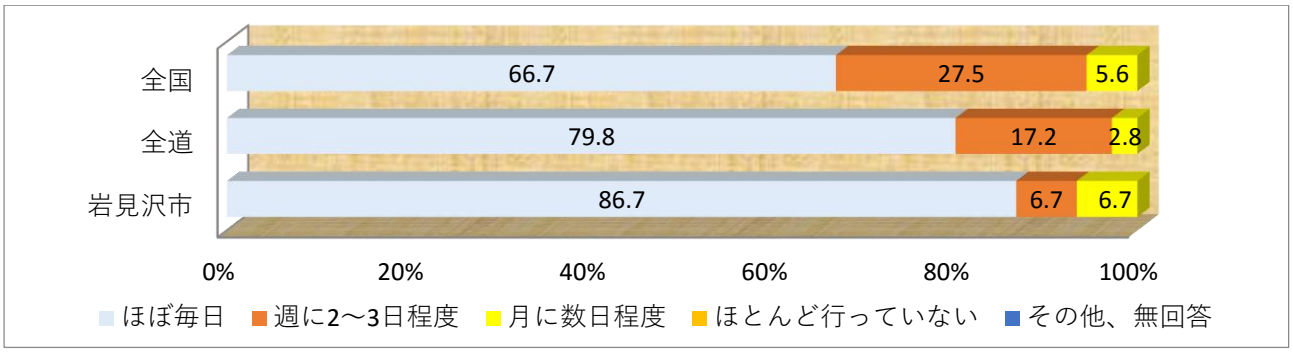


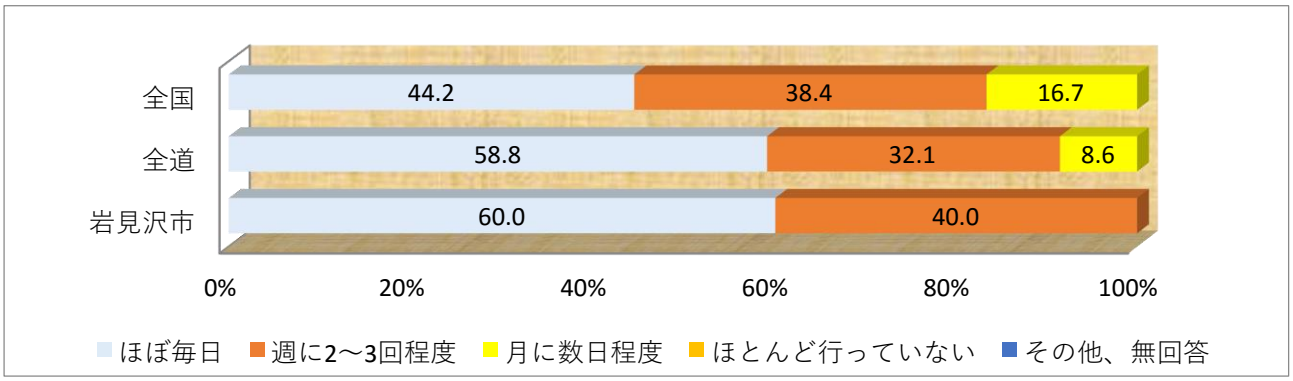
１１５（１１３）．学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し，学校として組織的に取り組んでいますか





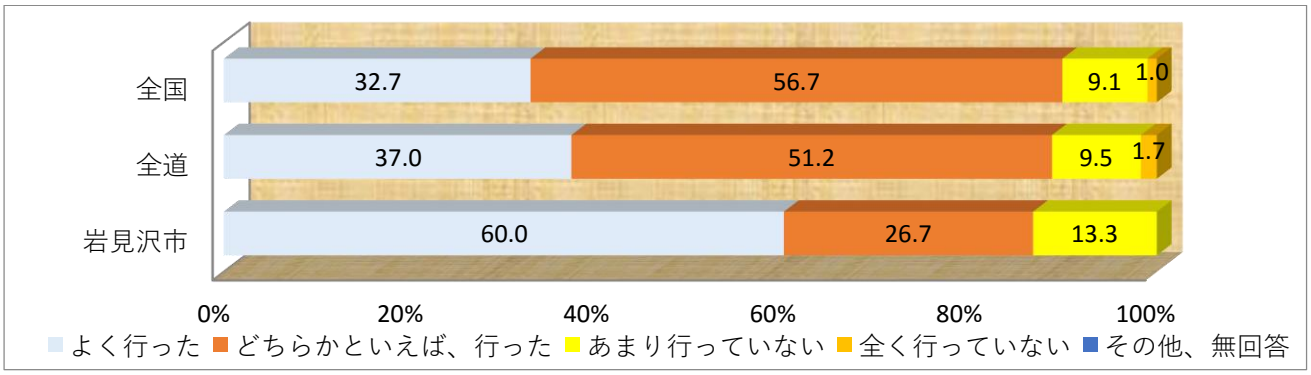
１１６（１１４）．校長は，校内の授業をどの程度見て回っていますか

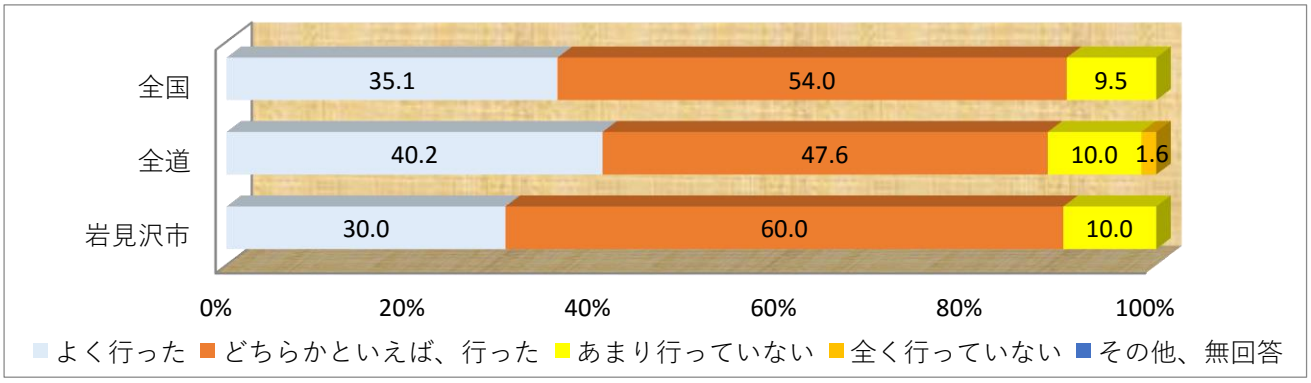




１０　特別支援教育

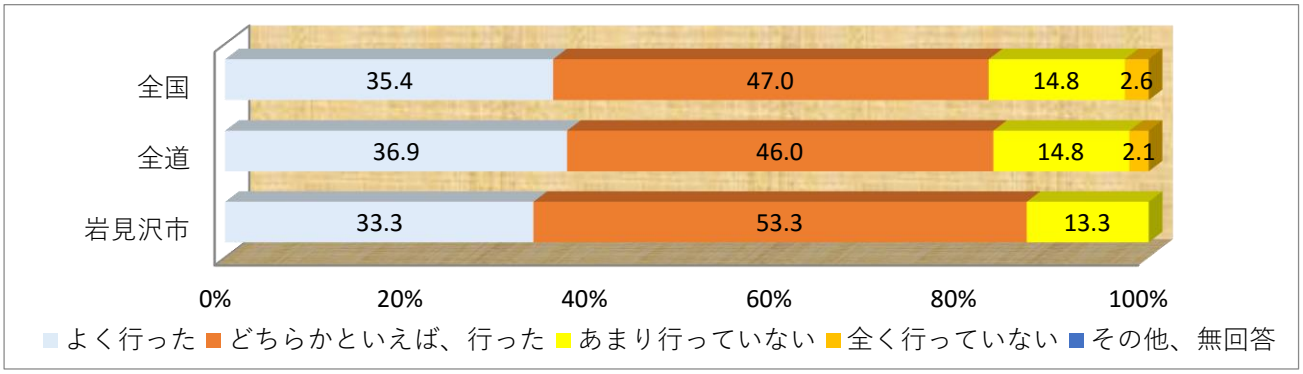
７８（７７）.学校の教員は，特別支援教育について理解し，前年度までに，調査対象学年の児童（生徒）に対する授業の中で，児童（生徒）の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方，教材の工夫など）を行いましたか

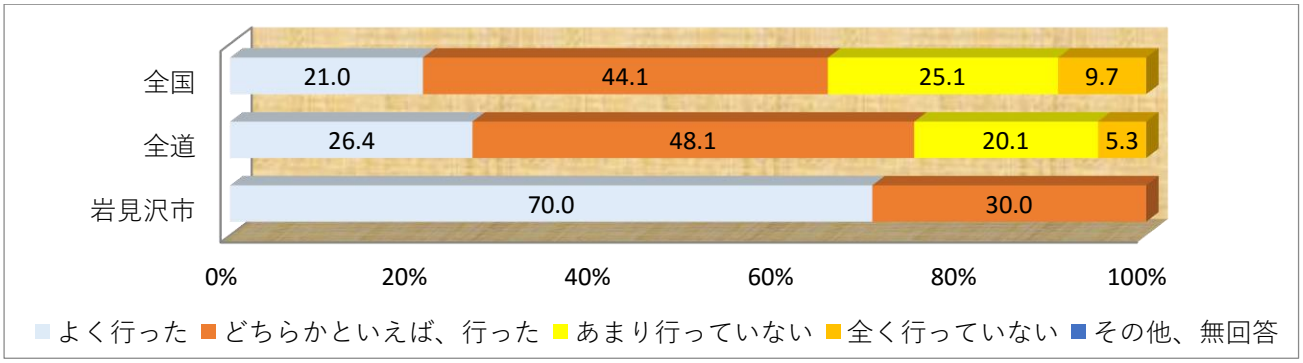




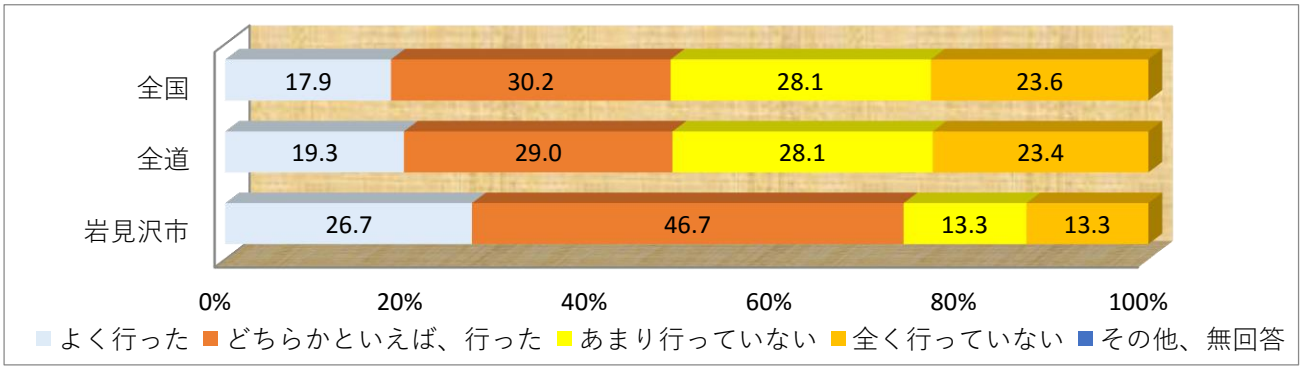
１１　地域の人材・施設の活用

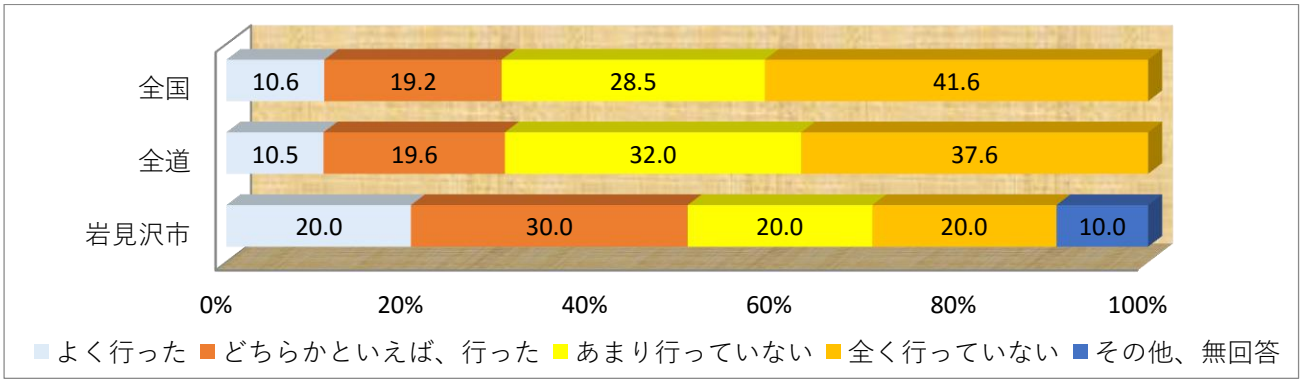
８４（８３）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



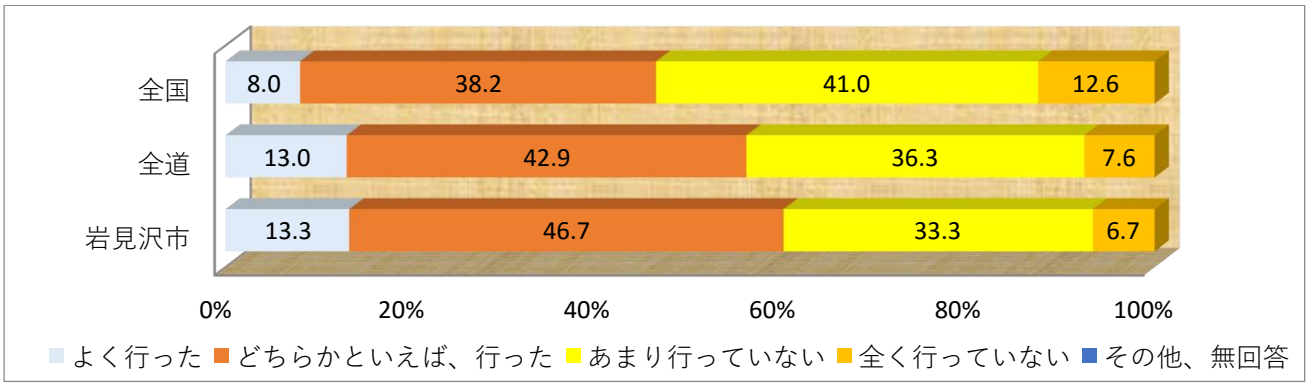


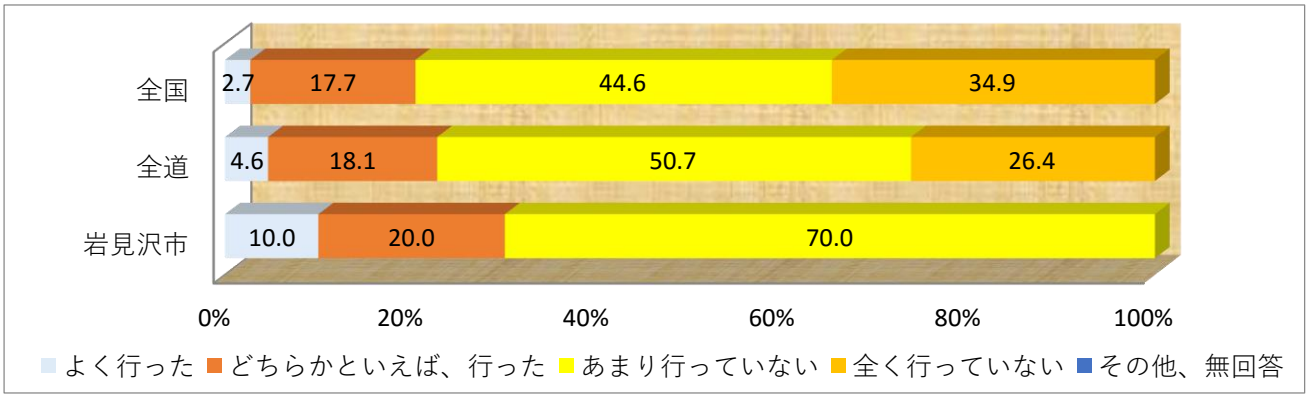
８５（８４）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか



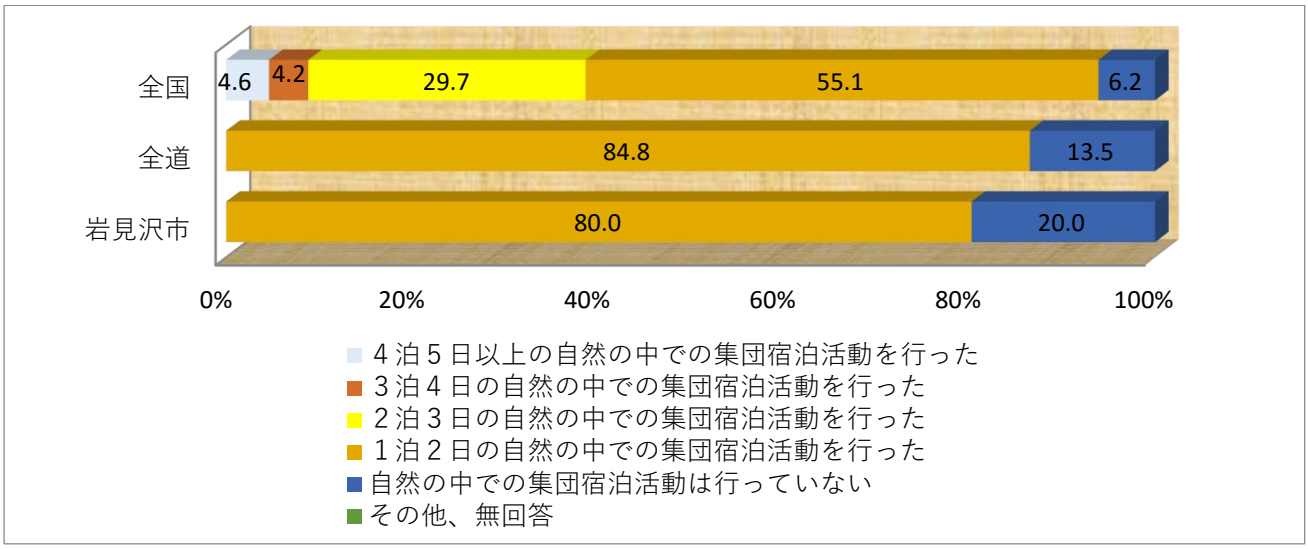


８６（８５）．調査対象学年の児童（生徒）に対して，前年度までに，博物館や科学館，図書館を利用した授業を行いましたか

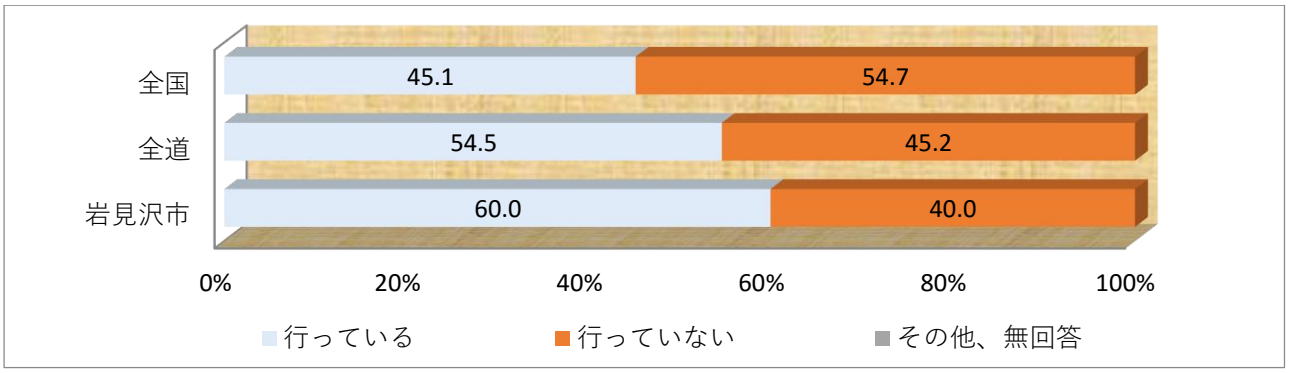


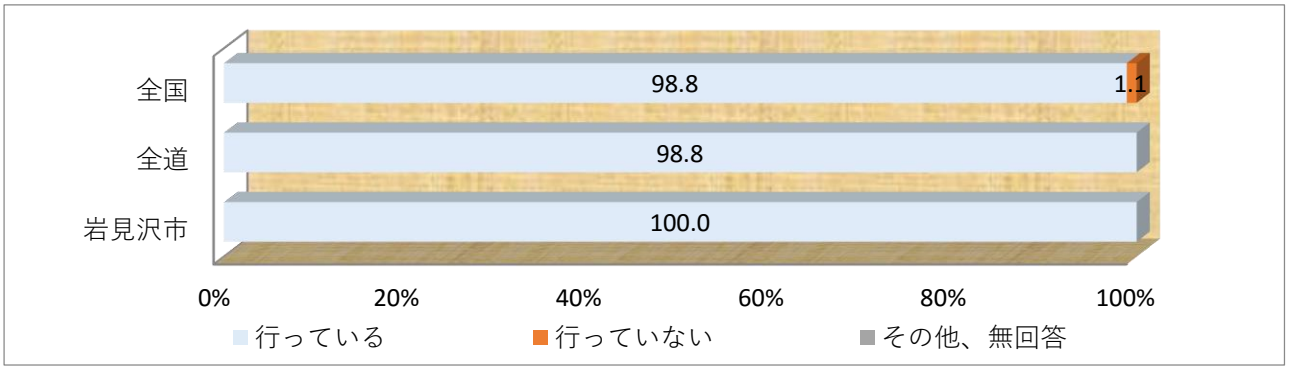


８７．調査対象学年の児童に対して，第５学年までの間に自然の中での集団宿泊活動を行いましたか（複数回実施した場合は，最も長期のもの）

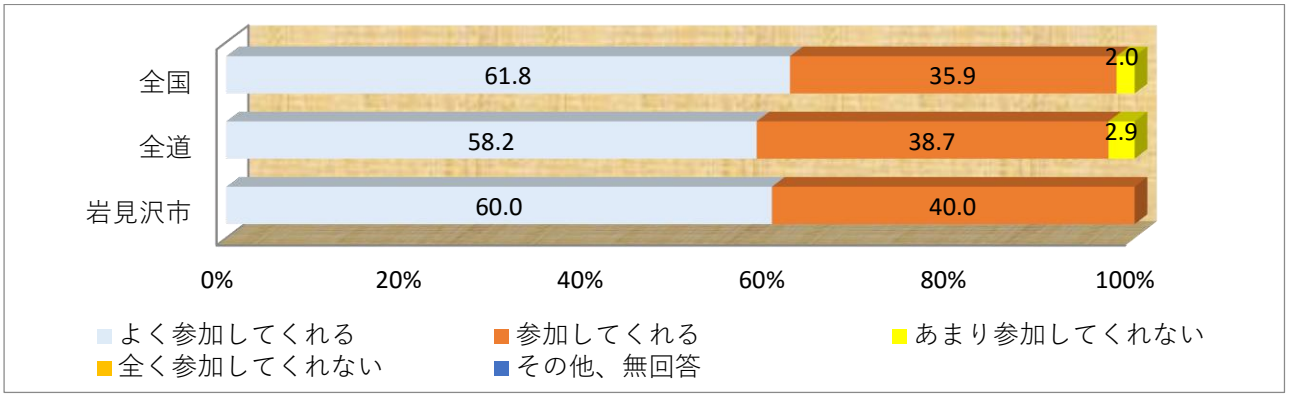


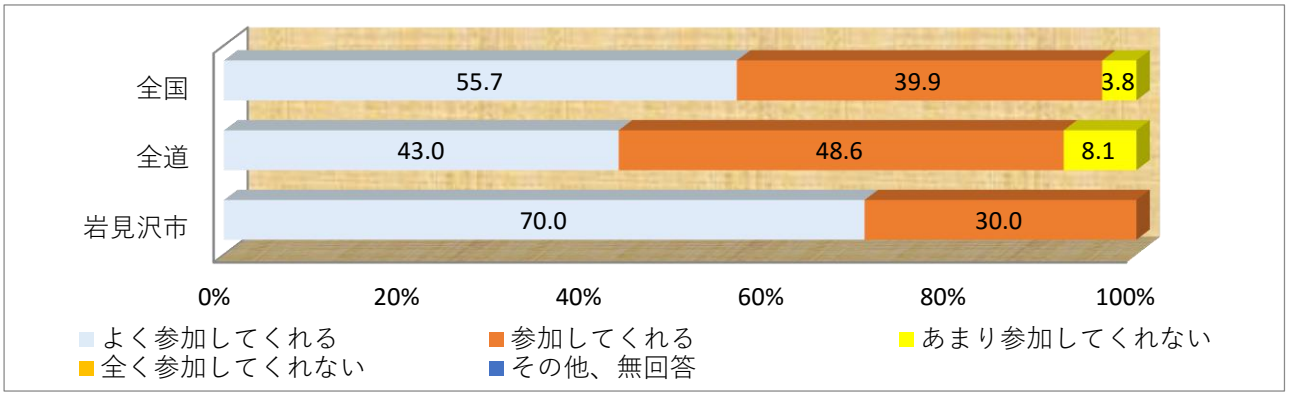
88（86）．職場見学や職場体験活動を行っていますか



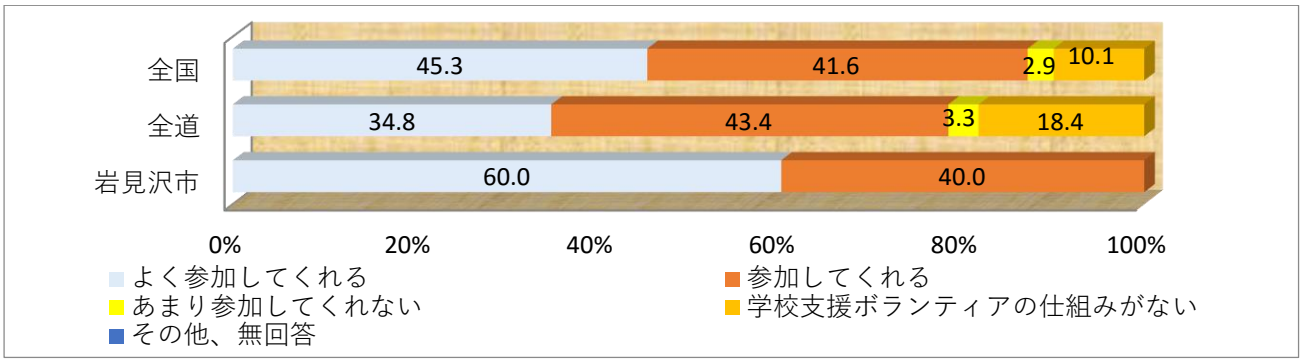


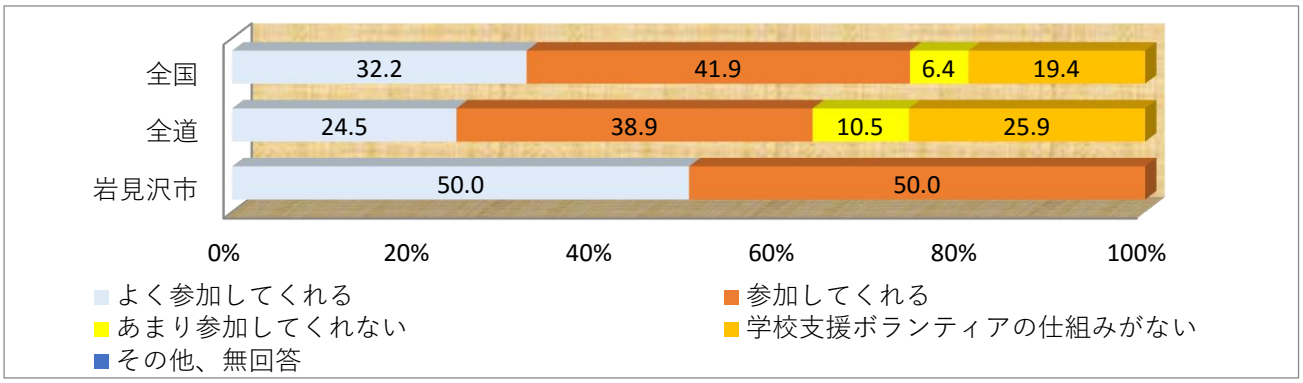
89（87）．ＰＴＡや地域の人が学校の諸活動（学校の美化など）にボランティアとして参加してくれますか



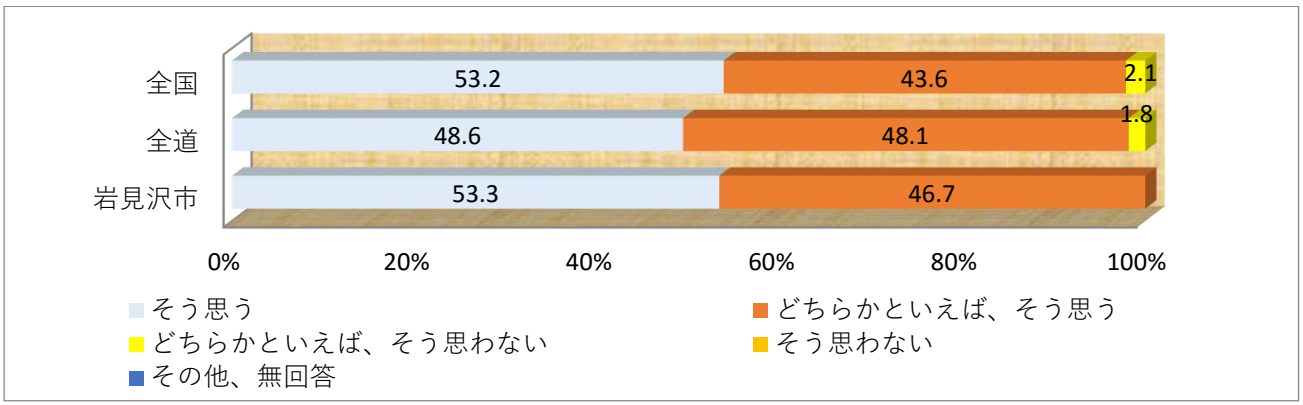


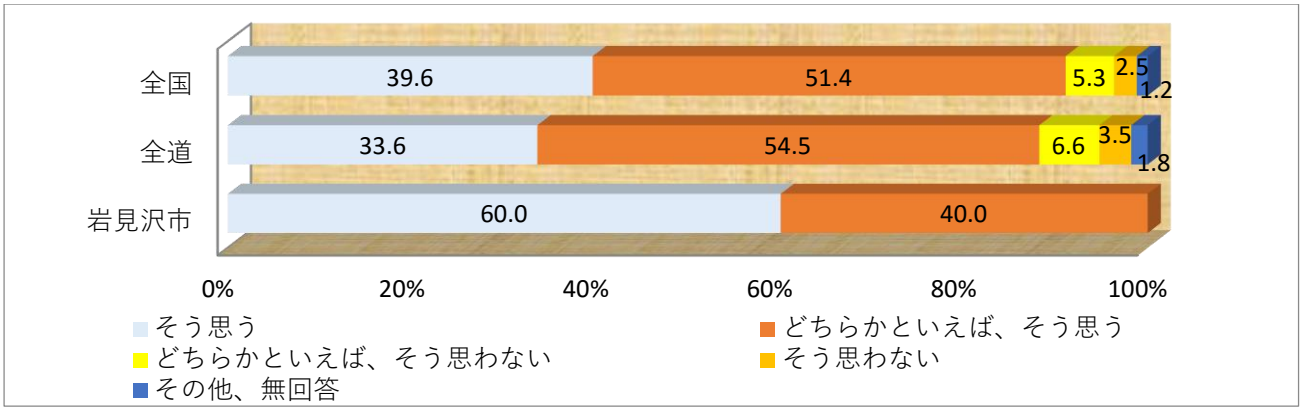
90（88）．学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより，保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか





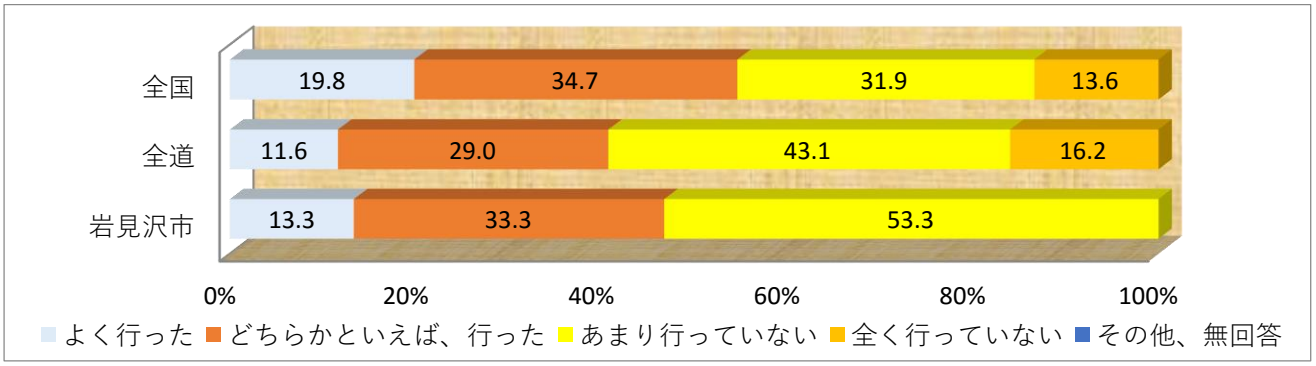
91（89）．保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか

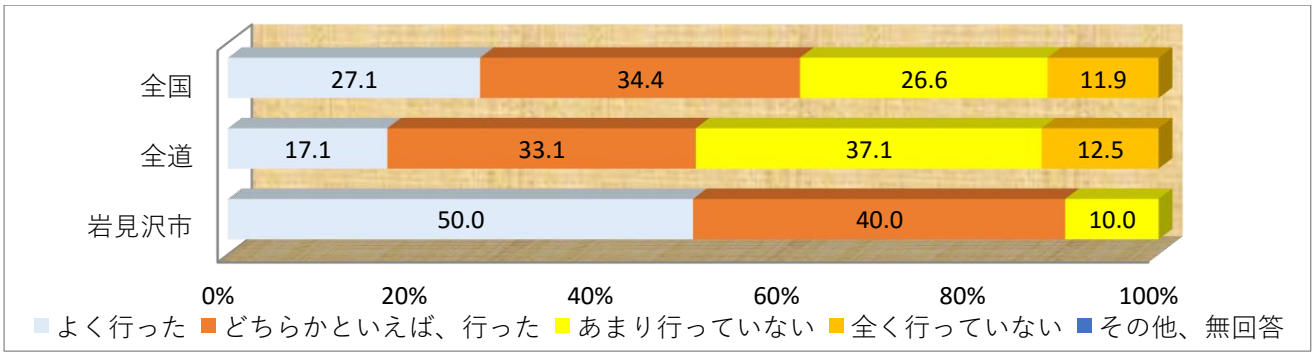




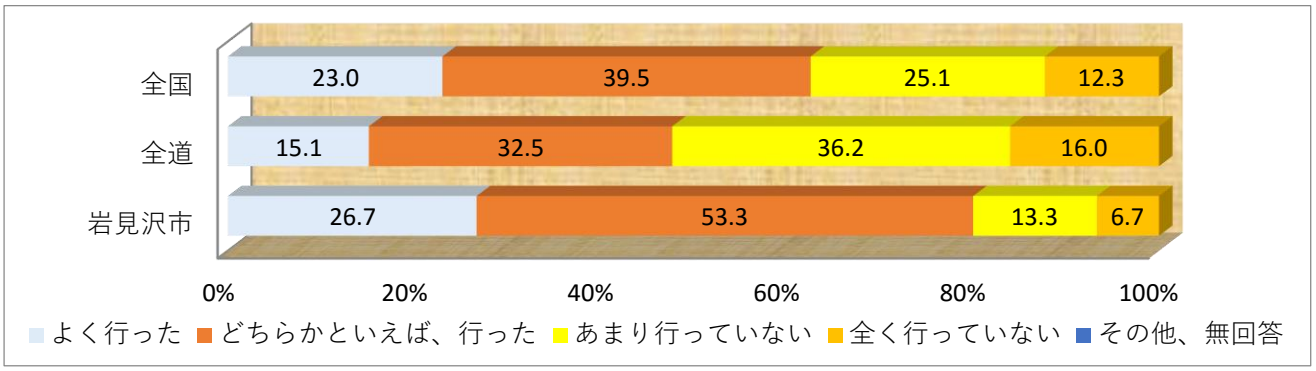
１２　学校種間の連携

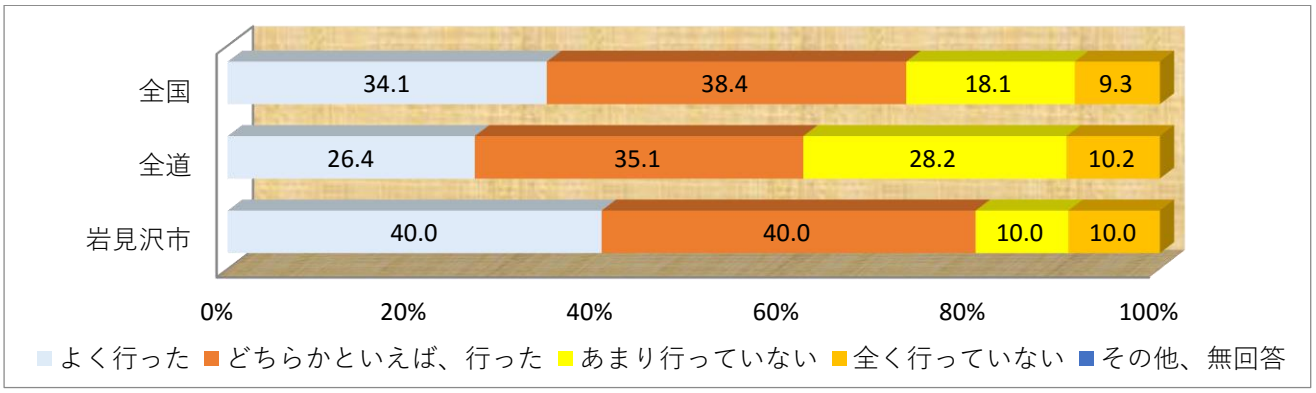
79（78）．前年度までに，近隣等の中（小）学校と，教育目標を共有する取組を行いましたか



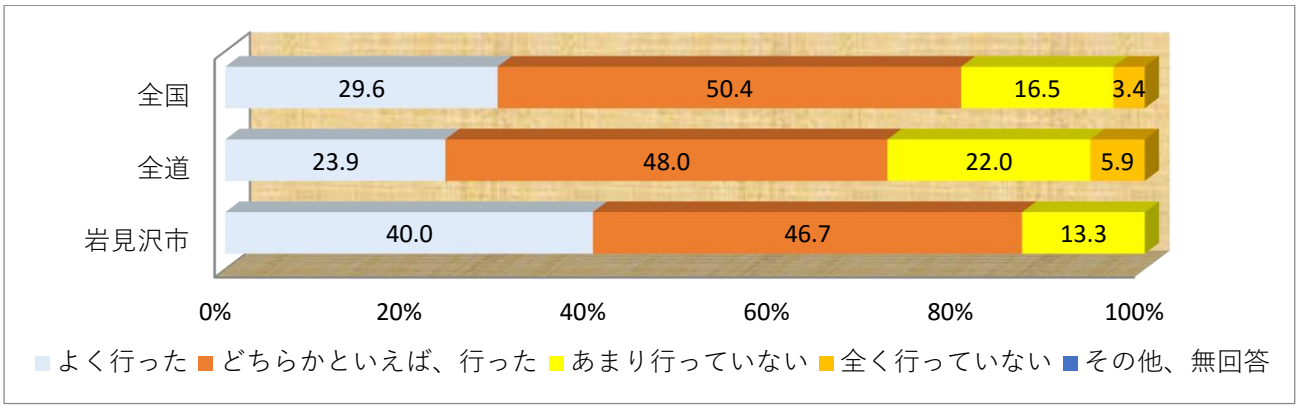


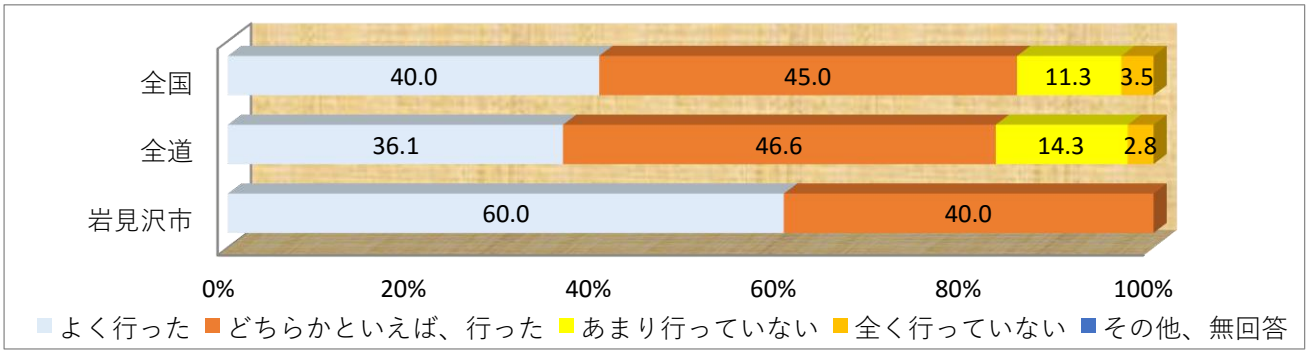
80（79）．前年度までに，近隣等の中（小）学校と，授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか



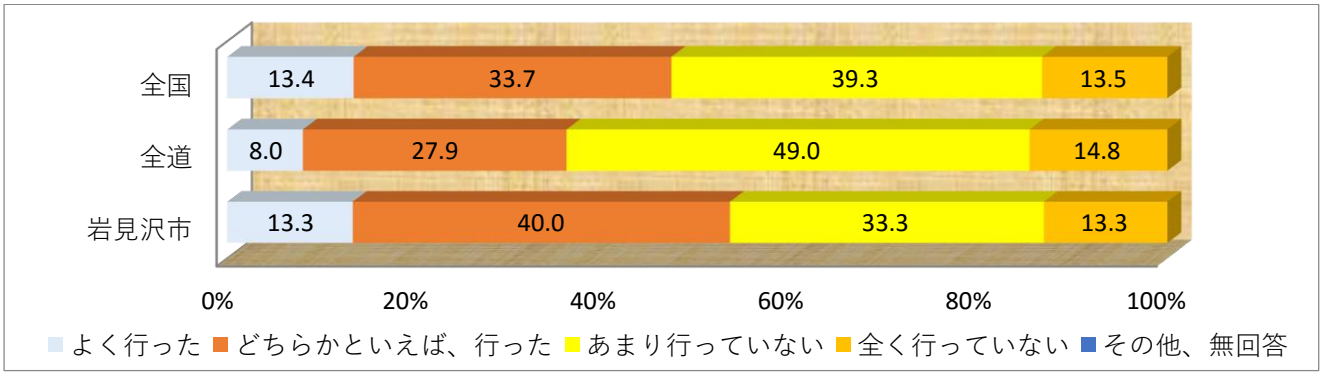


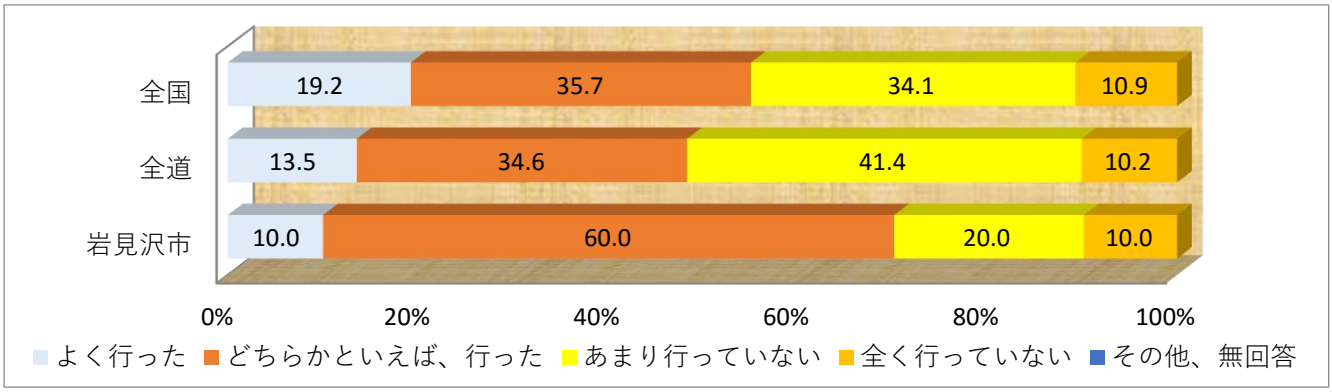
８１（８０）．前年度までに，近隣等の中（小）学校と，意見を交換し合うなど，教員同士の交流を行いましたか



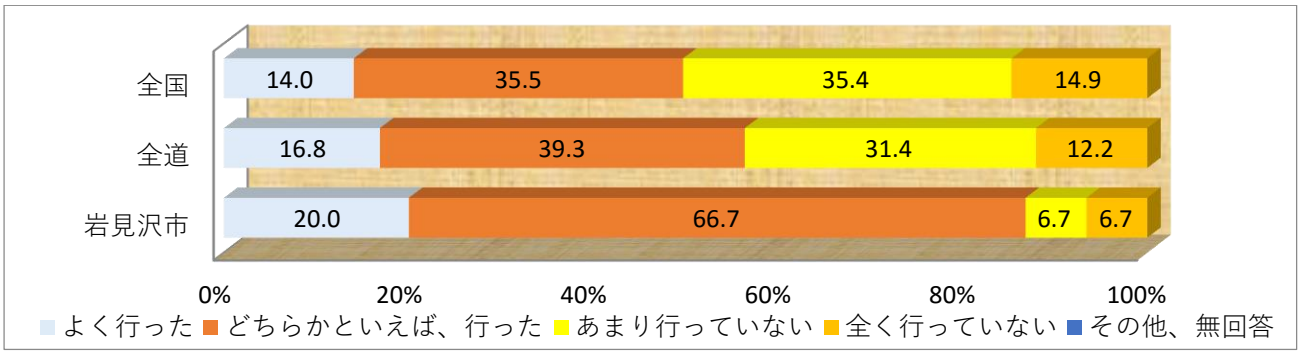


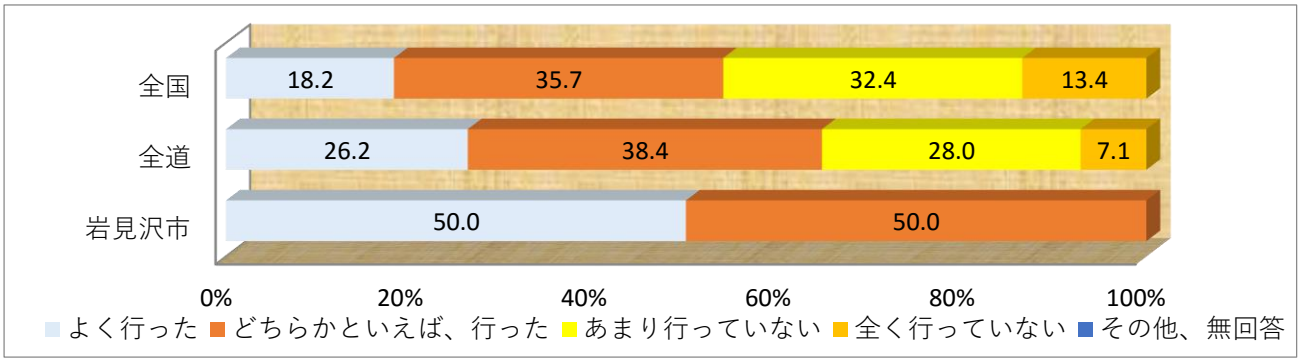
８２（８１）．前年度までに，近隣等の中（小）学校と，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定など，教育課程に関する共通の取組を行いましたか





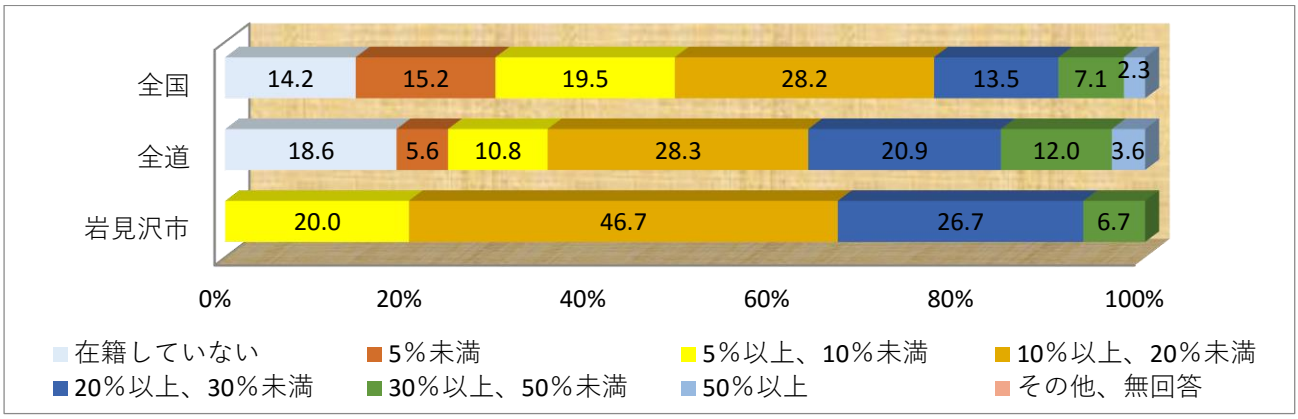
８３（８２）．平成２７年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について，近隣等の中（小）学校と成果や課題を共有しましたか

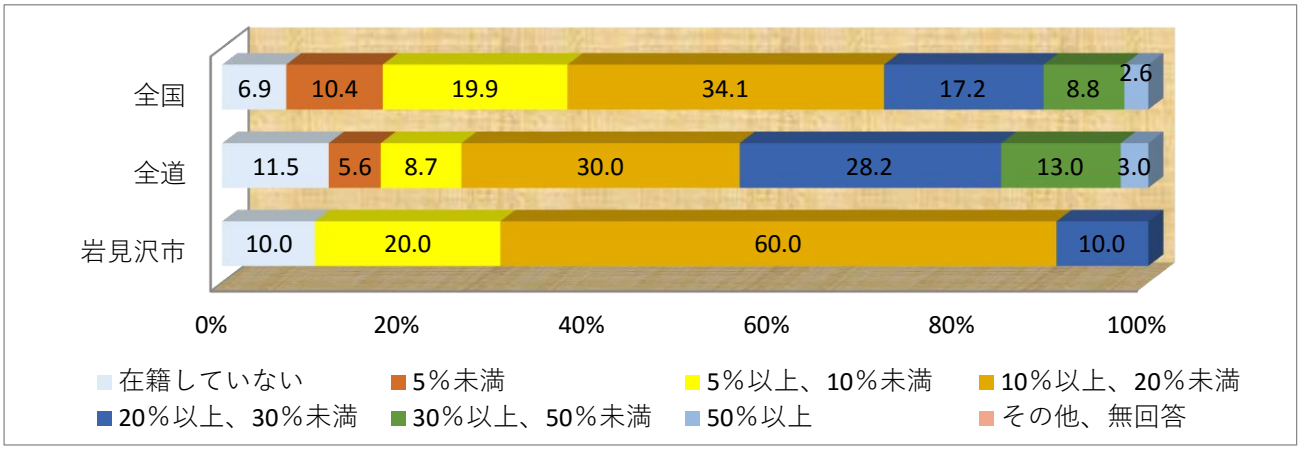




１３　就学援助

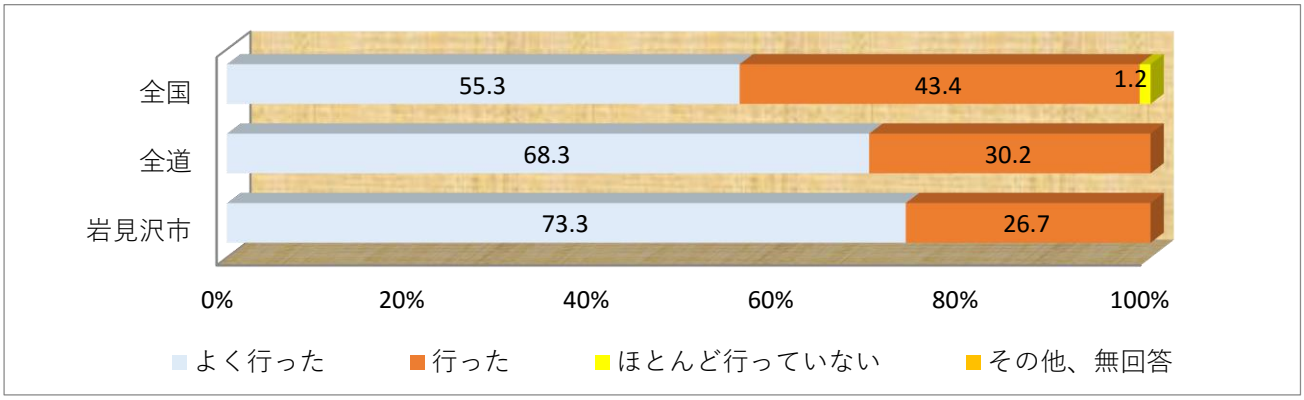
２２．調査対象学年の児童（生徒）のうち，就学援助を受けている児童（生徒）の割合

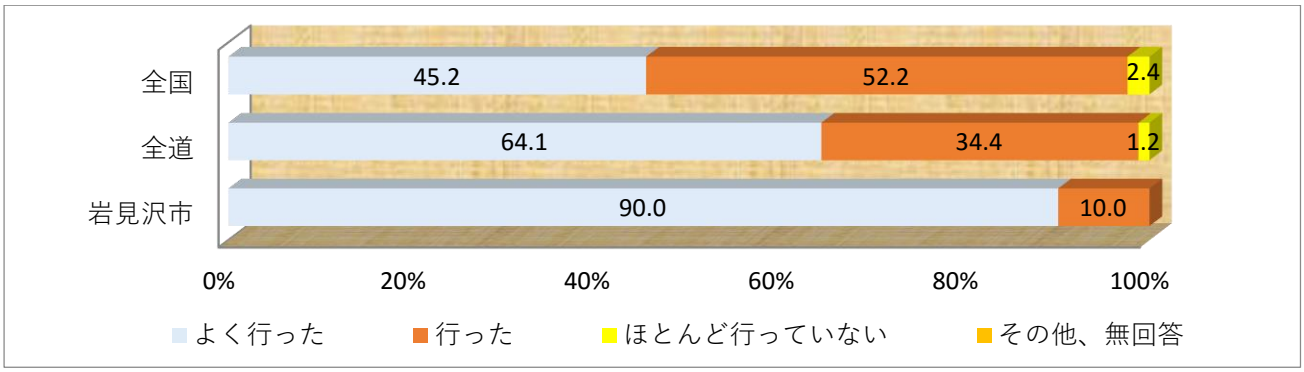




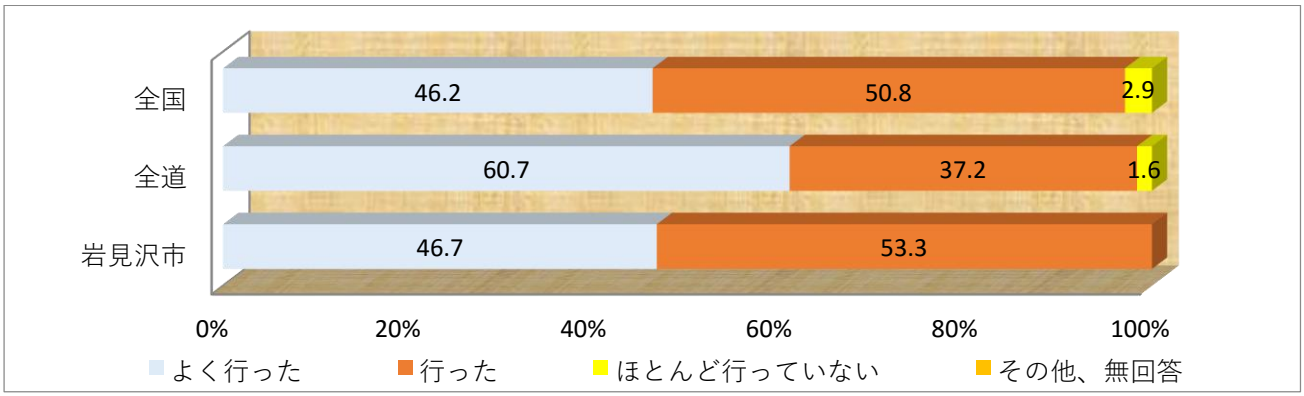
１４　全国学力・学習状況調査等の活用

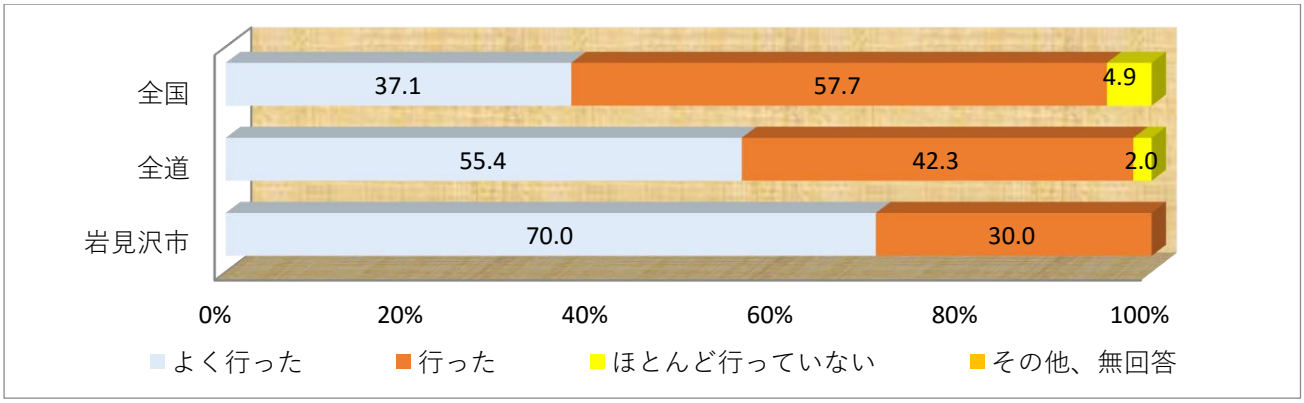
５９．平成２７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し，学校全体で成果や課題を共有しましたか



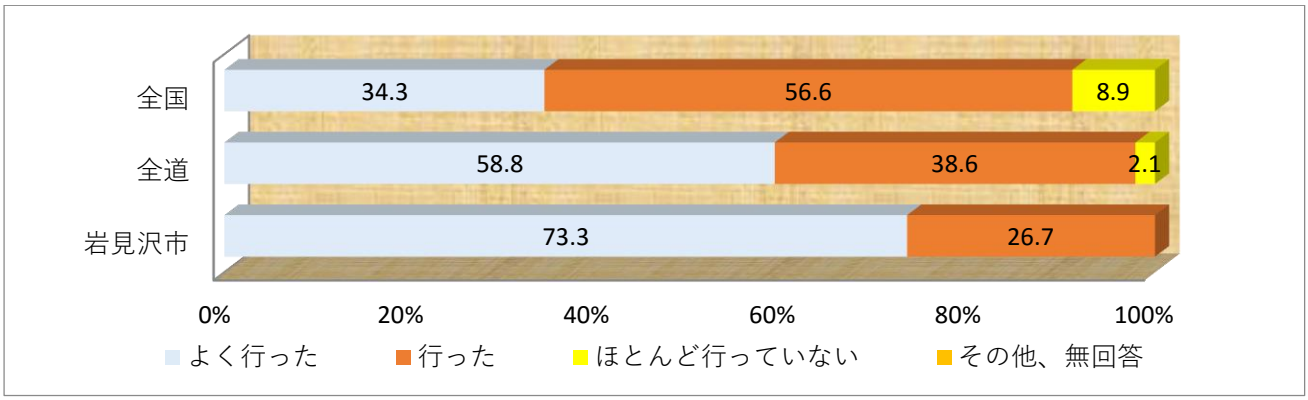


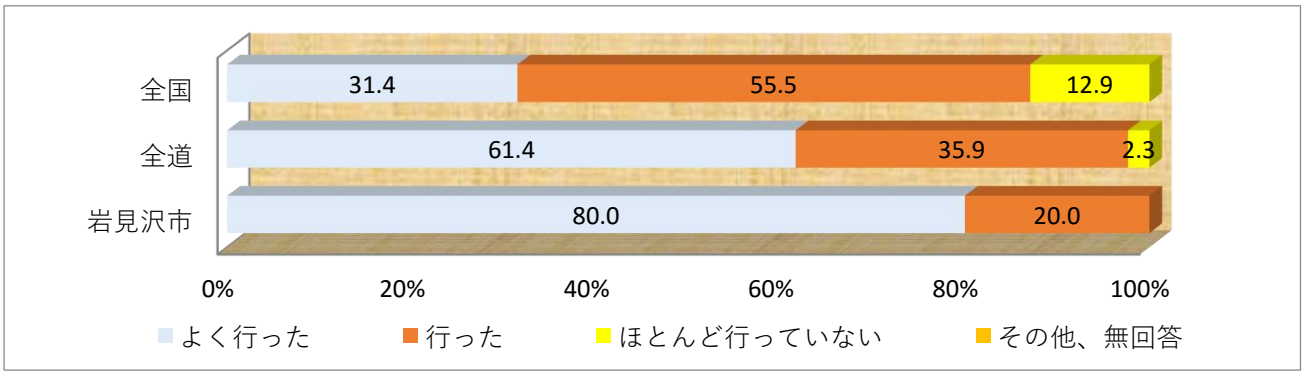
６０．平成２７年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について，調査対象学年・教科だけではなく，学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



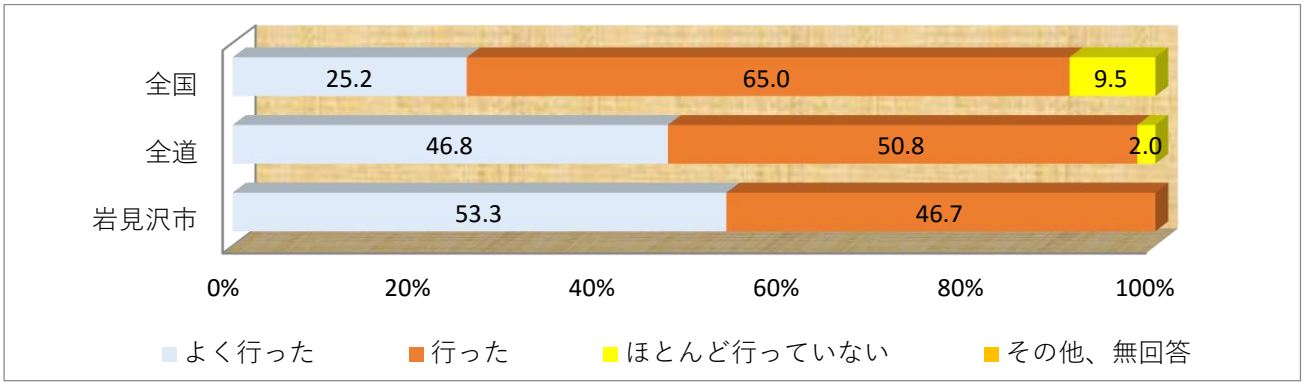


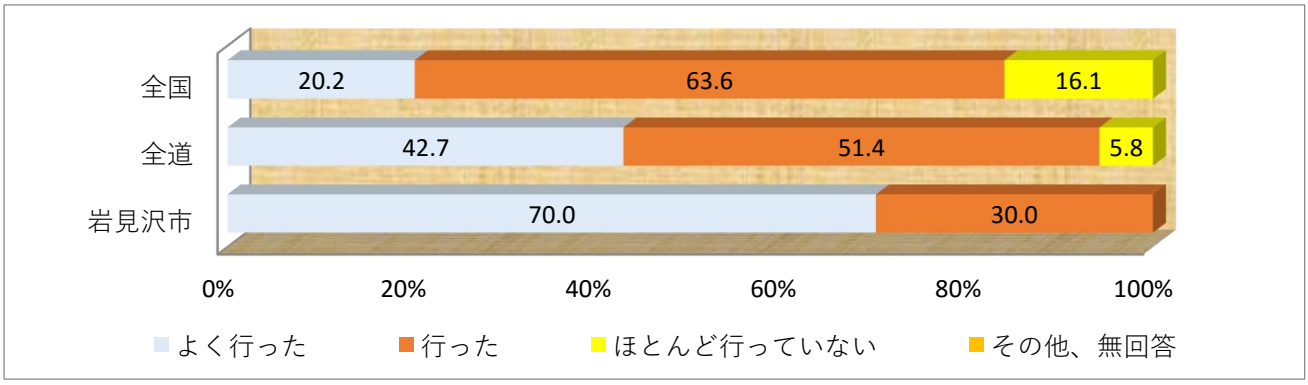
６１．平成２７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について，保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載，保護者会等での説明を含む）



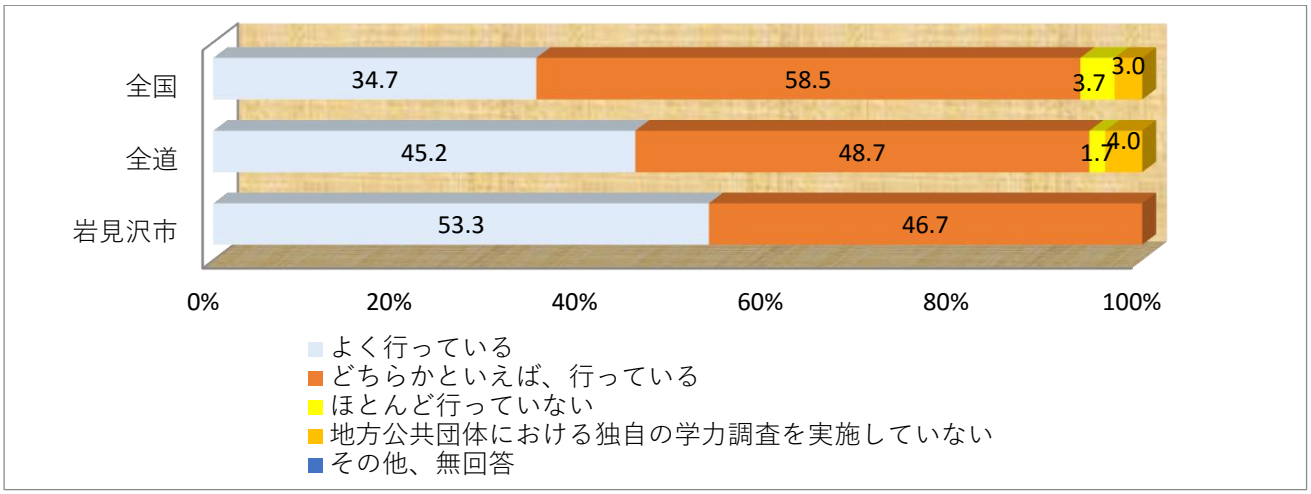


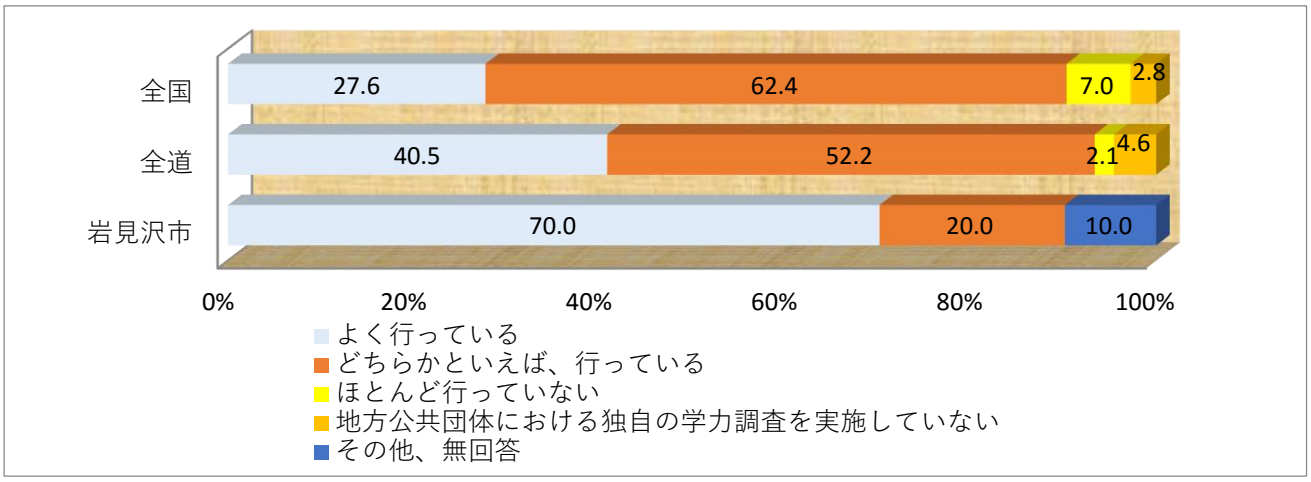
６２．平成２７年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について，保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか





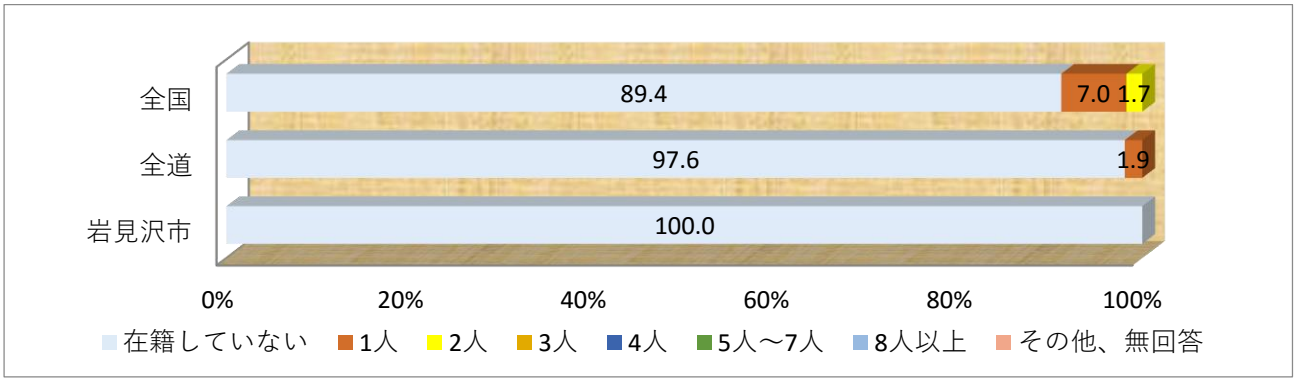
６３．全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

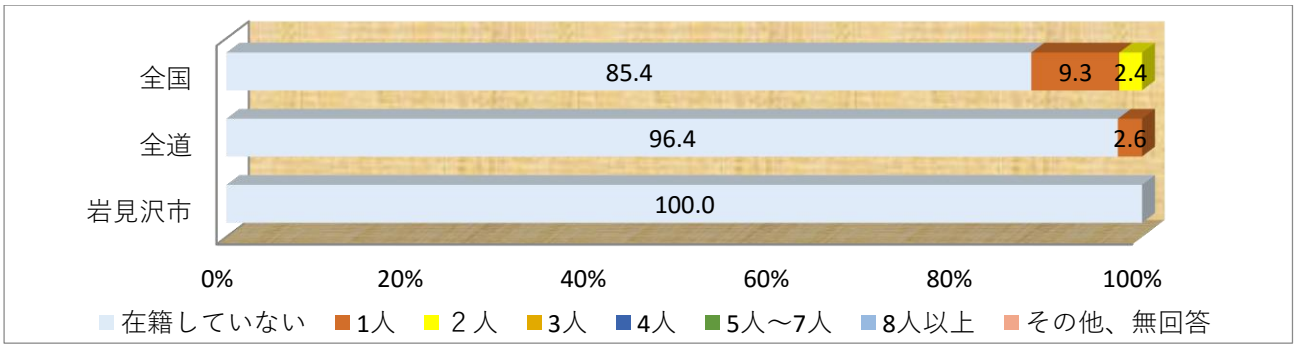




１５　日本語指導の必要な児童（生徒）数

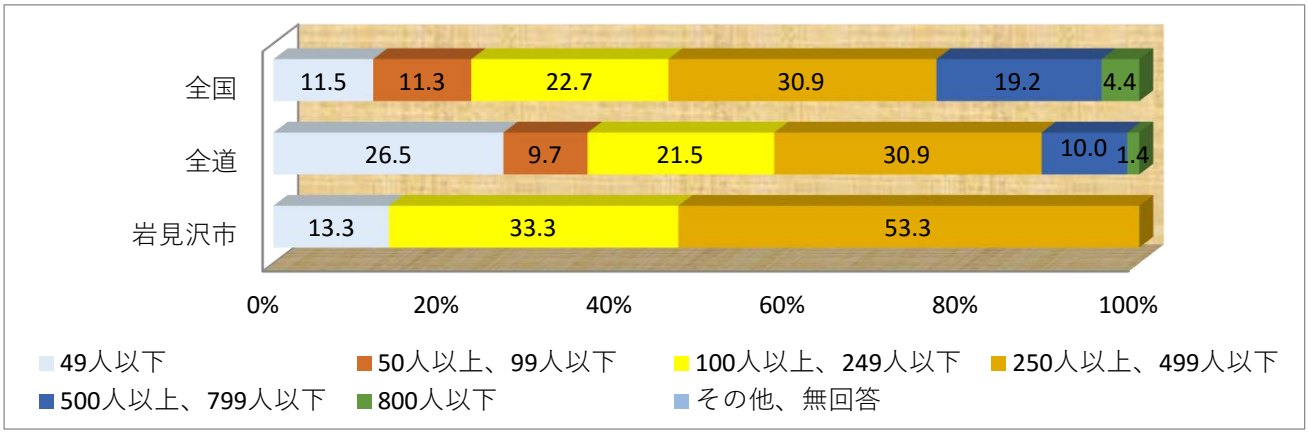
２３．調査対象学年の児童（生徒）のうち，日本語指導が必要な児童（生徒）の人数

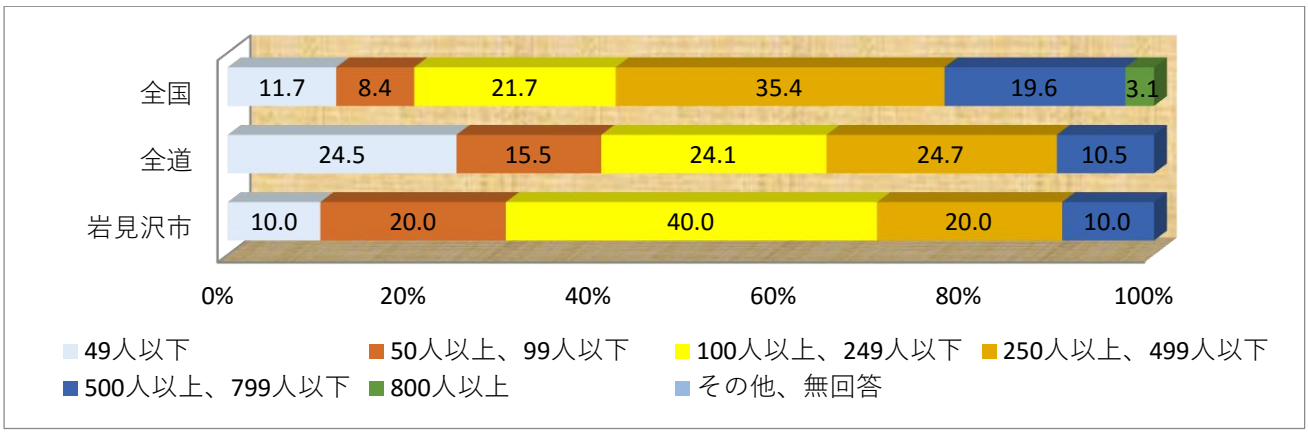




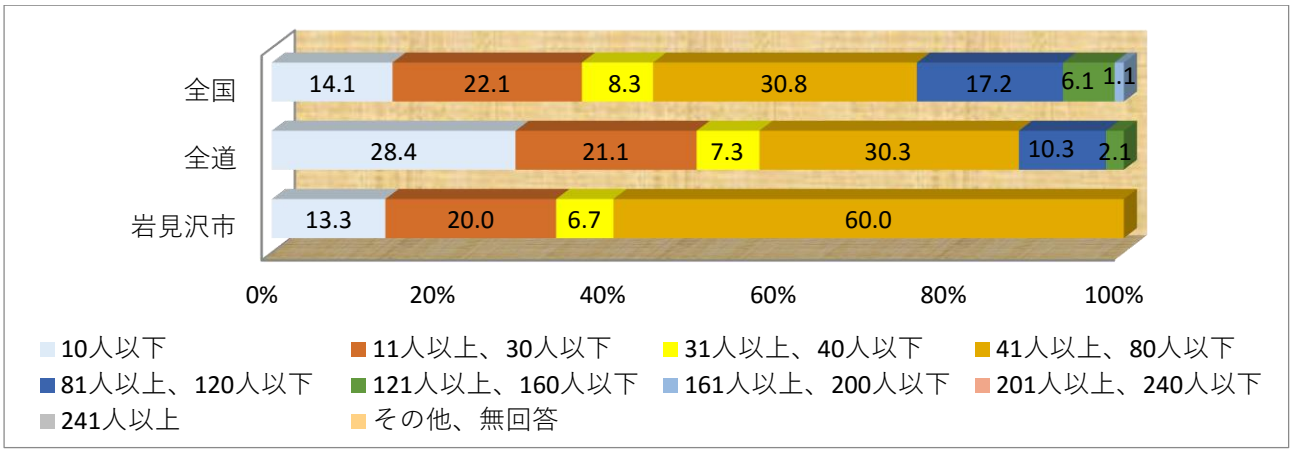
１６　学校の概要

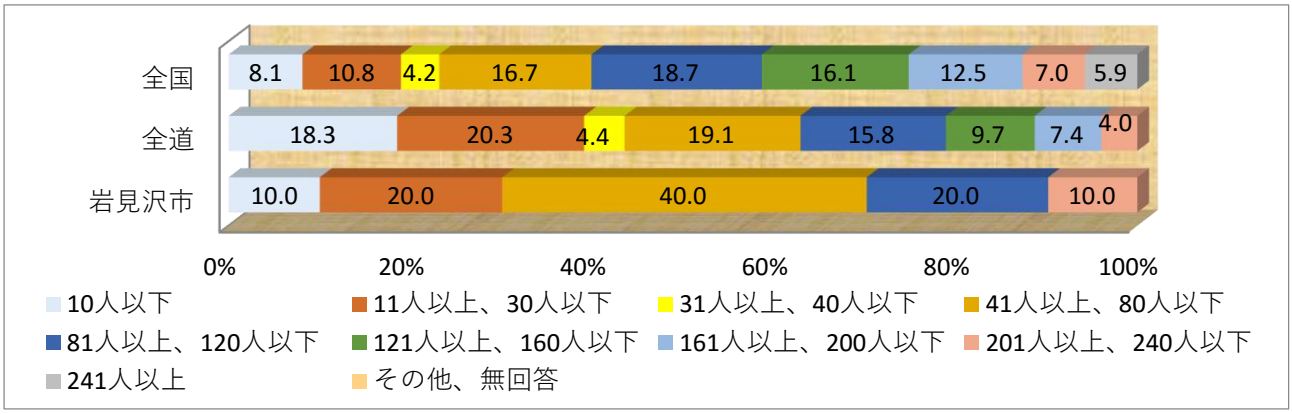
1.調査対象日現在の学校の全学年の児童（生徒）数



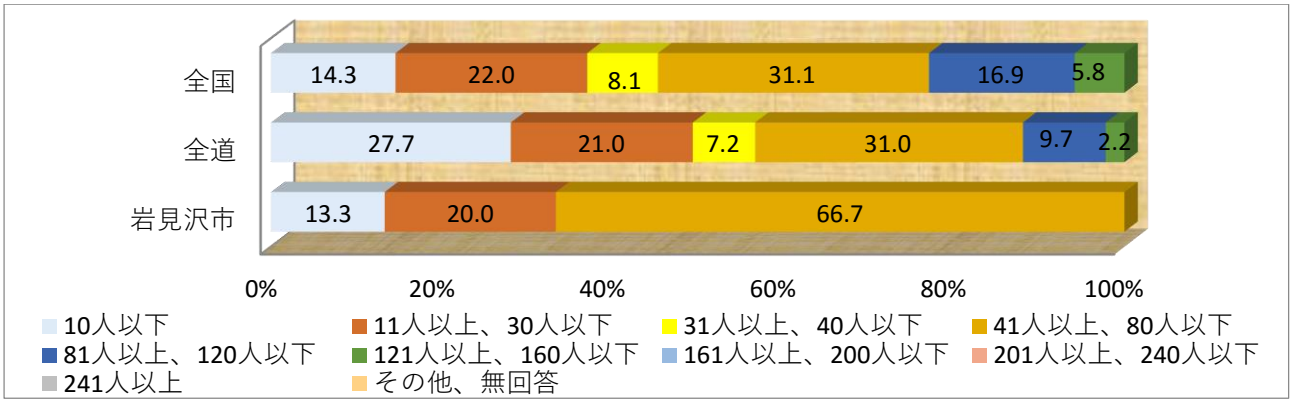


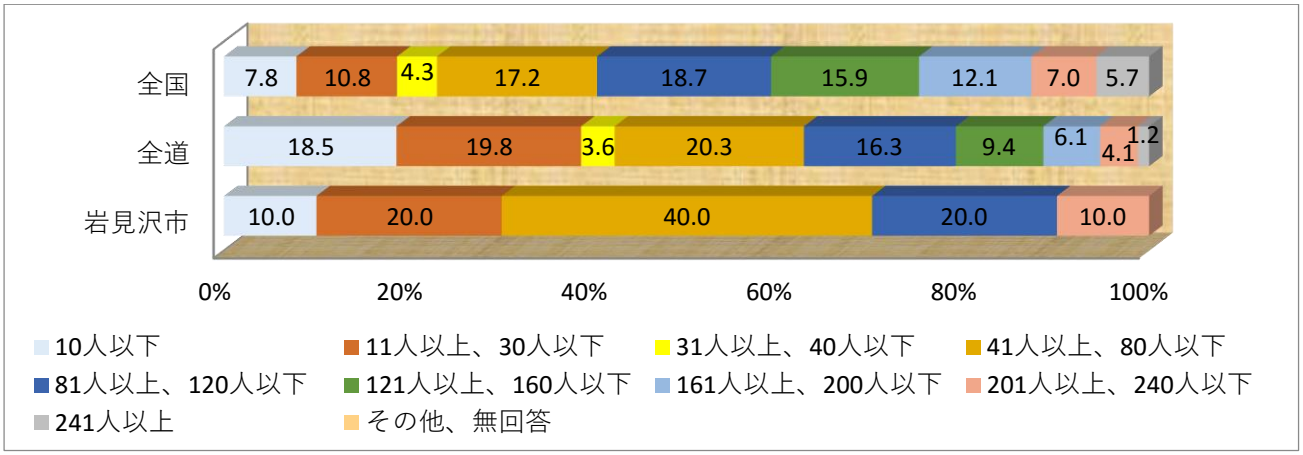
2．調査対象日現在の第６（３）学年の児童（生徒）数（特別支援学級の児童（生徒）数を除く）



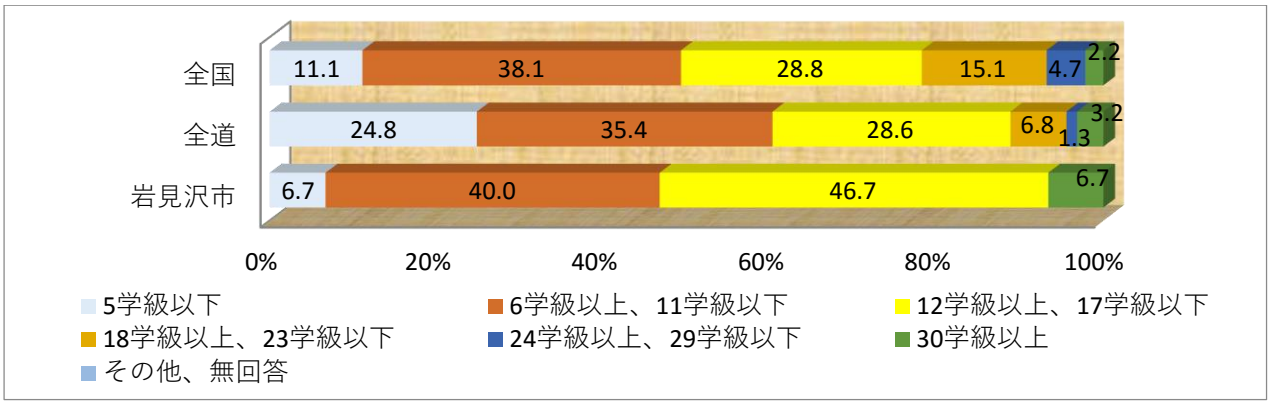


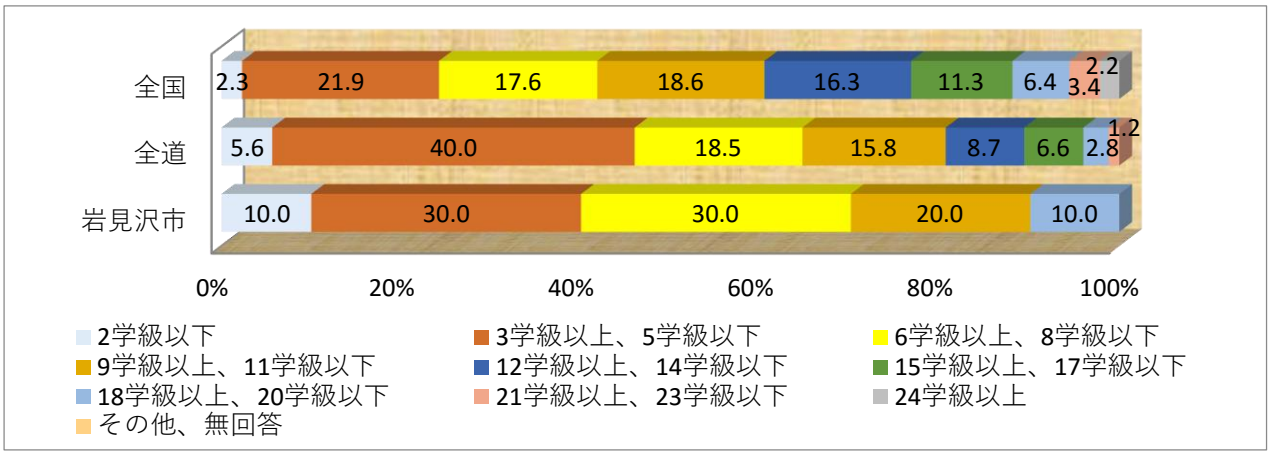
3．平成２７年５月１日現在の第５（２）学年の児童（生徒）数（特別支援学級の児童（生徒）数を除く）



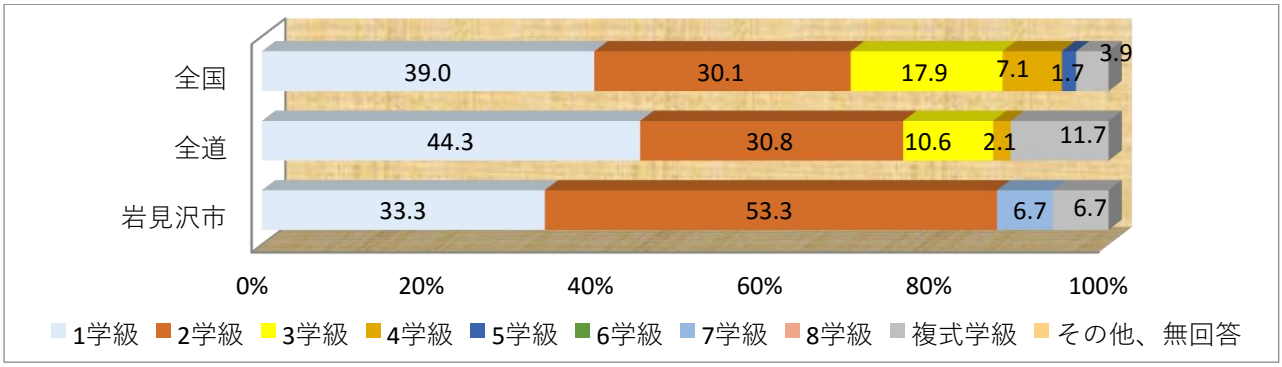


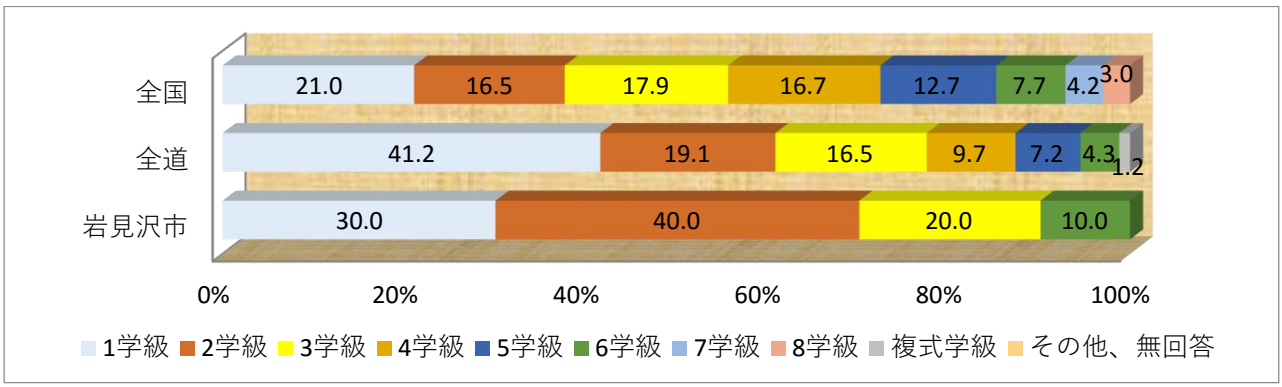
4. 調査対象日現在の学校の全学年の学級数（特別支援学級を除く）



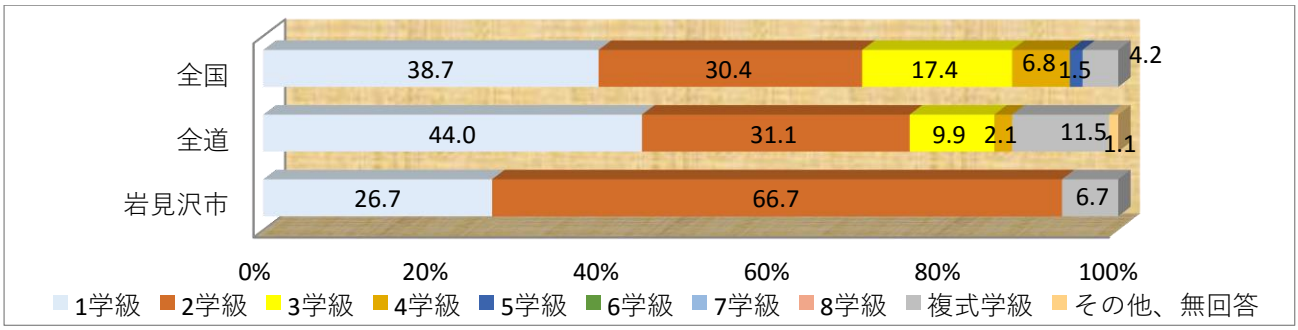


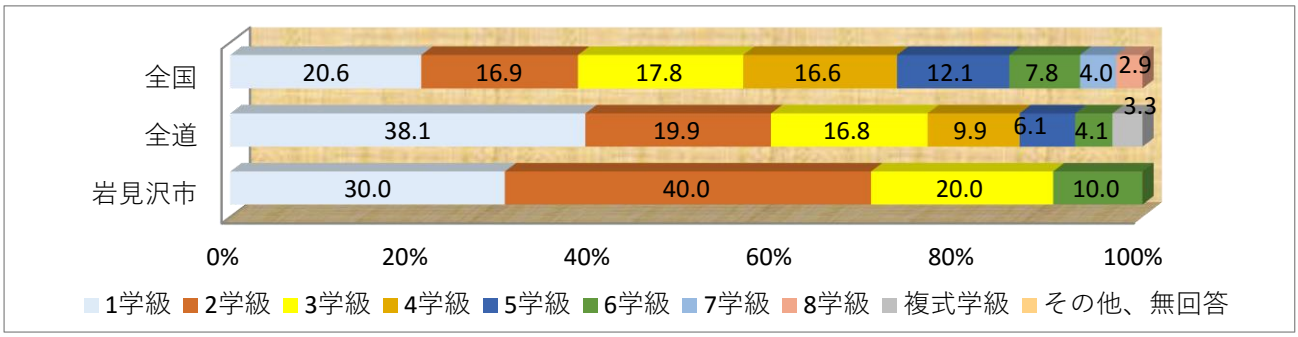
5. 調査対象日現在の第６（２）学年の学級数（特別支援学級を除く）



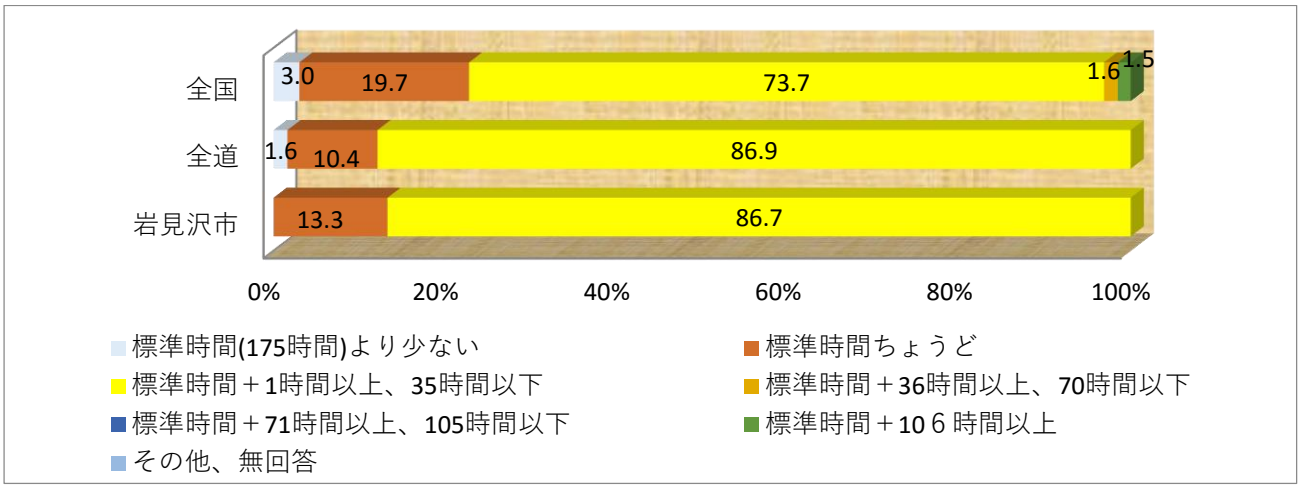


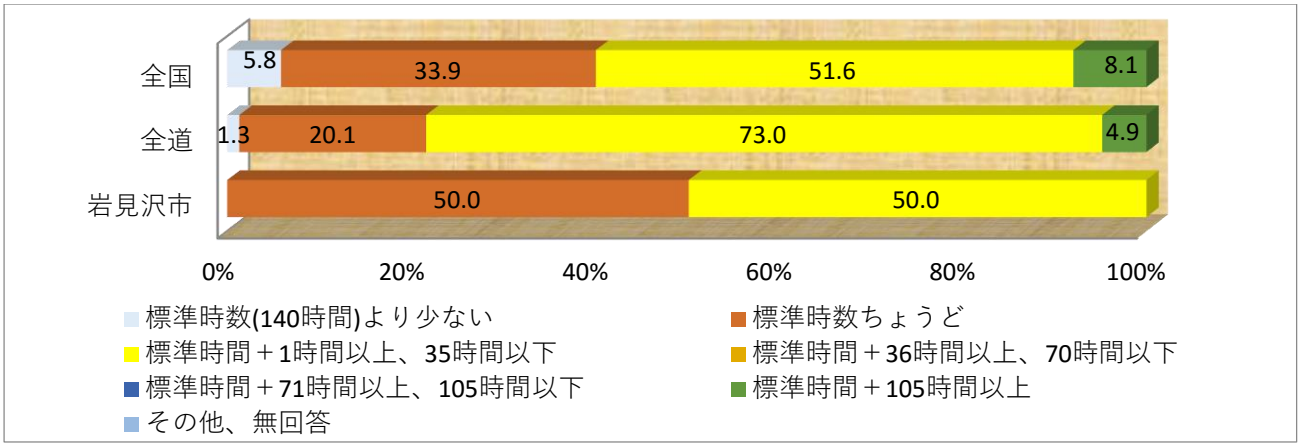
6．平成２７年５月１日現在の第５（２）学年の学級数（特別支援学級を除く）



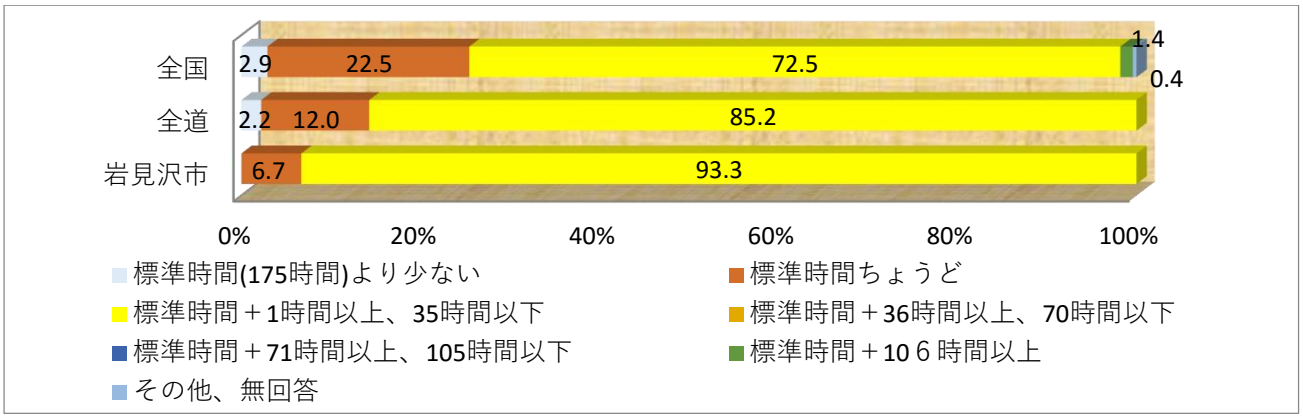


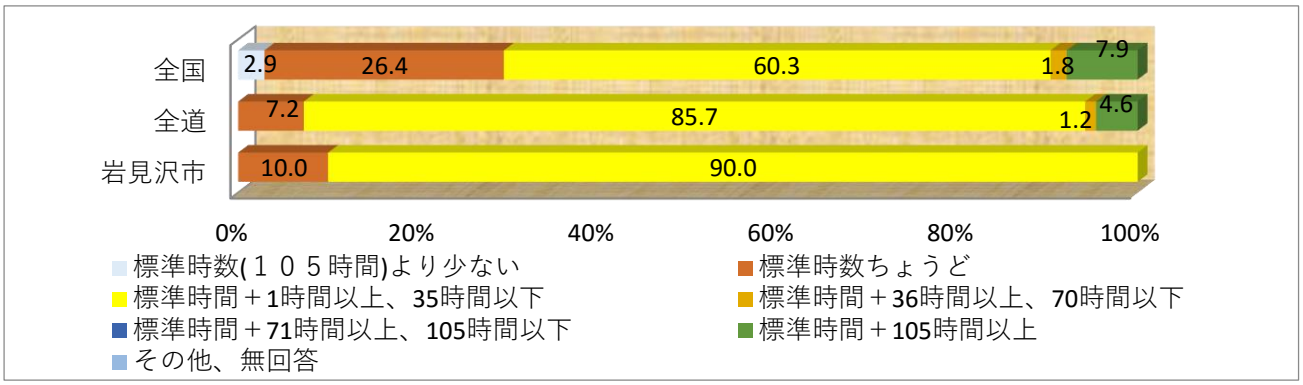
7．平成２７年度の第５（２）学年の国語の総授業時数



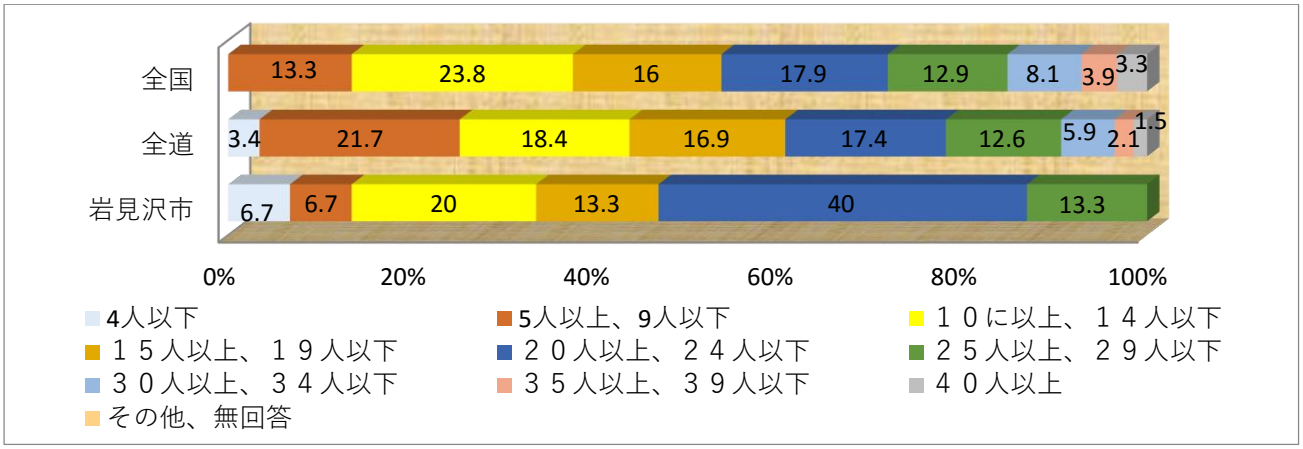


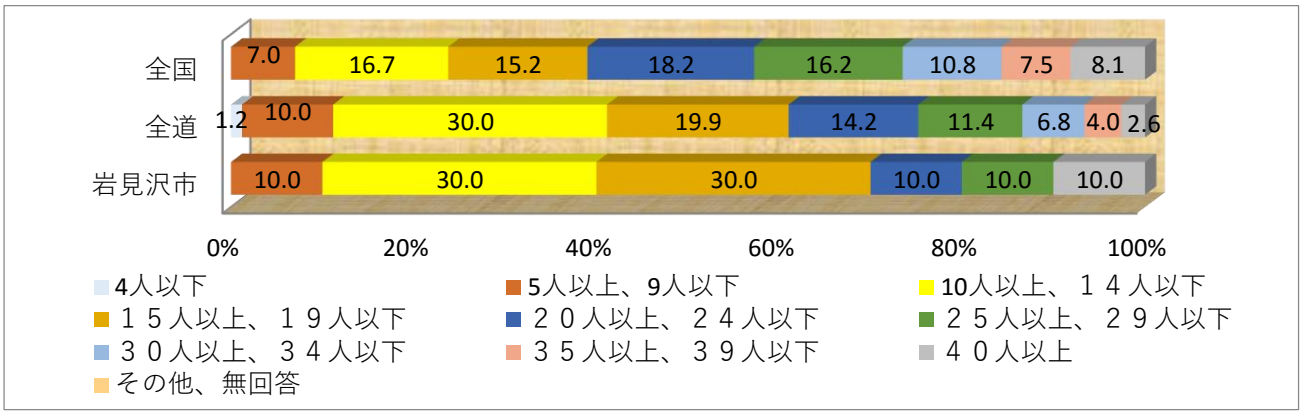
8．平成２７年度の第５（２）学年の算数（数学）の総授業時数



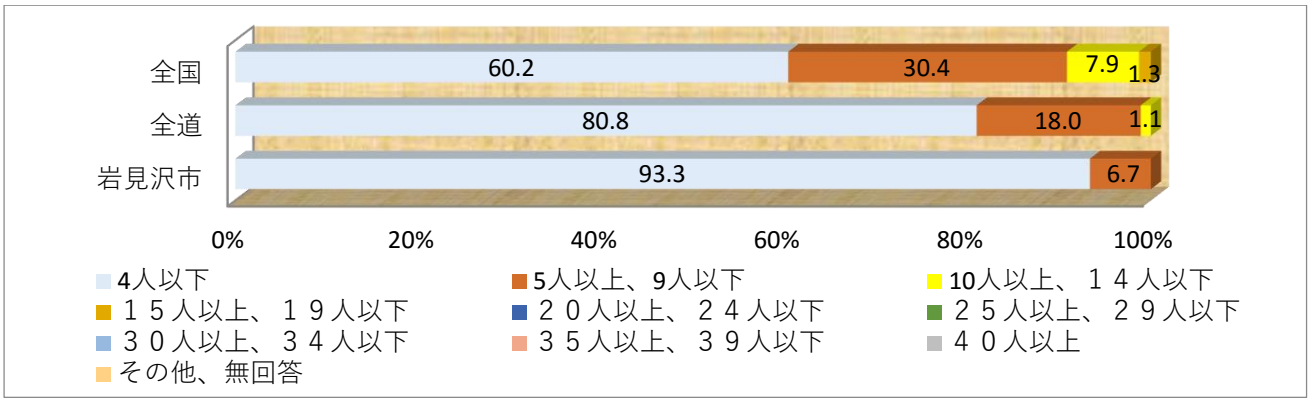


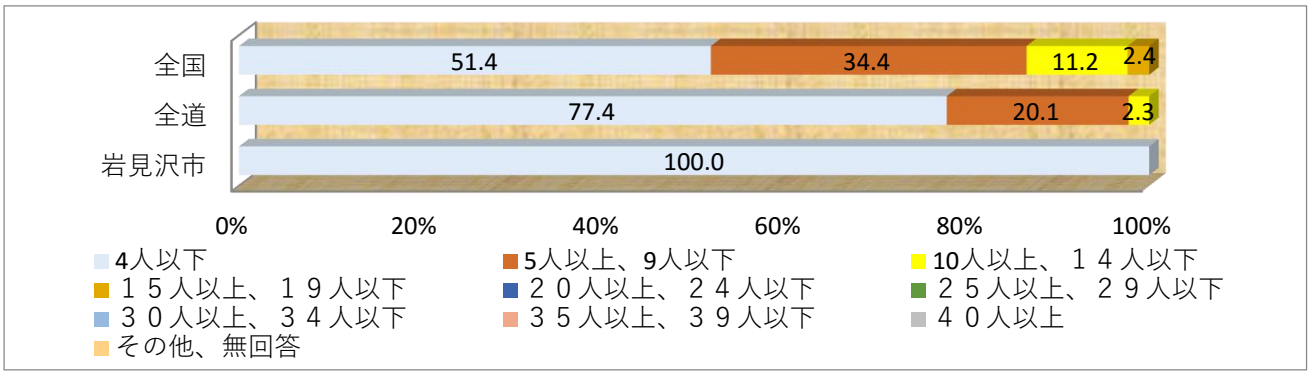
9．調査対象日現在の学校の全教員数（副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭・常勤講師等）



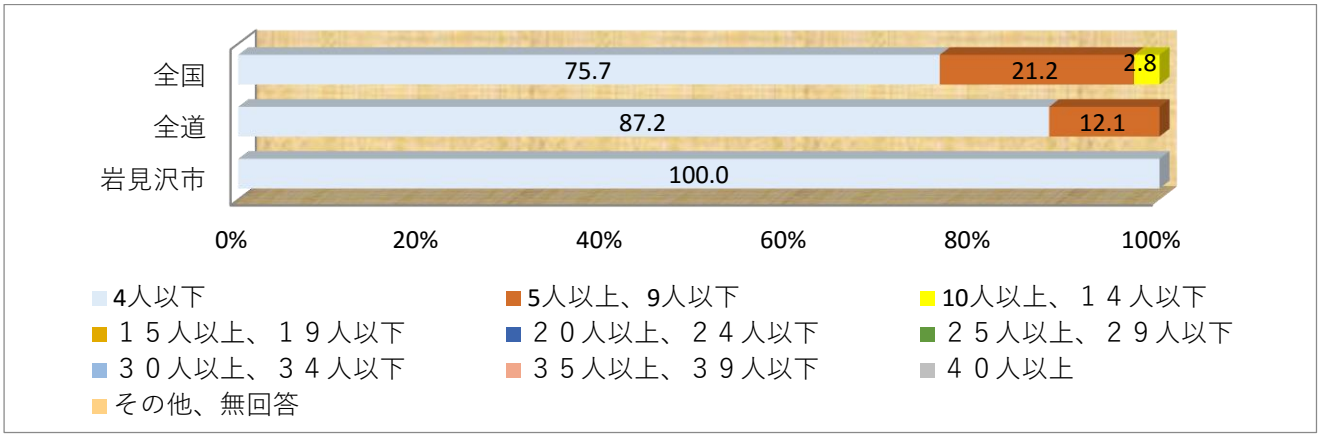


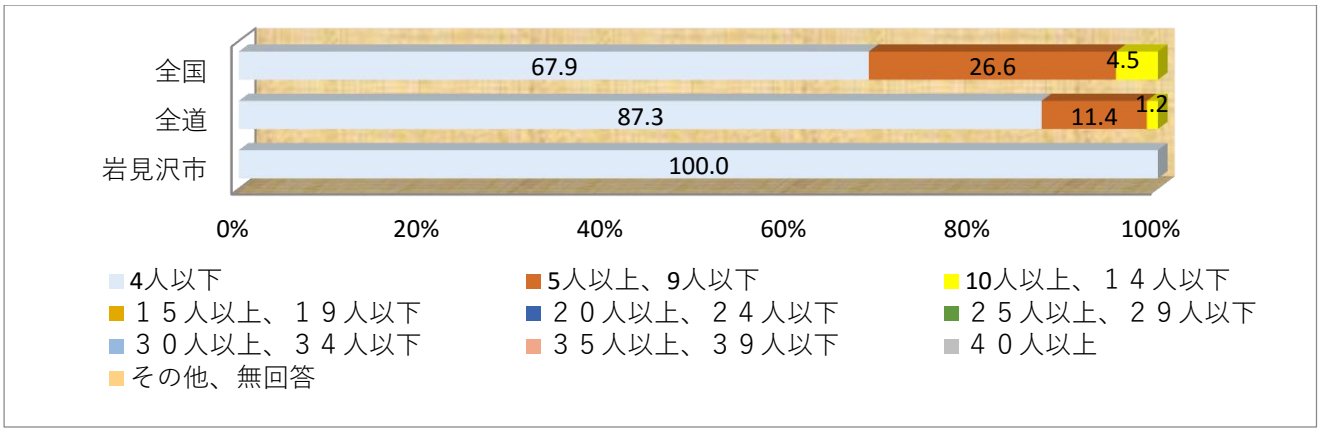
１０．教員の教職経験年数別人数（５年未満）



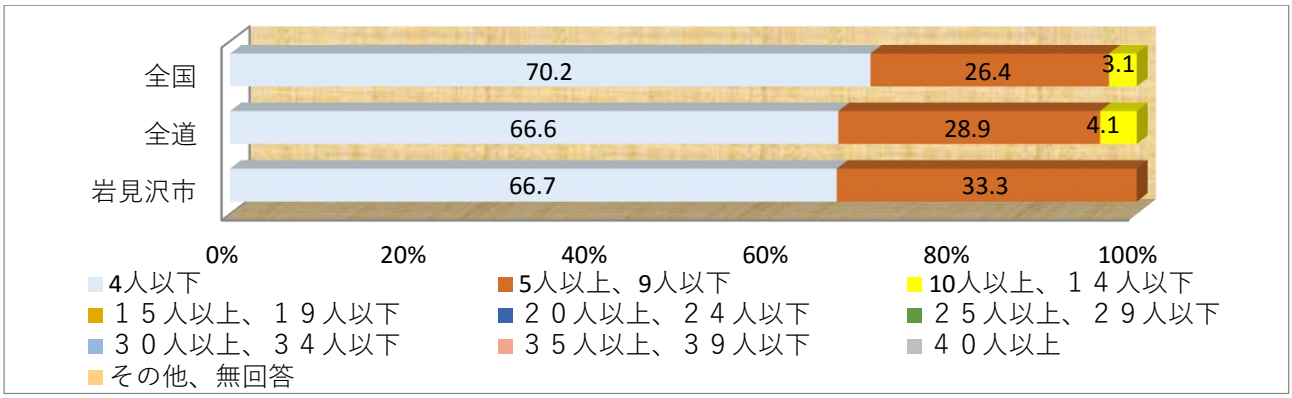


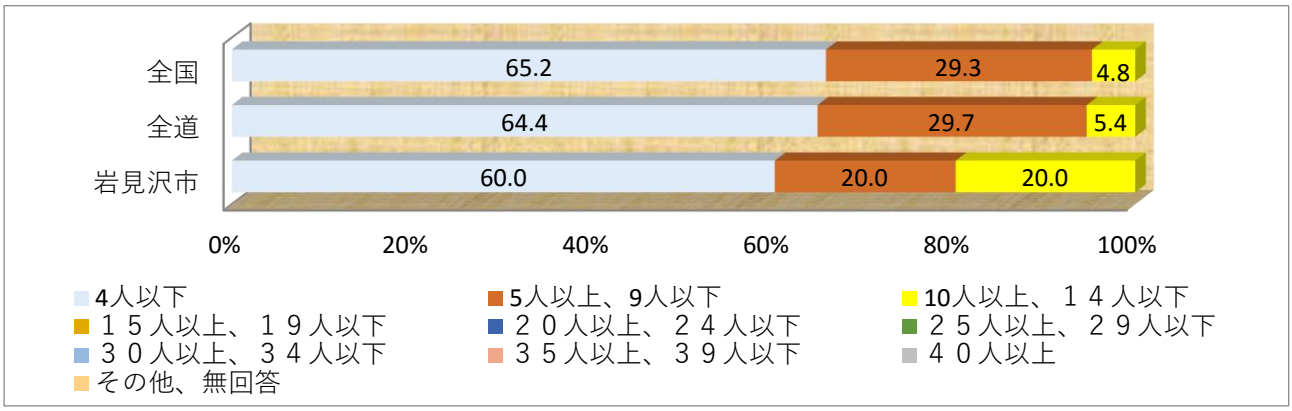
１１．教員の教職経験年数別人数（５年以上１０年未満）



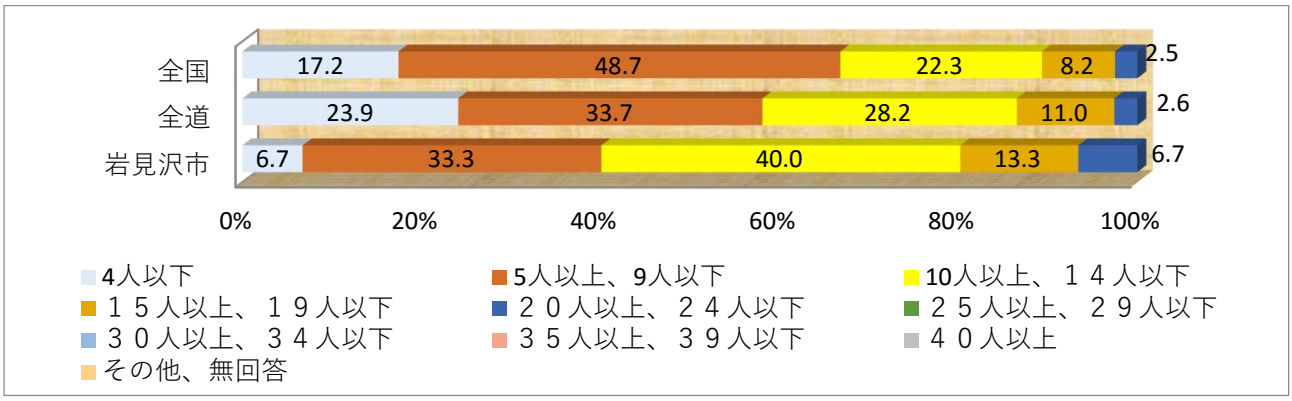


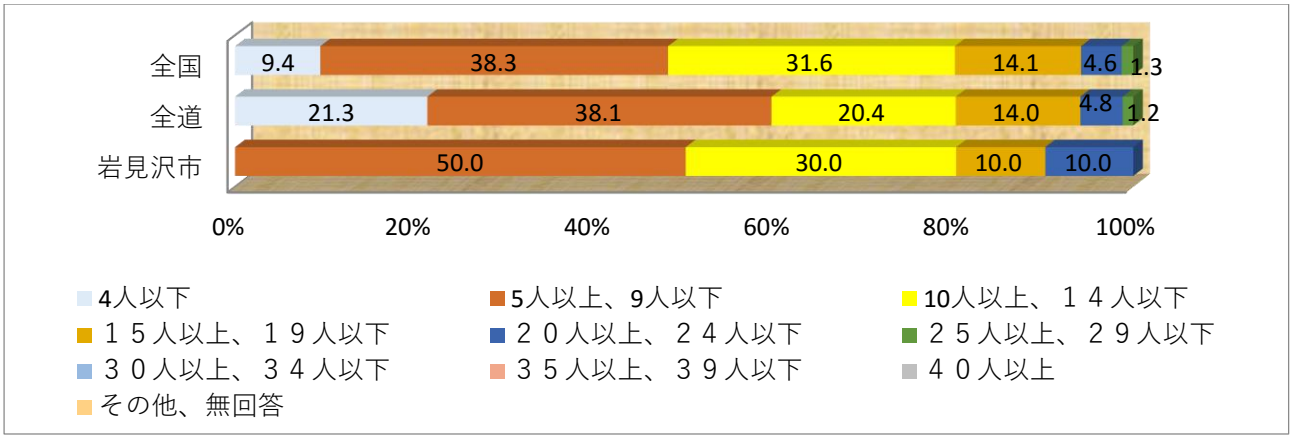
１２．教員の教職経験年数別人数（１０年以上２０年未満）





１３．教員の教職経験年数別人数（２０年以上）





Ⅳ　調査結果の分析より

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の評価の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的に実施された全国学力・学習状況調査について、岩見沢市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告したものである。

また、文部科学省の報告書の中で、調査結果の解釈に対する留意事項として「本調査の結果については、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である」と述べられている。

これらの点を十分に踏まえた上で、岩見沢市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙の特徴的な自校並びに改善に向けた取組について記載している。

１　学力調査結果の全体的な傾向について

《小学校》

経年変化では、平均正答率で算数Ａが上昇傾向にあり、全国平均を上回った。また、国語Ｂ以外の全ての科目で全道平均を上回った。

国語Ａにおいては、領域「①話すこと。聞くこと」「①伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「②言語についての知識・理解・技能」「③短答式」で全国平均を上回る。

算数Ａにおいては、領域、評価の観点、問題形式の全ての観点で全国平均を上回る。

《中学校》

経年変化では、年度による若干の差はあるが、平均正答率は上昇傾向にあり、国語Ａは全国平均と同じ、その他の全ての科目で全国平均を上回った。

国語Ａにおいては、領域「①書くこと」「①読むこと」「②書く能力」「②「読む能力」「③選択式」で、全国平均を上回る。

国語Ｂおよび数学Ａにおいては、領域、評価の観点、問題形式の全ての観点で全国平均を上回る。

数学Ｂにおいては、「①数と式」「①関数」「①資料の活用」「②数学的な見方や考え方」「②数学的な技能」「③選択式」「③短答式」で全国平均を上回る。

２　学習状況調査結果（児童生徒質問紙）の特徴的事項について

⑴　「総合的な学習の時間」は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる。「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。

それが、「普段の生活や社会に出たときに役に立つか」と言う設問に対し、肯定的な回答が、小学生は1.0ポイント下回り、中学生は5.5ポイント全国平均を上回る。

また、「自分で課題をたて情報を収集・整理し、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいるか」と言う設問に対し、肯定的な回答が、小学生は全国平均と同等、中学生は14.7ポイント全国平均を上回る。

⑵　学習状況（言語活動・指導状況等）においては「授業の中で、目標が示されていたか」と言う設問に対し、肯定的な回答が、小学生は2.9ポイント下回り、中学生は7.2ポイント上回る。

また「授業の最後に学習を振り返る活動を行っていたか」と言う設問では、肯定的な回答が小学生は3.4ポイント全国平均を下回り、中学生は9.7ポイント上回る。

⑶　「学習時間・学習生活等」においては、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」と言う設問に

対し、肯定的な回答が、小学生は0.7ポイント全国平均を下回り、中学生は5.6ポイント上回る。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は 7.6 ポイント、中学生は1.4ポイント全国平均を下回る。

「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」という設問では、肯定的な回答が、小学生は1.9ポイント、中学生は0.4ポイント全国平均を下回る。

「学校で好きな授業はありますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は1.3ポイント全国平均を下回り、中学生は5.7ポイント上回る。

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」、と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は3.3ポイント全国平均を下回り、中学生は3.4ポイント上回る。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は0.6ポイント全国平均を下回り、中学生は6.1ポイント上回る。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は1.3ポイント全国平均を下回り、中学生は4.6ポイント上回る。

⑷ 基本的な生活習慣等に関して、「朝食を食べているか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は1.8ポイント、中学生は0.1ポイント全国平均を下回る。

「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」と言う設問にでは、肯定的な回答が、小学生では 0.3 ポイント全国平均を下回り、中学生では0.2ポイント上回る。

「同じくらいの時刻に起きていますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は 1.4 ポイント全国平均を下回り、中学生は0.6ポイント上回る。

⑸ 家庭でのコミュニケーションに関して、「家の人と学校での出来事について話をするか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は2.3ポイント全国平均を下回り、中学生は1.2ポイント上回る。

⑹ 地域・社会に対する関心等について、「地域行事に参加しますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は7.0ポイント、中学生は4.9ポイント全国平均を下回る。

⑺ 自尊意識に関して、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は0.9ポイント全国平均を下回り、中学生は0.2ポイント上回る。

「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は8.4ポイント全国平均を下回り、中学生は2.0ポイント上回る。

「自分には、よいところがあると思いますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は6.5ポイント全国平均を下回り、中学生は1.6ポイント上回る。

（8）主体的な学びに関して、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は4.0ポイント全国平均を下回り、中学生は6.0ポイント上回る。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」と言う設問では、肯定的な回答が、小学生は2.5ポイント全国平均を下回り、中学生は4.0ポイント上回る。

注１　各設問のほとんどの選択肢に「その他」「無回答」があったが、１％以下の回答率だったので、表示していない。また、上記以外の選択肢でも１％以下の回答率については表示していない場合がある。

注２　学校質問紙については、調査対象校が、小学校１５校、中学校１０校で、資料となるデータが少ないので、調査結果の報告のみとする。

３　学力向上に向けたこれまでの取組について

岩見沢市教育委員会と各小中学校は、子どもたちの学力向上に向けて、以下のような取組を推進・展開してきた。

⑴ 「学校改善プラン」の立案と実行

岩見沢市内の全小中学校で標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「学校改善プラン」を策定・実施

⑵ 「学校力」向上の取組

以下の点などについて学校として組織的に取り組み、より質の高い教育活動を展開

① 授業スタイルの統一
- 指導過程の基本型の確立
- 板書、ノート指導、教室掲示等の統一
- 学習規律の統一

② 数値目標の設定と評価

③ 教育課程の改善

⑶ 小中連携による９年間を見通した学力の保障

① 中学校区別学力向上担当者会議の開催
- 標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流
- 小学校卒業時と中学校入学後の成績の比較検討
- 小中で統一した学力向上の取組の実施

② 小中相互の授業参観、交換授業の実施

⑷ 学習サポートの実施

- 放課後、長期休業期間等を利用した補充的な学習サポートの実施（ボランティアの活用）

⑸ 指導方法の工夫・改善

- ティームティーチング、少人数指導、習熟度別指導などを小中学校全校で実施

⑹ 「朝（昼）読書」の推進

- 学習の基礎となる読書習慣の確立のため、小中学校全校で実施

⑺ 生活習慣の改善「早寝・早起き・朝ごはん」「家庭での５つの約束」の奨励

⑻ 教育研究所の活用

① 「確かな学力の向上を図る授業づくり」の研究事業
- 小学校副読本の活用を図った授業づくり
- ICT 活用を図った授業づくり
- 各教科等の特質を踏まえた言語活動の充実を図った授業づくり
- 少人数指導等指導形態の工夫による授業づくり
- 授業と評価の一体化を図った授業づくり

② 教職員の資質向上のための研修事業
- 「岩見沢の教育を語る」研修講座
- 教育大学と連携した研修講座
- 授業実践等を通した研修講座

③ 調査研究
- 全国学力・学習状況調査の結果の分析と改善の方策の立案
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の分析と改善の方策の立案
- 家庭学習調査の実施と結果の分析、家庭学習の啓発

⑼ 「みらい広がる学びの支援事業」の活用

「みらい広がる学びの支援事業」は、各学校が自ら企画立案する。それぞれの教育現場の実状に合った事業を補助金により支援するものです。また、学校支援ボランティアを小中学校へ派遣します。

① 学習サポートボランティア
② 武道、水泳、スキー外部指導者
③ 教科、道徳、キャリア教育等の外部講師
④ 読み聞かせボランティア
⑤ e-ラーニング：豊中（千歳科学技術大学との連携による自学システム）

⑽学力向上対策事業の推進
① 土曜学習会（S-スタディ）の実施（中学生対象）
② 土曜キッズ英会話の実施（小学校５・６年生対象、ALT の活用）
③ 囲碁授業の実施（小学校５校、総合的な学習の時間、日本棋院との連携）

４ 更なる改善に向けて ー学力向上に向けた提言ー

⑴「学校力」向上の取組の一層の推進を
各学校において、「学校力」向上に向けた組織的な取組が浸透しつつあり、その徹底の度合いが結果にも現れつつあります。今後も継続的に取り組んでいくことが必要です。
① 授業スタイル、学習規律、教室環境などの統一
② 学力の数値目標の設定と評価
③ 教育課程の改善

⑵「定着」「習熟」を重視した授業改善、教育課程改善を
学校で統一した授業スタイルの構築が進み、児童・生徒質問紙の「授業の中で、目標が示されていたか」「授業の最後に学習を振り返る活動を行っていたか」という設問では、肯定的な回答が、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均を上回りました。
ここ数年の課題だった、１時間の授業や単元の「定着」と「習熟」に力点を置いた指導が浸透しつつあります。今後も、以下の点について、継続的に取り組んでいくことが大切です。
① 授業の終末段階や次時のはじめの「前時の想起」において、習熟・定着の場の設定を重視する。
② 練習問題（ドリル）の徹底による習熟の深化
③ ②にかかわって、そのための教育課程の工夫・改善、宿題・家庭学習の充実

⑶「教えて考えさせる」指導の導入を
「教えて考えさせる」指導は、教師のていねいな説明と理解確認によって基礎知識の共有を図り、その先に、やりがいのある理解深化課題を用意して、問題解決や討論を促します。
理解に時間を要する子どもでも、基礎的な知識・技能を身につけて高度な課題解決に参加することや、学力が高い子や先取り学習している子どもでも達成感・充実感を得ることが可能となります。
次期学習指導要領で一層重視される「活用能力」の育成に有効な手段であり、各学校において「教えて考えさせる」指導を取り入れた授業づくりの取組が望まれます。

⑷ 小中連携による学力向上の取組の確実な実行を
岩見沢市では、５ つのブロック毎に、小中連携の取組が進んで来ました。小中の教職員が志を同じくして子ども達の学力向上に共に汗を流す体制を一層強固に構築する必要があります。
① 標準学力検査、全国学力・学習状況調査の結果の交流
② 小学校卒業時と中学校入学後の成績の比較検討
③ 小中で統一した学力向上の取組の実施

⑸ 子どもの自尊意識を育てる取組の推進を
今年度の児童・生徒質問紙の自尊意識をはかる目安となる設問における肯定的な回答は、小学生が全国平均を下回り、中学生は上回りました。そして、平均正答率もその結果を反映したものとなりました。

学校生活の中で、自尊意識、成就感、参加意識を感じられるよう取組の一層の推進が望まれます。

① 規範意識が高い児童生徒ほど、自尊感情が高いという研究結果もあることから、教職員の共通理解のもと、学校のきまりを守ることを継続的に指導する。

② 授業や行事等の教育活動で、児童生徒に自信を持たせたり、成就感を持たせたり、自分の良さに気づかせたりする活動を意図的に計画する。

③ 生徒指導の機能を生かした「わかる」授業づくりの継続

④ 子どもが自分の良さに気づく「道徳の時間」の授業づくりの深化・充実

⑤ 子どもたちの人間関係づくりのためのピア・サポート、構成的グループ・エンカウンター等の手法の導入、Q-u の活用

⑹ 「家庭力」「地域力」の向上を（保護者、地域の皆様へ）

今年度の児童・生徒質問紙の基本的生活習慣の定着を図る目安となる設問における肯定的回答は、全国平均に比較して、全般的に小学校に比べて中学校が上回り、平均正答率も同様の結果となりました。

基本的生活習慣の定着の度合いと学力の関係は、岩見沢市においても顕著なものとなりました。

① 「家庭での５つの約束」で確かな学力を育みましょう。

学力向上には家庭での生活習慣、学習習慣の定着が大切です。子どもたちの学力向上のためには、家庭での基本的な生活習慣や学習習慣の定着の度合いが大きく左右します。朝ごはんを毎日食べている子どもは、食べていない子どもより学力が高いといわれています。

各ご家庭で、下記の「家庭での５つの約束」を実践し、学校と協力して、子どもたちの生活習慣、学習習慣の改善を図り、確かな学力を育みましょう。

ア 早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につけよう
イ 次の日の学習準備をしよう
ウ 家庭学習を毎日しよう
　・帰宅後の学習習慣を身につける
　・宿題、予習、復習をする
エ 読書に親しもう
オ 家族との会話を大切にしよう

② テレビ、スマホ・パソコン等の使用についての約束事を決め、長時間にならないようにしましょう。

③ 子ども自身のよいところの発見とその発揮を応援しましょう。

④ 「地域力」の向上を

・地域の大人が子どもに関わり、望ましい価値観を醸成することが、求められています。今回の調査では、岩見沢市の子どもたちの地域行事への参加意欲が全国平均に比べかなり低いことが分かりました。地域子ども会、児童館との連携・協力、地域行事との連携、PTA との連携などを通して、子どもたちの地域や社会への関心を高め、地域ぐるみの子育てを推進する体制を構築していく必要があります。